（様式４）

一般社団法人　薬学教育評価機構

（　調　書　）

薬学教育評価　基礎資料

（平成２６年５月１日現在）

摂南大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

1　記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。

2　記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。

3　各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。

4　各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第２位を四捨五入して小数点第１位まで表示してください。

5　説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。

6　提出形態について

・基本的にＡ４判で作成してください。

・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。

・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。

・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。

・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価　基礎資料

（目次）

	資料概要	ページ
基礎資料１	学年別授業科目	1
基礎資料２	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8
基礎資料３	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯｓに該当する科目	12
基礎資料４	カリキュラムマップ	54
基礎資料５	語学教育の要素	55
基礎資料６	４年次の実務実習事前学習スケジュール	56
基礎資料７	学生受入状況について	67
基礎資料８	教員・事務職員数	68
基礎資料９	専任教員年齢構成	69
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	70
基礎資料11	卒業研究の配属状況	89
基礎資料12	講義室等の数と面積	90
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	91
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	92
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	93

（基礎資料１－１）学年別授業科目

	1　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)英語Ｉa	前期	38	6	225	コ			1.0
	(択)英語Ｉb	前期	38	6	225	コ			1.0
	(択)英語Ｉc	後期	38	6	225	コ			1.0
	(択)英語Ｉd	後期	38	6	223	コ			1.0
	(択)スポーツ科学	前期	112	2	224	コ	ギ		1.0
	(必)文章表現法	前期	38	6	228	コ			2.0
	(択)コミュニケーション論	前期	57	4	227	コ			2.0
	(択)ボランティア活動論	前期	114	2	228	コ			2.0
	(択)日本国憲法	後期	116	2	232	コ			2.0
	(必)生命倫理学	後期	119	2	237	コ			2.0
	(択)心理学	後期	112	2	223	コ			2.0
	(択)哲学	後期	113	2	226	コ			2.0
薬学専門教育	(必)薬剤師になるために	前期	225	1	225	コ	S		1.5
	(選必)化学	前期	118	2	235	コ			1.5
	(選必)物理学	前期	124	2	247	コ			1.5
	(選必)生物学	前期	123	2	245	コ			1.5
	(選必)数学	前期	57	4	227	コ			1.5
	(選必)有機化学Ｉ	後期	120	2	239	コ			1.5
	(選必)物理化学Ｉ	後期	117	2	234	コ			1.5
	(選必)薬品分析学	後期	119	2	237	コ			1.5
	(選必)生化学Ｉ	後期	112	2	224	コ			1.5
	(選必)生理解剖学Ｉ	後期	126	2	251	コ			1.5
実習	(必)早期体験学習	前期	225(4-6)	1	225	ジ	S		1.5
	(必)基盤実習	後期前半	56(2)	4	223	ジ	S		3.0
演習	(必)スタートアップゼミ	通年	7	35	231	エ	S		1.0
	(必)基盤演習Ⅰ(物理・化学計算)	前期	113	2	225	エ	T		1.0
	(必)基盤演習Ⅱ(生物学)	前期	113	2	226	エ	S		1.0
	(必)基盤演習Ⅲ(化学)	後期	113	2	225	エ	T		1.0
	(必)基盤演習Ⅳ(有機化学)	後期	113	2	225	エ	T		1.0
	(必)基盤演習Ⅴ(生化学・生理解剖学)	後期	113	2	225	エ	T		1.0
キャリア形成									

単位数の合計		
	(必修科目)	16.0
	(選択必修科目)	13.5
	(選択科目)	15.0
	合計	44.5

【大学注】　「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）
また、（）内は実習グループの人数

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝S　TBL＝T

[注]
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－２）学年別授業科目

	2　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)英語Ⅱa	前期	41	6	244	コ			1.0
	(択)英語Ⅱb	前期	41	6	241	コ			1.0
	(択)薬学英語	後期	37	6	220	コ	エ		1.0
	(択)医療英会話	後期	19	12	222	コ	エ		1.0
	(択)文学	前期	57	2	114	コ			2.0
	(択)法学入門	前期	41	2	82	コ			2.0
	(択)経済学	前期	46	2	92	コ			2.0
	(択)女性学	前期	60	2	120	コ			2.0
	(必)統計学演習	後期	132	2	263	エ			2.0
薬学専門教育	(選必)有機化学Ⅱ	前期	144	2	287	コ			1.5
	(選必)有機化学Ⅲ	後期	133	2	265	コ			1.5
	(選必)物理化学Ⅱ	前期	157	2	313	コ			1.5
	(選必)機器分析学Ⅰ	後期	138	2	276	コ			1.5
	(選必)生薬学	前期	129	2	257	コ			1.5
	(選必)生化学Ⅱ	前期	154	2	308	コ			1.5
	(選必)生化学Ⅲ	後期	140	2	280	コ			1.5
	(選必)生理解剖学Ⅱ	前期	144	2	287	コ			1.5
	(選必)生理解剖学Ⅲ	後期	137	2	274	コ			1.5
	(選必)生体情報伝達学	前期	185	2	370	コ			1.5
	(選必)微生物学	後期	136	2	271	コ			1.5
	(選必)薬理学総論	後期	153	2	306	コ			1.5
	(選必)病態生理学	後期	134	2	267	コ			1.5
	(選必)物理薬剤学	後期	132	2	264	コ			1.5
実習	(必)基礎薬学実習Ⅰ	前期前半	81(4-6)	3	242	ジ	S		3.0
	(必)基礎薬学実習Ⅱ	後期後半	81(4-6)	3	241	ジ	S		3.0
演習									
キャリア形成	(必)キャリア形成Ⅰ	通年	45	5	242	コ	ジ	S	2.0
単位数の合計						(必修科目)			10.0
						(選択必修科目)			21.0
						(選択科目)			12.0
						合計			43.0

【大学注】　「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）
また、（）内は実習グループの人数

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝S　TBL＝T

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－３）学年別授業科目

	3　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(必)臨床心理学	前期	122	2	243	コ	エ		2.0
	(択)英語Ⅲa	前期	21	2	41	コ			1.0
	(択)英語Ⅲb	後期	22	2	44	コ			1.0
	(択)韓国語	後期	24	2	47	コ	エ		1.0
	(択)中国語	前期	23	2	45	コ	エ		1.0
薬学専門教育	(選必)臨床分析学	後期	105	2	210	コ			1.5
	(選必)機器分析学Ⅱ	前期	119	2	238	コ			1.5
	(択)天然薬用資源学	後期	256	1	256	コ			1.5
	(選必)天然物化学	前期	126	2	252	コ			1.5
	(選必)医薬品化学Ⅰ	後期	118	2	235	コ			1.5
	(選必)免疫学	前期	113	2	226	コ			1.5
	(選必)分子細胞生物学	後期	125	2	250	コ			1.5
	(選必)公衆衛生学Ⅰ	前期	111	2	222	コ			1.5
	(選必)食品衛生学Ⅰ	前期	104	4	413	コ			1.5
	(選必)食品衛生学Ⅱ	後期	115	2	230	コ			1.5
	(択)衛生化学	後期	246	1	246	コ			1.5
	(選必)精神神経疾患治療学	前期	139	2	278	コ			1.5
	(選必)循環器疾患治療学	前期	103	2	206	コ			1.5
	(選必)消化器疾患治療学	後期	102	2	203	コ			1.5
	(選必)血液疾患治療学	後期	116	2	231	コ			1.5
	(選必)感染症治療学	後期	107	2	213	コ			1.5
	(選必)病態生化学	前期	126	2	252	コ			1.5
	(選必)生物薬剤学	前期	148	2	296	コ			1.5
	(選必)薬物動態学Ⅰ	後期	111	2	222	コ			1.5
	(選必)漢方処方学	後期(および前期)	103	4	411	コ			1.5
	(選必)放射線生物学	前期(および後期)	100	4	398	コ			1.5
	(選必)調剤学	前期	146	2	291	コ			1.5
	(選必)社会薬学	後期	97	4	387	コ			1.5
実習	(必)衛生薬学実習	前期前半	68(2-4)	3	203	ジ	エ		3.0
	(必)医療薬学実習	後期前半	101(5-6)	2	201	ジ	エ		3.0
演習									
キャリア形成	(択)キャリア形成Ⅱ	通年	23	8	183	コ	ジ	S	2.0
単位数の合計						(必修科目)			8.0
						(選択必修科目)			31.5
						(選択科目)			9.0
						合計			48.5

【大学注】１．「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）
また、（）内は実習グループの人数

２．「前期・後期」項目内の（）は平成18～23年度入学者用カリキュラムにおける開講期

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝S　TBL＝T

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－４）学年別授業科目

	4　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(選必)医薬品化学Ⅱ(現:医薬品化学)	前期	112	2	224	コ			1.5
	(選必)公衆衛生学Ⅱ	前期	111	2	222	コ			1.5
	(択)職業保健学	前期	218	1	218	コ			1.5
	(選必)内分泌・代謝性疾患治療学(現:薬物治療学Ⅴ)	前期	107	2	213	コ			1.5
	(選必)アレルギー・免疫疾患治療学(現:薬物治療学Ⅵ)	前期	115	2	230	コ			1.5
	(選必)薬物動態学Ⅱ(現:薬剤疫学)	前期	101	2	201	コ			1.5
	(選必)製剤学	前期	104	2	207	コ			1.5
	(選必)臨床栄養学	前期	117	2	233	コ			1.5
	(選必)薬局方概論	前期	114	2	227	コ			1.5
	(必)実践薬学(現:プレファーマシー講義)	後期	66	3	197	コ			1.5
	(選必)医薬品情報学(現:処方解析)	前期	110	2	220	コ			1.5
	(選必)薬事関連法規	前期	103	2	205	コ			1.5
	(択)一般用医薬品(現:一般用医薬品概論)	後期	118	2	235	コ			1.5
実習	(択)応用薬学実習	通年	6	15	87	ジ	エ		1.5
	(必)プレファーマシー実習	後期	66(16-20)	3	197	ジ	エ	S	4.0
	(必)フィジカルアセスメント実習(現:臨床実務実習)	後期	66(10-17)	3	197	ジ	エ		1.0
演習	(必)基礎薬学演習Ⅰ	前期	※220	※1	※220	エ			1.0
	(必)基礎薬学演習Ⅱ	後期	※220	※1	※220	エ			1.0
キャリア形成	(択)キャリア形成Ⅲ	前期または後期	※220	※1	※220	コ			2.0
単位数の合計						(必修科目)			8.5
						(選択必修科目)			15.0
						(選択科目)			6.5
						合計			30.0

【大学注】1　「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）
また、（）内は実習グループの人数

2　（※）は未開講のため見込み数

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝Ｓ　TBL＝Ｔ

［注］　1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－５）学年別授業科目

	5　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(必)プレファーマシー講義(現:医療薬学統合講義)	前期	217	1	217	コ			1.0
実習	(必)病院実務実習	前期または後期	217	1	217	ジ			10.0
	(必)薬局実務実習	前期または後期	217	1	217	ジ			10.0
	(必)特別研究Ⅰ	通年	12	19	219	ジ	エ		6.0
演習	(必)DI演習(現:EBM演習)	通年	73	3	219	エ	S		1.0
	(必)クリニカルパス演習	通年	73	3	219	エ	S		1.0
	(必)臨床薬学演習	通年	74	3	220	エ	S		4.0
キャリア形成	(択)臨床研究立案演習	前期または後期	73	3	219	エ	S	T	1.0
単位数の合計						(必修科目)			33.0
						(選択必修科目)			0.0
						(選択科目)			1.0
						合計			34.0

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝S　TBL＝T

【大学注】1　「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）

2　（※）は未開講のため見込み数

［注］　1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－６）学年別授業科目

	6　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択)症候学(現:病理学)	前期	172	1	172	コ			1.5
	(択)アドバンスド臨床薬学(現:先端医療Ⅱ)	前期	172	1	172	コ			1.5
実習	(必)特別研究Ⅱ	通年	9	19	169	ジ	エ		6.0
演習	(必)医療薬学総合演習	前期	※220	※1	※220	エ			1.0
	(必)衛生薬学総合演習	前期	※220	※1	※220	エ			1.0
	(必)総合薬学演習	後期	217	1	217	エ			3.0
キャリア形成	(択)薬局経営・マネージメント論(現:薬局経営学)	前期	171	1	171	コ			1.0
単位数の合計						(必修科目)			11.0
						(選択必修科目)			0.0
						(選択科目)			4.0
						合計			15.0

（凡例）
講義＝コ　実習＝ジ　演習＝エ　実技＝ギ
PBL/SGD＝S　TBL＝T

【大学注】1　「１クラスあたりの人数」は「履修者数」／「開講クラス数」で算出。（小数点以下切り上げ）

2　（※）は未開講のため見込み数

［注］　1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－７）学年別授業科目

（基礎資料1－1）から（基礎資料1－6）までの結果から下記の（1）および（2）を記入してください。

（１）下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	22	68.5
教養教育科目	13	26.0
語学教育科目	12	12.0
医療安全教育科目	14	48.0
生涯学習の意欲醸成科目	18	55.0
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	33	75.5

（２）学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学　　年	単位数			
	必修科目	選択必修科目	選択科目	合計
1　年　次	16.0	13.5	15.0	44.5
2　年　次	10.0	21.0	12.0	43.0
3　年　次	8.0	31.5	9.0	48.5
4　年　次	8.5	15.0	6.5	30.0
5　年　次	33.0	0.0	1.0	34.0
6　年　次	11.0	0.0	4.0	15.0
合計	86.5	81.0	47.5	215.0

（基礎資料２－１）在籍学生数

			１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	合計	
入学年度における	入学定員数		220	220	220	220	220	220	1,320	A
	編入定員数		0	0	0	0	0	0	0	B
	入学者数		227	248	239	233	245	228	1,420	
基準日における	各学年の在籍学生数		235	280	227	214	219	218	1,393	C
	編入学生数（内）※		0	0	0	0	0	0	0	D
	留年者数（内）		5	42	43	50	42	77	259	
	留年者の入学年度	平成18年度						8	8	
		平成19年度					3	27	30	
		平成20年度				3	9	42	54	
		平成21年度			3	19	30		52	
		平成22年度		1	4	28			33	
		平成23年度		3	36				39	
		平成24年度		38					38	
		平成25年度	5						5	
		平成26年度							0	

C／（A＋B）	1.06
D／B	—

※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。

[注]　1　「C／（A＋B）」と「D／B」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

2　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

3　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料２－２）休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

平成26年度版 ハンドブック P108 様式4（基礎資料2-2） 改定

	平成22年3月31日				平成23年3月31日				平成24年3月31日				平成25年3月31日				平成26年3月31日				平成26年5月1日			
	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍学生数	1004				1216				1231				1163				1165				1393			
	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数
１年次	6	25	10	0	11	16	9	0	4	20	13	0	5	14	13	0	6	7	7	0	3	0	0	0
２年次	15	32	14	0	5	46	10	0	2	35	11	0	9	38	13	0	10	47	23	0	1	0	0	0
３年次	5	29	3	0	11	24	8	0	1	18	5	0	7	30	4	0	4	27	8	0	0	0	0	0
４年次	2	1	0	0	3	7	0	0	6	4	1	0	4	8	0	0	6	13	2	0	2	0	1	0
５年次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
６年次	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	12	16	0	0	16	49	0	0	49	0	0	0
合計	28	87	27	0	30	93	27	0	14	86	30	0	38	106	30	0	43	143	41	0	55	0	1	0

[注]　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料2－3） 学士課程修了状況

		平成23年度（平成24年3月卒業）	平成24年度（平成25年3月卒業）	平成25年度（平成26年3月卒業）	平成26年度（平成27年3月卒業）	平成27年度（平成28年3月卒業）	平成28年度（平成29年3月卒業）
卒業者総数		186 名	275 名	195 名	名	名	名
卒業者の入学年度内訳	平成18年度入学者	186 名	26 名	3 名	名	名	名
	平成19年度入学者	名	249 名	35 名	名	名	名
	平成20年度入学者	名	名	157 名	名	名	名
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名

入学者総数		卒業率（%）
平成18年度	237 名	78.5%
平成19年度	362 名	68.8%
平成20年度	240 名	65.4%
平成21年度	228 名	0.0%
平成22年度	245 名	0.0%
平成23年度	234 名	0.0%

（基礎資料3－1）薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

［注］ 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
A 全学年を通して、ヒューマニズムについて学ぶ						
（1）生と死						
【生命の尊厳】						
1）人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習		キャリア形成Ⅱ		特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。						
3）医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4）死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。						
5）自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）						
【医療の目的】						
1）予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習	キャリア形成Ⅰ	キャリア形成Ⅱ		特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
【先進医療と生命倫理】						
1） 医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習		分子細胞生物学		特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
（2）医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1）医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）	薬剤師になるために 早期体験学習 スタートアップゼミ	キャリア形成Ⅰ	キャリア形成Ⅱ	フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義） 臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）	薬剤師になるために スタートアップゼミ				臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	
3）医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）	薬剤師になるために 早期体験学習 スタートアップゼミ 基盤実習				プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義） 臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	
【医療行為に関わるこころ構え】						
1）ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習		キャリア形成Ⅱ	フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。			キャリア形成Ⅱ 調剤学			
3）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。			キャリア形成Ⅱ			
4）患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）						
5）医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）						
【研究活動に求められるこころ構え】						
1）研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	薬剤師になるために			応用薬学実習	臨床研究立案演習 特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）						
3）他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1）医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）	薬剤師になるために 早期体験学習		キャリア形成Ⅱ	フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学 （現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【自己学習・生涯学習】						
1）医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。（知識・技能・態度）	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習 スタートアップゼミ		キャリア形成Ⅱ	応用薬学実習	臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	アドバンスト臨床薬学（現、先端医療Ⅱ） 特別研究Ⅱ
2）医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）	薬剤師になるために 早期体験学習 スタートアップゼミ 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ	キャリア形成Ⅰ			臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	
（3）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	コミュニケーション論 スタートアップゼミ			キャリア形成Ⅲ（予定）	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	心理学 スタートアップゼミ	キャリア形成Ⅰ	臨床心理学	キャリア形成Ⅲ（予定） フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ
2）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）	心理学 早期体験学習 スタートアップゼミ 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ				臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	
3）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）						
【患者の気持ちに配慮する】						
1）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	薬剤師になるために 基盤実習		臨床心理学	フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義） 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ
2）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習 基盤実習					
3）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	薬剤師になるために 生命倫理学				臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	
4）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）						
5）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）	基盤実習					
【チームワーク】						
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。	早期体験学習 スタートアップゼミ 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ	キャリア形成Ⅰ		キャリア形成Ⅲ（予定） フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	臨床研究立案演習 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）	スタートアップゼミ					
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）	基盤演習Ⅰ					
【地域社会の人々との信頼関係】						
1）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	早期体験学習			フィジカルアセスメント実習 （臨床実務実習）	プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義） 臨床薬学演習 特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ
2）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）	生命倫理学 早期体験学習					
B　イントロダクション						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	早期体験学習					
2）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬剤師になるために 早期体験学習	キャリア形成Ⅰ				
2）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
3）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。			調剤学			
4）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。		キャリア形成Ⅰ				
5）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1）「薬とは何か」を概説できる。	薬剤師になるために 早期体験学習 スタートアップゼミ					
2）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4）種々の剤形とその使い方について概説できる。			調剤学			
5）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。				一般用医薬品概論		
【現代社会と薬学との接点】						
1）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬剤師になるために 生命倫理学 スタートアップゼミ					
2）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬剤師になるために 早期体験学習 スタートアップゼミ					
3）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬剤師になるために 生命倫理学 早期体験学習 スタートアップゼミ				プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義）	
【日本薬局方】						
1）日本薬局方の意義と内容について概説できる。				薬局方概論		
【総合演習】						
1）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）	早期体験学習					
2）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）				薬局方概論		
(2) 早期体験学習						
1）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）	早期体験学習 スタートアップゼミ					
2）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
3）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
4）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						
C　薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
(1) 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1）化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）軌道の混成について説明できる。						
3）分子軌道の基本概念を説明できる。						
4）共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
1）静電相互作用について例を挙げて説明できる。	化学 物理 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4）分散力について例を挙げて説明できる。						
5）水素結合について例を挙げて説明できる。						
6）電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【原子・分子】						
1）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		機器分析学Ⅰ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3）スピンとその磁気共鳴について説明できる。			機器分析学Ⅱ			
4）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ					
5）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
6）偏光および旋光性について説明できる。		機器分析学Ⅰ				
7）散乱および干渉について説明できる。						
8）結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1）原子の構造と放射壊変について説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ		放射線生物学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4）核反応および放射平衡について説明できる。						
5）放射線の測定原理について説明できる。						
（2）物質の状態						
【総論】						
1）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理 基盤演習Ⅲ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	化学 物理 基盤演習Ⅰ					
3）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1）系、外界、境界について説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）状態関数の種類と特徴について説明できる。	物理化学Ⅰ					
3）仕事および熱の概念を説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
4）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学Ⅰ					
5）熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
6）代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）	物理化学Ⅰ					
7）エンタルピーについて説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
8）代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）	物理化学Ⅰ					
9）標準生成エンタルピーについて説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
【自発的な変化】						
1）エントロピーについて説明できる。	化学 物理化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）熱力学第二法則について説明できる。	基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ					
3）代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。（知識、技能）	物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅲ					
4）熱力学第三法則について説明できる。	化学 物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ					
5）自由エネルギーについて説明できる。						
6）熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）						
7）自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8）自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van't Hoffの式）について説明できる。						
△9）共役反応について例を挙げて説明できる。	物理化学Ⅰ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1）相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyronの式など）について説明できる。	物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅲ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）相平衡と相律について説明できる。						
3）代表的な状態図（一成分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。						
4）物質の溶解平衡について説明できる。						
5）溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。						
6）界面における平衡について説明できる。	物理化学Ⅰ					
7）吸着平衡について説明できる。	物理化学Ⅰ					
△8）代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）	基盤実習					
【溶液の化学】						
1）化学ポテンシャルについて説明できる。	物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅲ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）活量と活量係数について説明できる。						
3）平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4）電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	物理化学Ⅰ					
5）イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6）イオン強度について説明できる。	物理化学Ⅰ 基盤演習Ⅲ					
7）電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。	物理化学Ⅰ					
【電気化学】						
1）代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）標準電極電位について説明できる。						
3）起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
△4）Nernstの式が誘導できる。						
5）濃淡電池について説明できる。						
△6）膜電位と能動輸送について説明できる。						
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1）反応次数と速度定数について説明できる。	基盤演習Ⅲ	物理化学Ⅱ 物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）						
3）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）		物理化学Ⅱ				
5）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。	基盤演習Ⅲ	物理化学Ⅱ 物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅰ		
6）反応速度と温度との関係（Arrheniusの式）を説明できる。	化学					
△7）衝突理論について概説できる。	基盤演習Ⅰ	物理化学Ⅱ				
△8）遷移状態理論について概説できる。	基盤演習Ⅲ					
9）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。	基盤演習Ⅲ	物理化学Ⅱ 物理薬剤学				
10）酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		物理化学Ⅱ				
【物質の移動】						
1）拡散および溶解速度について説明できる。		物理化学Ⅱ 物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）沈降現象について説明できる。						
3）流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1）酸・塩基平衡を説明できる。	化学 薬品分析学 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅲ			基礎薬学演習Ⅰ		
△2）溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）	薬品分析学 基盤実習					
3）溶液のpHを計算できる。（知識・技能）	薬品分析学			基礎薬学演習Ⅰ		
4）緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	基盤演習Ⅲ					
5）代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	薬品分析学					
6）化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	薬品分析学 基盤演習Ⅲ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【各種の化学平衡】						
1）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	薬品分析学			基礎薬学演習Ⅰ		
2）沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。	薬品分析学 基盤演習Ⅲ					
3）酸化還元電位について説明できる。	薬品分析学					
4）酸化還元平衡について説明できる。	薬品分析学 基盤演習Ⅲ					
5）分配平衡について説明できる。	薬品分析学					
6）イオン交換について説明できる。						
（2）化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
△1）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬品分析学			薬局方概論 基礎薬学演習Ⅰ		
2）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
3）日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
△1）実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	薬品分析学	基礎薬学実習Ⅱ		薬局方概論 基礎薬学演習Ⅰ		
2）医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。						
3）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4）日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1）中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学			薬局方概論 基礎薬学演習Ⅰ		
2）非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6）電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。						
△7）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）	基盤実習					
【金属元素の分析】						
1）原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学Ⅰ		薬局方概論 基礎薬学演習Ⅰ		
2）発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
【クロマトグラフィー】						
1）クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			機器分析学Ⅱ	薬局方概論 基礎薬学演習Ⅰ		
2）クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
△3）薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）		基礎薬学実習Ⅰ 基礎薬学実習Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
（3）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
△1）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）		基礎薬学実習Ⅱ	機器分析学Ⅱ			
2）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
【分析技術】						
1）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			臨床分析学 機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			臨床分析学 放射線生物学			
3）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		基礎薬学実習Ⅱ	臨床分析学			
4）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			機器分析学Ⅱ			
5）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
△6）代表的なドライケミストリーについて概説できる。			臨床分析学 機器分析学Ⅱ			
7）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。		病態生理学	臨床分析学 機器分析学Ⅱ 放射線生物学			
8）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。			臨床分析学 放射線生物学			
△9）薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。			臨床分析学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【薬毒物の分析】						
1）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			機器分析学Ⅱ 衛生化学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
△3）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）			機器分析学Ⅱ 衛生薬学実習			
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
（1）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
2）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学Ⅰ				
△3）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
△4）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
5）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学Ⅰ				
△6）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。（知識・技能）						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		基礎薬学実習Ⅰ				
△2）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。			機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
【質量分析】						
1）質量分析法の原理を説明できる。			臨床分析学	基礎薬学演習Ⅰ		
△2）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1）X線結晶解析の原理を概説できる。		機器分析学Ⅰ	天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
△2）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
△1）生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			臨床分析学	基礎薬学演習Ⅰ		
（2）生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1）生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。			医薬品化学Ⅰ 臨床分析学 機器分析学Ⅱ			
△2）タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		基礎薬学実習Ⅱ	機器分析学Ⅱ			
3）タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品化学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅰ		
△4）タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5）核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学Ⅰ 臨床分析学			
6）生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学Ⅰ			
【相互作用】						
1）鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	薬品分析学			基礎薬学演習Ⅰ		
△2）転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
3）脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。			医薬品化学Ⅰ			
△4）生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C4 化学物質の性質と反応						
（1）化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1）基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	化学 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
3）有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	化学 有機化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅳ					
4）有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅳ					
5）基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。	化学 基盤演習Ⅰ					
6）ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。						
8）反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	化学 有機化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
9）有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ 基盤演習Ⅳ					
【有機化合物の立体構造】						
1）構造異性体と立体異性体について説明できる。	化学 有機化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ		天然物化学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）キラリティーと光学活性を概説できる。	有機化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
3）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5）絶対配置の表示法を説明できる。						
6）Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	化学 有機化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ					
7）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ					
【無機化合物】						
1）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5）代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）配位結合を説明できる。						
3）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4）錯体の安定度定数について説明できる。				医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
5）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。						
6）錯体の反応性について説明できる。						
7）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
（2）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	化学 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。						
7）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【アルケン・アルキンの反応性】						
1）アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。						
3）アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。						
4）カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5）共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ				
6）アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7）アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1）代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ	有機化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。						
3）芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4）芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5）芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
(3) 官能基						
【概説】						
1）代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	化学 有機化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3）生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。				医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
△4）代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
5）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）						
6）日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	化学 有機化学Ⅰ 基盤演習Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
【有機ハロゲン化合物】						
1）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）求核置換反応（S_N1および S_N2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
3）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機化学Ⅱ				
【エーテル】						
1）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ					
3）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度、塩基性度】						
1）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	化学 基盤演習Ⅰ	有機化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
（4）化学物質の構造決定						
【総論】						
1）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		基礎薬学実習Ⅰ	機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
【^{1}H NMR】						
1）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。			機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3）有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5）^{1}H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6）^{1}H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。						
7）^{1}H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8）代表的化合物の部分構造を1H NMR から決定できる。（技能）						
【^{13}C NMR】						
1）^{13}C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。			機器分析学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）		機器分析学Ⅰ		基礎薬学演習Ⅰ		
【紫外可視吸収スペクトル】						
1）化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学Ⅰ		基礎薬学演習Ⅰ		
【マススペクトル】						
1）マススペクトルの概要と測定法を説明できる。			臨床分析学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。						
4）塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
5）代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6）高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7）基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
【比旋光度】						
1）比旋光度測定法の概略を説明できる。		機器分析学Ⅰ		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）						
△3）比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
△4）旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1）代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）	基礎薬学実習Ⅱ	基礎薬学実習Ⅰ				
C5 ターゲット分子の合成						
（1）官能基の導入・変換						
1）アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3）有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ					
4）アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5）フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
6）エーテルの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ					
7）アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8）カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
9）カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。						
10）アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11）代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12）代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1）Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		有機化学Ⅲ				
3）代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	有機化学Ⅰ					
4）代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。		有機化学Ⅱ				
【位置および立体選択性】						
1）代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学Ⅲ				
【保護基】						
△1）官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。		有機化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
【光学活性化合物】						
1）光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。		有機化学Ⅲ				
【総合演習】						
1）課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）		基礎薬学実習Ⅰ		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）						
△3）反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。			医薬品化学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	化学 生化学Ⅰ		医薬品化学Ⅰ 天然物化学			
3）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			医薬品化学Ⅰ			
4）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生化学Ⅰ					
5）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品化学Ⅰ 天然物化学			
【生体内で機能する複素環】						
1）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		有機化学Ⅲ		医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
2）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			医薬品化学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅰ		
△3）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品化学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	基盤演習Ⅰ					
3）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学Ⅰ	医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
△2）代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。	生化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
△3）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			医薬品化学Ⅰ	医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			医薬品化学Ⅰ	医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
△2）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬品化学Ⅰ	医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
2）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【医薬品と生体高分子】						
1）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品化学Ⅱ（現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
2）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
△3）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学Ⅱ（現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
2）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
1）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。				医薬品化学Ⅱ（現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		
2）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
3）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
07 自然が生み出す薬物						
（1）薬になる動植鉱物						
【生薬と自然が】						
1）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）生薬の歴史について概説できる。						
△3）生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
△1）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
2）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		生薬学		基礎薬学演習Ⅰ		
3）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
△4）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
5）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		生薬学		基礎薬学演習Ⅰ		
【植物以外の医薬資源】						
1）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学	天然物化学 天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
【生薬成分の構造と生合成】						
1）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	天然物化学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
3）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
4）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
5）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
6）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
7）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【農薬、香粧品としての利用】						
1）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			天然物化学 天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
【生薬の同定と品質評価】						
1）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ				
△3）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）						
△4）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）						
5）生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学		基礎薬学演習Ⅰ		
（2）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			天然物化学 天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
△2）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
△3）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。				基礎薬学演習Ⅰ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【天然物質の取扱い】						
1）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅰ	天然薬用資源学			
△2）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物化学 天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
【微生物が生み出す医薬品】						
1）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		微生物学	天然薬用資源学	基礎薬学演習Ⅰ		
【発酵による医薬品の生産】						
1）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。			天然物化学	基礎薬学演習Ⅰ		
【発酵による有用物質の生産】						
1）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			天然物化学	基礎薬学演習Ⅰ		
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1）漢方医学の特徴について概説できる。			漢方処方学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4）漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		基礎薬学実習Ⅰ				
6）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
△7）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			漢方処方学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
[生物系薬学を学ぶ]						
G8 生命体の成り立ち						
【概論】						
1）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	生理解剖学Ⅰ 基盤演習Ⅱ 基盤演習Ⅴ 基盤実習			基礎薬学演習Ⅰ		
2）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	生理解剖学Ⅰ 基盤演習Ⅱ 基盤実習					
【神経系】						
1）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理解剖学Ⅰ	生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理解剖学Ⅰ 基盤演習Ⅴ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理解剖学Ⅰ					
【皮膚】						
1）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
【循環器系】						
1）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
【消化器系】						
1）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
【生殖器系】						
1）精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【内分泌系】						
1）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	基盤演習Ⅱ	生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
【感覚器系】						
1）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
【血液・造血器系】						
1）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1）細胞集合による組織構築について説明できる。	生理解剖学Ⅰ 基盤演習Ⅱ	生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	生理解剖学Ⅰ					
△3）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）	基盤実習					
【細胞膜】						
1）細胞膜の構造と性質について説明できる。	生物学 生理解剖学Ⅰ	生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生理解剖学Ⅰ					
3）細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ	生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
【細胞の分裂と死】						
1）体細胞分裂の機構について説明できる。		生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。		生体情報伝達学 病態生理学				
【細胞間コミュニケーション】						
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	生理解剖学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4）筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）血糖の調節機構を説明できる。		生化学Ⅱ 生理解剖学Ⅲ				
【循環・呼吸系の調節機構】						
1）血圧の調節機構を説明できる。		生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）肺および組織におけるガス交換を説明できる。		生理解剖学Ⅲ				
3）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1）体液の調節機構を説明できる。		生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1）消化、吸収における神経の役割について説明できる。		生理解剖学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1）体温の調節機構を説明できる。	生理解剖学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1）生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）原核生物と真核生物の違いを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【細菌】						
1）細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5）腸内細菌の役割について説明できる。						
6）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
【細菌毒素】						
1）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
【ウイルス】						
1）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）ウイルスの分類法について概説できる。						
△3）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1）主な真菌の性状について説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学		基礎薬学演習Ⅰ		
△2）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）（OSCEの対象）		基礎薬学実習Ⅱ				
△3）主な滅菌法を実施できる。（技能）（OSCEの対象）						
【検出方法】						
△1）グラム染色を実施できる。（技能）		微生物学 基礎薬学実習Ⅱ				
△2）無菌操作を実施できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅱ				
△3）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
△4）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
△5）代表的な細菌を同定できる。（技能）						
09 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ		天然物化学 食品衛生学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）脂肪酸の種類と役割を説明できる。			食品衛生学Ⅱ			
3）脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学Ⅱ				
4）コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1）グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ 基盤演習Ⅴ			基礎薬学演習Ⅰ		
2）グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ					
3）代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
△4）糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）			衛生薬学実習			
【アミノ酸】						
1）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ 基盤実習		天然物化学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	基盤演習Ⅱ	生化学Ⅱ				
△3）アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	基盤実習					
【ビタミン】						
1）水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学Ⅱ	食品衛生学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅰ		
2）脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3）ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1）核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。		生化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）DNAの構造について説明できる。	生化学Ⅰ 基盤演習Ⅱ	生化学Ⅲ				
3）RNAの構造について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【遺伝情報を担う分子】						
1）遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。						
2）DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3）ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
4）染色体の構造を説明できる。						
5）遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
6）RNAの種類と働きについて説明できる。	生化学Ⅰ					
【転写と翻訳のメカニズム】						
1）DNAからRNAへの転写について説明できる。						
2）転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3）RNAのプロセシングについて説明できる。		生化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
4）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5）リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1）DNAの複製の過程について説明できる。						
2）遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。		生化学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
3）DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1）一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。			分子細胞生物学	基礎薬学演習Ⅰ		
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1）タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学Ⅰ	基礎薬学実習Ⅱ				
2）タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	基盤演習Ⅱ			基礎薬学演習Ⅰ		
3）タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	生化学Ⅰ					
【酵素】						
1）酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。		基礎薬学実習Ⅱ				
2）酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学Ⅰ			基礎薬学演習Ⅰ		
4）酵素反応速度論について説明できる。		基礎薬学実習Ⅱ				
5）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
△6）代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅱ				
【酵素以外の機能タンパク質】						
1）細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。		生体情報伝達学				
2）物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。		生体情報伝達学				
3）血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		生化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
4）細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。		生体情報伝達学				
5）細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
△1）タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）	基盤実習					
2）タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）	生化学Ⅰ	基礎薬学実習Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
△3）タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。				臨床栄養学 基礎薬学演習Ⅰ		
【ATPの産生】						
1）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。						
2）解糖系について説明できる。						
3）クエン酸回路について説明できる。						
4）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。						
5）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
6）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。		生化学Ⅱ				
7）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生化学Ⅰ			臨床栄養学 基礎薬学演習Ⅰ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【飢餓状態と飽食状態】						
1）グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学Ⅱ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）糖新生について説明できる。						
3）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
4）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5）食餌性の血糖変動について説明できる。						
6）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8）ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理解剖学Ⅲ		基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。				内分泌・代謝性疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		
【オータコイドなど】						
1）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		生化学Ⅱ 生体情報伝達学				
3）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。		生体情報伝達学				
4）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。						
5）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
6）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生体情報伝達学	免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
△3）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		生体情報伝達学		基礎薬学演習Ⅰ		
2）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1）組換えDNA技術の概要を説明できる。			分子細胞生物学	基礎薬学演習Ⅰ		
△2）細胞からDNAを抽出できる。（技能）						
△3）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）						
△4）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）						
△5）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）						
【遺伝子のクローニング技術】						
1）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。			分子細胞生物学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3）遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6）DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
△7）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）		基礎薬学実習Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【遺伝子機能の解析技術】						
1）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			分子細胞生物学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
△3）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
△4）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10　生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
4）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。						
5）クローン選択説を説明できる。						
6）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3）T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
5）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる.			免疫学 感染症治療学			
3）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫学			
△4）代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			感染症治療学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
3）予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
△1）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
△3）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）			臨床分析学			
△4）ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1）主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症治療学	基礎薬学演習Ⅰ		
2）主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
4）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5）グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6）グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
7）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。		微生物学				
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			感染症治療学	基礎薬学演習Ⅰ		
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			食品衛生学Ⅱ 衛生薬学実習	基礎薬学演習Ⅱ		
2）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。				臨床栄養学 基礎薬学演習Ⅱ		
3）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。						
5）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1）食品が腐敗する機構について説明できる。			食品衛生学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			食品衛生学Ⅱ 衛生薬学実習			
3）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			食品衛生学Ⅱ			
4）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
5）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品衛生学Ⅰ			
6）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品衛生学Ⅱ			
7）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
△8）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）			衛生薬学実習			
9）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。				臨床栄養学		
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）			食品衛生学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【食中毒】						
1）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。						
2）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		微生物学	食品衛生学Ⅱ	基礎薬学演習Ⅱ		
3）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品衛生学Ⅰ			
4）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生化学 衛生薬学実習			
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）人口静態と人口動態について説明できる。						
3）国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1）死因別死亡率の変遷について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）						
【疫学】						
1）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）						
5）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
△6）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
△7）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）世界保健機関（WHO）の役割について概説できる。	薬剤師になるために			職業保健学 基礎薬学演習Ⅱ		
【疾病の予防とは】						
1）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			感染症治療学	基礎薬学演習Ⅱ		
3）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
△4）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）		キャリア形成Ⅰ				
【感染症の現状とその予防】						
1）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。			感染症治療学	基礎薬学演習Ⅱ		
2）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		
2）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。				職業保健学 基礎薬学演習Ⅱ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			食品衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			食品衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）			食品衛生学Ⅰ 衛生薬学実習			
3）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			食品衛生学Ⅰ			
△4）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			食品衛生学Ⅰ 衛生化学	基礎薬学演習Ⅱ		
2）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			食品衛生学Ⅰ	職業保健学 基礎薬学演習Ⅱ		
6）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
7）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。			食品衛生学Ⅰ 衛生化学			
8）環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）			食品衛生学Ⅰ			
【化学物質による中毒と処置】						
1）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			食品衛生学Ⅰ 衛生化学	基礎薬学演習Ⅱ		
△2）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）			衛生薬学実習			
【電離放射線の生体への影響】						
1）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			放射線生物学	職業保健学 基礎薬学演習Ⅱ		
2）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
3）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						
5）電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6）電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1）非電離放射線の種類を列挙できる。			放射線生物学	職業保健学 基礎薬学演習Ⅱ		
2）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1）地球環境の成り立ちについて概説できる。			公衆衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
△3）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）				職業保健学		
4）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
6）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			放射線生物学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【水環境】						
1）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）水の浄化法について説明できる。						
3）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			公衆衛生学Ⅰ 衛生薬学実習			
5）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
6）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ 衛生薬学実習			
△7）DO，BOD，CODを測定できる。（技能）			衛生薬学実習			
8）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
【大気環境】						
1）空気の成分を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）			公衆衛生学Ⅰ 衛生薬学実習			
4）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			公衆衛生学Ⅰ			
【室内環境】						
1）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			公衆衛生学Ⅰ 衛生薬学実習	基礎薬学演習Ⅱ		
2）室内環境と健康との関係について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
3）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4）シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1）廃棄物の種類を列挙できる。				職業保健学		
2）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
△3）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）				プレファーマシー実習		
4）マニフェスト制度について説明できる。				職業保健学		
5）PRTR法について概説できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
【環境保全と法的規制】						
1）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ		
2）環境基本法の理念を説明できる。						
3）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
（1）薬の作用と生体内運命						
【薬の作用】						
1）薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学総論	医療薬学実習	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。			医療薬学実習			
【薬の運命】						
1）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
3）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
4）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。		薬理学総論		基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
△1）動物実験における倫理について配慮する。（態度）			医療薬学実習			
△2）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
△3）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
（2）薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			精神神経疾患治療学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
△6）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			医療薬学実習			
【自律神経系に作用する薬】						
1）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学総論		基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
△4）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））△技能であるからCBTには馴染まない			医療薬学実習			
【知覚神経系、運動神経系に作用する薬】						
1）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学総論		基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
△3）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））			医療薬学実習			
【循環器系に作用する薬】						
1）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			循環器疾患治療学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学総論		基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
（3）薬の効き方II						
【ホルモン】薬】						
1）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
2）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			血液疾患治療学	内分泌・代謝性疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
3）代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			消化器疾患治療学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			循環器疾患治療学			医療薬学総合演習
【血液・造血器系に作用する薬】						
1）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			血液疾患治療学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				内分泌・代謝性疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		
4）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【炎症・アレルギーと薬】						
1）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			血液疾患治療学	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
2）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学 基礎薬学演習Ⅰ		
3）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			治療学全般	基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1）薬物の主な吸収部位を列挙できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
4）能動輸送の特徴を説明できる。						
5）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
1）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3）薬物の胎児への移行について、その機構と血液－胎盤関門の意義を説明できる。						
4）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
6）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
△7）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）			医療薬学実習			
【代謝】						
1）薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。						
8）初回通過効果について説明できる。						
9）肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
【排泄】						
1）腎における排泄機構について説明できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）腎クリアランスについて説明できる。						
3）糸球体ろ過速度について説明できる。						
4）胆汁中排泄について説明できる。						
5）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1）薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			生物薬剤学	基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬理学総論				
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学Ⅰ 医療薬学実習	薬物動態学Ⅱ （現、薬剤疫学） 基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）				薬物動態学Ⅱ （現、薬剤疫学） 基礎薬学演習Ⅱ		
△4）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）			薬物動態学Ⅰ			
5）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）			薬物動態学Ⅰ 医療薬学実習	基礎薬学演習Ⅱ		
7）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）						
8）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				薬物動態学Ⅱ （現、薬剤疫学） 基礎薬学演習Ⅱ		
9）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
△10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）			薬物動態学Ⅰ 医療薬学実習			
△11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）			薬物動態学Ⅰ			
△12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【TDM（Therapeutic Drug Monitoring）】						
1）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。			医療薬学実習	薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学） 基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
2）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
△3）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		
△4）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学） 基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
△5）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		
C14 薬物治療						
（1）体の変化を知る						
【症候】						
1）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。 発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			精神神経疾患治療学 感染症治療学 血液疾患治療学 循環器疾患治療学 消化器疾患治療学	内分泌・代謝性疾患治療学 アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
【症候と臨床検査値】						
1）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学			医療薬学総合演習
2）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学 循環器疾患治療学			
3）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病態生理学		アレルギー・免疫疾患治療学 フィジカルアセスメント実習（現、臨床実務実習）		
4）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			循環器疾患治療学	フィジカルアセスメント実習（現、臨床実務実習）		
5）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学 血液疾患治療学			
6）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学	内分泌・代謝性疾患治療学		
7）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。		病態生理学	病態生理学 消化器疾患治療学			
9）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学			
10）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。		病態生理学		フィジカルアセスメント実習（現、臨床実務実習）		
11）代表的なバイタルサインを列挙できる。						
（2）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
1）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		
【心臓・血管系の疾患】						
1）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学	循環器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6）以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1）血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			血液疾患治療学			医療薬学総合演習
2）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5）以下の疾患について概説できる。 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【消化器系疾患】						
1）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。			消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			消化器疾患治療学 感染症治療学			
5）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6）以下の疾患について概説できる。 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病		病態生理学	消化器疾患治療学			
【総合演習】						
△1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）					臨床薬学演習	
（3）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
1）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			循環器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）以下の疾患について概説できる。 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）以下の疾患について概説できる。 前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症		病態生理学				
【呼吸器・胸部の疾患】						
1）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学		アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
2）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）以下の疾患について概説できる。 上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌		病態生理学				
【内分泌系疾患】						
1）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				内分泌・代謝性疾患治療学		医療薬学総合演習
2）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5）以下の疾患について概説できる。 上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
2）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				内分泌・代謝性疾患治療学		
3）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			精神神経疾患治療学			医療薬学総合演習
2）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6）以下の疾患について概説できる。 重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
△1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。					臨床薬学演習	医療薬学総合演習
（4）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
1）代表的な精神疾患を挙げることができる。			精神神経疾患治療学			医療薬学総合演習
2）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）以下の疾患を概説できる。 神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【耳鼻咽喉の疾患】						
1）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			精神神経疾患治療学			医療薬学総合演習
2）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）以下の疾患を概説できる。 メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
2）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			感染症治療学			
4）以下の疾患を概説できる。 蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				アレルギー・免疫疾患治療学		
【眼疾患】						
1）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			精神神経疾患治療学			医療薬学総合演習
2）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）以下の疾患を概説できる。 結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				内分泌・代謝性疾患治療学		医療薬学総合演習
2）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学		
4）以下の疾患を概説できる。 変形性関節症、骨軟化症				内分泌・代謝性疾患治療学		
【アレルギー・免疫疾患】						
1）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
2）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				アレルギー・免疫疾患治療学		医療薬学総合演習
【緩和ケアと長期療養】						
1）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			精神神経疾患治療学			医療薬学総合演習
△2）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
△1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）					臨床薬学演習	
（5）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			感染症治療学			医療薬学総合演習
【抗菌薬】						
1）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物学				医療薬学総合演習
2）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。						
9）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。			感染症治療学			
△10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
△1）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学				医療薬学総合演習
【抗真菌薬】						
1）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学	感染症治療学			医療薬学総合演習
【抗ウイルス薬】						
1）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			感染症治療学			医療薬学総合演習
△2）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【抗菌薬の耐性と副作用】						
△1）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		微生物学				医療薬学総合演習
2）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			感染症治療学			
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。		病態生理学	消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
△2）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
△3）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。		病態生理学	消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
△8）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
△1）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。		病態生理学	消化器疾患治療学			医療薬学総合演習
2）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3）副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【情報】						
1）医薬品として必須の情報を列挙できる。			調剤学	医薬品情報学（予定）		衛生薬学総合演習
2）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			調剤学	医薬品情報学（予定）		衛生薬学総合演習
2）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
△7）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）					DI演習（予定）	
【収集・評価・加工・提供・管理】						
△1）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）					DI演習（予定）	
2）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			調剤学	医薬品情報学（予定）		衛生薬学総合演習
△3）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）					DI演習（予定）	
△4）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			調剤学			衛生薬学総合演習
△5）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学（予定）		
【データベース】						
1）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			調剤学	医薬品情報学（予定）		衛生薬学総合演習
△2）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						
△3）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）					DI演習（予定）	
【EBM（Evidence-Based Medicine）】						
1）EBMの基本概念と有用性について説明できる。				医薬品情報学（予定）		衛生薬学総合演習
2）EBM実践のプロセスを概説できる。						
△3）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
△4）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						
△5）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
△6）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
△1）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			調剤学			衛生薬学総合演習
△2）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）					DI演習（予定）	

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
（2）患者情報						
【情報と情報源】						
1）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			調剤学		臨床薬学演習	衛生薬学総合演習
2）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。			調剤学	プレファーマシー実習		衛生薬学総合演習
△2）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）					臨床薬学演習	
△3）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）						
△4）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）			調剤学		臨床薬学演習	衛生薬学総合演習
△5）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）						
△6）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）					臨床薬学演習	
△7）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）			調剤学			衛生薬学総合演習
（3）テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。	生命倫理学			薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		衛生薬学総合演習
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		衛生薬学総合演習
2）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		衛生薬学総合演習
2）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
△3）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		衛生薬学総合演習
2）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
△1）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				薬物動態学Ⅱ（現、薬剤疫学）		衛生薬学総合演習
2）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
△3）薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）						
4）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
F［医薬品をつくる］						
C16 製剤化のサイエンス						
（1）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1）溶液の濃度と性質について説明できる。		物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅱ		
2）物質の溶解とその速度について説明できる。						
3）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1）界面の性質について説明できる。		物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅱ		
2）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3）乳剤の型と性質について説明できる。						
4）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5）分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		物理薬剤学		基礎薬学演習Ⅱ		
△2）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4）粉体の性質について説明できる。						
5）製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
△7）粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
△8）製剤材料の物性を測定できる。（技能））			医療薬学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			調剤学			
3）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学		
5）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
6）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。				製剤学 基礎薬学演習Ⅱ		
△2）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）			医療薬学実習			
△3）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学 基礎薬学演習Ⅱ		
【製剤試験法】						
1）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。				薬局方概論 基礎薬学演習Ⅱ		
△2）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）	基盤実習					
(3) DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）						
【DDSの必要性】						
1）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				製剤学		
2）DDSの概念と有用性について説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
【放出制御型製剤】						
1）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。						
2）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。				製剤学		
4）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
5）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1）ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤学		
2）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				製剤学 基礎薬学演習Ⅱ		
【その他のDDS】						
△1）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				製剤学 基礎薬学演習Ⅱ		
(17) 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
△1）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				医薬品情報学（予定）		医療薬学総合演習
2）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
△1）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
△2）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。				医薬品情報学（予定）		医療薬学総合演習
3）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。			調剤学	基礎薬学演習Ⅰ		
△4）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
△1）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	生命倫理学			医薬品情報学（予定） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
【医薬品の承認】						
△1）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	生命倫理学					
△2）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医薬品情報学（予定）		医療薬学総合演習
3）市販後調査の制度とその意義について説明できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
△4）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
△1）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				基礎薬学演習Ⅱ		
△2）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。			調剤学	医薬品情報学（予定）		医療薬学総合演習
△3）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				基礎薬学演習Ⅰ		
【規範】						
1）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。	生命倫理学			医薬品情報学（予定） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
【特許】						
△1）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	生命倫理学			医薬品情報学（予定） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
【薬害】						
1）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	薬剤師になるために 生命倫理学			医薬品情報学（予定） 基礎薬学演習Ⅰ	プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義）	医療薬学総合演習
（2）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
【標的生体分子との相互作用】						
△1）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
△2）医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
△3）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
△4）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
△1）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				基礎薬学演習Ⅱ		医療薬学総合演習
△2）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
△1）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				医薬品化学Ⅱ （現、医薬品化学） 基礎薬学演習Ⅰ		医療薬学総合演習
△2）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。						
△3）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
（3）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			分子細胞生物学			医療薬学総合演習
2）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3）組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
△1）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	生命倫理学		分子細胞生物学			医療薬学総合演習
【細胞を利用した治療】						
△1）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	生命倫理学		分子細胞生物学			医療薬学総合演習
【ゲノム情報の創薬への利用】						
△1）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。		生化学Ⅲ	分子細胞生物学			医療薬学総合演習
△2）バイオインフォマティクスについて概説できる。						
△3）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。						
△4）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
△1）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。		病態生理学	分子細胞生物学			医療薬学総合演習
△2）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
（4）治験						
【治験の意義と業務】						
1）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。					プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義）	衛生薬学総合演習
2）医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
△4）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
△5）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
△6）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						衛生薬学総合演習
【治験における薬剤師の役割】						
△1）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。					プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義）	衛生薬学総合演習
△2）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
△3）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
△4）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）					プレファーマシー講義 （現、医療薬学統合講義） 臨床研究立案演習	

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
（5）バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
△1）帰無仮説の概念を説明できる。		統計学演習			臨床研究立案演習	衛生薬学総合演習
△2）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
△3）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
△4）χ2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
△5）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）						
△6）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
△7）主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
△1）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。		統計学演習			臨床研究立案演習	衛生薬学総合演習
△2）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
△3）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。						
△4）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						
△5）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
（1）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
△1）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）	生命倫理学		社会薬学			
△2）医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）			キャリア形成Ⅱ			
【法律と制度】						
1）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬事関連法規		衛生薬学総合演習
2）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
△5）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。					プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）	
6）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7）製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関連法規		衛生薬学総合演習
2）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3）大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4）毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
△1）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。			放射線生物学			衛生薬学総合演習
△2）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
（2）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。			社会薬学	薬事関連法規		衛生薬学総合演習
2）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3）介護保険制度のしくみを説明できる。						
4）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。	生命倫理学					
【医療保険】						
1）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			社会薬学	薬事関連法規		衛生薬学総合演習
2）医療保険のしくみを説明できる。						
3）医療保険の種類を列挙できる。						
△4）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）	
【薬剤経済】						
△1）国民医療費の動向を概説できる。			社会薬学	薬事関連法規		衛生薬学総合演習
2）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
△3）診療報酬と薬価基準について説明できる。						
△4）医療費の内訳を概説できる。						
△5）薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
△6）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3) コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1）地域薬局の役割を列挙できる。			社会薬学		プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）	医療薬学総合演習
2）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3）学校薬剤師の役割を説明できる。				職業保健学		
【医薬分業】						
1）医薬分業のしくみと意義を説明できる。			調剤学 社会薬学			医療薬学総合演習
△2）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）			社会薬学			
△3）かかりつけ薬局の意義を説明できる。					プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）	
【薬局の業務運営】						
1）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			社会薬学	薬事関連法規		医療薬学総合演習
△2）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
△3）医薬品の流通のしくみを概説できる。						
△4）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
△1）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）						
2）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。				一般用医薬品概論	臨床薬学演習	医療薬学総合演習
3）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

[注]　1　実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
　　2　同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを統合して記入することもできます。
　　3　「（７）の事前学修のまとめ」において大学でＳＢＯｓの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
D実務実習教育			
（1）実務実習事前学習			
（1）事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	プレファーマシー講義（現、医療薬学統合講義）
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
△6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
（2）処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
2. 処方オーダリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	医療薬学実習		
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）	医療薬学実習	実践薬学（現、プレファーマシー講義）プレファーマシー実習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	医療薬学実習	実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
8. 患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）		実践薬学（現、プレファーマシー講義）プレファーマシー実習	
9. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。		プレファーマシー実習	
△10. 患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）			
11. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。			
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
《調剤室業務入門》			
△13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）	医療薬学実習	プレファーマシー実習	
△14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）			
△15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）			
△16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）			
△17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
（3）疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	医療薬学実習	実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
△3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）		プレファーマシー実習	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
《疑義照会入門》			
△5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		プレファーマシー実習	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。			
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。			
9. 疑義照会の流れを説明できる。			
△10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）		プレファーマシー実習	
（4）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		プレファーマシー実習	
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。			
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	医療薬学実習	プレファーマシー実習	
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。			
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
△9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）	医療薬学実習		
△10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。			
△11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
《製剤化の基礎》			
△12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
△13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			
△14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）		プレファーマシー実習	
△15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）			
△16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）			
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
△18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）		プレファーマシー実習	
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
△20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）		プレファーマシー実習	
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
（5）リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		プレファーマシー実習	
《リスクマネージメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
△6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）		プレファーマシー実習	
△7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）			
（6）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			
△4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		プレファーマシー実習	
△5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）			
△6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）			
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
《患者情報の重要性に注目する》			
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義） プレファーマシー実習	
△9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		プレファーマシー実習	
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		実践薬学（現、プレファーマシー講義）	
《服薬指導入門》			
△11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		プレファーマシー実習	
△12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）			
△13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）			
△14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
（7）事前学習のまとめ			
（II）病院実習			
（1）病院調剤を実践する			
《病院調剤業務の全体の流れ》			
1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。			病院実務実習
2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。			
3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。			
4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。			
5. 処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。			
6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。			
《計数・計量調剤》			
7. 処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。			病院実務実習
8⊿. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。			
9⊿. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。			
10⊿. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。			
11⊿. 適切な疑義照会の実務を体験する。			
12⊿. 薬袋，薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。			
13⊿. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能）			
14⊿. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。（技能）			
15⊿. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。			
16⊿. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）			
17⊿. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。			
18⊿. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。			
19⊿. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。			
20⊿. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。（技能）			
21⊿. 一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）			
22⊿. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）			
23⊿. 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的な取扱いができる。（技能）			
24⊿. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。			
25⊿. 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）			
26⊿. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）			
27⊿. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）			
《服薬指導》			
28⊿. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。（知識・技能）			病院実務実習
29⊿. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。			
30⊿. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。			
31⊿. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。			
32⊿. 期待する効果が充分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。（知識・態度）			
《注射剤調剤》			
33. 注射剤調剤の流れを概説できる。			病院実務実習
34. 注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能）			
35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技能）			
36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能）			
37. 注射剤（高カロリー栄養輸液など）の混合操作を実施できる。（技能）			
38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			
39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技能）			
40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。			
41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）			
42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
《安全対策》			
43⊿. リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。			病院実務実習
44⊿. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。			
45⊿. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。			
46⊿. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度）			
47⊿. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージメントについて討議する。（態度）			
48⊿. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度）			
49⊿. 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）			
（2）医薬品を動かす・確保する			
《医薬品の管理・供給・保存》			
1. 医薬品管理の流れを概説できる。			病院実務実習
2⊿. 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。			
3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。			
4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			
5⊿. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。			
6⊿. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。			
7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。			
8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。（技能）			
《特別な配慮を要する医薬品》			
9⊿. 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。（技能）			病院実務実習
10⊿. 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。（技能）			
11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。（技能）			
12⊿. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）			
《医薬品の採用・使用中止》			
13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。			病院実務実習
14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。			
（3）情報を正しく使う			
《病院での医薬品情報》			
1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。			病院実務実習
2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。			
3⊿. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。			
4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。			
《情報の入手・評価・加工》			
5⊿. 医薬品の基本的な情報を、文献、MR（医薬情報担当者）などの様々な情報源から収集できる。（技能）			病院実務実習
6. DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。（技能）			
7⊿. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）			
《情報提供》			
8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。（知識・技能）			病院実務実習
9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。（技能・態度）			
10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。（技能・態度）			
11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。（技能）			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
（4）ベッドサイドで学ぶ			
《病棟業務の概説》			
1. 病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など）を概説できる。			病院実務実習
2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。			
3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度）			
《医療チームへの参加》			
4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能）			病院実務実習
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケートする。（技能・態度）			
《薬剤管理指導業務》			
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能）			病院実務実習
7. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能）			
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能）			
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能）			
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。			
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。			
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度）			
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度）			
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度）			
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能）			
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能）			
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能）			
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニーケションを実施できる。（技能・態度）			
19. 患者に共感的態度で接する。（態度）			
20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。（技能）			
21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。（知識・技能）			
22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。（知識・態度）			
《処方支援への関与》			
23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。（態度）			病院実務実習
24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。（態度）			
（5）薬剤を造る・調べる			
《院内で調製する製剤》			
1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（軟膏、坐剤、散剤、液状製剤（消毒薬を含む）など）（技能）			病院実務実習
2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（点眼液、注射液など）（技能）			
《薬物モニタリング》			
3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。（技能・態度）			病院実務実習
《中毒医療への貢献》			
4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する。（知識、態度）			病院実務実習
（6）医療人としての薬剤師			
1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度）			病院実務実習
2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。（態度）			
3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）			
4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度）			
5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度）			
6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
（Ⅲ）薬局実習			
（1）薬局アイテムと管理			
《薬局アイテムの流れ》			
1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。			薬局実務実習
2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。			
3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。			
《薬局製剤》			
4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。			薬局実務実習
5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。			
《薬局アイテムの管理と保存》			
6⊿. 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。			薬局実務実習
7⊿. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目（使用期限、ロットなど）を列挙できる。			
8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。（知識・技能）			
《特別な配慮を要する医薬品》			
9⊿. 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。			薬局実務実習
10⊿. 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。			
11⊿. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬，特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）			
（2）情報のアクセスと活用			
《薬剤師の心構え》			
1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度）			薬局実務実習
2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）			
《情報の入手と加工》			
3⊿. 医薬品の基本的な情報源（厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など）の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。（知識・技能）			薬局実務実習
4⊿. 基本的な医薬品情報（警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など）を収集できる。（技能）			
5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能）			
6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能）			
7⊿. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。			
8⊿. 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。（知識・技能）			
9⊿. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。（知識・技能）			
《情報の提供》			
10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）			薬局実務実習
11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。（技能・態度）			
12⊿. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度）			
（3）薬局調剤を実践する			
《保険調剤業務の全体の流れ》			
1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。			薬局実務実習
2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。			
《処方せんの受付》			
3. 処方せん（麻薬を含む）の形式および記載事項について説明できる。			薬局実務実習
4. 処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。			
5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。			
6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。			
7⊿. 処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度)			
8⊿. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度）			
9⊿. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度）			
10⊿. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能）			

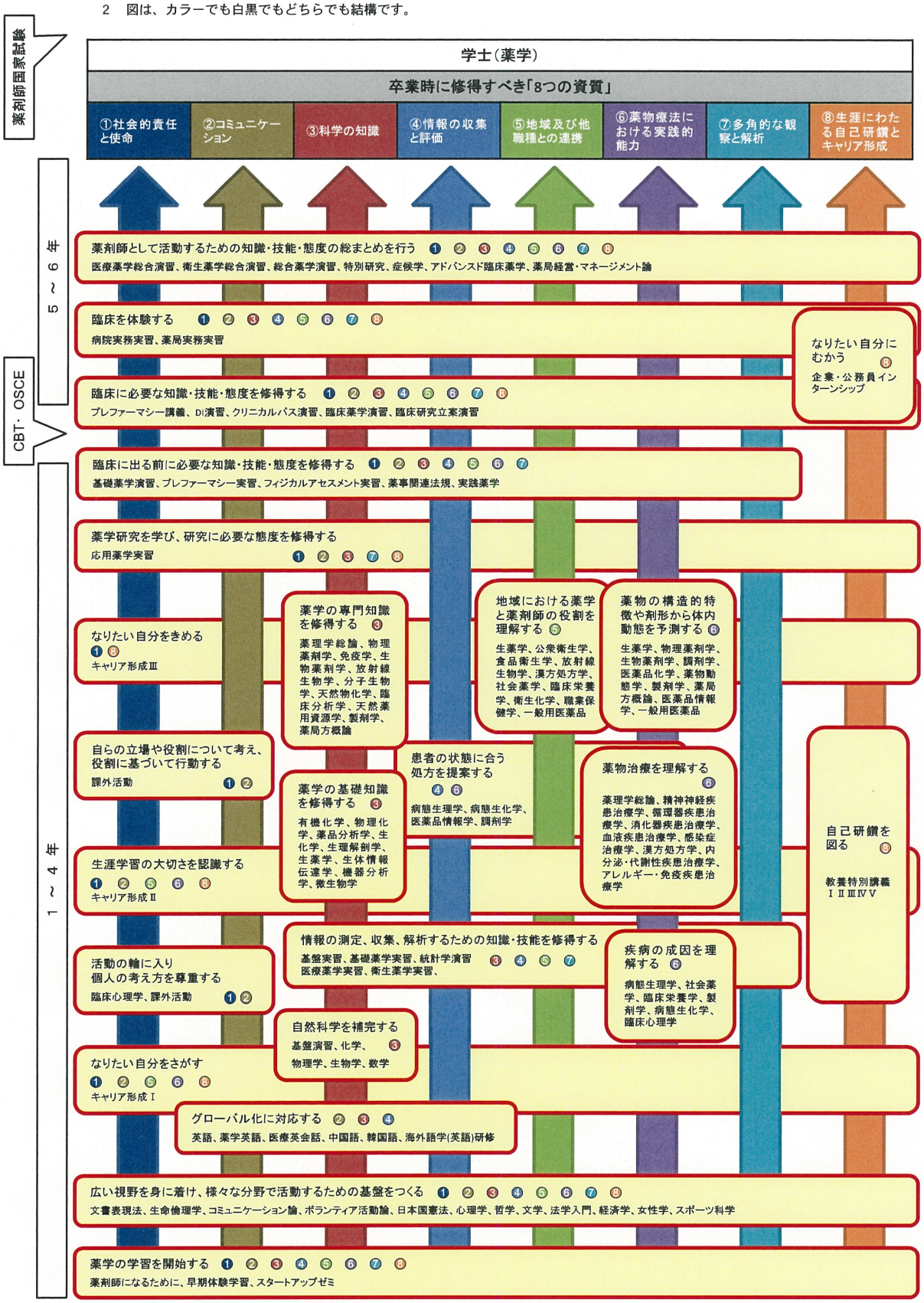
実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
《処方せんの鑑査と疑義照会》			
11⊿. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能）			薬局実務実習
12⊿. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能）			
13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能）			
14. 疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度）			
15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）			
《計数・計量調剤》			
16⊿. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。			薬局実務実習
17⊿. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能）			
18⊿. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。（技能）			
19⊿. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。			
20⊿. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。			
21⊿. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。			
22⊿. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。			
23⊿. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。			
24⊿. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。			
25⊿. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）			
26⊿. 一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。			
27⊿. 一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能）			
28⊿. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）			
29⊿. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）			
30⊿. 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的取扱いができる。（技能）			
31⊿. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。（技能）			
32⊿. 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）			
《計数・計量調剤の鑑査》			
33⊿. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）			薬局実務実習
《服薬指導の基礎》			
34⊿. 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。（知識・技能）			薬局実務実習
35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。			
36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。（知識・技能）			
37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。			
38⊿. 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。			
39⊿. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。（技能）			
40⊿. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。			
《服薬指導入門実習》			
41⊿. 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。（技能）			薬局実務実習
42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。（技能）			
43⊿. 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。（技能）			
44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。（技能）			
《服薬指導実践実習》			
45⊿. 患者に共感的態度で接する。（態度）			薬局実務実習
46⊿. 患者との会話を通じて病態、服薬状況（コンプライアンス）、服薬上の問題点などを把握できる。（技能）			
47⊿. 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。（技能・態度）			
48⊿. 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。（技能・態度）			
49⊿. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）			
《調剤録と処方せんの保管・管理》			
50. 調剤録の法的規制について説明できる。			薬局実務実習
51. 調剤録への記入事項について説明できる。			
52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。			
53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。			
54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学修）SBOs	該当科目		
	3年次	4年次	5年次
《調剤報酬》			
55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書（レセプト）を作成できる。（技能）			薬局実務実習
56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。			
《安全対策》			
57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。（知識・態度）			薬局実務実習
58⊿. 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。			
59⊿. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など）を列挙できる。			
60⊿. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。			
61⊿. 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。（態度）			
62⊿. 過誤が生じたときの対応策を討議する。（態度）			
63⊿. インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。			
（4）薬局カウンターで学ぶ			
《患者・顧客との接遇》			
1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。（態度）			薬局実務実習
2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。（態度）			
3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。（技能・態度）			
4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。（技能・態度）			
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》			
5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。（技能）			薬局実務実習
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。			
《カウンター実習》			
7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度）			薬局実務実習
8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。（技能・態度）			
9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。（技能・態度）			
10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）			
（5）地域で活躍する薬剤師			
《在宅医療》			
1. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。			薬局実務実習
2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。			
3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。（態度）			
《地域医療・地域福祉》			
4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。			薬局実務実習
5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。			
6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。（知識・技能）			
《災害時医療と薬剤師》			
7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。			薬局実務実習
《地域保健》			
8. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。			薬局実務実習
9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。			
10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。			
11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。			
12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。			
13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。（知識・技能）			
14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。			
15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。			
（6）薬局業務を総合的に学ぶ			
《総合実習》			
1. 薬局業務を総合的に実践する。			薬局実務実習
2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。（態度）			
3. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。（態度）			

（基礎資料４）カリキュラムマップ

［注］　1　任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。

2　図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。



（基礎資料５）語学教育の要素（例示）

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語Ⅰa	1	○		○	
英語Ⅰb	1	○		○	
英語Ⅰc	1	○		○	
英語Ⅰd	1	○		○	
英語Ⅱa	2	○		○	
英語Ⅱb	2	○		○	
薬学英語	2	○	○		
医療英会話	2			○	○
英語Ⅲa	3	○		○	
英語Ⅲb	3	○		○	
中国語	3	○	○		
韓国語	3	○		○	○

[注]　要素欄の該当するものに○印をお付けください。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

医療薬学実習（3年次後期）

平成２６年９月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週 ABCクラス	水	10日			S202, S203, S206, S210実習	S202, S203, S206, S210実習	S202, S203, S206, S210実習
	木	11日			S202, S203, S206, S210実習	S202, S203, S206, S210実習	S202, S203, S206, S210実習

［注］　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

一般用医薬品概論

平成２６年４月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週 ABCクラス	木	10日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第２週 ABCクラス	木	17日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第３週 ABCクラス	木	24日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

一般用医薬品概論（4年次前期）

平成２６年５月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週 ABCクラス	木	1日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第２週 ABCクラス	木	8日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第３週 ABCクラス	木	15日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第４週 ABCクラス	木	22日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第５週 ABCクラス	木	29日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

一般用医薬品概論（4年次前期）

平成２６年６月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週 ABCクラス	木	5日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第２週 ABCクラス	木	12日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第３週 ABCクラス	木	19日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			
第４週 ABCクラス	木	26日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

一般用医薬品概論（4年次前期）

平成２６年７月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週 ABCクラス	木	3日		S401, S504, S602, S603, S604, S605講義			

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

プレファーマシー講義及び実習(4年次後期)

平成２６年９月								
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
第１週	月	1日						
	火	2日						
	水	3日						
	木	4日						
	金	5日						
ABクラス	月	8日	S201, S202, S305講義	S205, S208講義	S202, S208演習	S203, S204, S304演習	S203, S204, S304演習	
第２週	火	9日			S605講義・演習	S603演習	S606演習	自己学習・練習（S605実習）
	水	10日			S605講義・演習	S210実習	S306実習・演習	自己学習・練習（S306実習）
	木	11日			S206講義・演習	S207講義・演習	S210実習	
	金	12日			S206講義・演習	S207講義・演習	S210, S410実習	
第３週	月	15日						
	火	16日						
	水	17日						
	木	18日						
	金	19日						
第４週	月	22日						
	火	23日	祝日					
	水	24日						
	木	25日						
	金	26日						
	土	27日						
第５週	月	29日						
	火	30日						
	水							
	木							
	金							

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

プレファーマシー講義及び実習(4年次後期)

平成２６年１０月								
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
第１週	月							
	火							
	水	1日						
	木	2日						
	金	3日						
ABクラス	月	6日	S301, S303講義	S104, S105, S209, S601講義	S403, S404, S405, S407講義	S103, S106演習	S103, S106演習	
第２週	火	7日			S412実習	S413実習	S412, S413実習	
	水	8日			S602, S604講義	S603演習	S606演習	自己学習・練習（S606実習）
	木	9日			S411実習	S411実習	S411実習	自己学習・練習（S411実習）
	金	10日			S207講義・演習	S302実習	S210実習	
	土	11日						
第３週	月	13日	祝日					
	火	14日						
	水	15日			S103, S106演習	S103, S106演習	S103, S106演習	
	木	16日			S211, S304演習	S211, S304演習	S211, S304演習	
	金	17日			S506, S507演習	S506, S507演習	S506, S507演習	
第４週	月	20日						
	火	21日						
	水	22日						
	木	23日						
	金	24日						
ABクラス	月	27日	S408, S409, S414講義	S203, S204, S501, S502講義	S503, S504, S505講義・演習	S107, S605講義・演習	S107, S605講義・演習	
第５週	火	28日			S605講義・演習	S603, S606演習	S406実習	自己学習・練習（S606実習）
	水	29日			S211演習	S506演習	S507演習	
	木	30日	創立記念日					
	金	31日			S411実習	S411実習	S411実習	自己学習・練習（S411実習）

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

プレファーマシー講義及び実習(4年次後期)

平成２６年１１月								
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
ABクラス	月							
第１週	火							
	水							
	木							
	金							
	土	1日			S207講義・演習	S302実習	S210実習	
第２週	月	3日	祝日					
	火	4日						
	水	5日						
	木	6日						
	金	7日						
	土	8日						
第３週	月	10日						
	火	11日						
	水	12日						
	木	13日						
	金	14日						
第４週	月	17日						
	火	18日						
	水	19日						
	木	20日						
	金	21日						
ABクラス	月	24日	S401, S402講義	S101, S102講義	S701実習	S701実習	S701実習	
第５週	火	25日			S701実習	S701実習	S701実習	
	水	26日	S209, S601講義	S101, S102, S104, S105講義	S701実習	S701実習	S701実習	自己学習・練習（S411, S210実習）
	木	27日						
	金	28日						

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

プレファーマシー講義及び実習(4年次後期)

平成２６年１２月								
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
第１週	月	1日						
	火	2日						
	水	3日						
	木	4日						
	金	5日						
ABCDEFｸﾗｽ	月	8日	S209, S601講義	S101, S102, S104, S105講義	S306演習	S306演習	S306演習	
ABクラス	火	9日			S701実習	S701実習	S701実習	
	水	10日						
	木	11日						
ABCDEFｸﾗｽ	金	12日			S701実習	S701実習	S701実習	自己学習・練習（S411, S210実習）
第２週								
ABCDEFｸﾗｽ	月	15日			S701実習	S701実習	S701実習	
第３週	火	16日						
	水	17日						
	木	18日						
	金	19日						
第４週	日	21日	OSCE					
	月	22日						
	火	23日	祝日					
	水	24日						
	木	25日						
	金	26日						
第５週	月	29日						
	火	30日						
	水	31日						
	木							
	金							

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　<u>上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。</u>

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

プレファーマシー講義及び実習（4年次後期）

平成２７年１月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第３週	木	15日			S101, S102, S501, S502, S504, S505講義	S101, S102, S501, S502, S504, S505講義	S101, S102, S501, S502, S504, S505講義
ABCDEF							

[注]　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　**上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

（基礎資料６）実務実習事前学習のスケジュール

医療薬学統合講義（5年次前期）

平成２６年４月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	7日	S101, S102講義	S101, S102講義	S105, S106講義	S104, S105講義	
ABCDEFクラス	火	8日	S501, S502講義	S501, S502講義	S104, S105, S107講義	S104, 105講義	
	水	9日	S501, S502講義	S101, S102, S501, S502, S601, S603, S604, S605講義	S101, S102, S501, S502, S601, S603, S604, S605講義	S104, S105, S107講義	
	木	10日	S601, S603, S604, S605講義	S601, S603, S604, S605講義	S601, S603, S604, S605講義		

［注］　1　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3　**上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

（基礎資料７）学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成22年度入試（21年度実施）	平成23年度入試（22年度実施）	平成24年度入試（23年度実施）	平成25年度入試（24年度実施）	平成26年度入試（25年度実施）	平成27年度入試（26年度実施）	募集定員数に対する入学者数の比率（６年間の平均）
薬学部	薬学科	一般入試	受験者数	1,246	1,415	1,529	1,818	3,185	2,998	
			合格者数	407	327	350	317	270	372	
			入学者数(A)	102	65	78	86	75	80	
			募集定員数(B)	112	112	112	101	101	101	
			A/B*100(%)	91.1	58.0	69.6	85.1	74.3	79.2	
		大学入試センター入試	受験者数	369	391	470	477	742	566	
			合格者数	79	77	100	74	84	104	
			入学者数(A)	12	17	8	10	14	8	
			募集定員数(B)	8	8	8	9	9	9	
			A/B*100(%)	150.0	212.5	100.0	111.1	155.6	88.9	
		ＡＯ入試（※1）	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		附属校推薦（※2）	受験者数			8	7	5	13	
			合格者数			8	7	5	13	
			入学者数(A)			8	7	5	13	
			募集定員数(B)			若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)			—	—	—	—	
		指定校推薦	受験者数	35	49	28	41	34	39	
			合格者数	35	49	28	41	33	39	
			入学者数(A)	35	49	27	41	33	38	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
		公募推薦入試	受験者数	667	628	649	806	1,671	2,053	
			合格者数	279	263	277	243	347	342	
			入学者数(A)	96	102	118	104	100	79	
			募集定員数(B)	100	100	78	78	78	78	
			A/B*100(%)	96.0	102.0	151.3	133.3	128.2	101.3	
		社会人入試（※1）	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		留学生入試	受験者数	2	1	1	0	1	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
		帰国生徒入試	受験者数	0	0	3	0	0	1	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
学科計			受験者数	2,319	2,484	2,688	3,149	5,638	5,670	
			合格者数	800	716	763	682	739	870	
			入学者数(A)	245	233	239	248	227	218	106.8
			募集定員数(B)	220	220	220	220	220	220	
			A/B*100(%)	111.4	105.9	108.6	112.7	103.2	99.1	

[注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。

2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。

4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

5 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

6 ６年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）○年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

【大学注】 ※1 「ＡＯ入試」および「社会人入試」は本学の他学部志望者を対象に実施。薬学部では募集していません。

※2 「付属校推薦」は平成24年度入試から新たに実施。

（基礎資料８）教員・事務職員数

①設置基準において、必要な６年制薬学科の教員数 ＊１	36 名
②設置基準において、必要な実務家教員数 ＊２	6 名

平成26年5月1日現在

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	0	0	0	0	0	
語学教育	0	0	0	0	0	
薬学基礎教育 専門薬学教育	17	7	10	23（18）	6（2）	例示：6(2)=6名のうち2名が特任。 実務実習教育7名（助教1名を除く）が実務家教員。
実務実習教育	1	2	2	3（3）	0	RA:9名
小計	18	9	12	26（21）	6（2）	RA:9名
専任教員数	65（21）					

（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員				その他の職種			
		専任	専任	専任	嘱託	臨時要員	派遣職員	技能職員（専任）	研究員（専任）	技師（特任）	備考
大学業務関連	0	1	3	13	4	14	3	1	1	2	
法人業務関連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	法人本部が設置 各学校の法人業務を担当
小計	0	1	3	13	4	14	3	1	1	2	
事務職員数	38										

[注]　1　主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

2　該当する場合は、（　）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝６名のうち２名が特任）

3　該当する場合は、（　）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

4　「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

5　専任教務補助員（例えば、いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料9）専任教員年齢構成

2014年5月1日現在

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	8(2)	8	2	0	0	18(2)
	%	44%	44%	12%	%	%	100%
准教授	0	1	2(1)	5	1	0	9(1)
	%	11%	22%	56%	11%	%	100%
講師	0	1	1	5(1)	5	0	12(1)
	%	8%	8%	42%	42%	%	100%
助教	0	0	1	4(3)	11(3)	10(2)	26(8)
	%	%	4%	15%	42%	39%	100%
助手	0	1(1)	1(1)	0	3(2)	1(1)	6(5)
	%	17%	17%	%	50%	17%	100%
合計	0	11(3)	13(2)	16(4)	20(5)	11(3)	71(17)
	%	15%	18%	23%	28%	16%	100%
定年年齢	●満64歳（就業規則第12条）						

【注】1　上段には人数、下段には%を記入してください。

2（　）に女性の数を記入してください。（例示：2(1)＝2名のうち1名が女性）

3「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （理工学研究科）		教授	あんどう　あきら 安藤　章	男	63	1985. 4. 1	2004. 4. 1	有機化学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		東京薬科大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　修了 薬学博士
								基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		
								有機化学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								院（理工学研究科）分子生命科学トピックス	0. 20						0. 20	0. 00		
								博-医薬品開発学演習			1. 50	3. 00			1. 50	3. 00		
								博-医薬品化学特論		0. 80					0. 00	0. 80		
								計	3. 20	3. 80	2. 39	4. 15	0. 73	0. 00	6. 32	7. 95	7. 14	
薬学科		教授	やべ　たけし 矢部　武士	男	49	2012. 4. 1	2012. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		東京理科大学大学院　薬学研究科　修士課程　修了　博士（薬学）
								生薬学	3. 00						3. 00	0. 00		
								漢方処方学	3. 00						3. 00	0. 00		
								漢方処方学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 04				0. 04	0. 00		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅱ			0. 32	0. 32			0. 32	0. 32		
								計	6. 00	3. 00	0. 85	0. 69	0. 73	0. 00	7. 90	4. 01	5. 96	
薬学科 （大阪工業大学）		教授	はしもと　なおふみ 橋本　直文	男	63	2007. 4. 1	2007. 4. 1	物理化学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		金沢大学大学院自然科学研究科　修士課程　修了 学術博士（薬学）
								薬学英語Ⅱ		1. 50					0. 00	1. 50		
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								（工大）化学基礎		1. 50					0. 00	1. 50		
								早期体験学習			0. 12				0. 12	0. 00		
								総合薬学演習				0. 12			0. 00	0. 12		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	3. 00	0. 93	0. 81	0. 00	0. 45	3. 93	4. 26	4. 10	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　　名	（性別）	（年齢）	就　職 年月日	現職就任 年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義		演習		実験・実習・実技		計		年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科		教授	さくま　しんじ 佐久間　信至	男	50	2004. 4. 1	2011. 4. 1	製剤学	3. 00						3. 00	0. 00		東京理科大学大学院　薬学研究科　修了 博士（薬学）
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								物理化学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								物理薬剤学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 04				0. 04	0. 00		
								総合薬学演習				0. 69			0. 00	0. 69		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	6. 00	0. 85	1. 38	0. 00	0. 45	3. 85	7. 83	5. 84	
薬学科		教授	あきざわ　としふみ 秋澤　俊史	男	61	1990. 4. 1	2009. 4. 1	機器分析学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		東京医科歯科大学大学院　医学研究科　博士課程　修了　医学博士
								臨床分析学		3. 00					0. 00	3. 00		
								基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		
								博-臨床分析学特論		0. 80					0. 00	0. 80		
								早期体験学習			0. 12				0. 12	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	3. 80	0. 93	1. 15	0. 00	0. 91	3. 93	5. 86	4. 90	
薬学科 （看護学部）		教授	おおつか　まさと 大塚　正人	男	50	2012. 4. 1	2012. 4. 1	生化学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		岡山大学大学院薬学研究科　修士課程　修了 博士（薬学）
								生化学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		
								（看護）生命科学概論		1. 50					0. 00	1. 50		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	4. 50	0. 89	0. 92	0. 00	0. 91	3. 89	6. 33	5. 11	
薬学科		教授	いとう　きよし 伊藤　潔	男	53	2014. 4. 1	2014. 4. 1	薬品分析学		3. 00					0. 00	3. 00		千葉大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　薬学博士
								基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		
								微生物学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	0. 00	6. 00	0. 89	0. 92	0. 00	0. 91	0. 89	7. 83	4. 36	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		教授	うえの　ひとし 上野　仁	男	57	1985. 4. 1	2009. 4. 1	実践衛生試験法概論	0. 23						0. 23	0. 00		静岡薬科大学大学院　製薬学専攻科　博士前期課程　修了 博士（薬学）
								職業保健学	0. 80						0. 80	0. 00		
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								公衆衛生学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		
								感染症治療学		0. 69					0. 00	0. 69		
								博-公衆衛生学特論		1. 50					0. 00	1. 50		
								博-健康薬学演習			1. 50	3. 00			1. 50	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 35			0. 00	0. 35		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								薬剤師になるために			0. 05				0. 05	0. 00		
								計	4. 03	2. 19	2. 44	4. 04	0. 66	0. 00	7. 13	6. 23	6. 68	
薬学科		教授	おおた　そういち 太田　壮一	男	58	1988. 4. 1	2008. 4. 1	実践衛生試験法概論	0. 35						0. 35	0. 00		大阪大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　薬学博士
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								臨床栄養学	3. 00						3. 00	0. 00		
								博-食品安全学特論	1. 50						1. 50	0. 00		
								食品衛生学Ⅱ		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 35			0. 00	0. 35		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	4. 85	3. 00	0. 89	1. 04	0. 66	0. 00	6. 40	4. 04	5. 22	
薬学科 （看護学部）		教授	なべ　たけし 奈邉　健	男	49	2014. 4. 1	2014. 4. 1	（看）薬理学総論	1. 50						1. 50	0. 00		京都薬科大学大学院　薬学研究科　博士前期課程　修了　博士（薬学）
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								先端医療Ⅰ	0. 46						0. 46	0. 00		
								（看）薬物治療学		1. 50					0. 00	1. 50		
								病態生理学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 04				0. 04	0. 00		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								臨床薬学演習			0. 42	0. 42			0. 42	0. 42		
								計	1. 96	4. 50	1. 27	1. 57	0. 66	0. 00	3. 89	6. 07	4. 98	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （看護学部）		教授	おぎた きよかず 荻田 喜代一	男	60	1984. 4. 1	2004. 4. 1	生体情報伝達学	3. 00						3. 00	0. 00		大阪市立大学大学院 医学研究科 博士課程 修了 医学博士
								精神神経疾患治療学	3. 00						3. 00	0. 00		
								先端医療Ⅰ	0. 12						0. 12	0. 00		
								（看）-人体の構造と機能Ⅲ		1. 50					0. 00	1. 50		
								薬理学総論		3. 00					0. 00	3. 00		
								基盤演習Ⅴ（生化学・生理解剖学）				0. 35			0. 00	0. 35		
								早期体験学習			0. 04				0. 04	0. 00		
								総合薬学演習				0. 58			0. 00	0. 58		
								キャリア形成Ⅱ			0. 32				0. 32	0. 00		
								計	6. 12	4. 50	0. 36	0. 93	0. 00	0. 00	6. 48	5. 43	5. 96	
薬学科		教授	まえだ さだあき 前田 定秋	男	62	2000. 4. 1	2000. 4. 1	循環器疾患治療学	3. 00						3. 00	0. 00		大阪大学大学院薬学研究科 博士課程 単位取得退学 薬学博士
								医療薬学実習						0. 73	0. 00	0. 73		
								消化器疾患治療学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								臨床薬学演習			0. 31	0. 31			0. 31	0. 31		
								計	3. 00	3. 00	1. 20	1. 46	0. 00	0. 73	4. 20	5. 19	4. 70	
薬学科		教授	やました しんじ 山下 伸二	男	57	1985. 4. 1	2001. 4. 1	薬剤疫学	3. 00						3. 00	0. 00		京都大学大学院薬学研究科 修士課程 修了 薬学博士
								医療薬学実習						0. 73	0. 00	0. 73		
								薬物動態学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	3. 00	0. 89	1. 15	0. 00	0. 73	3. 89	4. 88	4. 39	
薬学科		教授	いまい きみえ 今井 公江	女	61	1985. 4. 1	2014. 4. 1	調剤学	3. 00						3. 00	0. 00		静岡薬科大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了 博士（薬学）
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								処方解析		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	3. 00	0. 96	0. 92	0. 00	0. 45	3. 96	4. 37	4. 17	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		教授	はね　ゆみこ 塙　由美子	女	61	2008. 4. 1	2013. 4. 1	薬事関連法規	3. 00						3. 00	0. 00		大阪大学　薬学部　卒業 学士（薬学）
								プレファーマシー講義		0. 35					0. 00	0. 35		
								プレファーマシー実習						1. 63	0. 00	1. 63		
								医療薬学統合講義	0. 35						0. 35	0. 00		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 58			0. 00	0. 58		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								クリニカルパス演習			0. 61	1. 01			0. 61	1. 01		
								計	3. 35	0. 35	1. 57	2. 28	0. 00	1. 63	4. 92	4. 26	4. 59	
薬学科 （看護学部）		教授	こうの　たけゆき 河野　武幸	男	58	1992. 4. 1	2006. 4. 1	免疫学	3. 00						3. 00	0. 00		大阪大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　薬学博士
								薬物治療学Ⅵ	3. 00						3. 00	0. 00		
								先端医療Ⅱ	0. 23						0. 23	0. 00		
								感染症治療学		2. 31					0. 00	2. 31		
								臨床実務実習						1. 04	0. 00	1. 04		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 58			0. 00	0. 58		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ				0. 25			0. 00	0. 25		
								キャリア形成Ⅱ			0. 06	0. 06			0. 06	0. 06		
								臨床薬学演習			0. 26	0. 26			0. 26	0. 26		
								（看）-臨床看護学演習Ⅰ			0. 38				0. 38	0. 00		
									6. 23	2. 31	1. 59	1. 84	0. 00	1. 04	7. 82	5. 19	6. 51	
薬学科 （外国語学部） （経営学部）		教授	まつうら　てつろう 松浦　哲郎	男	60	1987. 4. 1	2014. 4. 1	基盤演習Ⅱ（生物学）			1. 50				1. 50	0. 00		山口大学大学院連合獣医学研究科　博士後期課程　修了 博士（獣医学）
								（経営）-自然科学Ⅰ	1. 50						1. 50	0. 00		
								（外国）-生命と物質	1. 50						1. 50	0. 00		
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								統計学演習		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 12				0. 12	0. 00		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ				0. 15			0. 00	0. 15		
								計	3. 00	3. 00	2. 43	0. 84	0. 00	0. 45	5. 43	4. 29	4. 86	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		教授	そね　ともみち 曾根　和道	男	56	1983. 4. 1	2013. 4. 1	基盤演習Ⅱ（生物学）			1. 50				1. 50	0. 00		東京薬科大学大学院　薬学研究科　博士前期課程　修了 薬学博士
								生物学	3. 00						3. 00	0. 00		
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								早期体験学習			2. 23				2. 23	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								薬剤師になるために			0. 68				0. 68	0. 00		
								計	3. 00	0. 00	5. 22	0. 92	0. 00	0. 45	8. 22	1. 37	4. 80	
薬学科 （理工学部）		准教授	おもて　まさあき 表　雅章	男	46	1997. 4. 1	2010. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		摂南大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								基盤演習Ⅳ（有機化学）				1. 00			0. 00	1. 00		
								有機化学Ⅲ		3. 00					0. 00	3. 00		
								（理工）有機化学概論		1. 50					0. 00	1. 50		
								医薬品化学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								博-医薬品化学特論		0. 70					0. 00	0. 70		
								早期体験学習			0. 12				0. 12	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	0. 00	8. 20	0. 93	2. 15	0. 73	0. 00	1. 66	10. 35	6. 01	
薬学科		准教授	こにし　もとみ 小西　元美	女	51	1990. 4. 1	2010. 4. 1	薬局方概論	2. 08						2. 08	0. 00		神戸女子薬科大学大学院　薬学研究科　博士前期課程　修了 博士（薬学）
								基盤演習Ⅰ（物理・化学計算）			1. 00				1. 00	0. 00		
								基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		
								基盤演習Ⅲ（化学）				1. 50			0. 00	1. 50		
								博-臨床分析学特論		0. 70					0. 00	0. 70		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ			0. 10				0. 10	0. 00		
								キャリア形成Ⅱ			0. 75	0. 75			0. 75	0. 75		
								計	2. 08	0. 70	2. 81	3. 17	0. 00	0. 91	4. 89	4. 78	4. 84	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目	毎週授業時間数								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科 （看護学部）		准教授	たかまつ　ひろむ 高松　宏治	男	47	1996. 4. 1	2010. 4. 1	基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		筑波大学大学院生物科学研究科博士後期課程修了　博士（理学）
								（看護）感染と防御		1. 50					0. 00	1. 50		
								生化学Ⅲ		3. 00					0. 00	3. 00		
								分子細胞生物学		3. 00					0. 00	3. 00		
								博-感染予防医療薬学特論	1. 50						1. 50	0. 00		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 80	0. 69			0. 80	0. 69		
								計	1. 50	7. 50	0. 95	0. 92	0. 00	0. 91	2. 45	9. 33	5. 89	
薬学科 （看護学部）		准教授	くらもと　のぶゆき 倉本　展行	男	41	2006. 4. 1	2007. 4. 1	（看）人体の構造と機能Ⅰ	1. 50						1. 50	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　博士（薬学）
								（看）人体の構造と機能Ⅱ	1. 50						1. 50	0. 00		
								生理解剖学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		
								基盤実習（人体解剖見学）						0. 69	0. 00	0. 69		
								医療薬学実習						0. 73	0. 00	0. 73		
								生理解剖学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								薬剤師になるために			0. 37				0. 37	0. 00		
								臨床薬学演習			0. 63	0. 63			0. 63	0. 63		
								計	6. 00	3. 00	1. 89	1. 78	0. 00	1. 42	7. 89	6. 20	7. 05	
薬学科 （理工学研究科）		准教授	きむら　ともき 木村　朋紀	男	41	2001. 4. 1	2013. 4. 1	実践衛生試験法概論	0. 23						0. 23	0. 00		大阪大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								放射線生物学	3. 00						3. 00	0. 00		
								院（理工学研究科）-分子生命科学トピックス	0. 20						0. 20	0. 00		
								院（理工学研究科）-環境毒性学特論		1. 50					0. 00	1. 50		
								放射線生物学		3. 00					0. 00	3. 00		
								衛生化学		1. 50					0. 00	1. 50		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								キャリア形成Ⅰ			0. 33	0. 33			0. 33	0. 33		
								計	3. 43	6. 00	0. 48	0. 56	0. 66	0. 00	4. 57	6. 56	5. 57	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏　名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		准教授	しゅうとう　まこと 首藤　誠	男	42	2006. 4. 1	2012. 4. 1	一般用医薬品概論	1. 62						1. 62	0. 00		金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了　博士（薬学）
								博-医薬品管理学特論	1. 50						1. 50	0. 00		
								プレファーマシー講義		0. 69					0. 00	0. 69		
								プレファーマシー実習						1. 70	0. 00	1. 70		
								医療薬学統合講義	0. 12						0. 12	0. 00		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 35			0. 00	0. 35		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								薬剤師になるために			0. 05				0. 05	0. 00		
								ＥＢＭ演習			0. 60	1. 20			0. 60	1. 20		
								計	3. 24	0. 69	1. 61	2. 24	0. 00	1. 70	4. 85	4. 63	4. 74	
薬学科		准教授	たかだ　まさひろ 高田　雅弘	男	53	2012. 4. 1.	2012. 4. 1	プレファーマシー講義		0. 35					0. 00	0. 30		大阪薬科大学薬学部　卒業博士（医学）
								プレファーマシー実習						1. 86	0. 00	1. 86		
								社会薬学		3. 00					0. 00	3. 00		
								社会薬学		3. 00					0. 00	3. 00		
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								総合薬学演習				0. 46			0. 00	0. 46		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								医療薬学統合講義	0. 23						0. 23	0. 00		
								計	0. 23	6. 35	0. 89	1. 15	0. 00	1. 86	1. 12	9. 31	5. 22	
薬学科 （看護学部）		准教授	やすはら　ともひさ 安原　智久	男	39	2011. 4. 1	2013. 4. 1	基盤演習Ⅰ（物理・化学計算）			1. 00				1. 00	0. 00		京都大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　博士（薬学）
								（看）-生物・化学の基礎	0. 80						0. 80	0. 00		
								医薬品化学	3. 00						3. 00	0. 00		
								化学	3. 00						3. 00	0. 00		
								基盤演習Ⅲ				1. 50			0. 00	1. 50		
								早期体験学習			2. 00				2. 00	0. 00		
								総合薬学演習				0. 69			0. 00	0. 69		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ			0. 93	0. 93			0. 93	0. 93		
								薬剤師になるために			0. 53				0. 53	0. 00		
								臨床薬学演習			0. 98				0. 98	0. 00		
								臨床研究立案演習				2. 39			0. 00	2. 39		
								計	6. 80	0. 00	6. 25	6. 20	0. 00	0. 00	13. 05	6. 20	9. 63	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （理工学部） （大阪工業大学）		准教授	かたかわ　じゅんいち 片川　純一	男	64	1983. 4. 1	2007. 4. 1	（都市）-化学実験					3. 00		3. 00	0. 00		大阪工業大学大学院　工学研究科　修士課程修了　博士（薬学）
								（工大）-化学基礎	3. 00						3. 00	0. 00		
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								計	3. 00	0. 00	0. 96	0. 69	3. 00	0. 45	6. 96	1. 14	4. 05	
薬学科		講師	なかたに　たかふみ 中谷　尊史	男	48	2001. 4. 1	2009. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士（薬学）
								天然物化学	3. 00						3. 00	0. 00		
								機器分析学Ⅰ		3. 00					0. 00	3. 00		
								天然薬用資源学		1. 50					0. 00	1. 50		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ			0. 40	0. 40			0. 40	0. 40		
								計	3. 00	4. 50	1. 36	1. 09	0. 73	0. 00	5. 09	5. 59	5. 34	
薬学科 （法学部） （看護学部）		講師	たけうち　けんじ 竹内　健治	男	48	1992. 4. 1	2008. 4. 1	（法）生物学Ⅰ	1. 50						1. 50	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士（薬学）
								（看護）代謝栄養学		1. 50					0. 00	1. 50		
								基礎薬学実習Ⅱ						0. 91	0. 00	0. 91		
								基盤演習Ⅴ（生化学・生理解剖学）				0. 75			0. 00	0. 75		
								（法）生物学Ⅱ		1. 50					0. 00	1. 50		
								早期体験学習			0. 35				0. 35	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	1. 50	3. 00	1. 16	1. 67	0. 00	0. 91	2. 66	5. 58	4. 12	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		講師	おくの　ともふみ 奥野　智史	男	43	1996. 4. 1	2010. 4. 1	実践衛生試験法概論	0. 46						0. 46	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士（薬学）
								職業保健学	0. 69						0. 69	0. 00		
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								公衆衛生学Ⅰ	3. 00						3. 00	0. 00		
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								総合薬学演習				0. 35			0. 00	0. 35		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								薬剤師になるために			0. 32				0. 32	0. 00		
								キャリア形成Ⅰ			0. 50	0. 50			0. 50	0. 50		
								キャリア形成Ⅱ				0. 16			0. 00	0. 16		
								計	4. 15	0. 00	1. 78	1. 70	0. 66	0. 00	6. 59	1. 70	4. 15	
薬学科 （大阪工業大学）		講師	なかお　てるゆき 中尾　晃幸	男	43	1996. 4. 1	2010. 4. 1	実践衛生試験法概論	0. 23						0. 23	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期　課程修了　博士（薬学）
								食品衛生学Ⅰ	3. 00						3. 00	0. 00		
								衛生薬学実習					0. 66		0. 66	0. 00		
								食品衛生学Ⅱ	3. 00						3. 00	0. 00		
								（工大）環境情報科学	1. 50	1. 50					1. 50	1. 50		
								早期体験学習			0. 38				0. 38	0. 00		
								総合薬学演習				0. 35			0. 00	0. 35		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								キャリア形成Ⅰ			0. 10				0. 10	0. 00		
								キャリア形成Ⅱ			0. 34	0. 34			0. 34	0. 34		
								計	7. 73	1. 50	1. 63	1. 38	0. 66	0. 00	10. 02	2. 88	6. 45	
薬学科 （看護学部） （理工学研究科）		講師	よねやま　まさのり 米山　雅紀	男	37	2005. 4. 1	2007. 4. 1	（看）-人体の構造と機能Ⅳ		1. 50					0. 00	1. 50		金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了　博士（薬学）
								医療薬学実習						0. 74	0. 00	0. 74		
								生理解剖学Ⅲ		3. 00					0. 00	3. 00		
								基盤演習Ⅴ（生化学・生理解剖学）				0. 41			0. 00	0. 41		
								院（理工学研究科）-生体生命科学トピックス		0. 20					0. 00	0. 20		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								ＥＢＭ演習				1. 31			0. 00	1. 31		
								臨床研究立案演習				1. 68			0. 00	1. 68		
								基盤実習（人体解剖見学）				0. 35			0. 00	0. 35		
								計	0. 00	4. 70	0. 00	3. 98	0. 00	0. 74	0. 00	9. 42	4. 71	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		講師	よしおか　やすひろ 吉岡　靖啓	男	39	2000.4.1	2006.4.1	薬物治療学Ⅴ	3.00						3.00	0.00		大阪大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士（薬学）
								血液疾患治療学		3.00					0.00	3.00		
								医療薬学実習						0.74	0.00	0.74		
								早期体験学習			0.08				0.08	0.00		
								総合薬学演習				0.46			0.00	0.46		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								薬剤師になるために			0.32				0.32	0.00		
								臨床薬学演習			0.52	0.52			0.52	0.52		
								計	3.00	3.00	1.73	1.67	0.00	0.74	4.73	5.41	5.07	
薬学科（看護学部）		講師	かたおか　まこと 片岡　誠	男	39	2001.4.1	2014.4.1	薬局方概論	0.92						0.92	0.00		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　博士（薬学）
								（看）-生物・化学の基礎	0.70						0.70	0.00		
								生物薬剤学	3.00						3.00	0.00		
								医療薬学実習						0.74	0.00	0.74		
								早期体験学習			0.38				0.38	0.00		
								総合薬学演習				0.35			0.00	0.35		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								計	4.62	0.00	1.19	1.04	0.00	0.74	5.81	1.78	3.80	
薬学科（看護学部）		講師	きくた　まほ 菊田　真穂	女	42	2008.4.1	2008.4.1	（看）-病院薬学演習			3.00				3.00	0.00		金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程　修了　博士（薬学）
								プレファーマシー講義		0.69					0.00	0.69		
								プレファーマシー実習						1.81	0.00	1.81		
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								総合薬学演習				0.46			0.00	0.46		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								医療薬学統合講義	0.12						0.12	0.00		
								薬剤師になるために			0.05				0.05	0.00		
								クリニカルパス演習				1.22			0.00	1.22		
								計	0.12	0.69	4.09	2.37	0.00	1.81	4.21	4.87	4.54	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目	毎週授業時間数								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科 (看護学部)		講師	こもり　こうじ 小森　浩二	男	36	2011.4.1	2011.4.1	(看) -病院薬学演習			3.00				3.00	0.00	5.82	摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　博士(薬学)
								一般用医薬品概論	1.38						1.38	0.00		
								プレファーマシー講義		0.35					0.00	0.35		
								プレファーマシー実習						1.87	0.00	1.87		
								医療薬学統合講義	0.23						0.23	0.00		
								早期体験学習			0.35				0.35	0.00		
								総合薬学演習				0.58			0.00	0.58		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								薬剤師になるために			0.37				0.37	0.00		
								クリニカルパス演習			0.88	1.01			0.88	1.01		
								臨床薬学演習			0.11				0.11	0.00		
								計	1.61	0.35	5.52	2.28	0.00	1.87	7.13	4.50		
薬学科		講師	つじ　たくみ 辻　琢己	男	38	2007.4.1	2013.4.1	先端医療Ⅱ	0.12						0.12	0.00	4.81	摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士(薬学)
								病態生化学	3.00						3.00	0.00		
								臨床実務実習						1.04	0.00	1.04		
								早期体験学習			0.27				0.27	0.00		
								総合薬学演習			0.81	0.23			0.81	0.23		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								キャリア形成Ⅰ			0.15	0.15			0.15	0.15		
								キャリア形成Ⅱ			0.22	0.22			0.22	0.22		
								臨床薬学演習			0.78	0.78			0.78	0.78		
								基盤実習 (人体解剖見学)				0.35			0.00	0.35		
								計	3.12	0.00	3.04	2.42	0.00	1.04	6.16	3.46		
薬学科 (理工学部) (経済学部)		講師	おざき　きよかず 尾崎　清和	男	52	1988.4.1	2004.4.1	(都市) -生物学	1.50						1.50	0.00	3.38	山口大学大学院農学研究科　博士前期課程　修了　博士(獣医学)
								(住環境) -生物学	1.50						1.50	0.00		
								(経済) -生物学		1.50					0.00	1.50		
								基盤実習						0.45	0.00	0.45		
								早期体験学習			0.15				0.15	0.00		
								スタートアップゼミ			0.81	0.69			0.81	0.69		
								キャリア形成Ⅰ				0.15			0.00	0.15		
								計	3.00	1.50	0.96	0.84	0.00	0.45	3.96	2.79		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （理工学部）		講師	やなだ　かずお 柳田　一夫	男	60	1983. 4. 1	1999. 4. 1	（都市）-化学実験					3. 00		3. 00	0. 00		東京大学大学院薬学系研究科博士課程　修了 薬学博士
								物理学	3. 00						3. 00	0. 00		
								基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		
								早期体験学習			1. 35				1. 35	0. 00		
								総合薬学演習				0. 23			0. 00	0. 23		
								スタートアップゼミ			0. 81	0. 69			0. 81	0. 69		
								計	3. 00	0. 00	2. 16	0. 92	3. 00	0. 45	8. 16	1. 37	4. 77	
薬学科		助教	さとう　かずゆき 佐藤　和之	男	42	1999. 4. 1	2007. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　博士（薬学）
								基盤演習Ⅳ				1. 00			0. 00	1. 00		
								早期体験学習			0. 31				0. 31	0. 00		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 31	1. 00	0. 73	0. 18	1. 04	1. 18	1. 11	
薬学科		特任助教 助教	たるい　あつし 樽井　敦	男	33	2006. 4. 1	2012. 4. 1 2007. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		摂南大学大学院薬学研究科　修士課程　修了 博士（薬学）
								早期体験学習			0. 23				0. 23	0. 00		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 23	0. 00	0. 73	0. 18	0. 96	0. 18	0. 57	
薬学科		助教	いなとみ　ゆか 稲冨　由香	女	44	1993. 4. 1	2013. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		神戸女子薬科大学　薬学部　卒業　学士（薬学）
								早期体験学習			0. 08				0. 08	0. 00		
								プレファーマシー実習						0. 14	0. 00	0. 14		
								基盤実習 （人体解剖見学）						0. 35	0. 00	0. 35		
								計	0. 00	0. 00	0. 08	0. 00	0. 73	0. 49	0. 81	0. 49	0. 65	
薬学科		助教	あらき　りょうた 荒木　良太	男	30	2013. 4. 1	2013. 4. 1	基礎薬学実習Ⅰ					0. 73		0. 73	0. 00		大阪大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 73	0. 00	0. 73	0. 00	0. 37	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		助教	ゆみのき　かよう 弓樹　佳曜	男	29	2011.4.1	2011.4.1	基盤実習						0.45	0.00	0.45	0.45	摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0.27				0.27	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.27	0.00	0.00	0.63	0.27	0.63		
薬学科		助教	もうり　こうた 毛利　浩太	男	30	2014.4.1	2014.4.1	基盤実習						0.45	0.00	0.45	0.39	京都大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　薬学博士
								早期体験学習			0.19				0.19	0.00		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	0.19	0.00	0.00	0.59	0.19	0.59		
薬学科		助教	たにぐち　まさなり 谷口　将済	男	29	2013.4.1	2013.4.1	基礎薬学実習Ⅱ						0.91	0.00	0.91	0.62	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　博士後期課程　修了　薬学博士
								早期体験学習			0.15				0.15	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	1.09	0.15	1.09		
薬学科		助教	ごうだ　みつひろ 合田　光寛	男	33	2012.4.1	2012.4.1	基礎薬学実習Ⅱ						0.91	0.00	0.91	0.65	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0.31				0.31	0.00		
								プレファーマシー実習						0.07	0.00	0.07		
								計	0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	0.98	0.31	0.98		
薬学科		助教	くわな　りつこ 桒名　利津子	女	40	2000.4.1	2007.4.1	基礎薬学実習Ⅱ						0.91	0.00	0.91	0.64	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科　博士前期課程　修了　博士（バイオサイエンス）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.00	1.05	0.23	1.05		
薬学科		助教	あらかわ　ともひろ 荒川　友博	男	33	2010.4.1	2010.4.1	衛生薬学実習					0.66		0.66	0.00	0.52	名古屋市立大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.66	0.14	0.89	0.14		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目									年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科		助教	おぎの　ひろふみ 荻野　泰史	男	29	2012.4.1	2014.4.1	衛生薬学実習					0.66		0.66	0.00		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　修士（薬学）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.66	0.18	0.89	0.18	0.54	
薬学科		助教	あきやま　えま 秋山　恵麻	女	29	2010.4.1	2010.4.1	衛生薬学実習					0.66		0.66	0.00		大阪大学大学院薬学研究科　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.66	0.18	0.89	0.18	0.54	
薬学科		助教	かくたに　ひでき 角谷　秀樹	男	33	2010.4.1	2010.4.1	衛生薬学実習					0.66		0.66	0.00		大阪大学大学院薬学研究　科博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.66	0.18	0.89	0.18	0.54	
薬学科		助教	ほさか　たくおみ 保坂　卓臣	男	31	2011.4.1	2011.4.1	衛生薬学実習					0.66		0.66	0.00		静岡県立大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0.23				0.23	0.00		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.23	0.00	0.66	0.18	0.89	0.18	0.54	
薬学科		助教	しば　たつお 芝　達雄	男	29	2012.4.1	2012.4.1	医療薬学実習						0.74	0.00	0.74		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　退学　修士（薬学）
								早期体験学習			0.19				0.19	0.00		
								基盤実習（人体解剖見学）						0.35	0.00	0.35		
								ＥＢＭ演習			0.71	1.37			0.71	1.37		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	0.90	1.37	0.00	1.27	0.90	2.64	1.77	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		助教	やまぐち　たろう 山口　太郎	男	29	2013. 4. 1	2013. 4. 1	医療薬学実習						0. 74	0. 00	0. 74		摂南大学大学院薬学研究科　博士課程退学　薬学士
								早期体験学習			0. 19				0. 19	0. 00		
								基盤実習（人体解剖見学）						0. 35	0. 00	0. 35		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 19	0. 00	0. 00	1. 27	0. 19	1. 27	0. 73	
薬学科		助教	いしまる　ゆうき 石丸　侑希	男	29	2011. 4. 1.	2011. 4. 1	医療薬学実習						0. 74	0. 00	0. 74		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0. 15				0. 15	0. 00		
								臨床実務演習			0. 59	0. 59			0. 59	0. 59		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 74	0. 59	0. 00	0. 92	0. 74	1. 51	1. 13	
薬学科		助手	やまむろ　あきこ 山室　晶子	女	38	2001. 4. 1	2001. 4. 1	臨床実務実習						1. 04	0. 00	1. 04		大阪大学大学院薬学研究科　修士課程　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0. 19				0. 19	0. 00		
								基盤実習（人体解剖見学）						0. 35	0. 00	0. 35		
								キャリア形成 II				0. 16			0. 00	0. 16		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 19	0. 16	0. 00	1. 57	0. 19	1. 73	0. 96	
薬学科		助教	ひがしの　はるき 東野　晴輝	男	28	2014. 4. 1	2014. 4. 1	医療薬学実習						0. 74	0. 00	0. 74		摂南大学大学院薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0. 23				0. 23	0. 00		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 23	0. 00	0. 00	0. 92	0. 23	0. 92	0. 58	
薬学科		助教	いわざき　あやの 岩﨑 綾乃	女	45	1999. 4. 1	2007. 4. 1	基盤実習						0. 45	0. 00	0. 45		静岡県立大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　修了　博士（薬学）
								早期体験学習			0. 42				0. 42	0. 00		
								プレファーマシー実習						0. 18	0. 00	0. 18		
								計	0. 00	0. 00	0. 42	0. 00	0. 00	0. 63	0. 42	0. 63	0. 53	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		助教	みやざき　たまみ 宮﨑　珠美	女	37	2010.4.1	2010.4.1	プレファーマシー実習						1.79	0.00	1.79		摂南大学　薬学部　卒業　薬学士
								早期体験学習			0.19				0.19	0.00		
								計	0.00	0.00	0.19	0.00	0.00	1.79	0.19	1.79	0.99	
薬学科		助教	なかの　しょうこ 中野　祥子	女	30	2010.4.1	2010.4.1	プレファーマシー実習						1.79	0.00	1.79		摂南大学　薬学部　卒業　学士（薬学）
								早期体験学習			0.31				0.31	0.00		
								計	0.00	0.00	0.31	0.00	0.00	1.79	0.31	1.79	1.05	
薬学科		助教	みたむら　しのぶ 三田村　しのぶ	女	36	2012.4.1	2012.4.1	プレファーマシー実習						1.75	0.00	1.75		京都薬科大学薬学部　卒業　薬学士
								早期体験学習			0.19				0.19	0.00		
								計	0.00	0.00	0.19	0.00	0.00	1.75	0.19	1.75	0.97	
薬学科		助教	よしだ　ゆうや 吉田　侑矢	男	29	2010.4.1	2010.4.1	臨床実務実習						1.04	0.00	1.04		摂南大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0.38				0.38	0.00		
								臨床薬学演習			1.23	1.23			1.23	1.23		
								キャリア形成Ⅰ			0.25	0.25			0.25	0.25		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	1.86	1.48	0.00	1.18	1.86	2.66	2.26	
薬学科		助教	ばんの　りえ 坂野　理絵	女	31	2014.4.1	2014.4.1	臨床実務実習						1.04	0.00	1.04		近畿大学大学院薬学研究科　修士課程　修了　修士（薬学）
								早期体験学習			0.19				0.19	0.00		
								臨床薬学演習			1.23	1.23			1.23	1.23		
								キャリア形成Ⅰ			0.35	0.35			0.35	0.35		
								プレファーマシー実習						0.18	0.00	0.18		
								計	0.00	0.00	1.77	1.58	0.00	1.22	1.77	2.80	2.29	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目	毎週授業時間数								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科		助教	くしはた　たろう 串畑　太郎	男	31	2014.4.1	2014.4.1	基盤演習Ⅰ (物理・化学計算)			1.00				1.00	0.00		摂南大学　薬学部　卒業　学士(薬学)
								基盤演習Ⅳ (有機化学)				1.00			0.00	1.00		
								基盤演習Ⅴ (生化学・生理解剖学)				0.75			0.00	0.75		
								早期体験学習			2.00				2.00	0.00		
								臨床研究立案演習				2.39			0.00	2.39		
								臨床薬学演習			0.95	0.95			0.95	0.95		
								キャリア形成Ⅰ			0.80	0.80			0.80	0.80		
								プレファーマシー実習						0.49	0.00	0.49		
								計	0.00	0.00	4.75	5.89	0.00	0.49	4.75	6.38	5.57	
薬学科		助手	くりお　わさこ 栗尾　和佐子	女	55	1987.4.1	2007.4.1	基盤実習						0.30	0.00	0.30		京都薬科大学薬学部　卒業　薬学士
								早期体験学習			0.73				0.73	0.00		
								キャリア形成Ⅰ			0.18	0.18			0.18	0.18		
								キャリア形成Ⅱ			0.63	0.63			0.63	0.63		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	1.54	0.81	0.00	0.44	1.54	1.25	1.40	
薬学科		助教	たなか　りゅういちろう 田中　龍一郎	男	51	1991.4.1	2007.4.1	基礎薬学実習Ⅰ					0.73		0.73	0.00		福岡大学大学院薬学研究科　博士前期課程　修了　博士(薬学)
								早期体験学習			0.27				0.27	0.00		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	0.27	0.00	0.73	0.14	1.00	0.14	0.57	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科		助手	むらた　ひろこ 邑田　裕子	女	63	1983.4.1	1983.4.1	基礎薬学実習Ⅰ					0.73		0.73	0.00	0.84	岐阜薬科大学大学院　薬学研究科　博士後期課程　退学　薬学修士
								早期体験学習			0.08				0.08	0.00		
								キャリア形成Ⅱ			0.36	0.36			0.36	0.36		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	0.44	0.36	0.73	0.14	1.17	0.50		
薬学科		特任助手 助手	にしかわ　ともえ 西川　智絵	女	39	2002.4.1	2010.4.1	基盤実習						0.07	0.00	0.07	0.82	大阪工業大学　工学部　卒業　工学士
								早期体験学習			1.27				1.27	0.00		
								キャリア形成Ⅰ			0.15				0.15	0.00		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	1.42	0.00	0.00	0.21	1.42	0.21		
薬学科		助手	やまもと　ゆみ 山本　祐実	女	29	2008.4.1	2010.4.1	基盤実習						0.07	0.00	0.07	1.27	大阪学院大学　外国語学部　卒業　学士（英語学）
								早期体験学習			1.42				1.42	0.00		
								キャリア形成Ⅰ			0.23	0.23			0.23	0.23		
								キャリア形成Ⅱ			0.22	0.22			0.22	0.22		
								プレファーマシー実習						0.14	0.00	0.14		
								計	0.00	0.00	1.87	0.45	0.00	0.21	1.87	0.66		
薬学科		助手	あいざわ　ひでき 相澤　秀樹	男	39	2001.4.1	2001.4.1								0.00	0.00	0.00	茨城大学大学院　農学研究科　修士課程　修了　修士（農学）
															0.00	0.00		
															0.00	0.00		
															0.00	0.00		
															0.00	0.00		
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

［注］　1　「所属学科」には、（　　）に兼担の学科名を記入してください。

2　「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3　「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、３学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4　「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：１コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）

5　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は担当教員２名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を２で除す。）　また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
（例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合）

6　「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を２で割った年間平均の時間数を記入してください。

7　卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

（基礎資料11）卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数　　219 名

6年生の在籍学生数　　218 名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬化学研究室	4	10	9	19
2	複合薬物解析学研究室	4	14	16	30
3	薬品物性化学研究室	2	7	7	14
4	薬物送達学研究室	2	7	4	11
5	臨床分析化学研究室	3	6	8	14
6	生化学研究室	3	14	10	24
7	微生物学研究室	3	11	9	20
8	公衆衛生学研究室	4	15	9	24
9	環境保健学研究室	4	15	9	24
10	毒性学研究室	4	11	9	20
11	薬理学研究室	4	12	9	21
12	薬物治療学研究室	4	15	13	28
13	薬剤学研究室	3	13	7	20
14	臨床薬剤学研究室	2	7	7	14
15	医療薬学研究室	8	23	17	40
16	病態医科学研究室	4	14	9	23
17	病理学研究室	2	6	5	11
18	薬学教育研究室	5	12	8	20
19	薬用植物園	2	7	4	11
合　計		67	219	169	388

[注]　1　卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

2　指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。

3　講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

（基礎資料12）講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室　数	総面積(㎡)（A）	専用・共用の別	収容人員（総数）	利用学生総数（B）	利用学生１人当たり面積（㎡）（A/B）	備　考
枚方キャンパス	講義室等	21	4,195	共用	3,565	1,705	2.46	看護学部（学生数312）
	演習室	12	386	専用	154	1,393	0.28	
		15	491	共用	180	1,705	0.29	看護学部（学生数312）
	学生自習室	8	1,005	共用	635	1,705	0.59	看護学部（学生数312）
	情報処理演習室	2	887	共用	260	1,705	0.52	看護学部（学生数312）
	実習室	8	2,734	専用	816	1,393	1.96	
	共同利用機器室	7	154	専用				
	臨床実習室	12	869	専用				
	注射調剤実習室							
	無菌製剤実習室							
	保健薬局実習室							
	病院薬局実習室							
	等							

[注]　1　６年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

2　全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

3　共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（Ｂ）」欄にもその数を含めて記入してください。

4　「利用学生１人当たり面積」は、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位まで記入してください。

5　例示のように適宜行を追加して作成してください。

（基礎資料13）学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合(%) A／B＊100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備　考
寝屋川本館	850	5,737	14.8	—	—	—	学部　：5584 大学院：　153
枚方分館	312	1,736	18.0	—	—	—	学部　：1720 大学院：　16
計	1,162	7,473	15.5	—	—	—	学部　：7304 大学院：　169

［注］　1　「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2　「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

3　「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

（基礎資料14）図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数（数）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去３年間の図書受け入れ状況			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数(内)	内国書	外国書			平成23年度	平成24年度	平成25年度	
寝屋川本館	469,098	252,098	831	1,672	13,417	49	9,578	7,836	6,580	
枚方分館	74,291	45,991	286	477	1,223	28	2,856	1,458	980	
計	543,389	298,089	1,117	2,149	14,640	77	12,434	9,294	7,560	

[注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

2 開架図書の冊数（内）は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、ＣＤ・ＬＤ・ＤＶＤ、スライド、映画フィルム、ＣＤ－ＲＯＭ等を含めてください。

4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬化学	職名　教授	氏名　安藤　章

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 講義の理解度を向上っさせることを目的とした形成的評価としての小テスト形式の問題演習の実施	2006年4月～	授業の復習を促すための授業開始直後の小テスト形式の演習の実施とその後の解説を実施。確認テスト的であり自己学習のために良いとの学生からの意見がある。
2　作成した教科書、教材、参考書 スタンダード薬学シリーズII 3　化学系薬学 I. 化学物質の性質と反応　第1版	2015年2月20日	出版社：東京化学同人、概要：学生の理解を助けるような新コアカリ対応の有機化学全般について記述。教科書：445頁、共著者：伊藤　喬他、担当部分概要：有機ハロゲン化合物の性質、求核置換反応および脱離反応について反応機構を含めて解説、担当部分：pp. 236～265、共著
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 国家試験対策委員長 国家試験対策副委員長	 2006年4月～2012年3月 2005年4月～2006年3月、2013年4月～2014年3月	 国試対策委員長として国家試験対策プログラム作成・運営等全般を担当 国試対策委副員長として国家試験対策プログラム作成・運営等を担当

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Diastereoselective synthesis of 2-fluoroaziridine-2-carboxylates by Reformatsky-type aza-Darzens Reaction.	共著	2010年8月	*Tetrahedron Lett.51 (15)*
Reductive Reformatsky-Honda Reaction of α,β-Unsuturated Esters: Facile Formation of 1,3-Dicarbonyl Compounds and β-Hydroxy Esters.	共著	2012年2月	*Adv. Synth. Catal., 354*
Simple synthesis of β-trifluoromethylstyrenes using (*E*)-trimethyl-(3,3,3-trifluoroprop-1-enyl)silane.	共著	2012年9月	*Organic Letters 14 (9)*
Ni-catalyzed α-arylation of α-bromo-α-fluoro-β-lactam: Cross-coupling of a secondary fluorine-containing electrophile	共著	2013年2月	*Tetrahedron 69 (5)*
Asymmetric Reductive Aldol-Type Reaction with Carbonyl Compounds Using Dialkyl Tartrate as a Chiral Ligand	共著	2014年10月	*Chemmical and Pharmaceutical Bulletin 62 (10)*
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Synthesis of 5, 5, 5-trifluoropent-3-en-1-ynes using Sonogashira cross-coupling reaction. A. Ikeda, M. Omote, K. Kusumoto, M. Tanaka, A. Tarui, K. Sato, A. Ando		2014年5月	International Conference on Fluorone Chemistry
Rh 触媒還元的マンニッヒ反応を用いたエゼチミブの新規合成法の開発 磯田紀之，佐藤和之，樽井 敦，表 雅章，安藤 章		2014年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
フッ素化β-アミノ酸単位導入ツールとしてのフルオロ-β-ラクタムの利用 上尾正和，樽井 敦，佐藤和之，表 雅章，安藤 章		2014年10月	第38回 フッ素化学討論会
ロジウム触媒を用いたベンジルハライドの Csp^3-Csp^3 ホモカップリング反応　佐藤和之，阪上淳史，樽井 敦，表 雅章，安藤 章		2014年11月	第41回 反応と合成の進歩シンポジウム
新たな蛍光物質の合成とその蛍光特性の測定　小川 風太，表 雅章，樽井 敦，佐藤 和之，安藤 章		2015年3月	日本薬学会 第136年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
2006年4月～	有機化学系教科検討委員会委員
2010年4月～	日本薬学会代議員
2012年4月～	日本薬学会近畿支部幹事
2012年4月～	有機合成化学協会関西支部幹事

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬化学	職名　准教授	氏名　表　雅章
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①チーム基盤型学習（TBL）の実施		2012年9月～ 現在に至る	薬学部1年後期科目、基盤演習Ⅳ（有機化学）において、TBLを実施した。内容として、初めに小テストを行い、個人の解答を回収する。後に、学生を5～6人のグループに分け、小テストと同じ問題についてグループごとに議論させ、グループの解答として提出させる。殆どの場合、個人点よりグループ点が高くなる。これは、グループ討議で出てくる多くの意見についてそれぞれ議論が行われ、互いに考え、教え合う結果、より正解に近づく過程が形成できているものと考える。学生からは、「通常の授業よりも理解が深まる」との意見が多いことから、受講学生の今後の学力推移を追跡し、従来型の学習効果と比較したい。
②学ステーションの実施		2010年9月～現在に至る	学生が授業で分かり難かったところを質問しやすいよう、「学ステーション」という形式で補講を行い、授業の復習・まとめを行った。受講した学生はからは、理解が深まった、分からないところが分かった、などの声が多く届いた。
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
①第2回教職員研修ワークショップに参加		2010年8月5,6日	第2回教職員研修ワークショップにタスクフォースとして参加し、摂南大学教員のFD活動に貢献した。
②中学生サマー・セミナーを企画・実施		2010年8月26日	大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する中学生サマーセミナーに参画し、摂南大学薬学部に中学生を受け入れて化学実験を実施した。
③第50回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加		2010年9月 19,20日	薬剤師のためのワークショップにタスクフォースとして参加し、指導薬剤師育成に貢献した。
④高校模擬授業を実施		2011年6月16日	長尾高等学校において、模擬授業を実施した。
⑤第3回教職員研修ワークショップに参加		2011年8月 23,24日	第2回教職員研修ワークショップにタスクフォースとして参加し、摂南大学教員のFD活動に貢献した。
⑥第54回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加		2011年7月 17,18日	薬剤師のためのワークショップにタスクフォースとして参加し、指導薬剤師育成に貢献した。
⑦学生参加型FD活動の試み-学生によるワークショップ-に参加		2011年8月24日	従来教員で行うFDワークショップを、摂南大学に所属する学生を対象に実施。タスクフォースとして参加。「学生生活を通して印象に残っていること」と題するテーマでSGDを行わせ、学生の考える摂南大学像を明確にすることで、教員のFD活動に反映した。

⑧第59回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加	2011年11月12, 13日	薬剤師のためのワークショップにタスクフォースとして参加し、指導薬剤師育成に貢献した。
⑨摂南大学 第17回FDフォーラムに参加	2012年3月16日	「摂南大学FD委員会発足10年を迎えて」というテーマで摂南大学が今まで行ってきたFD活動の取り組みと今後の展望に関する講演を聴講した。
⑩2013年度薬学部FDワークショップに参加	2012年7月7日	ワールドカフェ方式で、留年生を減らすための対応ついて協議した。
⑪中学生サマー・セミナーを企画・実施	2012年8月18日	大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する中学生サマーセミナーに参画し、摂南大学薬学部に中学生を受け入れて化学実験を実施した。
⑫摂南大学 第18回FDフォーラムに参加	2013年3月18日	アクティブラーニングに関する講演を聴講した。
⑬高校模擬授業を実施	2013年6月13日	夕陽丘高等学校において、模擬授業を実施した。
⑭2013年度薬学部FDワークショップに参加	2013年7月13日	ワールドカフェ方式で、教育方法の改善について協議した。
⑮中学生サマー・セミナーを企画・実施	2013年8月24日	大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する中学生サマーセミナーに参画し、摂南大学薬学部に中学生を受け入れて化学実験を実施した。
⑯摂南大学 第19回FDフォーラムに参加	2013年9月27日	アクティブラーニングに関する講演を聴講した。
⑰2013年度　第3回薬学部ＦＤフォーラムに参加	2013年10月18日	薬学教育第三者評価についての講演を聴講した。
⑱2013年度　第4回薬学部ＦＤフォーラムに参加	2013年10月28日	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムについての講演を聴講した。
⑲2011年度　第7回薬学部ＦＤフォーラムに参加	2013年12月6日	レギュラトリーサイエンスについての講演を聴講した。
⑳第71回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加	2014年3月8, 9日	薬剤師のためのワークショップにタスクフォースとして参加し、指導薬剤師育成に貢献した。
2010年度　化学入試出題者委員を拝任	2010年4月～2011年3月	摂南大学入試化学入試出題者委員の副責任者を拝任。
2012年度　化学入試出題者委員副責任者を拝任	2012年4月～2013年3月	摂南大学入試化学入試出題者委員の副責任者を拝任。
2013年度　化学入試出題者委員副責任者を拝任	2013年4月～2014年3月	摂南大学入試化学入試出題者委員の副責任者を拝任。
2014年度　化学入試出題者委員責任者を拝任	2014年4月～現在	摂南大学入試化学入試出題者委員の責任者を拝任。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Simple synthesis of β-trifluoromethylstyrenes using (E)-trimethyl-(3, 3, 3-trifluoroprop-1-enyl)silane、査読あり	共著	2012年4月	Org. Lett., 14巻9号2286-2289頁、アメリカ化学会誌
（論文）Synthesis of 2-aryl-3-trifluoromethylquinolines using (E)-trimethyl-(3, 3, 3-trifluoroprop-1-enyl)silane、査読あり	共著	2013年5月	J. Org. Chem., 78巻12号6196-6201頁、アメリカ化学会誌
（論文）Direct and diastereoselective alkylation and aldol reactions of α-bromo-α-fluoro-β-lactams、査読あり	共著	2013年7月	J. Org. Chem., 78巻16号7903-7911頁、アメリカ化学会誌
（論文）Oxidative 3, 3, 3-trifluoropropylation of arylaldehydes、査読あり	共著	2013年11月	Beilstein J. Org. Chem., 9巻2417-2421頁、オープンアクセス
生理活性物質を指向した含フッ素複素環類の合成ーフルオロ酢酸エチルおよび含フッ素ビニルシランの利用、執筆依頼	共著	2014年6月	J. Synthetic Org. Chem., 72巻6号, 680-691頁、有機合成化学協会誌

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(*E*)-Trimethyl(3,3,3-trifluoroprop-1-enyl)silane の有機合成への利用（口頭発表）○表 雅章，池田朱里，樽井 敦，佐藤和之，安藤 章	2014年5月	第12回 次世代を担う有機化学シンポジウム
多置換フルオロ-β-ラクタム類の立体選択的合成と含フッ素β-アミノ酸骨格への変換（口頭発表）○樽井 敦、佐藤和之、表 雅章、安藤 章	2014年10月	第66回 日本薬学会近畿支部総会・大会
$AgCF_3$ を用いたアルケンの酸化的トリフルオロメチル化反応（口頭発表）○表 雅章，林 達人，樽井 敦，佐藤和之，安藤 章	2014年11月	第40回 反応と合成の進歩シンポジウム
酸化的薗頭クロスカップリング反応を用いた CF_3 基を持つ 1,3-共役エンイン骨格の構築（口頭発表）○池田 朱里，表 雅章，楠本 可奈，樽井 敦，佐藤 和之，安藤 章	2015年3月	日本薬学会 第135年会
新たな蛍光物質の合成とその蛍光特性の測定（ポスター発表）○小川 風太，表 雅章，樽井 敦，佐藤 和之，安藤 章	2015年3月	日本薬学会 第137年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
2007年4月～現在	近畿地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ　タスクフォース
2014年10月	第37回フッ素化学討論会　世話人

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬化学	職名　助教	氏名　佐藤 和之
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①基礎薬学実習Ⅰの導入講義用資料の作成およびインターネットを利用した配布		平成18年4月 ～ 現在に至る	摂南大学薬学部２年次の基礎薬学実習Ⅰ（薬化学）において実習用資料をインターネット経由で閲覧可能にした
②チーム基盤型学習（TBL）の実施		平成26年4月 ～ 現在に至る	摂南大学薬学部２年次の基礎薬学実習Ⅰ（薬化学）においてTBLを実施した
③チーム基盤型学習（TBL）の実施		平成26年9月 ～ 現在に至る	摂南大学薬学部１年次の基盤演習Ⅳ（有機化学）においてTBLを実施した
2　作成した教科書、教材、参考書 基礎薬学実習Ⅰ 実習テキスト		平成18年4月 ～ 現在に至る	摂南大学薬学部２年次の基礎薬学実習Ⅰ（薬化学）において実習テキストを作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本リメディアル教育学会第５回全国大会		平成21年9月 1・2日	摂南大学薬学部初年次学生に対する小グループ討議（SGD）演習の取り組みについて発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ①「第15回 薬剤師のためのワークショップin近畿」に参加		平成20年4月 26・27日	6年制薬学教育の実務実習において学生を指導する質の高い実務実習指導薬剤師を養成するためワークショップに参加
②「薬剤師になるために SGD」のワーキンググループに参加		平成20年4月 ～ 平成22年3月	摂南大学薬学部初年次学生に対する小グループ討議（SGD）演習の運営・準備に寄与
③「中学生サマー・セミナー」を実施		平成22年8月	大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する中学生サマーセミナーにおいて中学生を受け入れ化学実験を実施
④「中学生サマー・セミナー」を実施		平成25年8月	大阪中学生サマー・セミナー推進協議会が主催する中学生サマーセミナーにおいて中学生を受け入れ化学実験を実施
⑤「2013年度第3回薬学部FDフォーラム」に参加		平成25年9月	卒業判定や国家試験、第3者評価などについて教員間で情報を共有した
⑥「2013年度第5回薬学部FDフォーラム」に参加		平成25年10月	改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて詳細に学んだ
⑦「2013年度第7回薬学部FDフォーラム」に参加		平成25年11月	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について研修を受けた
⑧「2013年度第8回薬学部FDフォーラム」に参加		平成25年12月	レギュラトリーサイエンスについて研修を受けた
⑨「2014年度第1回薬学部FDフォーラム」に参加		平成26年1月	2014年度の薬学部運営や共用試験、国家試験対策、実務実習、第3者評価などについて研修を受けた

⑩「常翔啓光学園中学K1クエスト」を実施	平成26年10月	高大連携事業の一環として常翔啓光学園の中学生を受け入れ化学実験を実施
⑨「2014年度第3回薬学部FDフォーラム」に参加	平成26年10月	2014年度の薬学部運営や共用試験、国家試験対策、実務実習、第3者評価などについて研修を受けた

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Asymmetric reductive aldol-type reaction with carbonyl compounds using dialkyl tartrate as a chiral ligand. 査読付き	共著	2014年	日本薬学会, Chem. Pharm. Bull., Vol. 62, No. 10, p. 956-961.
Csp3-Csp3 homocoupling reaction of benzyl halides catalyzed by rhodium. 筆頭論文，査読付き	共著	2014年	American Chemical Society, Org. Lett., Vol. 16, No. 14, p. 3756-3759.
Reductive aldol-type reaction of α, β-unsaturated esters with aldehydes or ketones in the presence of Rh catalyst and Et2Zn. 筆頭論文，査読付き	共著	2013年	Elsevier, Tetrahedron Lett., Vol. 54, No. 44, p. 5913-5915.
Discussion Addendum for: Trifluoromethylation at the α-position of α, β-unsaturated ketones: 4-Phenyl-3-Trifluoromethyl-2-Butanone. 筆頭論文，査読付き	共著	2012年	Organic Syntheses, Inc., Org. Synth., Vol. 89, p. 374-379.
Reductive Reformatsky-Honda reaction of α, β-unsuturated esters: Facile formation of 1,3-dicarbonyl compounds and β-hydroxy esters. 筆頭論文，査読付き	共著	2012年	Wiley, Adv. Synth. Catal., Vol. 354, No. 2-3, p. 510-514.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Rh 触媒還元的マンニッヒ反応を利用した新規 β-ラクタム環構築法の開発とエゼチミブ合成への応用（ポスター発表）○磯田紀之，佐藤和之，樽井 敦，表 雅章，安藤 章	2014年8月	第34回 有機合成若手セミナー 明日の有機化学を担う人のために
含フッ素イソキサゾールの合成と TRPV1 アンタゴニストの創成（ポスター発表）○秋山慧美，佐藤和之，樽井 敦，表 雅章，春沢信哉，安藤 章，Graham Sandford	2014年8月	第4回 フッ素化学若手の会
ロジウム触媒を用いた Csp3－Csp3 ホモカップリング反応の機構解明及び医薬品合成への応用（口頭発表）○阪上淳史，佐藤和之，樽井 敦，表 雅章，安藤 章	2014年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会
ロジウム触媒を用いたベンジルハライドの Csp3－Csp3 ホモカップリング反応（ポスター発表）○佐藤和之，阪上淳史，樽井 敦，表 雅章，安藤 章	2014年11月	第40回 反応と合成の進歩シンポジウム
Rh 触媒を用いた分子内還元的 aldol 反応の開発と monocrotalic acid 合成への応用（口頭発表）○磯田 紀之，佐藤 亮太，佐藤 和之，樽井 敦，表 雅章，安藤 章	2015年3月	日本薬学会 第135年会

III　学会および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬化学	職名　助教	氏名　樽井　敦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 研究室HPを利用した実習導入講義資料の公開	平成18～現在に至る	次週導入講義に利用するパワーポイントのファイルをHP上にアップし，講義のサポート資料に利用できるよう公開している。
2　作成した教科書、教材、参考書 基礎薬学実習Ⅰ実習テキストの作成	平成18～現在に至る	二年次生履修科目である基礎薬学実習で使用する実習テキストを作成した。学生が理解しやすいように付録記事を掲載し，実習に導入しやすいように作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①平成24年度第2回薬学部FDに参加	平成24年7月	薬学部教員が参加し，摂南大学の教育の現状に関して，ワールドカフェ方式のワークショップに参加。
②平成25年度第2回薬学部FDに参加	平成25年5月	薬学部教員が参加し，教育法に関する議題として薬剤師国家試験対策について議論した。
③平成25年度第5回薬学部FDに参加	平成25年12月	薬学部教員が参加し，教育法に関する議題としてレギュラトリーサイエンスについて議論・聴講した。
④OSCE委員会委員	平成21～現在に至る	OSCE委員会委員として，学内OSCE運営に寄与。平成22年度よりステーション責任者としてステーション運営を主に担う。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
含フッ素アミノ酸および関連化合物の合成を指向した有機フッ素化合物の新規合成法の開発（査読付）（博士号取得論文）	単著	2010年9月	摂南大学
Ni-catalyzed α-arylation of secondary α-bromo-α-fluoro-β-lactam: cross-coupling of a secondary fluorine-containing electrophile（査読付）（筆頭論文）	共著	2013年2月	Tetrahedron (vol. 69, issue 5)
Direct and diastereoselective alkylation and aldol reactions of α-bromo-α-fluoro-β-lactams（査読付）（筆頭論文）	共著	2013年8月	Journal of Organic Chemistry (vol. 78, issue 16)
Ligand-promoted asymmetric Imino-Reformatsky reaction of ethyl dibromofluoroacetate（査読付）（筆頭論文）	共著	2014年4月	Organic Letters (vol. 16, issue 8)

Enantioselective synthesis of α,α-difluoro-β-lactams using amino alcohol ligands	共著	2014年6月	Organic & Biomolecular Chemistry (vol. 12, issue 33)
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
The synthetic utility of α-bromo-α-fluoro-β-lactam as a monofluorination tool（ポスター発表）A. Tarui, A. Tanaka, K. Sato, M. Omote, A. Ando		2014年5月	International Conference on Fluorone Chemistry
含フッ素エゼチミブの全合成を目指した α-フルオロ-β-ラクタム環への側鎖導入反応の開発（ポスター発表）○田中亜由美，上尾正和，樽井 敦，佐藤和之，表 雅章，安藤 章		2014年8月	第4回 フッ素化学若手の会
多置換フルオロ-β-ラクタム類の立体選択的合成と含フッ素β-アミノ酸骨格への変換（口頭発表）○樽井 敦、佐藤和之、表 雅章、安藤 章		2014年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会
フッ素化β-アミノ酸単位導入ツールとしてのフルオロ-β-ラクタムの利用（ポスター発表）○上尾正和，樽井 敦，佐藤和之，表 雅章，安藤 章		2014年10月	第37回 フッ素化学討論会
ジフルオロ-β-ラクタムをビルディングブロックとして利用したフッ素化ペプチドの合成（口頭発表）○樽井 敦，上尾 正和，佐藤和之，表 雅章，安藤 章		2015年3月	日本薬学会 第135年会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成24年8月	第三回フッ素化学若手の会準備委員会に所属し，本会議の運営業務に参加。		
平成21年6月	第34回薬剤師のためのワークショップに参加。本会奨励賞受賞。		
平成26年1月	平成26年度日本薬学会近畿支部支部奨励賞受賞。		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　複合薬物解析学	職名　教授	氏名　　矢部　武士

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①講義プリントの配布、パワーポイントの利用	2012年4月～現在	講義科目として生薬学、漢方処方学を担当している。講義では教科書、パワーポイントを利用し、学生の理解の補助のために毎回まとめのプリントを配布している。
②実習における工夫	2012年4月～現在	実習科目としては　基礎薬学実習Ⅰを担当しており、実習開始時の講義では開始時に実習テキスト、パワーポイントを用いて実習の目的、操作のポイントなどを説明し、実習が円滑に行えるよう務めている。
③薬草園見学実習の実施	2012年4月～現在	教室での講義や本やスライドでの説明だけでなく、薬草園見学実習を実施し、薬として用いられる植物に直接触れる機会を学生に提供した。
④科学英語教育の実施	2012年4月～現在	応用薬学実習、特別研究Ⅰ，Ⅱで研究室に配属される学生には、英語力向上のため英語論文を読解させるよう努めている。また英語論文の輪読会を定期的に開催し語学力、プレゼンテーション能力の向上を期待している。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①薬学生のための漢方医薬学（第２版）	2012年4月	出版社：南江堂 著書全体の概要：漢方医学・漢方薬について薬学生が習得すべき項目に絞った構成になっている。 （共著者名：山田陽城、花輪壽彦ら１３名） 担当部分：　第３章漢方処方の薬理作用と作用機序
②講義プリントの作成	2012年４月～	学生の理解の補助のために生薬学、漢方処方学の要点をまとめたプリントを作成し配布した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
①2012年度薬学部FDワークショップに参加	2012年7月7日	教育方法の改善について議論した
②2013年度薬学部FDワークショップに参加	2013年7月13日	教育方法の改善について議論した
③教職員研修ワークショップに参加	2013年9月3，4日	教育方法について研修を受けた。
④2013年度薬学部FDワークショップに参加	2014年7月12日	教育方法の改善について議論した
⑤第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ	2014年11月22-24日	カリキュラム作成の手法を学んだ。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）The neuroprotective role of PEDF: implication for the therapy of neurological disorders.	共著	2010年4月	Curr Mol Med. 10(3):259-66. 2010
（論文）PEDF up-regulation induced by memantine, an NMDA receptor antagonist, is involved in increased proliferation of hippocampal progenitor cells.	共著	2010年5月	Neuroscience. 167 :372-83, 2010
（論文）Involvement of neuropeptide Y signaling in the antidepressant-like effect and hippocampal cell proliferation induced by kososan, a Kampo medicine, in the stress-induced depression-like model mice.	共著	2012年10月	Biol. Pharm. Bull. 35: 1775-83, 2012
（論文）Modulation of chemokine expression on intestinal epithelial cells by Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, Hochuekkito, and its active ingredients.	共著	2013年7月	J Nat Med. 67(3):626-35, 2013
（論文）Genipin attenuates lipopolysaccharide-induced persistent changes of emotional behaviors and neural activation in the hypothalamic paraventricular nucleus and the central amygdala nucleus.	共著	2014年10月	Eur J Pharmacol. 15;741:1-7. 2010
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
認知症改善作用を有する漢方処方～基礎研究から臨床応用へ一		2014年・6月	医療薬学フォーラム2014
認知症治療薬としての加味温胆湯の可能性について　(コリン作動系や神経新生を指標とした基礎的検討)		2014年・6月	第65回日本東洋医学会
長期隔離飼育マウスの異常行動発現における背側縫線核GABAB1aのエピジェネティックな発現制御の関与		2015年・3月	第88回日本薬理学会年会
幼若期隔離飼育による異常行動と背側縫線核GABAB受容体のエピジェネティック制御		2015年・3月	第88回日本薬理学会年会
キャリア形成教育：「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価		2015年・3月	日本薬学会第135年会
隔離飼育による異常行動と背側縫線核GABAB1aのエピジェネティックな発現制御の関連性		2015年・3月	日本薬学会第135年会
隔離飼育による5α-reductase type Iの減少におけるDNAメチル化の		2015年・3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
2007年4月～現在	和漢医薬学会評議員
2012年4月～現在	日本生薬学会評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　複合薬物解析学	職名講師	氏名　中谷　尊史
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 ①演習・小テストの導入		2009. 4 ～2013. 10	授業の開始時に小テストを行い、前回授業の復習をさせた。また、ある程度授業が進行した時点で演習を実施し、その解説を行い、学生を理解を促した。小テスト・演習は、形成的評価に用い、学習の手助けとなるよう配慮し、実施後は、学生に返却した。
②学生の授業アンケートの結果の反映		2009. 4 ～現在	授業担当２年目以降、学生の授業アンケートの結果を反映して、授業改善を行っている。 その結果、当初多かった板書に関する書き込みが、減少した。
③講義内容の検討		2009. 4 ～現在	有機化学の苦手な学生が多いことから、担当授業内容に、基礎的な反応機構などを積極的に盛り込んで、有機化学の復習および苦手意識の克服を心がけている。
④補講の実施		2010. 4 ～現在	定期試験終了後、再試験までの期間に試験問題の解説および質問に対応する補講を設けた。これにより再試験の合格率が向上した。
⑤演習・小テストの再検討		2012. 4 ～現在	学生の‘考える・調べる能力’の向上を目指し、授業で行う演習・小テストの実施方法を再検討した。実施後の解説を全部行うのでなく、最小限にとどめることにより、自ら考えて、質問に訪れる学生が増えた。
⑥スタートアップゼミへの演習および実験の導入		2013. 4 ～現在	１年生のスタートアップゼミに、濃度計算、分子軌道および化学結合に関する演習を導入した。また、「においの合成」など、簡単な化学実験を導入し、今後の学習および実習に対する意欲向上を目指した。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①基礎薬学実習Ⅰ　実習書の作成			実習再編に伴い、実習内容を再検討し、学生がより理解しやすいように実習書を作成した。これにより、学生の実験技能の習得が容易になった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ①2014年度第１～３回薬学部FDフォーラム参加		2014. 4. 4 2014. 9. 2 2014. 10. 29	薬学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した。
②キャリア形成Ⅰ担当		2014. 4 ～現在	キャリア形成科目を担当し、学生のキャリア向上のための講義・実習を実施した。

③アドバンストOSCEワーキンググループ（WG）担当	2014.4 ～現在	アドバンストOSCE WGメンバーの一員として、実務実習終了学生が具備すべき能力について取りまとた。その評価項目の設定と評価方法の構築を行い、アドバンストOSCEを企画・実施した。
④第３～４回ミツバチシンポジウム参加	2014.2.20 2015.2.20	兵庫県立大にて西日本のミツバチ研究者が集まって行われるシンポジウムに研究室の配属学生を引率して参加。第３回では依頼を受け、講演を行った。同行した学生たちは、他分野の研究内容に触れるとともに他学部（主に理学部）の学生達と交流を持つことにより、自らの卒業研究に対す意欲向上につながった。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）The AbsolutebConfigrations of Hydroxy Fatty Acids from Royal Jelly of Honeybees (Apis mellifera).	共著	2011.1	Lipids, 46, 263-270 (2011).

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
生薬「ナンンテンジツ」の成分研究（２）新規モノアシルグリセロールについて	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
ローヤルゼリーの成分研究 その６ 糖フラクションについて	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
ローヤルゼリーよりミツバチカストを維持する物質の探索	2015年3月	第59回日本応用動物昆虫学会大会

III　学会および社会における主な活動

	該当なし

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　複合薬物解析学	職名　助教	氏名　稲冨　由香
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①基礎薬学実習Ⅰにおける漢方実習と生薬鑑定試験の実施		平成20年4月～ 現在に至る	2年次学生（約240名）に対し、実務薬局実習でも漢方製剤実習が必須であることから、生薬の知識を深めるため、漢方薬を生薬から煎じて試飲などの体験をしたり、処方解析を行うと共に80種の生薬鑑定試験を行っている。漢方に興味をもつ学生も増え、卒後の漢方薬・生薬認定薬剤師の取得につながっている。
②特別研究に関連した学外活動の導入		平成20年4月～ 現在に至る	講座配属学生を対象に、薬学部附属薬用植物園の一般公開や枚方市健康福祉フェスティバル、交野市文化祭等の行事にサポートスタッフとして参加させた。薬用植物や生薬、漢方の知識の取得、コミュニケーション能力の向上に役立っている。
2　作成した教科書、教材、参考書 実習書：基礎薬学実習Ⅰb（生薬学） 基礎薬学実習Ⅰ（生薬学・天然物化学）		平成20年4月～ 現在に至る （毎年更新）	生薬学および薬用植物学に関する実習書を作成した。薬剤師国家試験に対応できるよう、局方の確認試験を中心に構成し、漢方薬の作成や処方解析なども取り入れた内容にしている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
①第5回薬学部ＦＤフォーラムに参加		2008/6/14	薬学部教員が参加し、より良い学部運営のために意見交換した。
②2008年度薬学部FDフォーラムに参加		2009/1/7	６年制薬学教育についての説明をうけた。
③第14回摂南大学FDフォーラムに参加		2009/3/18	1年次の教育について他大学の講演を聴講した。
④第15回摂南大学FDフォーラムに参加		2010/3/10	教養について、他大学のカリキュラムの講演を聴講した。
⑤2010年度第１回薬学部FDフォーラムに参加		2010/4/3	共用試験や国試対策等について研修を行った。
⑥2010年度第２回薬学部FDフォーラムに参加		2010/9/22	6年制の国試対策や実務実数訪問指導等について研修を行った。
⑦2011年度第１回薬学部FDフォーラムに参加		2011/4/4	共用試験や実務実習等について研修を行った。
⑧2012年度第１回薬学部FDフォーラムに参加		2012/4/4	早期体験学習、スタートアップゼミ等について研修を行った。
⑨2012年度第２回薬学部FDフォーラムに参加		2012/9/6	FDワークショップの結果やCBT等について研修を行った。
⑩2013年度第１回FDフォーラムに参加		2013/4/4	早期体験学習、スタートアップゼミや実務実習等について研修を行った。
⑪2013年度第２回FDフォーラムに参加		2013/5/13	6年制薬学部の教育体制について研修を行った。
⑫2013年度第３回FDフォーラムに参加		2013/9/5	卒業判定試験、共用試験や第三者評価等について研修を行った。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）種子島および日南産タカクマムラサキの生育環境と精油成分の比較	共著	2010.4	植物研究雑誌、85(2)、90-98
（論文）New phenylpropanoid glycosides from Juniperus communis var. depressa	共著	2010.5	日本薬学会 Chem. Pharm. Bull., 58(5), 742-746
（論文）ニクズク（ニクズク科）の生植物の日本への導入について	共著	2012.3	日本植物園協会 日本植物園協会誌、46、157-163
（論文）アメリカ大陸産植物を対象とした創薬シーズの探索	単著	2012.9	岐阜薬科大学
（論文）New glycosides of acetophenone derivatives and phenylpropanoids from Juniperus occidentalis	共著	2013.4	日本生薬学会 J. Nat. Med., 67, 359-368
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題）メキシコ産Juniperus comitanaの成分研究（2）		2014.9	日本生薬学会第61回年会
（演題）メキシコ産Juniperus comitanaの化学成分とNO産生抑制活性		2014.10	第64回日本薬学会 近畿支部総会・大会
III　学会および社会における主な活動			

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　複合薬物解析学	職名　助教	氏名　荒木 良太

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①視覚的資料や実習課題の活用	平成25年4月～ 現在に至る	薬学部２年生の基礎薬学実習1bにおいて、視覚的資料を用いた事前講義を行うことや実習時間中の課題を課すことで、学生の理解度の向上に努めた。
②学生が研究計画を立てる体制を構築	平成25年4月～ 現在に至る	応用薬学実習、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱにおいて、研究目標と実験方法を学生とともに設定し、学生自らが研究計画を立てる研究体制を構築した。
2　作成した教科書、教材、参考書 なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Genipin attenuates lipopolysaccharide-induced persistent changes of emotional behaviors and neural activation in the hypothalamic paraventricular nucleus and the central amygdala nucleus. （査読付）筆頭論文	共著	2014年10月	*Eur J Pharmacol*, 741: 1-7.
Involvement of prefrontal AMPA receptors in encounter stimulation-induced hyperactivity in isolation-reared mice. （査読付） 筆頭論文	共著	2014年1月	*Int J Neuropsychopharmacol*, 17: 883-893.
Role of social encounter-induced activation of prefrontal serotonergic system in the abnormal behavior of isolation-reared mice. （査読付） 博士号取得論文	共著	2013年6月	*Neuropsychopharmacology*, 38: 1535-1547.
Metabotropic glutamate 2/3 receptor antagonists improve behavioral and prefrontal dopaminergic alterations in the chronic corticosterone-induced depression model in mice. （査読付）	共著	2013年2月	*Neuropharmacology*, 65: 29-38.
The selective metabotropic glutamate 2/3 receptor agonist MGS0028 reverses isolation rearing-induced abnormal behaviors in mice. （査読付）	共著	2012年1月	*J Pharmacol Sci*, 118: 295-298.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
幼若期隔離飼育による異常行動と背側縫線核GABAB受容体のエピジェネティクス制御（シンポジウム）	2015年3月	第88回日本薬理学会年会
長期隔離飼育マウスのエンカウンター刺激による多動発現におけるAMPA受容体の関与	2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成20年4月～現在に至る	日本薬理学会会員
平成23年4月～現在に至る	日本神経化学会会員
平成23年4月～現在に至る	SOCIETY for NEUROSCIENCE Regular member
平成24年4月～現在に至る	日本薬学会会員
平成24年4月～現在に至る	日本神経科学学会会員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬品物性化学	職名　教授	氏名　橋本　直文

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 授業評価	2008年～	授業評価に対する改善対策を行う
2　作成した教科書、教材、参考書 Innovated 物理化学大義　京都廣川書店（教科書） 学部の実習用教材の作成（基盤実習）	2009年9月 2013年8月	左記の教科書の執筆を分担した
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 博士論文副査	2014年2月	

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Nano-Pulverization of Poorly Water Soluble Compounds with Low Melting Points by a Rotation/Revolution Pulverizer	共著	平成24年8月	Pharmazie, 67：681-686
(論文) Development of novel solid dispersion of tranilast using amphiphilic block copolymer for improved oral bioavailability.	共著	平成25年8月	Int J Pharm. 2013 Aug 16;452(1-2):220-6.
(論文) Biopharmaceutical characterization of nanocrystalline solid dispersion of coenzyme Q10 prepared with cold wet-milling system.	共著	平成26年3月	Eur J Pharm Sci. 2014 Mar 12;53:118-25.
(論文) Development of nanocrystal formulation of meloxicam with improved dissolution and pharmacokinetic behaviors	共著	平成26年10月	Int J Pharm. 2014 Oct 20;474(1-2):151-6.
(論文) Preparation and evaluation of high dispersion stable nanocrystal formulation of poorly water-soluble compounds by using povacoat.	共著	平成26年11月	J Pharm Sci.. 2014Nov;103(11):3772-81.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Povacoat を用いた難水溶性薬物の Nanocrystal 製剤設計	2014年 5月	日本薬剤学会第29年会
Preparation and evaluation of high dispersion stable nanocrystal formulation of poorly water soluble compounds by using Povacoat	2014年 8月	Challenges in Nanoscience ISACS15
Effect of polymer on dispersion stabiltiy of piroxicam nanoparticles	2014年 8月	Challenges in Nanoscience ISACS15
オキシカム系薬物のアモルファス固体分散体の安定性に関与する分子間相互作用の解析	2014年 10月	第 64 回 日本薬学会近畿支部総会・大会
アモルファス固体分散体化技術による Meloxicam の物性改善に関する研究	2014年 10月	第 64 回 日本薬学会近畿支部総会・大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
2007年4月～	日本薬剤学会評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬品物性化学	職名　助教	氏名　弓樹　佳曜

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		該当なし
2　作成した教科書、教材、参考書 ① 基盤実習実習書	平成23年4月～ 現在に至る	基盤実習の担当部分の実習書の編集を行っている。2012年度までは実習項目ごとに実習書が別であったが、2013年度に他の担当教員と協力し、一冊の実習書に取り纏めた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 2012年度薬学部FDワークショップへの参加	平成24年7月7日	学部教員が参加し、教育方法の改善について議論した
2013年度薬学部FDワークショップへの参加	平成25年7月13日	学部教員が参加し、教育や学生の現状について議論した。
2013年度のFDフォーラムに参加	平成25年10月18日 平成25年10月28日 平成25年11月18日	薬学教育モデル・コアカリキュラムや学生評価などの講演を聴講した。
国家試験合格サポートメンバー	平成24年4月から1年間	
薬剤師国家試験対策委員会委員	平成25年4月～ 現在に至る	

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Nano-Pulverization of Poorly Water Soluble Compounds with Low Melting Points by a Rotation/Revolution Pulverizer	共著	平成24年8月	Pharmazie, 67：681-686
(論文) Development of novel solid dispersion of tranilast using amphiphilic block copolymer for improved oral bioavailability.	共著	平成25年8月	Int J Pharm. 2013 Aug 16;452(1-2):220-6.
(論文) Biopharmaceutical characterization of nanocrystalline solid dispersion of coenzyme Q10 prepared with cold wet-milling system.	共著	平成26年3月	Eur J Pharm Sci. 2014 Mar 12;53:118-25.
(論文) Development of nanocrystal formulation of meloxicam with improved dissolution and pharmacokinetic behaviors	共著	平成26年10月	Int J Pharm. 2014 Oct 20;474(1-2):151-6.
(論文) Preparation and evaluation of high dispersion stable nanocrystal formulation of poorly water-soluble compounds by using povacoat.	共著	平成26年11月	J Pharm Sci.. 2014Nov;103(11):3772-81.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Povacoat を用いた難水溶性薬物の Nanocrystal 製剤設計	2014年 5月	日本薬剤学会第29年会
Preparation and evaluation of high dispersion stable nanocrystal formulation of poorly water soluble compounds by using Povacoat	2014年 8月	Challenges in Nanoscience ISACS15
Effect of polymer on dispersion stabiltiy of piroxicam nanoparticles	2014年 8月	Challenges in Nanoscience ISACS15
Piroxicam ナノクリスタル製剤の結晶成長に及ぼす水溶性高分子の影響	2014年 10月	第 64 回 日本薬学会近畿支部総会・大会
経口吸収性改善を目指したメベンダゾールのナノ粒子製剤の設計	2014年 10月	第 64 回 日本薬学会近畿支部総会・大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
該当なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物送達学	職名　教授	氏名　　佐久間　信至
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 医薬品製剤の製造方法や品質評価法の動画や製剤実物の利用		平成19年4月～現在	講義を担当する製剤学では、医薬品製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得することを目標としている。しかし、教科書のみを用いた講義では、製剤の製造方法や品質評価法をイメージできず、試験対策として記憶するだけで知識が根付かない。製薬企業に15年間勤務し、主に製剤研究部門で研究していた経験等を活かして、医薬品製剤の製造・品質評価を業とする製薬企業の協力下、同社の会社紹介ビデオを講義で活用している。また、健常人が目にする機会のない医療上重要な製剤を学生時代に実際に触れることも重要である。製薬企業の協力下、製剤サンプルを用いた講義も行っている。学生から「イメージが沸いて興味を持てるようになった」との声もあり、こちらの意図が伝わっていると思われる。
2　作成した教科書、教材、参考書 図解製剤学第1版（杉林堅次編）		平成25年4月1日	出版社：南山堂 教科書全体の概要：第16改正日本薬局方に適合した製剤学に関する詳細の解説（図表を多用） （教科書の頁数：277頁） （共著者名：杉林堅次、金澤秀子、板井茂、佐久間信至、山内仁史、中田雄一郎、石井文由、関川彬、内田昌希、夏目秀視、森本雍憲） 担当部分の概要：注射により投与する製剤及び透析に用いる製剤、並びに製剤に用いる添加剤に関する詳細の解説 （担当部分の掲載頁：pp. 84-99及びpp. 138-145、単著）
最新薬剤学第10版（林正弘，尾関哲也，乾賢一編）		平成24年4月1日	出版社：廣川書店 教科書全体の概要：薬剤学に関する詳細の解説、製剤学分野は第16改正日本薬局方適合 （教科書の頁数：605頁） （共著者名：旭満里子、新槇幸彦、粟津荘司、石塚良子、市川秀喜、乾賢一、岩本喜久生、大塚誠、岡田弘晃、岡本浩一、尾関哲也、片山博和、神谷晃、川島嘉明、木津純子、佐久間信至、高島由季、高野幹久、竹内洋文、富田幹雄、長田俊治、野田康弘、橋本征也、林正弘、日野知証、深津祥央、深水啓朗、堀江利治、前澤佳代子、望月真弓、森部久仁一、矢野育子、山崎浩史、山下伸二、山本浩充、湯淺宏、渡邉淳） 担当部分の概要：注射により投与する製剤、透析に用いる製剤および目に投与する製剤に関する詳細の解説 （担当部分の掲載頁：pp. 303-330、単著）

図解で学ぶDDS（橋田充監修，高倉喜信編集）	平成22年8月15日	出版社：じほう 教科書全体の概要：図表を多用したDDSの詳細の解説 （教科書の頁数：158頁） （共著者名：岡本浩一、栄田敏之、佐久間信至、高倉喜信、西川元也、橋田充、丸山一雄、山下富義、山本昌、横山昌幸） 担当部分の概要：DDSの目的と技術－コントロールドリリース－（pp. 34-40）、経口投与とその改善－製剤技術による薬物吸収改善－（pp. 64-71）、経口投与とその改善－経口投与型DDS製剤－（pp. 72-78）の3パートにおいて、放出制御型製剤、吸収改善、溶解改善などの経口DDSに関する詳細の解説 （担当部分の掲載頁：pp. 34-40及びpp. 64-78、単著）
最新薬剤学第9版（林正弘，川島嘉明，乾賢一編）	平成18年9月25日	出版社：廣川書店 教科書全体の概要：薬剤学に関する詳細の解説 （教科書の頁数：572頁） （共著者名：旭満里子、新槇幸彦、粟津荘司、乾賢一、岩本喜久生、内田享弘、大塚誠、岡田弘晃、尾関哲也、片山博和、神谷晃、川島嘉明、佐久間信至、平良全栄、高野幹久、竹内洋文、土屋晴嗣、長田俊治、野田康弘、橋本征也、林正弘、日野知証、平野和行、福森義信、堀江利治、前澤佳代子、望月真弓、矢野育子、山本浩充、湯淺宏、四ツ柳智久、渡邉淳） 担当部分の概要：無菌製剤（注射剤、点眼剤及び眼軟膏剤）に関する詳細の解説 （担当部分の掲載頁：pp. 313-338、単著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第132年会にて（札幌）、「薬剤師の生涯教育に対する摂南大学薬学部の取り組み」をポスター発表	平成24年3月29日	摂南大学薬学部公開講座の5年間の実績等を学会で発表した（共著）。
4　その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育モデル・コアカリキュラム	平成24年6月～平成26年3月	日本薬学会　薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員（医療薬学分野）として、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に携わった。特に、「E5 製剤化のサイエンス」に関して、中心となって改訂作業を行った。
京都大学大学院薬学研究科にて、「薬物治療の最適化を目指すコントロールドリリース」を講義	平成26年11月19日	大学院講義を担当した。
金沢大学薬学類・創薬科学類にて、「製剤学」を特別講義（3年生必修科目）	平成23年12月22日	学部講義を担当した。
大阪薬科大学大学院薬学研究科にて、「経口投与医薬品に関わる創剤（DDS）や創薬」を講義	平成21年4月20日	大学院講義を担当した。
第2回摂南大学最先端研究フォーラムにて、「大腸がんの早期発見―大腸内視鏡検査に用いる世界初の診断薬の開発を目指して―」を講義	平成25年7月6日	大学が一般公開する講座での講義を担当した。
摂南大学薬学部公開講座	平成19年9月～平成24年11月	公開講座の実行委員長として、2007年に公開講座の立ち上げに尽力するとともに、2012年度までの6年間、プログラム作成から運営まで務めた。
日本薬剤学会 英語セミナー	平成18年4月～平成20年3月	日本薬剤学会 英語セミナー 西地区委員長として、セミナーのプログラム作成から運営まで務めた。
摂南大学大学院薬学研究科での博士論文指導・審査	平成17年4月～現在に至る	課程博士の指導・審査、論文博士の審査

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Lectin-immobilized fluorescent nanospheres for targeting to colorectal cancer from a physicochemical perspective（査読付） 「筆頭論文」「責任著者」	共著	2011年12月	Bentham Science Publishers、Curr. Drug Discov. Technol. Vol. 8 Issue 4 Page 367-378
（論文）Cell-penetrating peptide-linked polymers as carriers for mucosal vaccine delivery（査読付） 「筆頭論文」「責任著者」	共著	2012年10月	American Chemical Society、Mol. Pharmaceutics Vol. 9 Issue 10 Page 2933-2941
（論文）Multifunctional nanobeacon for imaging Thomsen-Friedenreich antigen-associated colorectal cancer（査読付） 「責任著者」	共著	2013年5月	Wiley、Int. J. Cancer Vol. 132 Issue 9 Page 2107-2117
（著書）IV. 16. 3. 5 ドラッグデリバリーシステム製剤技術	単著	2014年1月	丸善出版、化学便覧 応用化学編 第7版（日本化学会編）、Page 1037-1040
（論文）Fluorescence-based endoscopic imaging of Thomsen-Friedenreich antigen to improve early detection of colorectal cancer（査読付） 「筆頭論文」「責任著者」	共著	2015年3月	Wiley、Int. J. Cancer Vol. 136 Issue 5 Page 1095-1103
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Early detection of colonic neoplasia using fluorescence microendoscopy		2014年4月	American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2014
（演題名）薬物/吸収促進剤-包含型腸溶性微粒子を用いた経口吸収改善		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）細胞膜透過促進キャリアとしてのオリゴアルギニン固定化高分子の有用性評価		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）小動物用実験系を用いた大腸内視鏡検査用造影剤「レクチン固定化蛍光ナノスフェア」の効能評価		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）粘膜投与型ワクチンの抗原キャリアとしてのオリゴアルギニン固定化高分子の化学構造の最適化		2015年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
平成20年6月～	日本薬剤学会 評議員
平成23年5月～	日本薬学会 近畿支部委員
平成24年6月～平成26年3月	日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員
平成24年7月～	日本DDS学会 評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物送達学	職名　助教	氏名　毛利　浩太
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
早期体験学習		2014年4月	1回生を対象としたSmall Group Discussion（SGD）-1のチューターを務めた。
2014年度基盤実習		2014年9月-10月	1回生を対象とした2014年度基盤実習において、「薬を取り扱う上での基本的事項」、「制酸力試験」、「注射剤のpH変動試験および配合変化」に関する講義・指導を行った。
プレファーマシー実習		2014年11月-12月	4回生を対象としたプレファーマシー実習において、「病棟での初回面談」に関する指導を行った。また、実習試験の採点も行った。
応用薬学実習／特別研究Ⅰ・Ⅱ		2014年4月-現在	薬物送達学研究室に配属された4-6回生を対象に、英語論文セミナー、データセミナー、研究報告会を含む、研究遂行に関する指導を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書			
特筆事項なし			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特筆事項なし			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項			
2014年度薬剤師国家試験対策委員会委員		2014年4月-現在	薬剤師国家試験対策について討論した。また、薬物送達学研究室に配属された6回生を対象に、薬剤師国家試験対策に関する指導を行った。
2014年度OSCE委員会委員		2014年4月-現在	2014年度OSCEに関する準備・運営を行った。
2014年度動物飼育室運営委員会委員		2014年4月-現在	動物飼育室の運営について討論した。
2014年度有害化学物質取扱安全管理委員会委員		2014年4月-現在	廃棄試薬・廃液などの分類について、薬物送達学研究室の配属学生に指導した。
2014年度図書館運営委員会委員		2014年4月-現在	図書資料・製本雑誌などの購入・廃棄について検討した。
2014年度薬学部FDワークショップ		2014年4月-現在	薬学教育の現状・改善点に関する講演聴講・議論を行った。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Efficient delivery of immunostimulatory DNA to mouse and human immune cells through the construction of polypod-like structured DNA	共著	2014年5月	Nanomedicine, 10(4), 765-74.
Injectable, self-gelling, biodegradable, and immunomodulatory DNA hydrogel for antigen delivery	共著	2014年4月	Journal of Controlled Release, 180, 25-32.
DNA nanotechnology-based development of delivery systems for bioactive compounds	共著	2014年7月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 58, 26-33.
Toxicity studies of coumarin 6-encapsulated polystyrene nanospheres conjugated with peanut agglutinin and poly(N-vinylacetamide) as a colonoscopic imaging agent in rats	共著	印刷中	Nanomedicine, in press.
Cross-reactivity of immunoglobulin A secreted on the nasal mucosa in mice nasally inoculated with inactivated H1N1 influenza A viruses in the presence of D-octaarginine-linked polymers	共著	印刷中	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, in press.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
日本薬剤学会英語セミナー		2015年3月13日	日本薬剤学会
III　学会および社会における主な活動			
日本薬剤学会	学会会員		
日本薬学会	学会会員		
日本DDS学会	学会会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　臨床分析化学	職名　教授	氏名　秋澤　俊史

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 自宅学習の促進　（授業評価等を含む）	平成24年～	宿題を課し、翌週提出するようにした。
2　作成した教科書、教材、参考書 薬剤師に必要な臨床機器分析	平成22年8月	出版社：廣川書店 臨床現場で使用されている診断機器について 執筆･編集
分析化学I	平成22年8月	出版社：朝倉書店 6年制コアカリ対応の教科書の作成 編集
分析化学II	平成20年9月	出版社：朝倉書店 6年制コアカリ対応の教科書の執筆･編集 執筆･編集
薬学分析科学の最前線	平成21年8月	出版社：じほう 薬学部分析科学の研究について
試料分析講座２巻、タンパク質	平成24年9月	出版社：丸善 タンパク質の分析（エドマン分解）について 執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 物理系薬学の教育･研究を展望するシンポジウム 分析化学教科担当教員会議 臨床化学教科担当教員会議 物理系薬学の教育･研究を展望するシンポジウム		摂南大学薬学部における分析化学教育について報告 物理系薬学教育委員会の活動について報告 分析化学と臨床検査技師資格の関連について報告 新コアカリ（物理系薬学教育委員会案）の報告
4　その他教育活動上特記すべき事項 博士論文の主査　（FDを含む） 博士論文の副査 博士論文の副査 薬学部及び全学のFD活動に参加	平成23年3月	

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Metal-Binding Ability of Human Prion Protein Fragment Peptides Analyzed by Column Switch HPLC.	共著	平成23年8月	日本薬学会、Chem. Pharm. Bull.（59巻、8号）
Prion Fragment Peptides Are Digested with Membrane Type Matrix Metalloproteinases and Acquire Enzyme Resistance through Cu+-Binding	共著	平成26年4月	MDPI, biomolecules 2014（4巻、2号）
DIGESTION OF α-SYNUCLEIN FRAGMENT PEPTIDES WITH MATRIX METALLOPROTEINASES AND INHIBITORT EFFECT OF COPPER ION	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014
INTERMOLECULAR INTERACTION OF HUMAN PRION PROTEIN FRAGMENT PEPTIDES	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014
EVALUATION OF A SPECIFIC PEPTIDE SUBSTRATE FOR MEMBRANE-TYPE 1 MATRIX METALLOPROTEINASE	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
NZF-FペプチドのLys63型ポリユビキチン鎖との結合に対する亜鉛の役割	平成27年3月	日本薬学会第135年会
NZF-FペプチドのLys63型ポリユビキチン鎖に対する結合特異性の確認	平成27年3月	日本薬学会第135年会
hPrP由来フラグメントペプチドhPrP150-159に対する結合部位の検索	平成27年3月	日本薬学会第135年会
NZF-FペプチドのLys63型ポリユビキチン鎖に特異的なアフィニティーカラムの調整	平成27年3月	日本薬学会第135年会
β-アミロイド由来フラグメントペプチドの銅イオンによる２次構造の変化と酵素耐性の獲得	平成27年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成15年4月～	関西学生ソフトボール連盟理事
平成22年4月～平成24年3月	全日本学生ソフトボール連盟評議員
平成24年4月～平成26年3月	全日本学生ソフトボール連盟理事
平成26年4月～	全日本学生ソフトボール連盟監査
平成22年4月～	バイオメディカル分析化学シンポジウム世話人
平成22年4月～	関西ペプチドセミナー世話人
平成23年4月～平成25年3月	物理系薬学教育委員会委員長
平成23年4月～平成24年3月	物理系薬学境域委員会委員
平25年4月～	臨床化学学会関西支部評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　臨床分析化学	職名准教授	氏名　小西　元美
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 1年次生の基礎化学演習においてチーム基盤型学習（TBL）の導入		平成24年4月 ～ 現在に至る	個人で学習した後、個人テストし、同じ問題を5、6人のグループで正解するまで回答する、安原准教授が導入したチーム基盤型学習（TBL）を供担した。学生からは、「自発的な学習習慣が付いた」「授業も積極的に参加するようになった」との声が寄せられた。
2　作成した教科書、教材、参考書 薬剤師に必要な臨床機器分析		平成22年8月	出版社：廣川書店 医療現場で使用されている臨床分析機器に関する知識および診断法，さらに、血圧計，血糖値検査など家庭で用いられている医療機具の原理とデータ解析についてわかりやすく解説した(総ページ200頁）（共著者名：秋澤俊史、川原正博、小谷明、小西元美、谷本剛、袴田秀樹、道田隆）担当部分：第5章 MS　(担当部分の掲載頁：p61～p78)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会で「自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム」について発表		平成23年3月 平成24年3月 平成25年3月 平成26年3月	キャリア形成科目の中の「自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム」において、体験学習がその後の講義や進路決定に与える影響を、年次を追って多角度からアンケート調査した結果を報告。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 薬学部FDワークショップに参加		平成24年7月 平成25年7月 平成26年7月	薬学部教員が参加し教育方法の改善について議論した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Metal-Binding Ability of Human Prion Protein Fragment Peptides Analyzed by Column Switch HPLC.	共著	平成23年8月	日本薬学会、Chem. Pharm. Bull.（59巻、8号）
Prion Fragment Peptides Are Digested with Membrane Type Matrix Metalloproteinases and Acquire Enzyme Resistance through Cu+-Binding	共著	平成26年4月	MDPI, biomolecules 2014（4巻、2号）
DIGESTION OF α-SYNUCLEIN FRAGMENT PEPTIDES WITH MATRIX METALLOPROTEINASES AND INHIBITORT EFFECT OF COPPER ION	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014
INTERMOLECULAR INTERACTION OF HUMAN PRION PROTEIN FRAGMENT PEPTIDES	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014
EVALUATION OF A SPECIFIC PEPTIDE SUBSTRATE FOR MEMBRANE-TYPE 1 MATRIX METALLOPROTEINASE	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、Peptide Science 2014
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
hPrP由来フラグメントペプチドhPrP150-159に対する結合部位の検索		平成27年3月	日本薬学会第135年会
NZF-FペプチドのLys63型ポリユビキチン鎖に特異的なアフィニティーカラムの調整		平成27年3月	日本薬学会第135年会
β-アミロイド由来フラグメントペプチドの銅イオンによる２次構造の変化と酵素耐性の獲得		平成27年3月	日本薬学会第135年会
コフキサルノコシカケ中のマトリックスメタロプロテアーゼ阻害活性物質の検索		平成27年3月	日本薬学会第135年会
コフキサルノコシカケ熱水抽出物中の抗腫瘍活性について		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　臨床分析化学	職名　助教	氏名　谷口　将済

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 卒業研究指導および基礎薬学実習における指導	平成25年4月 ～ 現在に至る	研究室に所属する学部4･5･6年次生の卒業研究に関する指導を行い、日本薬学会第134年会（熊本）において4･5年次生、計12名が発表するに至った。また、基礎薬学実習Ⅱにおいて、学部2年次生の指導を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		該当なし

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
論文"Essential role of the zinc transporter ZIP9/SLC39A9 in regulating the activations of Akt and Erk in B-cell receptor signaling pathway in DT40 cells"査読有	共著	平成25年1月	PLOS ONE, vol. 8; 3 e58022.
著書「毒性の科学―分子・細胞から人間集団まで」	共著	平成26年2月	東京大学出版会
論文"EVALUATION OF A SPECIFIC PEPTIDE SUBSTRATE FOR MEMBRANE-TYPE 1 MATRIX METALLOPROTEINASE"査読有	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、 Peptide Science 2014
論文"INTERMOLECULAR INTERACTION OF HUMAN PRION PROTEIN FRAGMENT PEPTIDES"査読有	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、 Peptide Science 2014
論文"DIGESTION OF α-SYNUCLEIN FRAGMENT PEPTIDES WITH MATRIX METALLOPROTEINASES AND INHIBITORT EFFECT OF COPPER ION"査読有	共著	平成27年3月 in press	日本ペプチド学会、 Peptide Science 2014
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
膜結合型マトリックスメタロプロテアーゼ-1特異的蛍光基質の合成と評価		平成26年8月	第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム
Evaluation of a specific peptide substrate for membrane-type 1 matrix metalloproteinase		平成26年10月	第51回ペプチド討論会
亜鉛トランスポーターZIP9によるB細胞受容体シグナルの制御		平成26年11月	第4回メタロミクス研究フォーラム
β-アミロイド由来フラグメントペプチドの銅イオンによる二次構造の変化と酵素耐性の獲得		平成27年3月	日本薬学会第135年会
TNF-α のフラグメントペプチド由来 ADAM28 特異的消光性蛍光基質の開発		平成27年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　生化学	職名　教授	氏名　大塚　正人
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） シャトルカードを利用した学生とのコミュニケーショ		平成12年４月～現在に至る	講義の際に毎回、シャトルカードを配り、学生の質問に対応した。また、講義のやり方についてなど、何でも学生からの声を吸い上げて、講義に反映した。学生一人一人にコメントを返し、学習意欲向上に努めた。
2　作成した教科書、教材、参考書 該当なし			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項			
①平成24年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成24年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
②平成24年度第１回薬学部FDワークショップに参加		平成24年7月7日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
③平成24年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成24年9月6日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
④平成24年度摂南大学第18回FDフォーラムに参加		平成25年3月18日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑤平成25年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成25年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑥平成25年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成25年5月13日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑦薬学部FDワークショップに参加		平成25年9月5日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑧平成25年度薬学部第３回FDフォーラムに参加		平成25年9月5日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑨平成24年度摂南大学第19回FDフォーラムに参加		平成25年9月27日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑩平成25年度薬学部第４回FDフォーラムに参加		平成25年10月28日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑪平成25年度薬学部第５回FDフォーラムに参加		平成25年10月28日	薬学教育モデル・コアカリキュラム」について日下部吉男先生（文部科学省高等教育局医学教育課）
⑫平成25年度薬学部第６回FDフォーラムに参加		平成25年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方講演者：倉本先生
⑬平成25年度薬学部第７回FDフォーラムに参加		平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について講演者：松下佳代先生（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
⑭平成25年度薬学部第８回FDフォーラムに参加		平成25年12月6日	レギュラトリーサイエンスについて丈達泰史先生（独立行政法人　医薬品医療機器総合機構　レギュラトリーサイエンス推進部　部長）
⑮平成26年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成26年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑯平成26年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成26年9月2日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した

⑰平成26年度薬学部第３回FDフォーラムに参加	平成26年10月29日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑱平成26年度全学ＦＤフォーラムに参加	平成26年11月14日	「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」＜講師＞中村征樹（大阪大学 全学教育推進機構 准教授）

II　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Synthesis of BMS-309403-related compounds, including [14C]BMS-309403, a radioligand for adipocyte fatty acid binding protein.	共著	2012.5	*Chem Pharm Bull*
Antitumor activity of a novel small molecule STAT3 inhibitor against a human lymphoma cell line with high STAT3 activation	共著	2011.6	*Int. J. Oncol.*
Characterization of the human MATE2 proton-coupled polyspecific organic cation exporter.	共著	2011.6	*Int J Biochem Cell Biol.*
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
MATE及びMATE関連分子の各組織におけるmRNA発現の網羅的解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
MATE1の骨格筋・心筋における生理的機能の解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
MATE型輸送体のホルモン分泌臓器における機能の解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
ラットの心筋・骨格筋におけるMATE1の機能とトランスポートソーム		2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
MATE型輸送体のホルモン分泌臓器における機能の解析		2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会

III　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　生化学研究室	職名　講師	氏名　竹内　健治
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 ①教科書より少し詳しいプリントの作製による理解の促進		2008年9月～2013年3月	生化学Ⅰでは、授業内容が理解しやすいように解説などを載せたプリントを作成し授業で活用した。また学生が自分で勉強しやすいように薬剤師国家試験や共用試験模試、生化学Ⅰの過去問題などから成績には反映させない小テストや、提出を求めない宿題を出し授業内容が理解しやすくなるように工夫した。
②中間テストの利用による理解の促進		2008年4月～2011年8月	薬学英語Ⅰでは、PubMed（医学系データベース）の使用方法や、授業内容が理解しやすいように解説などを載せた配布テキストの作成および、ほぼ毎時間ごとの小テスト、一度の中間テストを行い授業内容が理解しやすいように工夫した。
③パワーポイントを用いた視覚的理解の促進		2012年9月～現在に至る	代謝栄養学では、授業内容が理解しやすいように全ての授業のパワーポイントファイルを作成し、授業で活用した。また、授業中に重要な語句を穴埋めできるようなプリントを作成し、授業について来やすいように工夫した。さらに、授業の最後には穴埋めの小テストをし、学生の理解度を確かめた。
④演習と、じっくり考える家庭学習		2013年9月～現在に至る	基盤演習Ⅴでは、薬剤師国家試験の過去問題やその模試、共用試験模試の担当範囲を抽出しそれを、授業の初めと中ほどに学生に解かせ、それらの問題と関連する部分の解説を丁寧に行った。また、家庭学習では、すぐに答えが出ず、教科書や参考書で調べなくては答えが導き出せない課題を与え暗記だけでなく考える力も養った。
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①第９回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（近畿大学）		2007年8月４、５日	約100名の病院薬剤師、薬局薬剤師、大学職員が集まった。まず、薬学教育の問題点をＫＪ法のより抽出した。次に、学習目標、学習法略、教育評価法を作成し、最後に問題点への対応を議論した。
②第４回教職員研修ワークショップ		2012年9月４、５日	摂南大学、大阪工大より、約50名の教職員が集まった。まず、講義の問題点をＫＪ法のより抽出した。次に、学習目標、学習法略、教育評価法を作成し、最後に問題点への対応を議論した。
③第１８回　摂南大学　ＦＤフォーラム		2013年3月18日	「アクティブ・ラーニングの現状と摂南大学の取組み－学習支援ツールの効果的な利用－」についての講演を聴講した。
④第１回薬学部ＦＤフォーラム		2013年4月4日	ＣＢＴ対策、実務実習の進め方について説明があった。教務事項について説明を聞いた。
⑤第２回薬学部ＦＤフォーラム		2013年5月13日	薬剤師国家試験合格率アップに向けた教育体制について、学部全教員が参加し議論した。

⑥第２回ＦＤワークショップ	2013年7月13日	「学生に興味を持たせ、自らが学習する習慣を身につけさせるために教員がすべきこと」をテーマにワールドカフェ方式で討論し、発表した。
⑦第３回薬学部ＦＤフォーラム	2013年9月5日	卒業判定試験、国家試験対策、共用試験対策について説明があった。また、薬学部ＦＤワークショップの結果及びその考察についての報告があった。
⑧第１９回　摂南大学　ＦＤフォーラム	2013年9月27日	「効果的なアクティブ・ラーニングのコツ」についての講演を聴講した。
⑨第４回薬学部ＦＤフォーラム	2013年10月28日	改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」についての講演を聴講した。
⑩第５回薬学部ＦＤフォーラム	2013年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方についての講演を聴講した。
⑪第６回薬学部ＦＤフォーラム	2013年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）についての講演を聴講した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
①Anti-growth activity of tanshinone IIA towards gefitinib-sensitive and -resistant non-small cell lung cancer cells「筆頭論文」「（査読付）」	共著	2014年11月	International Journal of Plant Biology & Research, 2 (3)
②Ent-Kaurane Diterpenoids from Croton Tonkinensis Induce Apoptosis in Colorectal Cancer Cells through the Phosphorylation of JNK Mediated by Reactive Oxygen Species and Dual-Specificity JNK Kinase MKK4.「（査読付）」	共著	2014年1月	Anti-cancer agents in medicinal chemistry, 14(7), 1051-1061
③JNK-Mediated FOXO Expression Plays a Critical Role in EGFR Tyrosine Kinase Inhibitor-Induced BIM Expression and Apoptosis「筆頭論文」「（査読付）」	共著	2012年9月	Journal of Cancer Therapy, 3, 424-434
④Receptor tyrosine kinases and targeted cancer therapeutics.「筆頭論文」「（査読付）」	共著	2011年12月	Biological & pharmaceutical bulletin, 34(12), 2017-2023
⑤EGF receptor in relation to tumor development: molecular basis of responsiveness of cancer cells to EGFR-targeting tyrosine kinase inhibitors.「筆頭論文」「（査読付）」	共著	2010年1月	The FEBS journal, 277(2), 316-26

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
①MEK阻害剤併用による上皮増殖因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤に対する耐性の克服	2014年10月	第87回日本生化学会大会
②EGFRチロシンキナーゼ阻害剤耐性機構におけるMKP-1の役割	2014年3月	日本薬学会第134年会
③c-Metチロシンキナーゼ阻害剤によるアポトーシス誘導機構	2013年9月	第86回日本生化学会大会
④上皮増殖因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤耐性機構における転写因子FOXO1の役割	2013年3月	日本薬学会第133年会
⑤JNKを介するFOXOの発現誘導はBIMの発現やアポトーシスに重要な役割を果たす	2012年3月	第85回日本生化学会大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
該当なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　生化学研究室	職名　助教	氏名　合田光寛
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成23年4月～現在	2年次生が行う基礎薬学実習を担当した際、実験結果の確認時に、その日の実習内容に対応した問題を、口頭質問形式で解答させ、実習内容の定着を促した。
		平成23年4月～現在	研究室に配属された学生に対して、問題解決能力の育成のため、個別に研究テーマを与え、自分自身で積極的に問題に取り組めるような環境を与え、定期的に研究進捗状況等の発表機会を設けた。
2　作成した教科書、教材、参考書		平成23年4月～現在	実習講義の際に使用するパワーポイントファイルを作成した。ムービーやその他参考になる図などを教科書以外より多数引用した。また、パワーポイントを用いた講義ではその図をそのままプリントして配布するのではなく、重要なところを穴埋めにし、要点をまとめた物を用意した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4　その他教育活動上特記すべき事項			
①平成24年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成24年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
②平成24年度第１回薬学部FDワークショップに参加		平成24年7月7日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
③平成24年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成24年9月6日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
④平成24年度摂南大学第18回FDフォーラムに参加		平成25年3月18日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑤平成25年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成25年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑥平成25年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成25年5月13日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑦薬学部FDワークショップに参加		平成25年9月5日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑧平成25年度薬学部第３回FDフォーラムに参加		平成25年9月5日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑨平成24年度摂南大学第19回FDフォーラムに参加		平成25年9月27日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑩平成25年度薬学部第４回FDフォーラムに参加		平成25年10月28日	大学全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑪平成25年度薬学部第５回FDフォーラムに参加		平成25年10月28日	薬学教育モデル・コアカリキュラム」について日下部吉男先生（文部科学省高等教育局医学教育課）
⑫平成25年度薬学部第６回FDフォーラムに参加		平成25年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方講演者：倉本先生
⑬平成25年度薬学部第７回FDフォーラムに参加		平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について講演者：松下佳代先生（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
⑭平成25年度薬学部第８回FDフォーラムに参加		平成25年12月6日	レギュラトリーサイエンスについて丈達泰史先生（独立行政法人　医薬品医療機器総合機構　レギュラトリーサイエンス推進部　部長）
⑮平成26年度薬学部第１回FDフォーラムに参加		平成26年4月4日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑯平成26年度薬学部第２回FDフォーラムに参加		平成26年9月2日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した
⑰平成26年度薬学部第３回FDフォーラムに参加		平成26年10月29日	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した

⑱平成26年度全学ＦＤフォーラムに参加	平成26年11月14日	「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」＜講師＞中村征樹（大阪大学 全学教育推進機構 准教授）	
Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
Nerve growth factor suppresses prostate tumor growth.	共著	2010年5月	J Pharmacol Sci. 2010;112(4):463-6.
Altered function of nitrergic nerves inhibiting sympathetic neurotransmission in mesenteric vascular beds of renovascular hypertensive rats.	共著	2010年8月	Hypertens Res. 2010 May;33(5):485-91.
Neurogenic vascular responses in male mouse mesenteric vascular beds.	共著	2012年6月	J Pharmacol Sci. 2012;119(3):260-70.
Do cholinergic nerves innervating rat mesenteric arteries regulate vascular tone?	共著	2012年12月	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2012 Dec;303(11):R1147-56.
Protons modulate perivascular axo-axonal neurotransmission in the rat mesenteric artery.	共著	2014年12月	Br J Pharmacol. 2014 Dec;171(24):5743-56.
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
MATE及びMATE関連分子の各組織におけるmRNA発現の網羅的解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
MATE1の骨格筋・心筋における生理的機能の解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
MATE型輸送体のホルモン分泌臓器における機能の解析		2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
ラットの心筋・骨格筋におけるMATE1の機能とトランスポートソーム		2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
MATE型輸送体のホルモン分泌臓器における機能の解析		2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
平成25年4月～	薬理系薬学部会　若手世話人		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名　微生物学	職名　教授	氏名　伊藤　潔

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 ・自己学習習慣を身につけてもらうための機会、教材を提供する授業（九州保健福祉大学薬学部） ・講義内容のweb上での公開（摂南大学薬学部）	2012年4月～2014年3月 2014年4月～現在に至る	スライドと板書を組み合わせた形の授業で、小テストや基礎項目のレポート提出を要求して重要項目を習得させることに努めた。必要に応じ、種々の分析装置の実物を提示して内容の理解を印象づけた。 上記に加え、ほぼ全てのスライド資料と演習問題解答例等をweb上で公開した。
2　作成した教科書、教材、参考書 該当なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 全国大学IT活用教育方法研究発表会奨励賞（長崎大学薬学部）	2008年9月6日	全国IT 活用教育方法研究発表会 西田孝洋、和田光弘、伊藤潔、丸田英徳、鈴木斉、黒川不二雄（発表は代表者の西田が行った） 薬物動態および統計解析の理解向上へ向けた系統的な情報処理教育の試み（平成22年度より名称がICT利用による教育改善研究発表会に変更になっている）

II　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) Prolyl oligopeptidase;, Prolyl tripeptidylpeptidase; In "Handbook of proteolytic enzymes" (3rd ed.)	共著	2013年1月	Academic Press p3360-3364, p3371-3374,
(著書) Prolyl aminopeptidase. In "Handbook of proteolytic enzymes" (3rd ed.)	共著	2013年1月	Academic Press p3438-3443
(論文) Substitution of Glu122 by glutamine revealed the function of the second water molecule as a proton donor in the binuclear metal enzyme creatininase.	共著	2010年4月	Journal of Molecular Biology, 396巻, No. 4
(論文) Crystal Structure of Serine Dehydrogenase from Escherichia coli: Important role of the C-terminal region for closed-complex formation.	共著	2011年2月	Journal of Biochemistry, 149巻, No. 6
(論文) Assessment of substrate inhibition of bacterial oligopeptidase B	共著	2012年11月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 35巻, No. 11

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）洗濯用洗剤による殺菌効果の比較解析	2014年9月	日本防菌防黴学会 第 41 回年次大会
（演題名）緑膿菌，大腸菌，枯草菌，MSSAを用いた蛍光試薬の細胞毒性解析	2014年10月	日本薬学会近畿支部会
（演題名）蛍光染色による真菌の死菌と生菌の判別について	2014年10月	日本薬学会近畿支部会
（演題名）セレウス菌培養上清によるメロペネム分解性解析	2014年10月	日本薬学会近畿支部会
（演題名）米ぬか由来の歯周病菌プロリルトリペプチジルペプチダーゼ阻害タンパク質	2015年3月	日本農芸化学会 2015年度大会

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
平成24年4月～平成26年3月	日本生物工学会九州支部評議員
平成24年4月～平成26年3月	日本分析化学会九州支部幹事
平成25年4月～平成26年3月	日本薬学会九州支部幹事
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会学術雑誌編集委員（Biological and Pharmaceutical Bulletin）

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５報を記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　微生物学	職名　准教授	氏名　高松　宏治
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①講義に関連した新聞記事の紹介と、レポート課題の設定。		平成18年4月 ～ 現在に至る	講義内容に関連する新聞記事を紹介し、それらに対するレポート課題を出した。提出されたレポートに書かれた内容のうち、教育的な効果があると判断されたものを講義中に紹介した。講義で学んでいる知識が実社会で生かされていることを知る機会ができて、学生の興味を引き出すために役立ったと思われる。
②小テストとアンケートの実施		平成24年9月 ～ 平成25年1月	学生の理解度を確認するため小テストを実施し、小テストの後に解答用紙の余白に授業に対する感想などを書かせた。結果として学生の理解度が確認できただけでなく、学生の講義に対する関心が高まった。反面、講義の時間が少なくなり予定していた範囲まで解説できなかったので、平成26年度は実施しなかった。
③PowerPointを用いた講義とPDFのネット配信		平成20年9月 ～ 現在に至る	PowerPointを用いて講義し、その内容を編集してプリントとPDFを作成した。学生の予習・復習を支援するため、プリントは講義前に配布し、PDFは研究室ホームページを通じてインターネット配信した。その結果、授業アンケート結果は概ね良好であり、面白かったとか、興味が湧いたなどの意見が寄せられた。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①生物系基礎薬学実習（基礎薬学実習Ⅱ・微生物範囲）実習書		平成8年9月 ～ 現在に至る	実習に用いる教科書を毎年少しずつ改訂している。学生が理解しやすいようにイラストや図説を多用し、書き込み式のレポート用紙を添付した。
②PowerPointとプリント		平成18年4月 ～ 現在に至る	これまで担当した講義は全てPowerPointを使用しており、毎回講義の内容を見直しつつPowerPointを手直ししている。また、PowerPoint原図からプリントを作成し学生に配布している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 無し			
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ①平成23年度薬学部FDフォーラム参加		平成22年4月	学部教員が参加し学部に関連する情報を共有した。
②平成23年度薬学部FDフォーラム参加		平成23年4月、9月	学部教員が参加し学部に関連する情報を共有した。
③平成24年度薬学部FDフォーラムおよびFDワークショップ参加		平成24年4月、7月、9月	学部教員が参加し学部に関連する情報を共有した。学部の教育について議論した。
④平成25年度薬学部FDフォーラムおよびFDワークショップ参加		平成25年4月、7月、9～12月	学部教員が参加し学部に関連する情報を共有した。学部の教育について議論した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）微生物胞子-制御と対策- 担当：第１部第１章＆第２章p7-27	共著	平成23年4月	サイエンスフォーラム株式会社出版
（論文）A Novel Small Protein of Bacillus subtilis Involved in Spore Germination and Spore Coat Assembly.「レフリー付」	共著	平成23年6月	Biosci Biotechnol Biochem. 75:p1119-1128.
（論文）Discrimination of the Bacillus cereus Group Members by Pattern Analysis of Random Amplified Polymorphic DNA-PCR.「レフリー付」	共著	平成24年6月	Biocontrol Science 17: p83-86.
（論文）The GerW protein is essential for L-alanine-stimulated germination of Bacillus subtilis spores.「レフリー付」	共著	平成25年8月	Journal of Biochemistry (Tokyo) 154:409-417
（論文）With respect to coefficient of linear thermal expansion, bacterial vegetative cells and spores resemble plastics and metals, respectively.「レフリー付」	共著	平成25年10月	Journal of Nanobiotechnology. 11:33
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
界面活性剤による枯草菌芽胞の不活化および発芽抑制		平成26年9月24日	日本防菌防黴学会
洗濯用洗剤による殺菌効果の比較解析		平成26年9月25日	日本防菌防黴学会
枯草菌における蛍光染色による生死判定法の開発研究		平成26年10月11日	日本薬学会近畿支部会
セレウス菌培養上清によるメロペネム分解性解析		平成26年10月11日	日本薬学会近畿支部会
チオフラビンT とローダミンBによって染色される内生胞子特異的構造体の蛍光顕微鏡観察		平成27年3月28日	日本農芸化学会
III　学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在に至る	微生物試験法専門委員会委員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　微生物	職名　助教	氏名　桑名　利津子

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
①資格取得試験に向けた勉強方法のパワーポイントファイルの作成	平成12年4月～現在に至る	資格取得および卒業に向けた勉強方法改善のためのパワーポイントファイルを作成し，自己学習を促した.
②基礎薬学実Ⅱにおける微生物学実習および実習試験の実施	平成12年9月～現在に至る	2年学生（約240名）に対して，衛生的手洗いや消毒などはOSCEにも含まれる課題である．OSCEや実務実習を踏まえて，手洗いや消毒法についての学習プログラムを充実させた．特に平成25年より実習確認試験を行った.
③実習における小グループ化の実践	平成12年9月～現在に至る	微生物学実習を円滑に進めるために，各個人をグループ編成し，指導を行った.
④研究室所属学生における出席簿の作成および出席管理	平成12年4月～現在に至る	学生に研究の持続性を認識してもらうために出席簿の作成及び管理を行った.
⑤指導学生の学会および研究会への引率.	平成12年4月～現在に至る	学会および研究会への引率を行っている．他大学の学生とのディスカッションおよび自らの研究を発表する機会を与えることにより，他大学との学生との交流を行うことで，研究に対するモチベーションの向上，専門分野におけるディスカッション能力の向上およびコミュニケーション能力を養成している.
⑥研究室セミナー，学術論文を活用したプレゼンテーション能力，コミュニケーション能力，問題解決能力の育成	平成12年4月～現在に至る	研究室配属の4-6年生に対して，研究で得た成果をパワーポイント資料を作成および発表会を行った．その発表後，個々にフィードバックし，改善点についてアドバイスした.
⑦学術論文セミナーによる情報収集能力，問題解決能力の育成，プレゼンテーション能力などの育成．外国語論文による読解力の育成.	平成12年4月～現在に至る	必要となる課題を設定し，研究に必要な情報を自ら探し出す能力開発を行った．また得られた情報をセミナー形式でプレゼンテーションを行うことにより，その理解度およびプレゼンテーション能力を育成することが出来た．外国語論文を読解することにより，外国語を用いた情報収集能力および理解度を深めた.
⑧研究室所属学生における学会発表のための指導	平成14年3月～現在に至る	学会発表に向けて，エントリー，要旨作成，発表原稿資料の作成，発表練習，および質疑応答に備えて指導を行った.
⑨卒業生が筆頭者となった学術論文について準備指導	平成23年4月～現在に至る	学術論文作成に向けて，論文作成指導，図表作成，及びディスカッションなどをして指導を行った.
⑩卒後教育とセミナー	平成23年4月～現在に至る	卒業生にセミナーを依頼することによって，研究室の学生により薬剤師の仕事または研究職の仕事について興味を持ってもらえるように努めた.
⑪卒業生の研究支援	平成23年4月～現在に至る	卒業生が，病院薬剤師として勤務し，研究活動を行う上で，研究支援を行っている.
2　作成した教科書、教材、参考書		
①国家試験対策用解答用紙	平成12年4月～現在に至る	薬剤師国家試験の自己学習用に，国家試験問題に沿った解答用紙を作成し，学生に配布することにより，自己学習を促した.
②生物系基礎薬学実習（基礎薬学実習Ⅱ・微生物範囲）実習書	平成12年9月～現在に至る	実習に用いる教科書を毎年少しずつ改訂した．学生が理解しやすいようにイラストや図説を多用し，書き込み式のレポート用紙を添付した.
③生物系基礎薬学実習（基礎薬学実習Ⅱ・微生物範囲）パワーポイントファイル	平成19年9月～現在に至る	実習講義に用いるパワーポイントを作成し，毎年少しずつ改訂した．学生が理解しやすいようにイラストや図説を多用した.

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
第37回薬剤師のためのワークショップに参加	平成21年8月29-30日	病院薬剤師および薬局薬剤師の先生方とディスカッションをした．6年生の実務実習について，カリキュラム，指導方法，評価などに関して様々なことについて話し合いを行った．
平成22年度薬学部FDフォーラム参加	平成22年4月，9月	大学全教員が参加し，学部に関連する情報を共有および教育方法の改善について議論した
平成23年度薬学部FDフォーラム参加	平成23年4月，3月	大学全教員が参加し，学部に関連する情報を共有および教育方法の改善について議論した
平成24年度薬学部FDフォーラム参加	平成24年4月，7月，9～12月，平成25年3	大学全教員が参加し，学部に関連する情報を共有および教育方法の改善について議論した
平成25年度薬学部FDフォーラムおよびFDワークショップ参加	平成25年4月，7月，9～12月	大学全教員が参加し，学部に関連する情報を共有および教育方法の改善について議論した
平成26年度薬学部FDフォーラムおよびFDワークショップ参加	平成26年4月4日，7月12日，9月2日，10月29日，11月14日	大学全教員が参加し，学部に関連する情報を共有および教育方法の改善について議論した．「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」の講演を聴講した．
「薬剤師になるために」SGDワーキンググループ	平成25年3月～平成27年2月	「薬剤師になるために」SGDワーキンググループに参加し，SGDの向上に努めた
薬局，病院薬剤師との面談	平成25年4月～現在に至る	薬局，病院薬剤師の先生型と面談し，今後の学生の就職状況および教育について情報を共有し，議論した．
カリキュラム改訂ワーキンググループ	平成26年1月～現在に至る	カリキュラム改訂ワーキンググループに参加し，ルーブリック作成に努めた．

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) A Novel Small Protein of Bacillus subtilis Involved in Spore Germination and Spore Coat Assembly. (査読付き)	共著	平成23年6月	Biosci Biotechnol Biochem. 75:p1119-1128.
(論文) Discrimination of the Bacillus cereus Group Members by Pattern Analysis of Random Amplified Polymorphic DNA-PCR. (査読付き) (筆頭論文)	共著	平成24年6月	Biocontrol Science 17: p83-86.
(論文) The GerW protein is essential for L-alanine-stimulated germination of Bacillus subtilis spores. (査読付き) (筆頭論文)	共著	平成25年8月	Journal of Biochemistry (Tokyo) 154:409-417
(論文) With respect to coefficient of linear thermal expansion, bacterial vegetative cells and spores resemble plastics and metals, respectively. (査読付き)	共著	平成25年10月	Journal of Nanobiotechnology. 11:33
(論文) The nosocomial infection caused by Bacillus cereus and the countermeasure (査読付き) (筆頭論文)	単著	平成25年12月	Antifung. Agents Vol. 41, 12, 701-702, 2013.
(論文) Morphological and genetic characterization of group I Clostridium botulinum type B strain 111 and the transcriptional regulator spoIIID gene knockout mutant in sporulation. (査読付き)	共著	平成27年1月12日 [Epub ahead of print]	Anaerobe. 2015 Jan 31;33C:55-63. doi: 10.1016/j.anaerobe.

2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
界面活性剤による枯草菌芽胞の不活化および発芽抑制	共著	平成26年9月24日	日本防菌防黴学会第 41 回年次大会
走査型熱顕微鏡(SThM)による生物細胞の様々な熱分析の評価　一細胞1個当たりの死滅に要する熱エネルギーの計測	共著	平成26年9月25日	日本防菌防黴学会第 41 回年次大会
セレウス菌培養上清によるメロペネム分解性解析	共著	平成26年10月11日	日本薬学会近畿支部会
Involvement of an orphan histidine kinase in initiation of sporulation of C. botulinum type B	共著	平成27年3月26日	第88回細菌学会総会
チオフラビンT とローダミンBによって染色される内生胞子特異的構造体の蛍光顕微鏡観察	共著	平成27年3月28日	日本農芸化学会2015年度大会

III　学会および社会における主な活動	
平成13年8月～現在に至る	日本分子生物学会会員
平成13年11月～現在に至る	日本薬学会会員
平成20年3月～平成25年3月	日本薬学会微生物教員会議に参加
平成23年1月～現在に至る	日本農芸化学会会員
平成23年5月～現在に至る	日本防菌防黴学会会員
平成23年4月～現在に至る	ISRN Genetics, Editor
平成25年3月～現在に至る	New journal of science, microbiology, Editor
平成25年5月～現在に至る	Advances in Biology, Editor

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　公衆衛生学	職名　教授	氏名　上野　仁
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①小テストの導入		平成22年4月～ 現在	授業の開始時に前回の授業内容について、形成的評価として毎回小テストを実施し、その後に解説を行った。それにより定期試験による総括的評価から、学生の理解度の上昇が実感できた。
②CBT模擬試験問題の作成と模擬試験の実施		平成21年4月～ 平成25年3月	本学薬学部教員に依頼し、全分野に渡るCBT模擬試験問題3000題以上を編集し、問題集として作成した。それをもとに模擬試験を年度ごとに4回～7回実施することにより、CBT合格率の向上に寄与した。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①新衛生化学・公衆衛生学		平成23年3月	出版社：（株）南江堂 著書全体の概要：衛生薬学分野のコアカリに対応し、とくに環境衛生分野の内容を多く取り入れた教科書とした。 （教科書の頁数：461頁） （共著者名：大沢基保、福井哲也、永沼章、上野　仁、、他18名） 担当部分の概要：Ⅳ-2水環境の衛生 （担当部分の掲載頁：212～228頁、共著）
②コンパス衛生薬学－健康と環境－		平成23年4月	出版社：（株）南江堂 著書全体の概要：衛生薬学分野のコアカリに対応し、特に図解とエクササイズを多く取り入れたエッセンシャルな内容の教科書とした。 （教科書の頁数：459頁） （共著者名：鍛冶利幸、佐藤雅彦、上野仁、、他15名） 担当部分の概要：8章感染症の現状とその予防 （担当部分の掲載頁：163～189頁、共著）
③健康と環境　第2版		平成24年1月	出版社：（株）東京化学同人 著書全体の概要：日本薬学会編集による衛生薬学分野のコアカリに対応したスタンダードの教科書として発行した。 （教科書の頁数：492頁） （共著者名：井手速雄、鍛冶利幸、永沼章、上野　仁、、他多数） 担当部分の概要：第19章水環境（SBO88～91） （担当部分の掲載頁：378～399頁、共著）
④第5版　衛生薬学－健康と環境－		平成25年3月	出版社：丸善出版株式会社 著書全体の概要：衛生薬学分野のコアカリに対応した新しい教科書として発行した。 （教科書の頁数：492頁） （共著者名：永沼章、姫野誠一郎、平塚明、上野　仁、、他20名） 担当部分の概要：8.1.1水とヒトの生活、8.1.2上水 （担当部分の掲載頁：297～311頁、共著）

⑤最新公衆衛生学 第6版	平成27年1月	出版社：（株）廣川書店 著書全体の概要：6年制薬学教育に必要な公衆衛生学領域の新コアカリ全分野を網羅した。公衆衛生学Ⅰ、Ⅱおよび職業保健学の教科書として使用した。 （教科書の頁数：413頁） （編集者名：上野　仁、中室克彦、小嶋仲夫） 担当部分の概要：第2章公衆衛生と疫学、第3章感染症の予防と現状 （担当部分の掲載頁：11～62頁、共著）
⑥衛生試験法・注解2015	平成27年3月	出版社：金原出版株式会社 著書全体の概要：日本薬学会編集による衛生薬学関連領域の試験法の解説書。実践衛生試験法概論および衛生薬学実習の参考書として使用した。 （編集・共著者名：小椋康光、佐藤雅彦、上野　仁、他多数） 担当部分の概要：全般にわたる執筆要項の作成、企画編集
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ①博士学位論文の審査 ②学会における教育・研究活動 ③学内におけるFD活動		 平成24年12月主査、平成22年12月・平成25年12月副査 日本薬学会 環境・衛生部会：常任世話人、将来ビジョン検討委員会委員長、試験法委員会委員、試験法委員会用語専門委員会委員長 平成22年～26年薬学部FDフォーラムおよび全学のFDフォーラムに参加

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Low-dose ethanol aggravates allergic dermatitis in mice	共著	平成26年	Alcohol., 48(5), 501-8.
（論文）Effect of selenite on T-cell mitogenesis: contribution of ROS production and apoptosis signal-regulating kinase 1	共著	平成26年	Biol Pharm Bull., 37(8), 1352-8.
（論文）Effects of administering sodium selenite, methylseleninic acid, and seleno-L-methionine on glucose tolerance in a streptozotocin/nicotinamide-induced diabetic mouse model	共著	平成26年	Biol Pharm Bull., 37(9), 1569-74.
（論文）Glutathione-dependent cell cycle G1 arrest and apoptosis induction in human lung cancer A549 cells caused by methylseleninic acid: comparison with sodium selenite	共著	平成26年	Biol Pharm Bull., 37(11), 1831-7.
（論文）Oxidized dietary oils enhance immediate- and/or delayed-type allergic reactions in BALB/c mice	共著	平成26年	Allergol Int., 64(1), 66-72.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
マウス脾臓細胞および腹腔マクロファージに対する酸化オリブ油の影響	平成26年9月	フォーラム2014　衛生薬学・環境トキシコロジー
慢性皮膚アレルギー反応におけるセレノメチオニンの影響	平成26年11月	日本分子生物学会
ヒトアストロサイトーマU251細胞に対するアミロイドβの影響	平成27年3月	日本薬学会
セレノメチオニンによるマクロファージの炎症性メディエーター発現抑制作用	平成27年3月	日本薬学会
2型糖尿病マウスモデルにおけるセレンおよび高脂肪飼料摂取とインスリン抵抗性の関連性	平成27年3月	日本薬学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成16年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員会委員	
平成22年4月～23年12月	Journal of Health Science編集委員	
平成23年4月～平成25年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin 編集委員	
平成22年4月～現在	大阪PCB廃棄物処理事業監視部会座長・委員／環境省PCB廃棄物適正処理推進に関する検討委員会	
平成26年4月～現在	枚方市保健所運営協議会委員	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　公衆衛生学	職名　講師	氏名　奥野 智史

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
①実習における小グループでのディスカッションの実施	平成21年4月～現在に至る	衛生薬学実習において、実習前の全体説明に加え、実験終了時に少人数でのディスカッションを導入した。このディスカッションの導入により、教員が学生の理解度などを的確に把握できるとともに、学生自身が実験の目的、内容、結果の解析方法について再確認するのに役立っている。
②授業での確認テストの導入	平成23年4月～現在に至る	公衆衛生学Ⅰの授業において、毎回授業開始時に確認テストを実施し、前回の授業内容をどの程度理解できているかを学生自身でチェックできるようにした。学生アンケート（授業評価）でも、確認テストが授業内容の復習に役立ったとの声が寄せられた。
③学生による授業評価結果に基づく授業改善の実施	平成24年4月～現在に至る	学生アンケート（授業評価）をもとに、講義の進行速度、授業で配布する資料内容や記述方法の見直しなどを毎年行い、学生が理解しやすい授業になるように改善している。
④キャリア形成科目で専門職連携教育（IPE）の実施	平成25年4月～現在に至る	チーム医療を意識し、貢献できる専門能力を養うために、多職種での連携や協働をテーマに看護学部学生とグループ討議などの専門職連携教育（IPE）を計画・実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
①CBT演習問題の作成	平成22年4月～平成23年3月	摂南大学薬学部の学生がCBTに向けた自己学習などのために使用する演習問題のうち、「生活環境と健康」分野の問題作成を担当した。また、「健康と環境」分野の問題について不備がないかどうかを確認した。この演習問題は、CBTを受験する学生の自己学習などに活用されている。
②新衛生化学・公衆衛生学	平成23年3月1日発行	出版社：南山堂（ISBN：9784524402694） 著書全体の概要：薬学部学生が衛生薬学分野で理解すべき内容を網羅したもの。 （頁数：461頁） （共著者：大沢基保，福井哲也，太田壮一，上野 仁 他） 担当部分の概要：水環境の衛生に関して、「下水処理」および「水質汚濁と防止対策」について図表などを取入れて分かりやすく記述した。 （担当部分の掲載頁：pp. 229～247, 共著）
③薬学用語辞典	平成24年3月30日発刊	出版社：東京化学同人（ISBN：9784807906772） 著書全体の概要：薬学部学生が最低限知っておくべきワード（用語）について、学生でも理解できるよう現役の教員や病院、薬局の薬剤師が個々の専門分野を分担して平易に解説したもの。 （頁数：552頁） （共著者：市川 厚，中室克彦，手塚雅勝 他） 担当部分の概要：地球環境や水環境に関連した用語について解説した。 （担当部分の掲載頁：多頁にわたるため抽出できず，共著）
④最新公衆衛生学（第6版）	平成27年1月30日	出版社：廣川書店（ISBN:9784567471466） 著書全体の概要：平成27年度からの薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に準拠し、薬学部生が学ぶべきことを理解しやすく記述したもの。 （頁数：413頁） （共著者：上野 仁，中室克彦，川崎直人，小嶋仲夫 他） 担当部分の概要：職業保健に関して、職業病やその予防対策について記述した。 （担当部分の掲載頁：pp. 111～136，共著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
該当なし		

4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
①OSCE評価者	平成21年12月～ 現在に至る	摂南大学薬学部および近畿大学薬学部で実施されたOSCEにおいて評価者として参加した。
②摂南大学で実施された全学および薬学部FDフォーラムに参加	平成22年4月～ 現在に至る	摂南大学の全学部教員もしくは薬学部教員が対象となるFDに参加し、教育方法の改善などについて議論した。
③認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップin近畿）におけるタスクフォース	平成22年9月～ 現在に至る	薬学部5年次の病院・薬局長期実務実習先の指導してくださる薬剤師を養成するためのワークショップでタスクフォースを担当した。
④2011年度学生ワークショップのタスクフォース	平成23年8月5～ 8月24日	摂南大学の学生を対象としたワークショップでタスクフォースを担当した。
⑤薬剤師国家試験サポートチームに参加	平成24年7月～ 2013年3月	研究室配属の6年次学生の就学状況の把握および指導を担当した。
⑥薬剤師国家試験対策委員会（同小委員会）委員	平成26年4月～ 現在に至る	薬剤師国家試験対策委員として、学生の指導等を担当している。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（学術論文・筆頭論文・査読付）Methylseleninic acid (MSA) inhibits 17β-estradiol-induced cell growth in breast cancer T47D cells via enhancement of the antioxidative thioredoxin/thioredoxin reductase system	共著	2012年 8月	Biomedical Research, 33 (4), 201-210
（学術論文・査読付）Supplementary seleno-L-methionine suppresses active cutaneous anaphylaxis reaction	共著	2013年12月	Biol. Pharm. Bull., 36 (12), 1969-1974
（学術論文・査読付）Effect of selenite on T-cell mitogenesis: contribution of ROS production and apoptosis signal-regulating kinase 1	共著	2014年 8月	Biol. Pharm. Bull., 37 (8): 1352–1358
（学術論文・査読付）Effects of administering sodium selenite, methylseleninic acid, and seleno-L-methionine on glucose tolerance in a streptozotocin/nicotinamide-induced diabetic mouse model	共著	2014年 9月	Biol. Pharm. Bull., 37 (9): 1569-1574
（学術論文・筆頭論文・査読付）Glutathione-dependent cell cycle G1 arrest and apoptosis induction in human lung cancer A549 cells caused by methylseleninic acid: comparison with sodium selenite	共著	2014年11月	Biol. Pharm. Bull., 37 (11), 1831–1837

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）セレンによるヒト肺癌由来細胞の増殖抑制とセレノプロテイン発現との関連性	2014年 9月	フォーラム2014衛生薬学・環境トキシコロジー（日本薬学会）
（演題名）マクロファージ炎症性メディエーター発現に対するセレノメチオニンの影響	2014年 9月	フォーラム2014衛生薬学・環境トキシコロジー（日本薬学会）
（演題名）慢性皮膚アレルギー反応におけるセレノメチオニンの影響	2014年12月	第37回日本分子生物学会年会
（演題名）2型糖尿病マウスモデルにおけるセレンおよび高脂肪飼料摂取とインスリン抵抗性の関連性	2015年 3月	日本薬学会135年会
（演題名）ヒトアストロサイトーマU251細胞に対するアミロイドβの影響	2015年 3月	日本薬学会135年会

III　学会および社会における主な活動

平成21年4月～平成23年3月	日本薬学会ファルマシア専門小委員
平成21年4月～現在に至る	日本水環境学会関西支部幹事
平成22年4月～現在に至る	公害防止管理者等国家試験受験講習会講師
平成25年3月11～13日	第47回日本水環境学会実行委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　公衆衛生学	職名　助教	氏名　荒川　友博
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①小グループディスカッションの実施		平成22年4月～現在に至る	衛生薬学実習において、全体講義に加え、実験終了時に小グループでのディスカッションを導入した。このディスカッションの導入により、学生の理解度を把握するとともに、学生自身の実習内容の理解向上に役立てた。また、各実習項目を1グループ2～3名の少人数で実施することで、マンツーマンの指導ができるように心がけた。
②問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、英文読解力の育成		平成22年4月～現在に至る	応用薬学実習、特別研究Ⅰ・Ⅱにおいて、学生が理解し、積極的に研究に取り組めるよう、学生と密にディスカッションし、問題解決能力を養うとともに、学生の研究活動に対する興味を引き出し、やる気を向上させ、学生が自ら積極的に研究活動に取り組めるように努めた。また、研究成果や学術論文（英文）を研究室内で発表させ、質疑応答を積極的に行い、指導を行うことにより、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、英文読解力を養った。
③学力向上のための指導		平成22年4月～現在に至る	応用薬学実習にて研究室配属の4年次生および特別研究Ⅰ及びⅡの配属学生に対して、課題を与え、勉強法についてアドバイスを行うことによって、CBTおよび国家試験に対する基礎学力向上に繋がった。
2　作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習実習書		平成22年4月～現在に至る	衛生薬学実習で使用する実習書を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ①学内FDフォーラムに参加		平成22年4月～現在に至る	薬学部FDフォーラムおよび全学のFDフォーラムに参加し、教育方法の改善などについて議論した。
②第48回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加		平成22年8月21日～22日	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加し、討議した。
③OSCE委員会委員		平成24年4月～現在に至る	OSCE委員会委員として、OSCEの運営に携わった。
④2014年度薬学部FDワークショップに参加		平成26年7月12日	2014年度薬学部FDワークショップに参加し、「理想とする医療従事者の育て方」について討議した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Supplementary seleno-L-methionine suppresses active cutaneous anaphylaxis reaction（査読付）	共著	平成25年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Volume 36, No. 12, PP. 1969～1974
（論文）Low-dose ethanol aggravates allergic dermatitis in mice（査読付）	共著	平成26年5月	Alcohol, Volume 48, No. 5, PP. 501～508
（論文）Effect of selenite on T-cell mitogenesis: contribution of ROS production and apoptosis signal-regulating kinase 1（査読付）	共著	平成26年8月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 37 (8), PP. 1352-1358
（論文）Glutathione-dependent cell cycle G1 arrest and apoptosis induction in human lung cancer A549 cells caused by methylseleninic acid: comparison with sodium selenite（査読付）	共著	平成26年11月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Volume 37, No. 11, PP. 1831-1837
（論文）Oxidized dietary oils enhance immediate- and/or delayed-type allergic reactions in BALB/c mice（査読付）	共著	平成27年1月	Allergology International, Volume 64, No. 1, PP. 66-72
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
マクロファージ炎症性メディエーター発現に対するセレノメチオニンの影響		平成26年9月	フォーラム2014　衛生薬学・環境トキシコロジー
セレンによるヒト肺癌由来細胞の増殖抑制とセレノプロテイン発現との関連性		平成26年9月	フォーラム2014　衛生薬学・環境トキシコロジー
慢性皮膚アレルギー反応におけるセレノメチオニンの影響		平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会
2型糖尿病マウスモデルにおけるセレンおよび高脂肪飼料摂取とインスリン抵抗性の関連性		平成27年3月	日本薬学会第135年会
接触性過敏反応におけるリンパ節中サイトカイン発現に及ぼす酸化オリブ油の影響		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
平成18年～現在に至る	日本分子生物学会会員		
平成21年～現在に至る	日本薬学会会員		
平成23年～現在に至る	日本免疫学会会員		
平成25年～現在に至る	日本毒性学会会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　公衆衛生学	職名　助教	氏名　荻野　泰史

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
①衛生薬学実習における実験直後の質疑応答	2012年4月1日 ～現在	衛生薬学実習において、衛生試験法の原理や測定の意義を理解出来るように実験終了直後に質疑応答を行った。
②衛生薬学実習における演習の実施	2012年4月1日 ～現在	衛生薬学実習において、学生の理解を深めるために実験後に演習を行った。
③研究室における文献紹介やゼミの実施	2012年4月1日 ～現在	研究室配属学生・応用薬学実習履修学生を対象に、英語論文の文献紹介や実験結果についての議論・発表会を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	2012年4月1日 2013年4月1日 2014年4月1日	実習書（衛生薬学実習） 実習書（衛生薬学実習） 実習書（衛生薬学実習）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①薬学部におけるFDフォーラムにすべて参加	2012年4月1日 ～現在	国家試験や実務実習などについて、教育方法の改善について議論した。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Low-dose ethanol aggravates allergic dermatitis in mice	共著	2014年9月	Alcohol., 48(5), 501-8.
（論文）Effect of selenite on T-cell mitogenesis: contribution of ROS	共著	2014年12月	Biol Pharm Bull., 37(8), 1352-8.
（論文）Effects of administering sodium selenite, methylseleninic acid,	共著	2014年	Biol Pharm Bull., 37(9), 1569-74.
（論文）Glutathione-dependent cell cycle G1 arrest and apoptosis	共著	2014年	Biol Pharm Bull., 37(11), 1831-7.
（論文）Oxidized dietary oils enhance immediate- and/or delayed-type	共著	2014年	Allergol Int., 64(1), 66-72.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
酸化オリブ油がマウスリンパ球および腹腔マクロファージに及ぼす影響		2014年9月	日本免疫毒性学会（徳島）
マウス脾臓細胞および腹腔マクロファージに対する酸化オリブ油の影響		2014年9月	フォーラム2014　衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
セレンによるヒト肺癌由来細胞の増殖抑制とセレノプロテイン発現との関連性		2014年9月	フォーラム2014　衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
接触性過敏反応におけるリンパ節中サイトカイン発現に及ぼす酸化オリブ油の影響		2015年3月	日本薬学会135年会（神戸）
2型糖尿病マウスモデルにおけるセレンおよび高脂肪飼料摂取とインスリン抵抗性の関連性		2015年3月	日本薬学会135年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　環境保健学	職名　教授	氏名　太田　壮一

Ⅰ　教育活動［平成18（2006）年度以降のみ記載］

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 ①授業アンケートを基礎とした改善・工夫	平成18年4月～現在	平成18年度からの6年制教育カリキュラムへの移行を意識して、私が担当する食品衛生学及び臨床栄養学の講義内容の改善を試みた。特に、食品衛生学では、市販されている食品中の有害物質と健康の関連、また、臨床栄養学では、食生活から見た生活習慣病の予防法等の、学生の興味ある内容を盛り込んで行うように努めた。また、授業アンケートに基づき、①わかりやすい授業への取組み、②授業の質を高めるための取組み、③教授能力向上のための取組みについて、以下の工夫を行った。まず、必ず、授業の最初20分間は、前回の授業の重要点に関して、再度説明を行い、復習を心掛けた。これは、学生にもテスト対策も含め好評であったが、私自身、元来早口なので、理解が不十分だった学生に対して講義の理解の徹底に役立ったものと確信している。次に、学生の理解度が確かなものになっているかどうかを確認することを目的として、小テスト（形成的評価）を実施して、修得していない内容を、次の授業で復習しながら、講義を進めるするように心がけた。
②衛生薬学実習における問題解決能力の養成	平成18年4月～現在	衛生薬学実習では、各課題を3～4名/グループでに実施し、マンツーマンの指導しながら、各操作の原理等について口頭試問しながら、学生の問題解決能力の向上に努めている。また、本実習の特徴として、実習前後に、実習に関する知識・技術・態度を自己点検させるチェックシートを用いて、充実化を図っている。
③スタートアップゼミにおける早期研究体験学習の指導	平成24年4月～現在	摂大薬学部では、自分の担任学生（1年次生）を対象にスタートアップゼミを開講しており、薬学の概要、ITを用いた情報収集法、早期体験学習における病院・薬局見学の発表指導、OTC薬の調査などを通して、初年次生に薬学に早くなじんでもらう努力を行っている。これに加えて、私は、早期に研究体験をさせることを目的として、本研究室の助教に協力を仰ぎ、簡単なタンパク質や遺伝子の取り扱いに関する体験学習を試みている。これにより、低学年時より、勉強へのモチベーションを高める工夫を行っている。
④卒業論文指導、学会発表、研究室研究発表・文献紹介ゼミを活用した倫理観、問題解決能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の醸成	平成18年4月～～現在	6年制薬学教育における、我々教員が学生に対して養成すべき重要な資質として、倫理観、コミュニケーション能力及び問題解決能力を挙げることができる。そして、卒業研究は、これら3つの資質を同時に養成するための最適な科目である。本研究室では、5・6年次生を対象に、定期的に学会発表、研究室発表会、文献紹介を体験させている。またその際、学生毎の理解度に合わせて研究指導を行う他、英文読解、図表作成及び質疑応答の関するアドバイスも行いながら、前述の3つの資質の醸成に努めている
⑤応用薬学実習生（4年次生：選択科目）に対する基礎学力向上対策の実施	平成22年4月～現在	薬学研究においては、その基礎知識となる物理や化学は極めて重要である。その観点に立って、研究室配属の4年次生に対して、国家試験の必須レベルの化学および物理の課題を与え、その確認試験を行い、また、勉強法についてもアドバイスを行った。これにより、学生の基礎学力の向上に繋がると共に、CBT対策にも資する結果となった。

⑥実務実習の充実化を目的とした特別研究Ⅰ実習生（5年次生：必須科目）に対する薬理学知識の確認	平成22年4月～現在	研究室配属の5年次生は、6年制薬学教育の肝である5ヵ月間の実務実習に派遣され、貴重な体験をすることになる。ただし、この期間、学内で行っていた座学の知識が薄れる可能性が高いことを考慮すると共に、薬理学の知識を基礎とする実務実習の充実化を目的として、本研究室では、教員全員が負担して薬理学の課題を与え、その確認試験を行っている。これは、結果として6年次における国試対策にも資することとなっている。
⑦学生に協働作業の重要性を体感させるゼミ旅行の引率	平成18年4月～現在	本研究室では、毎年3月と8月にゼミ旅行を実施している。これは、単なる遊びを目的としているだけでなく、学生毎に役割を与え、より充実したゼミ旅行となるように、企画から実施に至るまで、教員が相談に乗りながら実行させている。もちろん、旅行では、文献ゼミも行い、また多くの課外活動を通して、学生相互の親睦を図ると共に、協働作業の重要性を体得させる良い機会として捉えている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
衛生薬学実習実習書	平成22年4月～現在	6年制薬学カリキュラムの移行に伴い、3年次生配当の衛生薬学実習（本研究室担当：食品衛生学実習）の内容の変更を試み、不必要な項目を削除すると共に、新たな項目を導入しながら、学生が理解しやすいように要点を絞ってこの教材を作成した。また、自己学習の為に課題を、自らの理解度を自己評価する為にチェックシートを付け加え、実習前後に、学生に対して身だしなみ・服装の項目から実験操作毎の達成度や理解度等を自己評価用のチェックシートに記入させ、確認をさせル工夫を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①CBT衛生問題編集	平成19年4月～平成21年3月	日本薬学会：西日本ＣＢＴ衛生問題編集委員会委員として活動した。
②教務委員会委員	平成18年4月～現在	毎月開催される教務委員会において、本学部の教育カリキュラムの運営及び不都合な事態への対応策、更には成績不良者への年2回の修学指導等を実施している。
③学部教育評価委員会委員長	平成18年4月～現在	学部教育評価委員長として自己評価21作成における責任者として活動した。また現在、自己評価26（本評価）における教育関連エビデンスの整備等を実施している。
④薬学部FDフォーラムに参加	平成18年4月～現在	毎年、学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した。また、平成25年度においては、ルーブリックによる評価法を、本学部の教育評価に導入することを目的として、計5回に亘って教育評価に関する専門化を招き、活発な議論を行った。
⑤カリキュラム改訂ワーキンググループに参加	平成25年12月～平成26年3月	平成27年度入学生から導入される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム改訂について議論した。

II　研究活動［平成22（2010）年度以降のみ記載］			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
新 衛生化学・公衆衛生学	共著	平成23年3月	株式会社　南江堂
(論文) Occurrence of co-planar polybrominated/chlorinated biphenyls (PXBs), polybrominated diphenyl ethers　(査読付)	共著	平成23年3月	*Chemosphere*, Vol.83, No.2
(論文) In vitro and in vivo induction of cytochrome P450 by coplanar polychlorinated/brominated biphenyls (Co-PXBs) providing high TEQ in mother's milk in Japan (査読付) レフリー付き	共著	平成26年7月	*Toxicology*, Vol. 324
(論文) Detection of tribromobisphenol A as debrominated compounds of tetrabromobisphenol A in breast milk collected in Japan. (査読付) レフリー付き	共著	平成27年1月	*J. Environ. Chem.*, Vol. 25, No. 1
(論文) Levels of tetrabromobisphenol A, tribromobisphenol A, dibromobisphenol A, monobromobisphenol A, and bisphenol A in Japanese breast milk.(査読付) レフリー付き	共著	平成27年2月	*Chem. Res. Toxicol.*, Vol. 28
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ダイオキシン類及び臭素系難燃剤が有する脂肪・骨分化攪乱作用		2014年5月	日本環境化学会
新規合成トランス脂肪酸標準品による高精度分析法の構築と健康影響評価		2014年10月	日本薬学会近畿支部
脂肪細胞分化を指標とした健康有害物質による肥満の増悪化に関する検討		2014年10月	日本薬学会近畿支部
ヒト間葉系幹細胞を用いた環境汚染物質TBBPAとTCDDの骨芽細胞分化攪乱		2014年10月	日本薬学会近畿支部
TCDDによる間葉系幹細胞の脂肪・骨芽細胞分化攪乱作用に関する検討		2014年12月	環境ホルモン学会

III　学会および社会における主な活動［平成13（2001）年度以降のみ記載］	
平成13年4月～平成26年3月	日本環境化学会・学会評議員
平成13年4月～平成25年3月	日本環境化学会・幹事
平成25年4月～平成27年3月	日本環境化学会・理事
平成13年4月～平成26年3月	文部科学省：科学技術政策研究所研究動向研究センター専門調査員
平成13年4月～平成26年3月	環境省：臭素系ダイオキシン対策調査検討会委員会委員
平成13年4月～平成17年3月	環境省：難分解性有機環境汚染物質の廃棄物処理に関する検討会委員
平成13年4月～平成15年3月	環境省：ダイオキシン類地下水汚染原因解明手法検討委員会委員
平成15年4月～平成17年3月	環境省：ＰＣＢ汚染物処理技術調査検討会委員
平成19年4月～平成21年3月	環境省：ダイオキシン類生物検定法簡易測定調査検討会委員
平成22年4月～平成26年3月	兵庫県：排出基準未設定化学物質評価検討委員会委員
平成13年4月～平成20年3月	枚方市：廃棄物減量等推進審議会審議委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　環境保健学	職名　講師	氏名　中尾　晃幸

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
①予習・復習制度の導入	平成23年～現在に至る	授業中に配布するプリントに次回の予習してほしい内容をあらかじめ明示しておき、予習させる習慣をつけさせた。そして翌週の授業開始時に予習内容の確認と前回授業内容（復習）の確認を口頭試問形式で行った。この予習・復習制度は、学生アンケートで「予習する習慣が定着した」、「授業に集中できるようになった」など学生に好評であった。この制度の導入により、学生の学修時間は教室内での授業時間（20時間）と教室外での自修時間（40時間）を合わせ、60時間になり、単位修得に必要な学修量を満たすものである。
②小テストの導入	平成23年～現在に至る	授業が進むにつれて、過去に行った授業内容の記憶が薄れていくことが予想される。そのため、授業が3～5コマ経過した時点で、小テスト（形成的評価）を行う。この小テストの実施により、学生が自ら復習するようになると共に、重要なポイントが理解できるようになった。
③C-Learningの利用 （大阪工大情報科学部での環境情報科学（兼担））	平成22年～現在に至る	インターネットを経由したC-Learningを利用し、講義中に理解できなかったこと質問事項等を受付することにより、一方通行となりがちな授業スタイルを改善した。これは摂南大学薬学部と大阪工大情報科学部の校地間のギャップを埋めるための非常に有効な手法であり、質問事項をC-Learningの講義サイトに投稿することで、次回の講義中あるいは個別に対応するといったシステムである。
④薬系インターンシップ・ボランティアにおける自己研鑽・体験型学習の実践	平成20年～平成26年3月	教養特別講義「薬系インターンシップ・ボランティア」を履修した3年次生に対し、病院、薬局および治験機関におけるインターンシップあるいはボランティア活動を7～10日間にわたり実施した。活動中は日誌を作成し、その体験談や成果を大学に戻ってからまとめ、発表会を行った。
⑤学生実習における個別対応型教育の実践	平成8年～現在に至る	衛生薬学実習では、各課題を3～4名/グループでに実施している。実習中はそれぞれのグループに張り付いた状態で指導を行い、マンツーマンの指導ができるように心がけている。ただし、実習が失敗しないように指導するのではなく、学生の自主性を尊重し、失敗した際には何がいけなかったのか考えさせることに重点をおいた。
⑥授業外におけるゼミナール合宿の引率	平成8年～現在に至る	学生の授業外にゼミナール合宿を行った。このゼミナール合宿では、応用薬学実習、特別研究Ⅰおよび特別研究Ⅱの配属学生の親睦を深めることが目的であると共に、文献ゼミを開催し、最新の研究技術や知識を全員で共有することができた。また、ゼミナールを担当する学生は、資料の作成やプレゼンテーション能力の向上にもつながった。
⑦応用薬学実習生に基礎学力向上のための指導	平成22年4月～現在に至る	応用薬学実習の履修4年次生に対して、基礎科目としての化学、物理の課題を与え、その確認試験を行った。試験結果を鑑み、勉強法についてアドバイスを行うことによって、基礎学力の向上に繋がるとともに、CBT受験に対する基礎学力向上となる対策となった。
⑧特別研究Ⅰ及びⅡの配属学生に対する薬物治療や薬理学領域の学力向上のための指導	平成22年4月～現在に至る	特別研究Ⅰ及びⅡの配属学生に対して、薬理学及び薬物治療学の課題とその確認試験を行った。確認試験の結果を鑑み、勉強法についてアドバイスを行うことによって、国家試験対策の基礎学力向上に繋がった。

⑨スタートアップゼミにおける1年次参加型学習の指導	平成24年4月～現在	1年次生の担当学生（摂南大学薬学部では1学年6～7名の担任制を採用）を対象にスタートアップゼミを開講し、摂南大学について、シラバスについて、大学生活のこと、レポートの書き方と作成方法について、進路指導などを通して、大学生活になじむように指導を行っている。さらに、早期に研究体験をさせることを目的として、簡単な食品添加物の訂正/定量に関する実習体験を行った。これにより、低学年時より、薬学へのモチベーションを高める工夫を行っている。
⑩特別研究および応用薬学実習における学術論文指導	平成22年4月～現在に至る	特別研究Ⅰ、Ⅱ及び応用薬学実習の学生に対して、英語の学術論文の読解法並びにそのプレゼンテーション資料作成方法について指導を行った。さらに、発表内容に対する質疑への対応等について指導を行い、プレゼンテーション能力が向上した。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①衛生薬学実習テキスト	平成8年4月～現在に至る	衛生薬学実習テキストは、衛生試験法注解に記載されている試験方法を忠実に再現できる内容で簡潔にわかりやすくまとめたものものである。図表や解説を多く用いることにより、学生が理解しやすい内容となっている。巻末に付属しているレポートには設問が掲載されており、提出時に実習内容の復習ができるように作成されている。また、各実習項目ごとにチェックシートが付属しており、実習の中で何が修得できたのか自己評価することが可能となっている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①薬学部FDフォーラムに参加	平成18年4月～現在	学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した。また、平成25年度においては、「薬学教育評価の目的と活用」、「レギュラトリーサイエンスについて」、「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について」「パフォーマンス評価の考え方と方法」、学習成果基盤型教育の考え方」について教員全体で情報を共有した。
②カリキュラム改訂ワーキンググループに参加	平成25年12月～平成26年3月	平成27年度入学生から導入される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム改訂について議論した。ワーキンググループでは、2つのディプロマポリシー「地域及び多職種との連携」及び「コミュニケーション」のスタンダードとエレメントを定義した。また、「コミュニケーション」のルーブリックを作成した。
③薬剤師国家試験対策委員会委員	平成25年4月～平成26年3月	薬剤師国家試験対策委員会委員として、模擬試験結果の資料作成、学生指導等を担当した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
(論文) Exposure to tetranromobisphenol A alters hepatic lipid metabolism in C57BL/6N mice (査読付) レフリー付き	共著	平成24年8月	*Organohalogen Compounds*, Vol. 74, No, 5
(論文) Self-improvement and participatory career development education program: "Internship and volunteer experience training for pharmacy students" and its results (査読付) レフリー付き	共著	平成24年9月	*Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences*, Vol. 38, No. 12
(論文) In vitro and in vivo induction of cytochrome P450 by coplanar polychlorinated/brominated biphenyls (Co-PXBs) providing high TEQ in mother's milk in Japan (査読付) レフリー付き	共著	平成26年7月	*Toxicology*, Vol. 324
(論文) Detection of tribromobisphenol A as debrominated compounds of tetrabromobisphenol A in breast milk collected in Japan. (査読付) レフリー付き	共著	平成27年1月	*J. Environ. Chem.*, Vol. 25, No. 1
(論文) Levels of tetrabromobisphenol A, tribromobisphenol A, dibromobisphenol A, monobromobisphenol A, and bisphenol A in Japanese breast milk.(査読付) レフリー付き	共著	平成27年2月	*Chem. Res. Toxicol.*, Vol. 28
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
乳幼児食品中のビスフェノール系化合物による汚染実態の解明とその健康影響評価（第4報）		2014年5月	日本環境化学会
リアルタイム式性ホルモンモニタリング手法による内分泌撹乱作用機構の究明		2014年10月	日本薬学会近畿支部
難燃剤TeBBPAとその脱臭素化体が有する乳幼児への健康影響について		2014年10月	日本薬学会近畿支部
新規合成トランス脂肪酸標準品による高精度分析法の構築と健康影響評価		2014年10月	日本薬学会近畿支部
TeBBPAによる脂肪細胞分化とエピジェネティック変化		2014年12月	環境ホルモン学会
III　学会および社会における主な活動			
平成20年4月～平成26年3月	日本環境化学会　評議員		
平成22年4月～平成26年3月	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおけるタスクフォース		

[注]　1　各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　環境保健学	職名　助教	氏名　秋山　恵麻

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
①一人一人の性格及び到達度に合わせた個別目標の設定による計画、実践、問題解決能力の育成	平成22年4月～	特別研究及び応用薬学実習における指導では、各学生により、これまで身に着けている知識や技能に差があることから、個人と教員との話し合いにより目標を決定する。学生は、目標達成に向けて実験計画をたて、実践することで問題解決能力を養うことができる。
②学会発表及び研究室ゼミナールを活用したプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成	平成22年4月～	研究で得た成果を学会や研究室内、チーム内でパワーポイント資料を作成し発表させる。研究室内での発表時には、聞いている学生に必ず1つ以上質問することを決まりとすることで、発表者及び聴講者のコミュニケーション能力と問題解決能力が育成される。また、多くの相手と討議を行うことにより相手ごとに適した答え方や、表情により相手の理解を確認する習慣が身につき、将来、薬剤師として必要な患者に配慮する姿勢が身につく。
③研究論文紹介による英語読解力、プレゼンテーション能力、問題解決能力の育成	平成22年4月～	学生に学術論文を選択させ、プレゼンテーションにより発表させる。英語論文を読むことによる英語力の向上、分からないことを調べることによる情報収集能力、相手に分かりやすい資料を作成し、発表するためのプレゼンテーション能力、質疑応答を行うことによる問題解決能力を養うことができる。
④研究グループ制による教育力、協調性の育成	平成22年4月～	研究において学年間によるグループを形成し、各自で教え合うシステムを構築する。複数人で実験を行うことにより協調性が身につく。また、互いに教え合うことにより、薬剤師が現場に出た時の新人・実習生指導に必要な教育力が養われる。
⑤研修旅行を通した協調性の育成	平成22年4月～	1泊2日の宿泊研修を学生主体により行っている。これにより、学生間の親睦が深められ、集団における協調性を育成することができる。また、企画、実行することによる責任感が芽生える。
⑥応用薬学実習及び特別研究履修学生を対象とした自主学習の推進	平成22年4月～	各学年とごとに物理・化学・生物・薬理の課題を与え、テストを行い、学習指導を行った。これは、研究活動や実務実習に必要な基礎知識を習得するとともに、学んだことを即座に実習に還元できるという相乗効果が期待できる。また、実習しながら勉強を行うことで、より効率的な知識の定着を図ることができる。
⑦衛生薬学実習における学習意欲の向上、問題解決能力の育成	平成22年4月～	実習では、あらかじめ実習の原理を説明し、学生への予習復習事項を伝えている。これにより、効果的な技能と知識の定着が期待できる。また、実習中は、器具の操作方法等を個別に指導したり、原理等について問いかけることにより、考えながらの実習を行うようにしている。実習終了後には、チェックシートを用いて、実習で学んだことを自己評価することができるように工夫している。レポートでは、設問を記載し、学生の自己学習により実習内容の復習及び補助知識の確認を促すようにしている。

2　作成した教科書、教材、参考書 ①衛生薬学実習テキスト	平成22年4月～	実際の衛生試験法の例を示しながら、図表を多く用いて手順を解説している。定量する物質についての基本的な情報を記載することで、普段の生活の中に存在する物質の定量を行っていることを実感できるように工夫している。本テキストには、各実習項目ごとにチェックシートが付属しており、実習の中で何を学ぶことができるのかを確認し、自身の到達度についても評価することが可能となっている。また、付属している実習レポートには、設問を記載し、学生の自己学習により実習内容の復習及び補助知識の確認を促すように作成されている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①薬学部FDフォーラムに参加	平成22年4月～	学部全教員が参加し、現在の学部の状況を把握し、教育に対する意見交換を行う。また、外部講師を招き、評価法、アクティブラーニング等、教育上有益な情報を学んでいる。
②OSCE委員会に参加	平成22年4月～	OSCE委員会に参加し、OSCEの計画・準備・運営に携わっている。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Health assessment of tetrabromobisphenol a as brominated flame retardants through peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR). （査読付）	共著	平成23年8月	*Organohalogen Compounds*, Vol. 73, No. 2
(論文) Exposure to tetranromobisphenol A alters hepatic lipid metabolism in C57BL/6N mice. （査読付）	共著	平成24年8月	*Organohalogen Compounds*, Vol. 74, No. 5
(論文) In vitro and in vivo induction of cytochrome P450 by coplanar polychlorinated/brominated biphenyls (Co-PXBs) providing high TEQ in mother's milk in Japan (査読付) レフリー付き	共著	平成26年7月	*Toxicology*, Vol. 324
(論文) Detection of tribromobisphenol A as debrominated compounds of tetrabromobisphenol A in breast milk collected in Japan. (査読付) レフリー付き	共著	平成27年1月	*J. Environ. Chem.*, Vol. 25, No. 1
(論文) Levels of tetrabromobisphenol A, tribromobisphenol A, dibromobisphenol A, monobromobisphenol A, and bisphenol A in Japanese breast milk.(査読付) レフリー付き	共著	平成27年2月	*Chem. Res. Toxicol.*, Vol. 28

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
マウス前駆脂肪細胞およびヒト間葉系幹細胞におけるテトラブロモビスフェノールA刺激による分化制御	2014年5月	日本環境化学会
母乳汚染物質テトラブロモビスフェノールAによる脂肪細胞の分化攪乱作用	2014年10月	日本薬学会近畿支部
プラスチック工業製品中に含まれる難燃剤によるマウス脂肪細胞分化への影響評価	2014年10月	日本薬学会近畿支部
TeBBPAによる脂肪細胞分化とエピジェネティック変化	2014年12月	環境ホルモン学会
臭素系難燃剤テトラブロモビスフェノールAによる間葉系幹細胞の分化攪乱作用	2014年12月	環境ホルモン学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　環境保健学	職名　助教	氏名　角谷　秀樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
①衛生薬学実習における個別対応型教育による課題発見能力と問題解決能力との育成	平成22年4月～現在に至る	3年次生に対して、各実習項目を1グループ3～4名の少人数で実施することで、マンツーマンの指導ができるように心がけている。教員の都合で実習を仕切るのではなく、学生の自主性を尊重し、失敗した際には何がいけなかったのか考えさせることで、課題発見能力と問題解決能力を育成することに重点をおいた。また、実習書の他に、穴埋め形式のプリントを配布することで、衛生試験法で取り上げられている試験法の基本から応用までを理解させることができ、学力向上に繋がった。
②応用薬学実習生の学力向上を目的とした基礎薬学知識の確認	平成22年4月～現在に至る	研究活動を行う上で必要な基礎薬学の知識の確認・復習のために、研究室配属の4年次生に対して、これまで学んできた基礎薬学の中でも科学現象の原理原則に結びつきの強い、化学および物理の課題を与え、その確認試験を行った。また、勉強法についてもアドバイスを行った。これによって、これまでに身につけている知識を再確認することができ、基礎学力の向上に繋がり、CBT対策にも一役買う結果となった。
③特別研究Ⅰ実習生の実務実習の充実化を目的とした薬理学の基礎知識の確認	平成22年4月～現在に至る	実務実習では実際の薬剤師の現場で、実習を行うことから、薬学の根幹の1つである薬理学の知識が極めて重要である。従って、研究室配属の5年次生に対して、薬理学の課題とその確認試験を行うことで、これまで学んできた薬理学の知識の確認・復習を行った。これによって、座学と現場とでの薬理学の関わりを深く理解することができた。また、実務実習期間で薄れがちな知識の予防ともなり、6年次における国家試験対策の一助にも繋がった。
④学会発表及び研究室ゼミ、学術論文を活用したプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、問題解決能力の育成	平成22年4月～現在に至る	研究室配属の4、5、6年次生に対して、研究で得た成果を学会や研究室内でパワーポイント資料を作成し、発表させた。その発表成果を元に、個人個人にフィードバックし、改善点についてアドバイスを行った。これによって、プレゼンテーション能力の向上に繋がった。さらに、発表を聞いている学生には必ず1つ以上質問することを決まりとすることで、発表者及び聴講者のコミュニケーション能力と問題解決能力が育成された。また、多くの相手と討議を行うことにより相手ごとに適した答え方や、表情により相手の理解を確認する習慣が身につき、将来、薬剤師として必要な患者に配慮する姿勢が身についた。加えて、英語の学術論文を活用することにより、英語力の向上、分からないことを調べることによる情報収集能力も併せて養うことができた。
⑤個別目標の設定による計画、実践、問題解決能力の育成と研究チーム制の導入による指導力、協調性の育成	平成22年4月～現在に至る	研究室配属の4、5、6年次生に対して、個々の知識や技能を考慮しながら、教員との話し合いにより目標を決定した。学生は、目標達成に向けて実験計画をたて、実践することで問題解決能力を養うことができた。加えて、学年を超えた研究グループ（1グループ3～4名）を形成し、各自で教え合うシステムを構築した。さらに、6年次生はグループ長として、下級生を指導するようにした。これにより、薬剤師として現場に出た時の新人・実習生指導に必要な教育力が養われた。また、複数人で実験を行うことにより協調性が身についた。

⑥研究室外のゼミ合宿の引率	平成22年4月～現在に至る	研究室配属の4、5、6年次生に対して、研究室外でのゼミ合宿を行った。このゼミ合宿では、研究室配属学生と教員との親睦を深めることが目的であると共に、企画から実施に至るまで、教員が相談に乗りながら実行することで、協同作業の重要性を身につけさせた。さらに、研究室ゼミを行い、最新の研究技術や知識を全員で共有することができた。
2　作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習実習書	平成22年4月～現在に至る	3年次生に対して、衛生試験法の内容について、学生が理解しやすいように図表を多く用いて、この教材を作成した。また、本テキストには、各実習項目ごとにチェックシートが付属しており、実習の中で何を学ぶことができるのかを確認しながら実習するとともに、自身の到達度についても評価することが可能となっている。さらに、各実習項目ごとに、設問を記載し、学生の自己学習により実習内容の復習及び補助知識の確認を促すように工夫している。これによって、学生の衛生試験法に対する理解力の向上に繋がった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①薬学部FDフォーラムに参加	平成22年4月～現在に至る	毎年、学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した。また、平成25年度においては、ルーブリックによるパフォーマンス評価等、新たな教育評価法を本学部に導入することを目的として、計5回に亘って教育評価に関する専門化を招き、活発な議論を行った。
②カリキュラム改訂ワーキンググループに参加	平成25年12月～平成26年3月	平成27年度入学生から導入される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム改訂について議論した。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The safety of a mucosal vaccine using the C-terminal fragment of Clostridium perfringens enterotoxin「(査読付)」 「筆頭論文」	共著	平成22年11月	*Pharmazie*, Vol. 65, No.10
(論文) A novel screening system for claudin binder using baculoviral display「(査読付)」 「筆頭論文」	共著	平成23年2月	*PLoS One*, Vol. 6, No.2
(論文) The application of an alanine-substituted mutant of the C-terminal fragment of Clostridium perfringens enterotoxin as a mucosal vaccine in mice「(査読付)」	共著	平成24年1月	*Biomaterials*, Vol. 33, No. 1
(論文) In vitro and in vivo induction of cytochrome P450 by coplanar polychlorinated/brominated biphenyls (Co-PXBs) providing high TEQ in mother's milk in Japan (査読付) 「筆頭論文」	共著	平成26年7月	*Toxicology*, Vol. 324
(論文) Levels of tetrabromobisphenol A, tribromobisphenol A, dibromobisphenol A, monobromobisphenol A, and bisphenol A in Japanese breast milk.(査読付)	共著	平成27年2月	*Chem. Res. Toxicol.*, Vol. 28

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ダイオキシンは腸管バリア機能を破綻することにより免疫毒性を示す	2014年5月	日本環境化学会
ダイオキシン類及び臭素系難燃剤が有する脂肪・骨分化攪乱作用	2014年5月	日本環境化学会
乳幼児食品中のビスフェノール系化合物による汚染実態の解明とその健康影響評価（第４報）	2014年5月	日本環境化学会
ダイオキシン類が有する腸管バリア破綻に伴った免疫毒性影響	2014年10月	日本薬学会近畿支部
健康有害物質がCaco-2細胞のバリア機能に及ぼす影響評価	2014年10月	日本薬学会近畿支部

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成25年7月～平成26年3月	文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　毒性学	職名　教授	氏名　奈邉　健

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ●独自に作成したテキストを使用した薬理学・薬物治療学教育	平成20年4月 ～平成27年3月	京都薬科大学の薬理学の講義、ならびに摂南大学・薬学部の病態生理学の講義において、イラストを多く含む講義用資料を独自に作成し、それを配布するとともにOHCを用いて投影することで、学生が生体と薬物の相互作用をイメージとして捉えることができるように努めた。
2　作成した教科書、教材、参考書 ●最新基礎薬理学 第３版（廣川書店、全501頁）	平成23年10月31日	全国の薬系大学で使用する薬理学の教科書の一部（平滑筋に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、オータコイド）の項を執筆した。
●服薬指導・看護に役立つ　よくわかる治療薬ブック（照林社、全383頁）	平成24年11月25日	経験の浅い薬剤師、ならびに看護師向けの薬物の効き方と副作用をまとめたガイド。「呼吸器でよく使う薬」の項を、臨床的な観点からイラストを交え概説した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ●第29回 薬剤師のためのワークショップin近畿（武庫川女子大学にて、タスクフォース）	平成21年2月14～15日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース（世話役）として参加した。
●第39回 薬剤師のためのワークショップin近畿（神戸学院大学にて、タスクフォース）	平成21年9月22～23日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース（世話役）として参加した。
●第3回 摂南大学・薬学部FDワークショップ（摂南大学・薬学部にて）	平成26年7月12日	摂南大学・薬学部／看護学部FD委員会主催のFDワークショップ（テーマ：理想とする医療従事者の育て方）に参加した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Important roles of neutrophils in the late asthmatic response in mice	共著	2011年6月	Life Sciences, 88巻25-26号
（論文）Regulatory role of antigen-induced interleukin-10, produced by CD4+ T cells, in airway neutrophilia in a murine model for asthma	共著	2012年2月	European Journal of Pharmacology, 677巻1-3号
（論文）Roles of basophils and mast cells infiltrating the lung by multiple antigen challenges in asthmatic responses of mice	共著	2013年6月	British Journal of Pharmacology, 169巻2号
（著書）Current Approaches to Allergic Rhinitis	単著	2014年2月	Future Medicine社（ロンドン）
（総説）Interleukin (IL)-33: new therapeutic target for atopic diseases.	単著	2014年9月	Journal of Pharmacological Sciences, 126巻2号

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
アトピー疾患の治療を指向したTr1細胞による新規免疫療法の基礎的検討	2014年6月	第125回 日本薬理学会近畿部会
抗原特異的 IgE モノクローナル抗体による受動感作により産生増強された内因性IgEの気道炎症ならびにリモデリングにおける役割	2014年6月	第125回 日本薬理学会近畿部会
アトピー疾患の免疫療法に利用可能な誘導型制御性T細胞 (Tr1細胞)の抗原特異的IL-10産生	2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014
Expression of CysLT2 receptors in asthmatic lung, and the roles in bronchoconstriction	2014年9月	European Respiratory Society International Congress 2014
気管支喘息における肺でのインターロイキン (IL)-33産生細胞の解析	2014年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成10年4月～現在	社団法人 日本薬理学会 評議員
平成22年10月～平成26年9月	社団法人 日本薬理学会 代議員
平成20年4月～平成22年3月	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『つなぐしくみ』外部専門家
平成23年4月～平成24年3月	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『震災地域を対象とした研究シーズ探索プログラム』外部評価委員
平成23年4月～現在	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『知財活用促進ハイウェイ』評価委員会外部専門委員
平成11年4月～現在	社団法人 日本アレルギー学会 評議員
平成23年6月～現在	社団法人 日本アレルギー学会 代議員
平成23年9月～現在	日本眼薬理学会　評議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　毒性学	職名　准教授	氏名　倉本　展行
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①到達目標明確化をめざした教材		平成18年4月 ～ 現在に至る	各授業に配布したプリント教材により当日の学習範囲、復習内容、予習事項等を明確化。同教材には、薬剤師国家試験を元にした復習問題を掲載し、講義開始5分間で解かせ、その後15分程度、解説しながら、前回までの授業を復習し、アドバンスな事項にもチャレンジさせる。授業評価は概ね良好。
②自ら考えさせる姿勢形成		平成18年4月 ～ 現在に至る	実習で得られた数値をグラフ化し、統計学的有意差検定を実施させ、各自考察させる。1人ずつ口頭試問形式で採点した後、グループ全員でプレゼンテーション形式で解説。数値がグラフになり、グラフの有意差が、薬効の判定の理解へと繋がるという体験を経験させる。学生からの評価は概ね良好。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①医療薬学実習（薬理学）実習書		平成18年4月 ～ 現在に至る	薬理学に関する実習の実習書の編纂。従前より、時間的・数量的にスリム化し、個々の実習内容理解の深さを目指し、単に実施してレポート提出するだけでなく、理解度の確認を実地で評価できるように年々研鑽し、改訂している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①摂南大学薬学部2013年度第6回FDフォーラム		平成25年11月8日	同フォーラムにおいて、第3回薬学教育者のためのアドバンストワークショップで修得した内容を基にした講演。講演名「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
第3回薬剤師のためのワークショップ in 近畿		平成18年7月16、17日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加。
第3回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ		平成20年11月2、3日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加。
第31回薬剤師のためのワークショップ in 近畿		平成21年5月3、4日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加。
第1回教職員研修ワークショップ		平成21年8月4、5日	学内のFD活動に、タスクフォースとして参加。
第49回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成22年9月19、20日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加。
第51回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成22年11月20、21日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加。
実務家教員のありかたを考えるワークショップ		平成23年2月25日	平成22年度文部科学省委託費「大学における医療人養成推進等委託事業」「新制度薬学教育における実務か教員のキャリヤー支援の方策の確立」に参加。

日本薬学会　第3回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ	平成25年10月12～14日	「学習成果基盤型教育（Outcome-Based Education）に基づいて６年制薬学教育の学習成果を考える」～学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラムをデザインできる人材の育成～に参加。
平成25年度FDのための情報技術研究講習会	平成26年2月26～28日	タブレットを意識した電子書籍型教材作製コースを受講。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Activation of c-Jun N-terminal kinase cascades is involved in part of the neuronal degeneration induced by trimethyltin in cortical neurons of mice.	共著	2008年	J. Pharmacol. Sci. 109, 60-70.
Trimethyltin initially activates the caspase 8/caspase 3 pathway for damaging the primary-cultured cortical neurons derived from embryonic mice.	共著	2011年	J. Neurosci. Res. 89 552-561.
Indomethacin Ameliorates Trimethyltin-Induced Neuronal Damage in Vivo by Attenuating Oxidative Stress in the Dentate Gyrus of Mice.	共著	2011年	Biol. Pharm.Bull 34 1856-1863.
Opposing roles of glucocorticoid receptor and mineralocorticoid receptor in trimethyltin-induced cytotoxicity in the mouse hippocampus.	共著	2012年	Neurosci Lett. 511 116-119.
Dephosphorylation of endogenous GABA(B) receptor R2 subunit and AMPK α subunits which were measured by in vitro method using transfer membrane.	共著	2013年	Neurochem Int. 62 137-144.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
神経再生時のマウス海馬歯状回門における$GABA_B$受容体発現アストロサイト	2014年・6月	第125回日本薬理学会近畿部会
Increase in astrocytes that express GABAB receptors in the dentate hilus of mouse during neuronal regeneration.	2014年・8月	第12回アジア太平洋神経化学会（APSN）
Inhibition of NMDA-induced alteration of mitochondrial membrane potential by treatment of GABAB receptor agonist.	2015年・3月	第88回日本薬理学会
メトホルミン曝露に伴う増殖抑制に対するリンホトキシン-α発現関与の可能性	2015年・3月	日本薬学会第135年会
リコンビナントPP2B触媒サブユニットによるMn2+依存性のin vitro脱リン酸化	2015年・3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動

平成19年4月～現在に至る	日本薬理学会学術評議員
平成23年4月～現在に至る	日本神経精神薬理学会学術評議委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　毒性学	職名　准教授	氏名　木村朋紀
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 薬学科2年次学生対象のキャリア形成Ⅰにおける体験型学習の実践		平成25年4月 ～ 現在に至る	薬学科2年次学生（約220名）対象のキャリア形成Ⅰにおいて、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につけることを到達目標として、地域住民を対象とした健康フォーラム実施支援などの体験型学習を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①衛生薬学実習　実習書		平成21年4月 ～ 平成27年3月 （毎年更新）	衛生薬学領域である変異原性試験および薬毒物試験を実施するにあたって必要な基礎知識をまとめ、試験を実施するための手順を記載した。
②放射化学･放射薬品学　第2版		平成23年3月	出版社：廣川書店 著書全体の概要：放射性同位元素を用いた研究や医療分野への応用について理解するための教科書。 （教科書の頁数：２４１頁） （編集：五郎丸毅、堀江正信 共著者：明樂一己、遠藤朋宏、木村朋紀、五郎丸毅、立松健次郎、堀江正信、本屋敷敏雄） 担当部分の概要：放射性壊変現象の概要と放射性同位体の医療への応用について、実例を交えつつ説明した。 （担当部分の掲載頁：pp. 11～26, pp. 115～146/単著）
③毒性の科学		平成26年2月	出版社：東京大学出版会 著書全体の概要：毒性学に関する入門書。 （教科書の頁数：２００頁） （編集：熊谷嘉人、姫野誠一郎、渡邉知保 共著者：木村朋紀、他３５名） 担当部分の概要：MTF1とメタロチオネインの役割について概説した。 （担当部分の掲載頁：pp. 44～48/単著）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第33回日本看護科学学会学術集会にて「看護学生－薬学生専門職連携教育の取り組み」として交流集会を開催		平成25年12月	看護学部と薬学部とで合同で実施している専門職連携教育の内容を紹介するとともにその成果と課題を報告し、学会参加者と意見交換を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
①第6回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加		平19年2月	神戸薬科大学に病院薬剤師、開局薬剤師および大学薬学教員80名程度が集まり研修を行った。
②2012年度教職員研修ワークショップに参加		平成24年9月	枚方キャンパス7号館に摂南大学および大阪工業大学の教職員60名程度が集まり研修を行った。
③国試対策委員会委員		平成25年4月 ～ 平成27年3月	国試対策委員として薬剤師国家試験模試の解答集計、研究室配属学生の指導などを担当した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）The zinc-sensing transcription factor MTF-1 mediates zinc-induced epigenetic changes in chromatin of the mouse metallothionein-I promoter	共著	平成23年1月	Biochimica et Biophysica Acta - Gene Regulatory Mechanisms vol. 1809 pp. 56～62
（論文）Possible aryl hydrocarbon receptor-independent pathway of 2, 3, 7, 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin-induced antiproliferative response in human breast cancer cells	共著	平成24年4月	Toxicology Letters vol. 211 pp. 257～265
（論文）Role of megalin and the soluble form of its ligand RAP in Cd-metallothionein endocytosis and Cd-metallothionein-induced nephrotoxicity in vivo	共著	同　年5月	Toxicology Letters vol. 212 pp. 91～96
（論文）Bis(L-cysteinato)zincate(II) as a coordination compound that induces metallothionein gene transcription without inducing cell-stress-related gene transcription	共著	同　年12月	Journal of Inorganic Biochemistry vol. 117 pp. 140～146
（論文）Cooperative functions of ZnT1, metallothionein and ZnT4 in the cytoplasm are required for full activation of TNAP in the early secretory pathway	共著	平成25年10月	PLoS One vol. 8 (e77445) pp. 1～12

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
カドミウムによるメタロチオネイン誘導とJNK活性化	平成24年7月	日本毒性学会
重金属曝露がもたらすエピジェネティックな変化とその分子機構	同　年9月	フォーラ2014:衛生薬学・環境トキシコロジー
リンパ肉腫細胞P1798へのカドミウム長期処理によるメタロチオネイン誘導能の変化	同　年9月	フォーラ2014:衛生薬学・環境トキシコロジー
有機アンチモン化合物を用いた血管内皮細胞のメタロチオネイン遺伝子発現機構解析	同　年9月	フォーラ2014:衛生薬学・環境トキシコロジー
トリブチルスズによるNRF-1転写活性低下を介した神経細胞脆弱化	同　年11月	メタロミクス研究フォーラム

III　学会および社会における主な活動	
平成22年1月～平成23年12月	日本毒性学会　編集委員会　審査委員
平成24年1月～現在に至る	日本毒性学会　評議員
平成25年3月	東京理科大学　総合研究機構　客員研究員
平成25年4月～現在に至る	東京理科大学　総合研究機構　客員准教授
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会環境・衛生部会　フォーラム委員会内若手研究者活性化小委員会委員
平成26年1月～現在に至る	日本毒性学会 J. Toxicol. Sci.誌　編集委員
平成26年4月～平成27年3月	日本薬学会学術誌編集委員
平成26年11月～現在に至る	日本毒性学会 Fund. Toxicol. Sci.誌　編集委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　毒性学	職名　助教	氏名　保坂　卓臣

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） なし		
2　作成した教科書、教材、参考書 なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 第59回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加	平成23年11月12，13日	実務実習を担当する施設の指導薬剤師と大学教員が集まり、薬学教育の改善について議論した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Establishment of a stable human cell line, HPL-A3, for use in reporter gene assays of cytochrome P450 3A inducers（査読付）	共著	平成24年5月	Biological and Pharmaceutical Bulletin. Vol. 35 No. 5
肝がんにおけるDnmt1の新たな発現制御機構：SHPとMTF-1の拮抗（査読付）	単著	平成25年4月	ファルマシア（第49巻4号）

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
カドミウムによるメタロチオネイン誘導とJNK活性化	平成24年7月	日本毒性学会
リンパ肉腫細胞P1798へのカドミウム長期処理によるメタロチオネイン誘導能の変化	同　年9月	フォーラ2014:衛生薬学・環境トキシコロジー

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬理学	職名　教授	氏名　荻田喜代一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年4月～現在に至る	担当授業科目「薬理学総論」「薬物治療学Ⅰ（精神神経疾患治療学）」「生体情報伝達学」において、毎時間に小テストにより復習状況の評価を行った。また、本学の学習支援センターとの連携で補習授業やTeam-Based Learningによる学習指導を行った。授業評価としては、いずれも４点満点中約３点であった。
2　作成した教科書、教材、参考書	2008年 2014年（印刷中 2008年～現在	医療薬学　最新薬理学、廣川書店 図説　薬理学、南山堂書店 薬物治療学Ⅰ（精神神経疾患治療学）テキスト（自作プリントの製本化教材）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2009年～2011年 2009年～2010年 2013年7月～現在 2014年4月～2015年3月 2006年4月～2012年3月	厚生労働省　薬剤師国家試験委員会　委員 厚生労働省　医道審議会　専門委員「薬剤師分科会・薬剤師国家試験出題基準改定部会」 日本薬学会　薬学教育委員会　委員 薬学教育協議会　国公私立薬理学関連教科担当教員会　会長 学部・教務委員長として6年制薬学部教育プログラムの策定を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Beneficial effect of cilostazol-mediated neuronal repair following trimethyltin-induced neuronal loss in the dentate gyrus.	共著	平成27年1月	J. Neurosci. Res. 93, 56-66.
Lithium promotes neuronal repair and ameliorates depression-like behavior following trimethyltin-induced neuronal loss in the dentate gyrus.	共著	平成26年2月	PLoS One 9(2), e87953.
Beneficial in vivo effect of aripiprazole on neuronal regeneration following neuronal loss in the dentate gyrus: evaluation using a mouse model of trimethyltin-induced neuronal loss/self-repair in the dentate gyrus.	共著	平成25年12月	J. Pharmacol. Sci. 124, 99-111（日本薬理学会）
In vivo and in vitro treatment with edaravone promotes proliferation of neural progenitor cells generated following neuronal loss in the mouse dentate gyrus.	共著	平成25年1月	J. Pharmacol. Sci. 121, 74-83（日本薬理学会）
Opposing roles of glucocorticoid receptor and mineralocorticoid receptor in trimethyltin-induced cytotoxicity in the mouse hippocampus.	共著	平成24年3月	Neurosci. Lett. 511, 116-119.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
海馬歯状回神経障害・再生モデル動物における無気力症候	平成26年11月	第44回日本神経精神薬理学会年会
Disruption of ion-trafficking system in the cochlear spiral ligament prior to noise-induced hearing loss	平成26年11月	51st Inner Ear Biology Workshop (IEB 2014)
心房細動患者におけるダビガトラン投与時の活性化部分ートロンボプラスチン時間(APTT)延長に関わる危険因子の検討	平成26年12月	第35回臨床薬理学会年会
Protease-activated receptor-1は成体海馬歯状回由来神経系前駆細胞の増殖を抑制する	平成27年3月	第88回日本薬理学会年会
ギャップ結合阻害薬は聴覚障害および平衡感覚障害を惹起する	平成27年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成23年4月～平成26年11月	日本神経精神薬理学会　理事
平成24年4月～現在	星ヶ丘厚生年金　地域医療諮問委員会　委員
平成25年4月～平成27年3月	日本薬学会　理事
平成25年4月～平成27年3月	公益財団法人　薬学研究振興財団　運営助言委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬理学	職名　講師	氏名　米山雅紀
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成19年4月～現在に至る	シラバスよりも細分化した到達目標プリントを配布し、薬剤師として必要な知識を明確化し、学生が取り組みやすいようにした。薬理学や生化学の領域とリンクさせ、医療系薬学の基礎として重要であることを意識させた。授業評価は、概ね良好（5点満点中4以上）
		平成19年4月～現在に至る	実習等の参加型授業では、小グループを作り、得られた結果をグループ内で議論させ、その内容について口頭試問形式で質問し、適宜、ヒントを与えながら再考させることで、より授業の目的・内容を理解させることが出来る。
2　作成した教科書、教材、参考書			
医療薬学実習（薬理学）実習書		平成17年～現在に至る	薬理学に関する実習の実習書の編纂。
生理解剖学Ⅲ演習問題の作成		平成19年～現在に至る	薬剤師国家試験に準じ、アドバンスな問題を加えた演習プリントを作成し、適宜、解説を行う。
基盤演習Ⅴ演習問題の作成		平成26年9月～12月	薬剤師国家試験に準じ、アドバンス問題を加えた演習問題を作成し、Team-Based Learningによる学習指導を行う。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当なし			
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
第3回薬剤師のためのワークショップ in 近畿		平成18年7月16、17日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加。
OSCE評価者		平成21年～現在に至る	摂南大学薬学部および近畿圏内の薬学部で実施されたOSCEにおいて評価者として参加。
摂南大学薬学部FDフォーラムに参加		平成22年～現在に至る	摂南大学薬学部の教員が対象となるFDに参加し、教育方法等について議論。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Beneficial effect of cilostazol-mediated neuronal repair following trimethyltin-induced neuronal loss in the dentate gyrus	共著	2015年	Journal of Neuroscience Research 93:55-66
Lithium promotes neuronal repair and ameliorates depression-like behavior following trimethyltin-induced neuronal loss in the dentate gyrus.	共著	2014年	PLoS One 9(2), e87953.
Possible involvement of caspases in proliferation of neocortical neural stem/progenitor cells in the developing mouse brain	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull 37 1699-1703.
Beneficial in vivo effect of aripiprazole on neuronal regeneration following neuronal loss in the dentate gyrus: evaluation using a mouse model of trimethyltin-induced neuronal loss/self-repair in the dentate gyrus.	共著	2013年	J. Pharmacol. Sci. 124, 99-111
In vivo and in vitro treatment with edaravone promotes proliferation of neural progenitor cells generated following neuronal loss in the mouse dentate gyrus.	共著	2013年	J. Pharmacol. Sci. 121, 74-83
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
リチウムによる歯状回神経障害モデルマウスの神経再生の促進		2014年9月	第57回日本神経化学会大会
海馬歯状回神経障害・再生モデル動物における精神神経症状		2014年11月	第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会合同年会
Acoustic overstimulation activates 5' -AMP-activated protein kinase through a temporary decrease in ATP level in the cochlear spiral ligament prior to noise-induced hearing loss		2014年11月	51st Inner Ear Biology Workshop (IEB 2014)
メラトニンは海馬歯状回ニューロン脱落後のニューロン再生を抑制する		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
マウスにおける各種ストレスによる聴覚障害		2015年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
平成21年～現在に至る	日本薬理学会学術評議員
平成23年4月～現在に至る	日本神経精神薬理学会学術評議員
平成24月～平成25年8月	学校法人常翔学園評議員
平成24年	薬学共用試験CBTモニター委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬理学	職名　助教	氏名　芝　達雄
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）			
解剖見学における学生への対応		2012年10月～12月2013年10月～12月2014年10月～12月	見学中に体調が悪くなってしまう学生を介護し、心のケアに努めた。また解剖中に様々な臓器を出していただき、それに触れる体験ができるのだが、なるべく希望者全員が触れるよう工夫した。
動物飼育室利用者講習会における講習内容スライドの修正・追加		2014年2月～4月 2015年2月～3月	毎年学生を対象に開催される動物飼育室利用者講習会において、前年度以前より使用していたスライドを修正・追加した。その際、学生が動物飼育室の使用方法について理解しやすいように配慮した。
研究室における国家試験対策勉強会の開催		2013年4月～7月	国家試験対策講義の授業内容について、研究室で小グループ単位の勉強会を開催し、それぞれのグループ内で勉強を教え合わせることで、教える側も教わる側も理解度があがった。
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
①第1回薬学部FDフォーラムに参加		2013年4月4日	スタートアップゼミの教育効果について。
②第2回薬学部FDフォーラムに参加		2013年5月13日	薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について。
③第3回薬学部FDフォーラムに参加		2013年9月5日	卒業判定試験、国家試験対策、共用試験対策、第三者評価などについて。
④第4回薬学部FDフォーラムに参加		2013年10月18日	薬学教育評価の目的と活用について山田勉先生からご教示いただいた。
⑤第5回薬学部FDフォーラムに参加		2013年10月28日	改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて日下部吉男先生からご教示いただいた。
⑥第6回薬学部FDフォーラムに参加		2013年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方について倉本展行先生からご教示いただいた。
⑦第7回薬学部FDフォーラムに参加		2013年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について松下佳代先生からご教示いただいた。
⑧第8回薬学部FDフォーラムに参加		2013年12月6日	レギュラトリーサイエンスについて丈達泰史先生からご教示いただいた。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Adult neurogenesis is regulated by endogenous factors produced during neurodegeneration.	共著	2011年3月	Jounal of pharmacological sciences. 115 (4)
In vivo and in vitro treatment with edaravone promotes proliferation of neural progenitor cells generated following neuronal loss in the mouse dentate gyrus.	共著	2013年1月	Jounal of pharmacological sciences. 121 (1)
Beneficial in vivo effect of aripiprazole on neuronal regeneration following neuronal loss in the dentate gyrus: evaluation using a mouse model of trimethyltin-induced neuronal loss/self-repair in the dentate gyrus.	共著	2014年1月	Jounal of pharmacological sciences. 124 (1)
Lithium promotes neuronal repair and ameliorates depression-like behavior following trimethyltin-induced neuronal loss in the dentate gyrus.	共著	2014年2月	PloS One. 9 (2)
Possible involvement of caspases in proliferation of neocortical neural stem/progenitor cells in the developing mouse brain.	共著	2014年10月	Biological & Pharmaceutical bulletin. 37 (10)
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
成体脳の側脳室下帯由来神経系幹・前駆細胞におけるルテニウムレッド感受性チャネルによる分化調節		2014年9月29日	第57回日本神経化学会大会
成体海馬歯状回の神経新生に対するAcanthopanax gracilistylusおよび Bacopa　monnieriの促進効果		2015年3月28日	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
	該当なし。		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬理学	職名　助教	氏名　山口　太郎

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 特別研究・応用薬学実習における学生指導　（授業評価等を含む）	平成24年4月1日 ～現在に至る	特別研究・応用薬学実習を通して学生との討論を繰り返し、学生の問題解決能力の習得を目指した。
2　作成した教科書、教材、参考書 該当なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2014年7月12日	FDワークショップにて「理想とする医療従事者の育て方」を議題に教員間の意見交換を行った。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Mechanism underlying the protective effect of tempol and Nω-nitro-L-arginine methyl ester on acoustic injury: possible involvement of c-Jun N-terminal kinase pathway and connexin26 in the cochlear spiral ligament.	共著	2010年8月	J Pharmacol Sci. 114, 50-62.
Acoustic overstimulation activates 5'-AMP-activated protein kinase through a temporary decrease in ATP level in the cochlear spiral ligament prior to permanent hearing loss in mice.	共著	2011年8月	Neurochem. Int. 59. 812-820.
Indomethacin Ameliorates Trimethyltin-Induced Neuronal Damage in Vivo by Attenuating Oxidative Stress in the Dentate Gyrus of Mice.	共著	2011年11月	Biol. Pharm. Bull. 34, 1856-1863
Opposing roles of glucocorticoid receptor in trimethyltin-induced cytotoxicity in the mouse hippocampus.	共著	2012年3月	Neuroscience Lett. 511, 116-119.
Disruption of ion-trafficking system in the cochlear spiral ligament prior to permanent hearing loss induced by exposure to intense noise: possible involvement of 4-hydroxy-2-nonenal as a mediator of oxidative stress.	共著	2014年7月	PLOS One
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Disruption of ion-trafficking system in the cochlear spiral ligament prior to noise-induced hearing loss.		2014年11月	51st Inner Ear Biology Workshop (IEB 2014)
糖尿病は音響外傷性難聴発症のリスクを高める。		2015年3月	日本薬学会第135年会
ギャップ結合阻害薬は聴覚障害および平衡感覚障害を惹起する。		2015年3月	日本薬学会第135年会
マウスにおける各種ストレスによる聴覚障害。		2015年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
該当なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物治療学	職名　教授	氏名　　前田　定秋
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		平成14年～現在 （毎年更新）	生理解剖学、疾患、薬物治療学、治療薬の薬理作用を疾患ごとにまとめた講義用プリントを作成した。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①知っておきたい薬物治療（東京化学同人）		平成20年3月	編集
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項			該当なし
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Nitric oxide inhibits lipopolysaccharide-induced inducible nitric oxide synthase expression and its own production through the cGMP signaling pathway in murine microglia BV-2 cells.		共著	平成22年6月	J Pharmacol Sci. 113(2):153-60.
（論文）Apelin is a crucial factor for hypoxia-induced retinal angiogenesis.		共著	平成22年11月	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 30(11):2182-7.
（論文）Caspase-4 directly activates caspase-9 in endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis in SH-SY5Y cells.		共著	平成23年2月	J Pharmacol Sci. 115(2):239-43.
（論文）Apelin deficiency accelerates the progression of amyotrophic lateral sclerosis.		共著	平成23年8月	PLoS One. 2011;6(8):e23968.
（論文）Inhibition of apelin expression switches endothelial cells from proliferative to mature state in pathological retinal angiogenesis.		共著	平成25年7月	Angiogenesis. 16(3):723-34.
2．学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月	学会名
ドパミン神経による脳内サイトカイン産生の調節			平成26年5月	日本薬理学会近畿部会
緑内障モデルマウスの網膜神経障害に対するAktの活性化を介したapelinの保護作用			平成26年9月	日本眼薬理学会
NMDA誘発網膜神経節細胞死に対するTNF-alpha発現抑制を介したapelinの保護作用			平成26年10月	日本薬理学会近畿部会
初代培養神経細胞におけるノルアドレナリンによるアストロサイトを介した神経保護作用			平成27年3月	日本薬理学会年会
ApelinはTNF-alphaの発現を介してNMDA誘発網膜神経節細胞死に対して保護作用を示す			平成27年3月	日本薬学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成10年4月～現在	日本薬理学会評議員
平成22年4月～平成24年3月	全国薬科大学長・薬学部長会議理事会監事
平成23年6月～平成24年6月	日本私立薬科大学協会理事
平成24年4月～現在	枚方市民病院医療事故等防止監察委員協議会委員
平成24年5月～平成26年3月	日本薬理学会財務委員会委員
平成24年6月～現在	薬学共用試験センター理事
平成24年9月～現在	枚方市生活安全推進協議会副会長
平成25年8月～現在	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員
平成26年4月～現在	日本薬理学会企画教育委員会委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物治療学	職名　講師	氏名　吉岡　靖啓

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		該当なし
2　作成した教科書、教材、参考書 薬物治療学プリント（代謝性疾患、内分泌疾患、骨疾患、血液疾患）	平成19年4月 ～ 現在に至る （毎年更新）	学生の理解を深めるために、生理解剖学的背景から、症候学、薬理学、薬物療法学を疾患ごとにまとめた教材を作成した。この教材の使用により、単一の教科書で学ぶことが出来なかった薬物治療学を容易に学ぶことが可能になった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①摂南大学教職員研修ワークショップに参加	平成23年8月23日、24日	摂南大学寝屋川学舎に教職員が集まり、研修を行った。
②第１回薬学部FDワークショップに参加	平成24年7月7日	薬学部の教員の過半数が参加した第１回薬学部FDワークショップに参加し、留年生への対応や出席率の改善について議論した。
③2013年度薬学部FDワークショップに参加	平成25年7月13日	薬学部の教員の過半数が参加した2013年度薬学部FDワークショップに参加し、学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきことについて協議した。
④薬学部公開講座委員	平成19年4月 ～ 平成25年3月	薬学部公開講座（卒後教育）の企画、運営を行った。
⑤薬学部FD委員会委員	平成19年4月 ～ 現在に至る	薬学部FD活動の企画、運営を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Nitric oxide inhibits lipopolysaccharide-induced inducible nitric oxide synthase expression and its own production through the cGMP signaling pathway in murine microglia BV-2 cells.	共著	平成22年6月	J Pharmacol Sci. 113(2):153-60.
（論文）Apelin is a crucial factor for hypoxia-induced retinal angiogenesis.	共著	平成22年11月	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 30(11):2182-7.
（論文）Caspase-4 directly activates caspase-9 in endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis in SH-SY5Y cells.	共著	平成23年2月	J Pharmacol Sci. 115(2):239-43.
（論文）Apelin deficiency accelerates the progression of amyotrophic lateral sclerosis.	共著	平成23年8月	PLoS One. 2011;6(8):e23968.
（論文）Inhibition of apelin expression switches endothelial cells from proliferative to mature state in pathological retinal angiogenesis.	共著	平成25年7月	Angiogenesis. 16(3):723-34.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ドパミン神経による脳内サイトカイン産生の調節	2014年6月	第125回日本薬理学会近畿部会
過酸化水素誘発運動神経細胞死に対するアストロサイトを介したノルアドレナリンの保護作用	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
L-dopa attenuates the cytokine production in the mouse brain.	2015年3月	第88回日本薬理学会年会
Noradrenaline protects primary cortical neurons against H2O2-induced cell death by increasing the supply of glutathione from astrocytes.	2015年3月	第88回日本薬理学会年会
初代培養神経細胞におけるノルアドレナリンの過酸化水素誘発神経細胞死抑制作用	2015年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成22年9月～現在	日本薬理学会代議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物治療学	職名　助教	氏名　石丸　侑希
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫			該当なし
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第133年会にて、『実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性』について発表した。		2013年3月28日	医療費削減の観点より、OTC医薬品を用いた医療が推進されていることから、実地臨床に従事する薬剤師の協力のもと、セルフメディケーションに関する演習を行った結果、本演習が学生にセルフメディケーションの重要性を認識させるために有用であることが示された。
日本薬学会第134年会にて、『摂南大学で実施している薬学臨床演習の改訂薬学教育モデル･コアカリュキュラムへの対応と評価』について発表した。		2014年3月30日	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴い、薬物療法を主体的に計画、実施、評価できる能力が求められていることから、学生にその資質を修得させるためにPBL形式でカルテ読解演習を行った結果、本演習が有用であることが示された。
4　その他教育活動上特記すべき事項			
第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）に参加した。		2011年8月27日～28日	薬学教育従事者が集まり、実務実習および薬学教育に関する研修を行った。
『カリキュラム改訂ワーキンググループ』に参画した。		2013年12月6日～2014年3月31日	本学カリキュラムのディプロマポリシーの一部である『コミュニケーション』および『地域及び多職種との連携』について議論するグループに参画し、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム改訂を行った。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Apelin is a crucial factor for hypoxia-induced retinal angiogenesis.　（査読付）	共著	2010年11月	American Heart Association, Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology 30(11)
（論文）Apelin deficiency accelerates the progression of amyotrophic lateral sclerosis.（査読付）	共著	2011年8月	PLoS, PLoS One 6(8)
（論文）Performance of cell-penetrating peptide-linked polymers physically mixed with poorly membrane-permeable molecules on cell membranes.　（査読付）	共著	2012年5月	Elsevier, European Journal Pharmaceutics Biopharmaceutics, 81(1)
（論文）Inhibition of apelin expression switches endothelial cells from proliferative to mature state in pathological retinal angiogenesis.（査読付）（筆頭論文）	共著	2013年7月	Springer, Angiogenesis 16(3)
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
緑内障モデルマウスの網膜神経障害に対するAktの活性化を介したapelinの保護作用		2014年9月	第34回日本眼薬理学会
網膜血管形成に伴うfibronectinの発現上昇に対するapelin欠損の影響		2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
NMDA誘発網膜神経節細胞死に対するTNF-alpha発現抑制を介したapelinの保護作用		2014年10月	第126回日本薬理学会近畿部会
アペリンはTNF-alpha発現抑制を介してNMDA誘発網膜神経節細胞死を保護する。		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
NMDA誘発網膜神経細胞死に対するapelinのAktおよびERKの活性化を介した保護作用		2015年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
該当なし			

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬物治療学	職名　助手	氏名　山室　晶子
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 ①未来型薬剤師養成のための臨床実務実習 血圧脈波検査装置やスパイロメーターなどを用いた臨床実務実習の実施		平成23年4月～現在に至る	本実習ではフィジカルアセスメントに基づいて患者状態を把握し、薬物に関する治療方法を提案できる未来型薬剤師の養成を目的としている。その中で、動脈硬化度測定や肺機能検査の測定体験により得られた検査結果を解析することにより模擬患者の状態を考察させ、改善方法等を考察させた。
②キャリア形成のためのインターンシップボランティアの引率		平成21年4月～現在に至る	「薬系インターンシップ・ボランティア」で実施されたインターンシップ実習施設へ学生を引率した。
2　作成した教科書、教材、参考書 臨床実務実習の実習書		平成26年4月	臨床実務実習で使用する実習書のうち、肺機能検査の項目を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第24回日本薬医療薬学会年会において「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習の満足度と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性」について発表した		平成26年9月28日	実際の就労体験やボランティアを行うことにより、学生自身の資質や適性を考えるきっかけとなり学生の学習意欲の向上することが示された。
第23回日本薬医療学会年会において「薬系インターンシップ・ボランティア体験学習卒後進路決定における効果」について発表した		平成25年9月22日	実際の就労体験等を行うことにより、学生の資質や適性及び志望に応じた進路を選択する上で有用であることが示された。
日本薬学会第133年会において「未来型薬剤師の養成(6):新しい臨床技能教育(スキルスラボ実習)による薬学生の意識変化」について発表した		平成24年3月28日	薬物治療の効果判定、副作用の発現防止等に積極的に関わり、適切な薬物治療計画を立案・提案・評価できる薬剤師が社会から求められていることから、臨床技能教育を行った結果、本実習により将来の薬剤師として未病・予防・セルフメディケーションに積極的に関わる意識を芽生えさせた。
4　その他教育活動上特記すべき事項 薬学部FD会議に参加した		2014年4月4日 2014年9月2日	薬学部のFD会議に参加し、CBT、国家試験、実務実習等の協議に参加した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Nitric oxide inhibits lipopolysaccharide-induced inducible nitric oxide synthase expression and its own production through the cGMP signaling pathway in murine microglia BV-2 cells. (査読付)	共著	平成22年6月	J Pharmacol Sci. 113 (2) :153-60.
(論文) Apelin is a crucial factor for hypoxia-induced retinal angiogenesis. (査読付)	共著	平成22年1月	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 30 (11) :2182-7.
(論文) Caspase-4 directly activates caspase-9 in endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis in SH-Sy5Y cells. 「筆頭論文」 (査読付)	共著	平成23年2月	J Pharmacol Sci. 115 (2) :239-43.
(論文) Apelin deficiency accelerates the progression of amyotrophic lateral sclerosis. (査読付)	共著	平成23年8月	PLoS One. 6 (8) :e23968
(論文) Inhibition of apelin expression switches endothelial cells from proliferative to mature state in pathological retinal angiogenesis. (査読付)	共著	平成25年7月	Angiogenesis. 16 (3) :723-34.
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ドパミン神経による脳内サイトカイン産生の調節		平成26年6月	第125回日本薬理学会近畿部会
運動神経細胞株NSC34 の小胞体ストレス誘発細胞死に対する変異SOD1遺伝子導入の影響		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
初代培養神経細胞におけるノルアドレナリンの過酸化水素誘発神経細胞死抑制作用		平成27年3月	日本薬学会第135年会
Noradrenaline protects primary cortical neuruons against H2O2-induced cell death by increasing the supply of glutathione from astrocytes.		平成27年3月	第88回日本薬理学会年会
NOX5 による活性酸素種産生に対する alpha-synuclein の影響		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬剤学	職名　教授	氏名　山下　伸二
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 ①コンピューターを用いた動態解析（simulation）講義の導入		2011年～現在に至る	薬物動態学の講義において、学生個々にコンピューターを用いた動態simulationを実施させることによって、より実践的な教育を行った。
②授業内容の理解を促進するためのプリントの作成		1989年～現在にいたる（毎年更新）	教科書のみでは分かり難い内容に関して、補助資料としてプリントを作成し、学生に配布。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①図解薬剤学		1990年7月～現在にいたる 現在第5版（2012年改訂）	薬剤学に関する内容を図解中心に解説。現在まで毎年生物薬剤学、薬物動態学の教科書として使用。
②生物薬剤学		2001年4月～現在に至る。	アドバンスな内容の参考書として使用。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当無し			
4　その他教育活動上特記すべき事項 ①（公社）日本薬剤学会において会長を務める		2014年～現在に至る。	・日本薬剤学会の会長として、薬剤学の研究および教育に関して学会を運営した。
②国際薬学連合（FIP）会長Buchman博士　講演会主催		2014年5月23日	・国際薬学連合会長を迎えた講演を主催し、世界の薬剤師の地位向上に向けた討論を行った。
③博士論文審査（外部評価者）		2014年 7月	・静岡県立大学大学院薬学研究科において、外部評価者として博士論文の副査を行った。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Measurement of Drug Concentration in the Stomach After Intragastric Administration of Drug Solution to Healthy Volunteers: Analysis of Intragastric Fluid Dynamics and Drug Absorption.	共著	2013年4月	Pharm Res. 30(4):951-8.
（論文）Dynamic Analysis of Fluid Distribution in the Gastrointestinal Tract in Rats: PET Imaging after Oral Administration of Non-absorbable Marker, [18F]Deoxyfluoropoly(ethylene glycol).	共著	2013年6月	Mol Pharm. 3;10(6):2261-9
（論文）Assessment of absorption potential of poorly water-soluble drugs by using the dissolution/permeation system.	共著	2013年11月	Eur J Pharm Biopharm. 85(3):1317-24
（論文）In vitro-in vivo correlation in the effect of supersaturation on intestinal absorption of BCS class 2 drugs.	共著	2014年3月	Mol Pharm. 11(3):746-54
（論文）Effect of Excipients on the Particle Size of Precipitated Pioglitazone in the Gastrointestinal Tract: Impact on Bioequivalence	共著	2014年9月	AAPSJ. 16(5):1119-27

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(招待講演) "Development of oral drug product based on BCS concept; integrating drug permeability, solubility and dissolution"	2014年4月	5th Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia)
(招待講演) "GI PET Studies of GI Transport"	2014年8月	In Vivo Predictive Dissolution Conference (Ann Arbor, USA)
(基調講演) "Streamlining the development of oral drug product: Role of researchers in academia"	2014年9月	Annual meeting of the German Pharmaceutical Society (DPhG) 2014 (Frankfurt, Germany
(基調講演) "What do you need to know for IVIVC; dissolution, precipitation and re-dissolution in the GI tract"	2014年10月	FIP International Symposium on BA/BE of Oral Drug Products 2014 (Seoul, Korea)
(招待講演) "Ambition or Just a Dream? History and Future Perspective for Oral Delivery of Biologics"	2014年11月	2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA)

III　学会および社会における主な活動	
2014年～現在に至る	（公社）日本薬剤学会 会長
2012年～現在に至る	創剤フォーラム世話人代表
2008年～現在に至る	国際薬学連合（FIP）サイエンス部門Expert member
2006～2009年	日本薬物動態学会理事

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬剤学研究室	職名　講師	氏名　片岡　誠
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
①学外演習の実施		2014年11月20日	スタートアップゼミの一環として1回生の担任学生(6名)+19名を対象に製薬工場の見学を計画・実施した。実際に製薬企業を見学することで学生の今後のモチベーションに繋がった。
2　作成した教科書、教材、参考書			
①医療薬学実習実習書（教材）		平成13年～現在に至る（毎年更新）	薬物の体内動態に関する実習の内容について、学生が理解しやすいように実習項目だけでなく全体を通した教材を作成した。これによって、より実習内容および学生の理解を深めることが可能となった。
②生物薬剤学（教材）		平成26年～	生物薬剤学に関する授業の内容について、学生の理解度を向上させるために教科書だけでは足りない資料を作成した。これによって、より学生の理解度を高めることが可能となった。
③薬局方概論（教材）		平成26年～	薬局方概論に関する授業の内容について、学生の理解度を向上させるために教科書だけでは足りない資料を作成した。これによって、より学生の理解度を高めることが可能となった。
④生物（教材）		平成26年～	生物に関する授業の内容について、学生が理解しやすいように教科書ベースの資料を作成した。また補足資料も追加することで学生の理解度を高めることが可能となった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4　その他教育活動上特記すべき事項			
①平成25年度薬学部ＦＤフォーラムに参加		平成25年度	ＦＤフォーラムに参加し、また、多くの意見交換した。特にルーブリックについて討論した。
②中高大連携教育推進委員会主催研修会に参加		平成25年12月11日	常翔学園関係の中高大連携教育推進の一環である研究会に参加し、多くの人と教育について議論・討論した。
③特別研究ワーキンググループ		平成25年度	より良い特別研究を遂行できるように多くの議論・討論をかさねた。また、特別研究用のルーブリックや単位認定要件等を決定した。
④第6回教職員研修ワークショップに参加		平成25年9月3-4日	多くの教職員とグループ討議を行いプロダクトを作成することで、学習に関する方略などについて学んだ。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Application of dissolution/permeation system for evaluation of formulation effect on oral absorption of poorly water-soluble drugs in drug development	共著	2012年6月	Pharm Res. 29(6):1485-94
（論文）Dynamic analysis of GI absorption and hepatic distribution processes of telmisartan in rats using positron emission tomography	共著	2012年9月	Pharm Res. 29(9):2419-31
（論文）Establishment of MDCKII Cell Monolayer with Metabolic Activity by CYP3A4 Transduced with Recombinant Adenovirus	共著	2013年8月	Drug Metab Pharmacokinet 27(2):125-31
（論文）Assessment of absorption potential of poorly water-soluble drugs by using the dissolution/permeation system	共著	2013年11月	Eur J Pharm Biopharm. 85(3B):1317-24
（論文）A new in vitro system for evaluation of passive intestinal drug absorption: establishment of a double artificial membrane permeation assay	共著	2014年8月	Eur J Pharm Biopharm. 88(3):840-6
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）人エリン脂質膜を用いた新規膜透過性評価システムの構築		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）Alkyl-Maltosides の吸収促進効果に及ぼす消化管内混合ミセルの影響		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）大腸内視鏡検査用造影剤「レクチン固定化蛍光ナノスフェア」の安全性評価		2014年7月	第30回日本DDS学会学術集会
（演題名）Kinetic Analysis on the Fluctuation of Systemic Exposure of Drug metabolites Caused by DDI		2014年11月	2014 American Association of Pharmaceutical Scientists Annual Meeting and Exposition
（演題名）HPMC-ASの薬物結晶化抑制作用に及ぼす胆汁酸及び脂質の影響		2015年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	日本薬剤学会英語セミナー委員		
平成24年4月～現在	日本薬剤学会英語セミナー西地区委員長		
平成24年4月～現在	日本薬剤学会経口吸収FG運営委員		
平成26年4月～現在	日本薬剤学会評議員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬剤学	職名　助教	氏名　東野　晴輝
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）			該当なし
2　作成した教科書、教材、参考書 医療薬学実習の実習書		2014.6-現在	薬剤学分野のコアカリキュラムに準拠した内容の実習書の作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 2014年度FDフォーラムへの参加		2014.4.4, 9.2 2014.10.29	薬学教育に関するコアカリキュラムなどの講演への参加
2014年度OSCE委員会委員		2014通年	OSCEの運営に関する業務
2014年度動物飼育室運営委員会		2014通年	実験動物の飼育、飼育室運営に関する業務
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）A potential of peanut agglutinin-immobilized fluorescent nanospheres as a safe candidate of diagnostic drugs for colonoscopy.		共著	2011.3	European journal of pharmaceutical sciences
（論文）Essence of affinity and specificity of peanut agglutinin-immobilized fluorescent nanospheres with surface poly(N-vinylacetamide) chains for colorectal cancer.		共著	2011.11	European journal of pharmaceutics and biopharmaceutics
（論文）Measurement of drug concentration in the stomach after intragastric administration of drug solution to healthy volunteers: analysis of intragastric fluid dynamics and drug absorption.		共著	2013.4	Pharmaceutical research
（論文）In Vitro-in Vivo Correlation of the Effect of Supersaturation on the Intestinal Absorption of BCS Class 2 Drugs.		共著	2014.1	Molecular pharmaceutics
（論文）Specificity of lectin-immobilized fluorescent nanospheres for colorectal tumors in a mouse model which more resembles the clinical disease		共著	2014.4	Contrast Media and Molecular Imaging

２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
難溶解性薬物の過飽和溶解の持続時間と消化管吸収率の相関		2014. 5	日本薬剤学会
難溶解性薬物の消化管吸収に及ぼす胃内pHの影響		2014. 1	日本薬学会近畿支部
III　学会および社会における主な活動			
2009. 4～2014. 3	日本薬剤学会　学生会員　（2014. 4より正会員）		
2009. 4～2014. 3	日本薬学会　学生会員　（2014. 4より正会員）		
2009. 4～2014. 3	日本薬物動態学会　学生会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　臨床薬剤学	職名　教授	氏名　　今井　公江
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①医療薬学演習における学外実習の実践		(昭和61年6月～) 平成20年6月～　平成21年7月	４年制４年次生に対し学生が学外の病院で4週間及び薬局で1又は2週間の学外実習を行った。学外に出る前の知識やマナー等の事前指導および実習先での行動等について指導するとともに、学外の医療現場の先生方を講師に依頼し事前指導を徹底した。また、大学に戻ってからはその成果のまとめを行なって全員に口頭発表させた。発表に関する資料作成の指導も行い、発表会には実習先の数名の先生をコメンテーターとして依頼し、質問ご意見をいただいた。さらに、まとめの報告書を作成させ、冊子として各実習先にも配布した。
②早期体験学習における学外医療機関の見学		平成18年5月～　現在	１年次の早期体験学習において、病院及び薬局見学を引率した。入学間もない学生に医療現場を見聞させることにより、学習意欲の向上が見られた。
③練習問題のネットワーク上へのアップロード		平成13年4月～　現在	3年次の授業に関連する練習問題、特に学生が苦手とする計算問題をネットワーク上にアップし、学生が自由に利用できるようにしている。これにより意欲のある学生は自己学習し、理解を深めている。
④記入式の資料の導入		平成14年4月～　現在	3年次の授業中に使用する資料について、一方的な記述のみでなく部分的に空欄を設けて学生が授業を聴きながら記入していくタイプにした。これにより、聞き漏らさないように注意して聞く学生が増え、また、学生から覚えなければいけない点がわかりやすくなったとの声が寄せられた。
⑤初年次教育におけるモチベーションの向上のための工夫		平成24年4月～　現在	初年次のスタートアップゼミでは、大学生活が円滑に行えるような導入教育を中心に行うが、薬学を学ぶうえで薬に興味を持つことは重要である。そこで、複雑な工程がある医薬品製剤を自分の手で調製させることにより、薬学生としての意識及び知識の向上を図り、モチベーションの大いなる向上が認められた。
⑥初年次基盤実習において薬学生としての自覚を持たせる医薬品教育の導入		平成18年9月～　現在	初年次の基盤実習では基本的な手技を身に付けることが重要であるが、以後の薬学部における学習のモチベーション向上のために、１年次でも可能な実習内容を実際に流通している医薬品や家庭にあるＯＴＣ薬を用いて行うことを導入した。この実習は、学生に薬学部に来たことを実感させ、薬に関する興味をかきたてており、毎年薬学生としてのモチベーションが上がったとか、大変興味を持てた、薬のために多くの勉強をしたい、等の感想が寄せられており、その後の学習意欲を大いに向上させている。　なお、この実習内容は毎年見直しを行い、更なる改善に努めている。
⑦臨床の論文の読み方に関する教育及び研修の実践		平成23年6月26日	他大学で開催された医療に関する根拠を活用するための臨床論文の読み方に関するワークショップに、6年次生希望者を引率して参加した。参加した学生共々本学において不足している教育およびその重要性を認識することができたとともに、学生の興味を掻き立て意識を改善するものであった。

⑧臨床の論文の読み方に関する教育の実践	平成24年4月22日	医療に関する根拠を活用するための臨床論文の読み方に関するワークショップを企画し、希望する5，6年次生および他大学の学生や医療現場の薬剤師・医師等様々な人の参加を得て本学で開催した。参加した学生は、英語論文に格闘しながらもその重要性を認識し、医療現場で必要なことを理解し、積極的に取り組んだ。また、他大学や他職種の方との交流により、薬剤師としての将来に明確な意識を持つようになった。
⑨ＥＢＭ学習の実践	平成25年4月24日	５、６年次生の希望者に対し、医療現場の薬剤師に講師を依頼しＥＢＭ勉強会を実施した。少人数での実践的なグループ学習により、ＥＢＭへの理解を深めるとともに臨床に密接につながる内容で医療現場での重要性を認識できたとの声が寄せられ、また、研究に於いてのみでなく薬剤師として仕事をするうえで英語論文を読む必要があることを肌で感じたようであった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
①（調剤学総論）病院薬学総論	（平成14年4月～平成19年9月） 平成20年4月～　現在	病院薬学（調剤学）の授業内容について、学生が授業を聴きながら記入できるような教科書のエッセンスをまとめた教材を作成した。また、新規医薬品の出現や法制度の改正に伴って毎年更新しており、これにより、膨大な内容の重点部分を最新の状況に応じて把握できるようになった。
②基盤実習Ｃテキスト	平成18年9月 ～ 平成22年10月	基盤実習Ｃで行う実習内容を工夫し、分かりやすく解説したテキストを作成した。　これにより、実習内容の把握・理解が進んだ。このテキストは5年間毎年改訂した。
③基盤実習ａテキスト	平成23年9月～　現在	基盤実習ａで行う実習内容を工夫し、分かりやすく解説し、結果の記入例を含めたテキストを作成した。これによりレポート作成時にデータのまとめをしやすくなった。なお、このテキストは内容の改善に伴い毎年改訂している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
①第5回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成20年6月14日	薬学部教員が参加しより良い薬学部を作るために本音で語りあった。
②2008年度薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成21年1月7日	６年制薬学教育の充実に向けて薬学部教員と意見交換し共通認識を持った。
③第14回摂南大学ＦＤフォーラムに参加	平成21年3月18日	摂南大学の初年次教育の整備にむけて、他大学の実践事例や各学部の取り組みについての講演を聴講し議論した。
④第15回摂南大学ＦＤフォーラムに参加	平成22年3月10日	摂南大学の教養教育について、他大学の全学共通化カリキュラムの講演を聴講し他学部の教員と議論した。
⑤2010年度第１回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成22年4月3日	薬学部教員が集まり、共用試験や国試対策等について研修を行った。
⑥2010年度第２回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成22年9月22日	薬学部教員が集まり、6年制の国試対策や実務実習訪問指導等について研修を行った。
⑦2011年度第１回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成23年4月4日	薬学部教員が集まり、共用試験や実務実習等について研修を行った。
⑧2012年度第１回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成24年4月4日	薬学部教員が集まり、早期体験学習、スタートアップゼミ等について研修を行った。
⑨摂南大学薬学部第１回ＦＤワークショップに参加	平成24年7月7日	薬学部教員が小グループに分かれてテーマに従って討論を行い、結果をまとめて発表した。

⑩2012年度第２回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成24年9月6日	薬学部教員が集まり、ＦＤワークショップの結果やＣＢＴ等について研修を行った。
⑪2013年度第１回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年4月4日	薬学部教員が集まり、早期体験学習、スタートアップゼミや実務実習等について研修を行った。
⑫2013年度第２回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年5月13日	6年制薬学部の教育体制について研修を行った。
⑬2013年度第３回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年9月5日	薬学部教員が集まり、卒業判定試験、共用試験や第三者評価等について研修を行った。
⑭第19回摂南大学ＦＤフォーラムに参加	平成25年9月27日	「効果的なアクティブラーニングのコツ」について講演を聴講し、他学部教員と意見交換し
⑮2013年度第４回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年10月18日	薬学教育第三者評価について講演を聴講し、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の要点、求められるカリキュラム構成および必要とされる評価」等にかかる情報を教職員間で共有した。
⑯2013年度第５回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年10月28日	改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」について講演を聴講し、改訂の要点、求められるカリキュラム構成および必要とされる評価」等にかかる情報を教員間で共有した。
⑰2013年度第６回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方について講演を聴講し、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の要点、求められるカリキュラム構成および必要とされる評価」等にかかる情報を教職員間で共有した。
⑱2013年度第７回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について講演を聴講し、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の要点、求められるカリキュラム構成および必要とされる評価」等にかかる情報を教職員間で共有した。
⑲2013年度第８回薬学部ＦＤフォーラムに参加	平成25年12月6日	レギュラトリーサイエンスについて講演を聴講し、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の要点、求められるカリキュラム構成および必要とされる評価」等にかかる情報を教職員間で共有した。
⑳2013年度大学院ＦＤフォーラムに参加	平成25年12月6日	医療現場での臨床的課題等を対象とする研究を通して薬学分野の高度な知識・技能・態度を修得し、高度な医療に応えることができる優れた研究能力を有する薬学研究者及び薬剤師等の育成」を達成するため、大学院教育に求められるレギュラトリーサイエンスにかかる情報を共有した。
㉑2013年度大学院ＦＤフォーラムに参加	平成26年4月4日	薬学部教員が集まり、CBT対策、国試対策や早期体験学習、スタートアップゼミ、実務実習等について研修を行った。また、第3者評価についても情報を共有した。
㉒薬学部国家試験対策委員会委員	平成25年4月1日～現在に至る	薬学部国家試験対策委員会委員として、学生の指導方法について議論して実際に学生指導を行った。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Validated method using liquid chromatography-electrospray ionization tandem mass spectrometry for the determination of contamination of the exterior surface of vials containing platinum anticancer drugs.　(査読付)	共著	2011. 3	Elsevier, Talanta, (Vol. 85, No. 3)
（論文）Comparison of Contamination Levels on the Exterior Surfaces of Vials Containing Platinum Anticancer Drugs in Japan (査読付)	共著	2012. 11	日本薬学会, Biol. Pharm. Bull. (Vol. 35, No. 11)
（論文）Oral Mucosal Adhesive Films Containing Royal Jelly Accelerate Recovery From 5-Fluorouracil-Induced Oral Mucositis (査読付)	共著	2013. 2	日本薬理学会, J Pharmacol. Sci. (Vol. 121, No. 2)
（論文）Radical scavenging ability of glycyrrhizin (査読付)	共著	2013. 6	Elsevier, Free Rad. Antiox. (Vol. 3, No. 1)
（論文）Effect of dietary fiber on the level of free angiotensin II receptor blocker in vitro (査読付)	共著	2014. 5	日本薬学会, Biol. Pharm. Bull. (Vol. 37, No. 5)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）糖尿病治療薬の*in vitro*における遊離薬物量に対する食物繊維の影響	2014. 9	第24回日本医療薬学会年会
（演題名）メサラジン及びバルプロ酸のアルギン酸ナトリウムに対する吸着	2014. 10	第47回日本薬剤師会学術大会
（演題名）アセトアミノフェン坐剤の主薬放出性	2015. 3	日本薬学会第135年会
（演題名）ロサルタンカリウムのCaco-2細胞への取り込みに対するキトサンの影響	2015. 3	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
平成17年9月～平成24年3月	アスビオファーマ株式会社生物医学研究所　ヒト組織細胞利用研究倫理審査委員会委員
	（2007年4月までは第一アスビオファーマ株式会社）
平成24年4月～現在	アスビオファーマ株式会社　ヒト由来試料研究倫理審査委員会委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　臨床薬剤学研究室	職名　助教	氏名　岩﨑　綾乃

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
①卒業研究（４年制の４年生）における研究指導	平成11年4月～平成21年3月	①～④について、「科学分野で未知のことを明らかにする、真理を探究する」ために注意する点について、実験方法、ノートの取り方、データのまとめ方などを指導し、学生が主体的に実験計画を立て、考察できるようにしている。また、先輩が後輩を教える形をとることで、各自が責任を持って指導する経験を増やすようにしている。研究内容を学会で発表できるよう指導し、発表した学生からは「学会発表までの過程で学んだこと、外部に向けての発表が大変勉強になった」との感想があった。また、本学および、岩手医科大学、京都薬科大学、徳島大学、北陸大学の教員および学生との学外交流を目的とした共同セミナー「ナノライフサイエンスセミナー」（平成15年8月～現在に至る）に参加し、卒研生、応用薬学実習生の他大学との学生交流を行なっている。この当番校の時には、学生が運営の様々な係りを経験することで、会を開くための準備を体験させた。他大学との交流は学生に刺激や新しいつながりをもたらし「大変良い機会であった」との声が多数聞かれた。研究室内では、整理整頓を心がけ、安全に怪我のないような研究環境の維持に努めている。毎年の研究室配属説明会では、研究室は小さな社会であり、共同生活における注意点をふまえ、研究だけではなく社会性を養うことを説明し、研究室員一丸となり、学生の社会性の育成に努めている。また、毎年夏に学生を引率し学外で研究室内での卒研生セミナーを行ない、勉学、研究のディスカッションを行っている。この旅程を自分たちで考え、計画をたてさせることで、協調性を身につけさせる機会としている。研究室配属学生とは密に連絡を取り合い、コミュニケーションを取りながら研究室の運営をはかっている。
②応用薬学実習（４年生）における研究指導	平成22年4月～平成24年3月	
③特別研究Ⅰ（５年生）における研究指導	平成25年4月～平成26年3月	
④特別研究Ⅱ（６年生）における研究指導	平成22年4月～現在に至る 平成23年4月～現在に至る	
⑤分析化学実習（１年生）における実験指導	平成11年6, 7月～平成17年6, 7月	⑤～⑦について、分析化学実習は、１年生対象の実習であったため、内容を理解しやすいように、器具を実際に見せ、その名前や操作方法と操作の意味を教えるように工夫した。また、初心者にも使いやすい器具を選定し、スムーズな流れで実験が危険の無いように行なえるよう、実習準備を行なった。 分析化学実習から基礎薬学実習Ⅱへの移行時には、担当教員間で協力し、１年生の基礎勉強をふまえて、2年生用にさらに応用した分析方法の実習を取り入れた。 基盤実習は、１年生対象の実習であり、薬に興味を示してもらえるよう、分かりやすい説明の工夫をしている。また、基盤実習内で実習内容について担当教室の先生方と打ち合わせ会合（平成23年1月11日）を行い、内容を精査し、教育効果の高い実習について議論し、それらを取り入れた内容に改良した。学生からは「薬に対する興味が湧いた」「実験をするために大切なこと
⑥基礎薬学実習Ⅱ（２年生）における実験指導	平成18年11, 12月～平成19年11, 12月	
⑦基盤実習（１年生）における実験指導	平成20年9, 10月～現在に至る	
⑧「早期体験学習（薬剤師になるために）（１年生）」における施設見学指導	平成19年5月～平成21年5月	施設見学前に１年生自身で事前の下調べを行い、集合時間、場所を決めさせ、主体的な行動を促した。また、施設見学が充実する時間になるように事前調査に関するアドバイス等を行なった。また、見学終了後、内容のまとめ、感想文作成時には、誤字脱字、敬語などの文章添削の指導を行なった。1年生早期体験学習のポスター掲示による、優秀ポスターの選出のための教員投票に協力した。
⑨「早期体験学習（薬剤師になるために）（１年生）」におけるスモールグループディスカッション（SGD）のチューターとしての取り組み	平成19年4月～現在に至る	SGD チューター説明会に出席し、SGD 教育に対する認識を高めている（毎年3月開催）。チューターとして、学生の討論、意見交換が活発になるよう、事前準備をしている。討論の展開を予測し、意見交換が活発になるよう、レポートの添削、学生討論時の補助、発表会に携わっている。「SGDが楽しい」、「もっとやってみたくなりました」との感想が寄せられた。
⑩プレファーマシー実習（４年生）における指導	平成21年9月～現在に至る	プレファーマシー実習における学生指導、評価の協力を行っている（患者、来局者応対、疑義紹介、散剤、液剤、無菌操作の実践、服薬指導）。また、プレファーマシー実施説明会（平成22年8月24日）に参加し、実施における注意事項等を確認し、指導に活かした。
⑪薬局実務実習（５年生）における指導	平成22年4月～現在に至る	薬学部実務実習研修会（平成22年　第1回（4月3日）、第2回(4月10日)、第3回(4月16日)、平成23年第1回（4月9日））、に参加し、実務実習における学生指導時の注意点等の研修を受けた。訪問や面談により学生の実習情況を把握し、学生とコミュニケーションをとり、実習が滞りなく行なわれるよう努力している。実務実習発表会に参加、学生発表を聴講し、学生の実務実習での成果を確認し、次期の指導に活かしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
①分析化学実習（１年生）におけるプリント作成	平成11年6, 7月～平成17年6, 7月	毎年、実習のテキスト、補助プリントを精査し、前年の実習時における学生の行動もふまえ、より分かりやすく、かつ自分で考えることができるよう工夫し改良した。特に②と④では、担当学年の変更や実習の組み替えがあったことから、担当学年に相応しく教育効果を高められるように実習内容の変革を行なったため、テキストを刷新し、新たに構築したものを作成した。実習テキストについては、毎年更新したものを学生に使用させている。
②基礎薬学実習Ⅱ（２年生）におけるプリント作成	平成18年11, 12月～平成19年11, 12月	
③基盤実習ｃ（１年生）実習テキスト校正	平成21年8月～平成22年8月	
④基盤実習a（１年生）実習テキストおよびプリント作成と校正	平成23年8月～平成24年8月	
⑤基盤実習（１年生）実習テキスト改訂と校正	平成25年8月～現在に至る	

⑥「早期体験学習（薬剤師になるために）（１年生）」の講義における「SGD演習の進め方：自己学習からレポート提出まで（学生用）」、「SGD演習の進行手順（チューター用）」のガイド作成	平成20年3月～現在に至る（毎年更新）	平成20年度に学生およびチューターの教員へ配布するガイド、プリント資料を構築し作成した。大学１年生に入って初めてSGDに取り組む学生のために、その目的、進行表、提出物の確認、討議するテーマを明確に記載した。毎年SGDワーキンググループおよび準備運営担当委員内で内容を精査し、改訂を行なっている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
①FDフォーラム、ワークショップへの参加		
1. 第1回摂南大学FDフォーラム	平成14年7月16日	授業を変えれば学生の意識や意欲も変わり、大学も変わっていくという、教員意識改革の必要性を学んだ
2. 第2回摂南大学FDフォーラム	平成14年11月1日	摂南大学における入門教育の現状と課題について報告があり、今後の改善点を討論した
3. 第3回摂南大学FDフォーラム	平成15年3月1日	現在、大学における職業教育のあり方が問われており、それにどのように対応するかを学んだ
4. 第4回摂南大学FDフォーラム	平成15年7月16日	学生参画型授業の実際と効果について講演を聴講し、授業で活かしていく方法を学んだ
5. 第5回摂南大学FDフォーラム	平成15年10月31日	学生のためにどのような授業の工夫をすればよいか、多くの実例を学んだ
6. 第6回摂南大学FDフォーラム	平成16年2月27日	今後の高大連携の重要性を学んだ
7. 第7回摂南大学FDフォーラム	平成16年7月30日	特色ある大学教育支援プログラム申請した本学の取り組みについて情報を共有した
8. 第8回摂南大学FDフォーラム	平成16年10月29日	「先生が変わらないと大学は変わらない」という意識改革の重要性の講演を聴講した
9. 第9回摂南大学FDフォーラム	平成17年2月25日	授業支援ツールを活用しすることで授業をデザインするという、新しい学生の勉強支援ツールについて研修を受けた
10. 第10回摂南大学FDフォーラム	平成17年7月9日	特色ある大学教育支援プログラム、現代的教育ニーズ支援取組プログラム申請した本学の取り組みについて紹介があり、情報を共有した
11. 第11回摂南大学FDフォーラム	平成17年11月1日	「誰のための何のための授業公開か？」の内容で「学生のため」により良い授業に改善していくための授業公開のあり方について学んだ
12. 第1回薬学部FDフォーラム	平成18年9月11日	薬学部が6年制になったことから、薬学部における学習支援の在り方について教員間での情報共有を行なった
13. 第12回摂南大学FDフォーラム	平成19年3月16日	摂南大学における教育研究の再構築について基礎教育の充実をどうはかるかを討議した
14. 第13回摂南大学FDフォーラム	平成20年3月17日	摂南大学における学生の日本語能力の現状と日本語コミュニケーション力の向上について研修を受けた
15. 第5回薬学部FDフォーラム	平成20年6月14日	薬学部の学生の現状の問題点と良い点を教員間で語り合い情報共有をし、今後の発展を目指した
16. 第14回摂南大学FDフォーラム	平成21年3月18日	摂南大学の初年次教育の整備の現状について教員間で情報共有を行なった
17. 第15回摂南大学FDフォーラム	平成22年3月10日	摂南大学の教養教育を全学共通化する形にすることについて、研修を受けた
18. 2010年度第1回薬学部ＦＤフォーラム	平成22年4月3日	2010年度の薬学部運営、共用試験、国家試験対策、実務実習について研修を行なった
19. 2010年度第2回薬学部ＦＤフォーラム	平成22年9月22日	10月に摂南大学で行なわれる日本薬学会近畿支部大会における担当打ち合わせ、国試対策、実務実習について研修を行なった
20. 2011年度第1回薬学部ＦＤフォーラム	平成23年4月4日	2011年度の薬学部運営、共用試験、国家試験対策、実務実習について研修を行なった
21. 第17回摂南大学ＦＤフォーラム	平成24年3月16日	摂南大学のFD活動が10年を迎えるに当たり、これまでの活動と今後の発展について講演を聴講した
22. 薬学部ＦＤワークショップ	平成24年7月7日	講義への低出席率対応、留年生を減らす対策について教員間で討議した
23. 2012年度第1回薬学部FDフォーラム	平成24年4月4日	2012年度の看護学部開設、実務実習、カリキュラム改訂について研修を行なった
24. 2012年度第2回薬学部FDフォーラム	平成24年9月6日	7月7日のFDワークショップの結果報告があり、教員間で情報を共有し、また、共用試験と国家試験対策について研修を受けた
25. 第18回摂南大学ＦＤフォーラム	平成25年3月18日	甲南大学の問題解決型学習を用いた科目について実例を学んだ
26. 2013年度第1回薬学部FDフォーラム	平成25年4月4日	2013年度の薬学部運営方針、共用試験、国家試験対策、実務実習について研修を行なった
27. 2013年度第2回薬学部FDフォーラム	平成25年5月13日	国家試験合格率アップに向けた教育体制について研修を行なった
28. 2013年度薬学部FDワークショップ	平成25年7月13日	学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきことについて討論した
29. 2013年度第3回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	中見判定、国家試験、共用試験対策の研修を受け、また第3者評価について説明、7月13日の薬学部FDワークショップについて報告があり、教員間で情報を共有した
30. 19回摂南大学ＦＤフォーラム	平成25年9月27日	効果的なアクティブラーニングについて研修を受けた
31. 2013年度第4回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	薬学教育評価の目的と活用について研修を行なった
32. 2013年度第5回薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて詳細に学んだ
33. 2013年度第6回薬学部FDフォーラム	平成25年11月8日	学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方について研修を行なった
34. 2013年度第7回薬学部FDフォーラム	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について研修を行なった
35. 2013年度第8回薬学部FDフォーラム	平成25年12月6日	レギュラトリーサイエンスについて研修を行なった
36. 2014年度第1回薬学部FDフォーラム	平成26年4月4日	2014年度の薬学部運営、共用試験、国家試験対策、実務実習、第3者評価について研修を行なった
37. 2014年度第3回FDワークショップ	平成26年7月12日	理想とする医療従事者の育て方についてワールドカフェ方式による討論と発表を行った
38. 2014年度第2回薬学部FDフォーラム	平成26年9月2日	薬剤師国家試験、CBTに向けての計画、第三者評価に係る内容について話を伺った
39. 2014年度第3回薬学部FDフォーラム	平成26年10月29日	新カリキュラム、モデルコアカリについて詳細に説明を受け、評価について学んだ
40. 2014年度全学FDフォーラム	平成26年11月14日	研究倫理教育を授業や学生指導に取り入れる手法について学んだ

②学生指導に関連する研修、講習会受講		
1.「キャリア形成教育」に関する情報共有会	平成18年2月28日	現在の大学を取り巻く環境とその中でのキャリア形成教育の重要性について聴講し、学生教育への活用を目指した
2. カウンセリング講座	平成21年9月9日	学生と話をする場合のポイントについて、実際にトレーニングを行い研修した
3. ポータルサイト使用説明会	平成22年6月2日	学生へのメール配信および添付ファイル送信方法等の説明を受け、ポータルシステムの利用法の研修を行なった
4. カードリーダーと成績集計ソフトの説明会	平成22年6月7日	出欠に利用されるカードリーダーについて説明を受けた
5. 摂南大学メンタルヘルス研修会第1回	平成23年7月22日	発達障がいの基礎知識と対応について学んだ
6. 摂南大学メンタルヘルス研修会第2回	平成23年7月27日	心の病気と精神障がいの基礎知識と対応について学んだ
7. 摂南大学メンタルヘルス研修会第3回	平成23年7月29日	発達障がいや精神障がいを抱える学生に対する組織的な対応や連携について学んだ
8. E-learning moodle説明会	平成23年8月1日	インターネットを利用した新しい学習法について学んだ
9. キックオフミーティング	平成24年3月1日	学生指導法研修について講演を聴き、自立的な人材育成に役立つ指導法を学んだ
10. 個人情報保護研修会	平成25年3月11日	個人情報をどのように守るか注意点をふまえ研修を受けた
11. 就職情報共有会	平成25年7月30日	2013年度の大卒の就職動向について情報を共有できた
12. ソーシャルメディア説明会	平成25年10月1日	インターネットへの情報開示とその時に守るべきことやモラルについて研修を受けた
13. 摂南大学発達障がいへの理解を深める講演会	平成26年3月10日	発達障がいの人の行動様式を学び、周りの配慮が必要であることを学んだ
14. 情報メディア説明会	平成26年3月17日	新しいポータルサイトの利用方法について研修を受けた
15.「見える化」「見せる化」情報共有会	平成26年4月23日	学生のキャリア教育について大学内での情報共有を行った
16. 熱中症防止講習会	平成26年6月27日	熱中症の危険性と予防策について学んだ
17. 学生対応講習会	平成27年1月28日	学生への対応や学生相談室への繋ぎ方についてロールプレイを行いながら学んだ
③薬剤師の職能に関する研修、講習会受講		
1. 第１回小規模型薬剤師のためのワークショップin近畿	平成19年4月29, 30日	学習者の到達すべき目標設定と方法、評価法を具体的につくり、カリキュラムを作り上げる手法の研修を行なった
2. 臨床研究の倫理・規則に関する講習会：摂南大学	平成21年6月22日	臨床研究における倫理感および規則や書類作成について研修を行なった
3. 第２回神戸薬科大学シンポジウム：神戸薬科大学	平成21年7月26日	バイタルサインの実際のとり方や薬剤師がそれをどのように活かすかについて研修を受けた
4. 静薬学友会　関西支部会 講演会：京都	平成22年6月20日	行政、病院、薬局、大学のそれぞれの仕事の立場から見た薬剤師の役割について講義を受けた
5. ＥＢＭ(evidence based medicine)に関する講演会：京都府立医大	平成24年1月19日	EBMとはどのようなものか、それを治療にどう活かすか、講演を聴講した
6. ＥＢＭに関するワークショップ(critical appraisal skills programme)：摂南大学	平成24年4月22日	高齢者の高血圧治療薬の使用について、論文の吟味の仕方、判断について学んだ
7. 静薬学友会　関西支部会　講演会：京都	平成24年6月3日	災害時における薬剤師の役割について学んだ
8. ＥＢＭに関するワークショップ(critical appraisal skills programme)：神戸薬科大学	平成24年6月10日	医療情報検索方法、ランダム化比較試験の吟味方法について論文を用い研修を行なった
9. 医療研究倫理研修会：摂南大学	平成24年8月31日	医療研究における倫理について研修を受けた
10. 平成24年度薬学生涯研修講座 講演：静岡県立大学	平成24年12月9日	フィジカルアセスメントに必要な病態生理の知識について研修を受けた
11. 第6回科学的、合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ（症例解析＆文献評価ワークショップ2014）：北陸大学	平成26年5月10, 11日	糖尿病治療に関する症例解析、SOAPチャートの作成法について学んだ
12. 医療研究倫理講習会：摂南大学	平成26年9月8日	研究における倫理感および社会的説明責任について学んだ
13. 公的研究費の不正防止説明会：摂南大学	平成26年9月29日	研究活動、公的研究費の管理、監査のガイドライン、摂南大学における規則について研修を受けた
14. 不正防止に関するコンプライアンス教育にかかる説明会：摂南大学	平成26年12月5日	不正防止に関するコンプライアンスについて講義、理解度テストを受け、契約書の提出を行った

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
「筆頭論文」Change in 2' -deoxycytidine levels in various tissues of tumor-bearing mice. (査読付)	共著	2010年9月	Oncology Letters vol. 1 No. 6
「筆頭論文」Intravenously administered 2' -deoxycytidine suppresses mouse myeloma tumor growth. (査読付)	共著	2012年3月	Biol. Pharm. Bull. vol. 35 No. 2
「論文」Radical scavenging ability of glycyrrhizin. (査読付)	共著	2013年4月	Free Radicals and Antioxidants vol. 3 No. 1
「筆頭論文」Effect of dietary fiber on the level of free angiotensin II receptor blocker in vitro (査読付)	共著	2014年5月	Biol. Pharm. Bull. vol. 37 No. 5
「筆頭論文」一般用医薬品の胃腸薬における制酸力の比較検討 (査読付)	共著	2014年6月	薬学雑誌 vol. 134 No. 6

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
糖尿病治療薬の*in vitro*における遊離薬物量に対する食物繊維の影響	2014年9月	第24回日本医療薬学会年会（名古屋）
メサラジンおよびバルプロ酸のアルギン酸ナトリウムに対する吸着	2014年10月	第47回日本薬剤師会学術大会（山形）
ロサルタンカリウムのCaco-2細胞への取り込みに対するキトサンの影響	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
アセトアミノフェン坐剤の主薬放出性	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
該当なし	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　教授	氏名　塙　由美子
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①プレファーマシー実習		平成21年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
②薬事関連法規		平成21年4月～現在に至る	国家試験合格に必要な知識および薬剤師として働く際に必要な知識を中心に講義している。また、毎回、講義の最後に国家試験のような問題を解かせ、解説して、より確実に修得させている。次の講義の最初には前回の講義の確認問題をさせて復習させている。期末の最後２回の講義では全ての範囲の復習問題をさせ、解説している。何回も繰り返すことで、学習効果は上がるのではないかと考える。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①プレファーマシー実習書		平成21年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 薬学教育協議会各教科担当教員会議		平成22年4月～現在に至る	実務実習教科および薬学と社会教科担当者として、左記の会議に出席した。
日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会		平成22年4月～現在に至る	薬剤師国家試験問題に関する評価や問題点について法規・制度・倫理部門の検討を担当した。
薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構会議		平成23年4月～現在に至る	実務実習担当者として左記の会議に出席した。
第１回薬学部FDフォーラム		平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム		平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。

薬学部FDワークショップ	平成25年7月13日	「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」というテーマでワークショップに参加した。
第３回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
第４回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
第７回薬学部FDフォーラム	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」というテーマの講演を聴講した。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	2014年	医療薬学、Vol. 40 No. 3

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
透析患者の高リン血症治療薬・ＶＤ製剤・Ｃａ受容体作動薬の使用実態	2014年6月	医療薬学フォーラム2014

III　学会および社会における主な活動

平成21年4月～現在に至る	星ヶ丘厚生年金病院臨床研究審査委員会委員
平成22年4月～現在に至る	大阪府薬剤師会薬学生実務実習受入対策特別委員会委員
平成26年4月～現在に至る	大阪府登録販売者試験委員会委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　准教授	氏名　首藤　誠
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）			
①プレファーマシー実習		平成21年4月 ～ 現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。 また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
②実薬を利用した一般用医薬品概論		平成24年4月 ～ 現在に至る	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識を身に着けるため、また5年次に実施される薬局実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実際の一般用医薬品（OTC）を使った授業を行ってきた。実際の薬を用いた授業では、普段では手にしない種類の薬も含まれており、学生にとっては、よい機会になっている。 実際、学生アンケートでも実薬を使うことに関して、「よかった」と意見を寄せる学生もいる。 逆に、薬のパッケージ等の中で、どこが重要かをもっと教えてほしいとの意見もあったので、今後、そのような点に改善してく予定である。
2　作成した教科書、教材、参考書			
①プレファーマシー実習書		平成21年4月 ～ 現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。 ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
文部科学省医療人養成推進等委託業務薬学教育実務実習事前学習に関する調査・研究フォーラム		平成21年2月18日	実務実習事前学習に関する各大学の教育状況の報告と意見交換を行った。
日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会実務部会委員		平成23年4月～現在にいたる。	薬剤師国家試験問題に関する評価や問題点について実務部門の検討を担当した。
薬学教育協議会医薬品情報学教科担当教員会議		平成23年4月～現在にいたる。	医薬品情報学教科担当者として、左記の会議に出席した。

第１回薬学部FDフォーラム	平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム	平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
薬学部FDワークショップ	平成25年7月13日	「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」というテーマでワークショップに参加した。
第３回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
第４回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
第５回薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」というテーマの講演を聴講した。
第６回薬学部FDフォーラム	平成25年11月8日	「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」というテーマの講演を聴講した。
第７回薬学部FDフォーラム	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」というテーマの講演を聴講した。
第８回薬学部FDフォーラム	平成25年12月6日	「レギュラトリーサイエンスについて」というテーマの講演を聴講した。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）Trimethyltin initially activates the caspase 8/caspase 3 pathway for damaging the primary-cultured cortical neurons derived from embryonic mice.	共著	2011年	J. Neuroscience Research 89(4): 552-61.
（論文）Opposing roles of glucocorticoid receptor and mineralocorticoid receptor in trimethyltin-induced cytotoxicity in the mouse hippocampus	共著	2012年	Neurosci. Lett 511(2): 116-9
（論文）HPLC-method for deliberation of drug mammary transfer-evaluation of over-the-counter drugs (Loxonin(®)-S, Bufferin(®) A) in mother mice.	共著	2013年	Yakugaku Zasshi. 133(8):905-11.
（論文）Beneficial in vivo effect of aripiprazole on neuronal regeneration following neuronal loss in the dentate gyrus: evaluation using a mouse model of trimethyltin-induced neuronal loss/self-repair in the dentate gyrus.	共著	2013年	J Pharmacol Sci. Epub 2013 Dec 28.
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	2014年	医療薬学、Vol. 40 No. 3

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
統合失調症患者の処方薬に関する調査研究～抗精神病薬投与量とBMIの相関性	2014年7月	日本医薬品情報学会
医薬品服用時の飲水量に関する実態調査	2014年9月	日本医療薬学会
医薬品服用時の飲水量に関する実態調査	2014年11月	日本薬局学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　准教授	氏名　高田　雅弘

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
①プレファーマシー実習	平成24年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
②卒業研究における学外実習の実践	平成24年4月～現在に至る	卒業研究テーマとして「京都府におけるHIV陽性者に対する長期療養・在宅支援に関する研究」を継続的に実施している。学生にはAIDS文化フォーラムin京都の運営委員として活動してもらい、その活動を通じて、まずHIV陽性者の生の声を聞いて、行政（京都府・京都市）、京都府薬剤師会、各種支援団体などと実際に連携しながら研究を行っている。このようにすることで、学生達は自分たちの研究が現場で必要とされていることを実感しながら研究ができる。今後、研究成果をインターネットで広く公開し、臨床現場で活用していただくことで、より学生の研究意欲が向上するようにしていく予定である。
2　作成した教科書、教材、参考書		
①プレファーマシー実習書	平成24年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
②社会薬学副教材	平成24年4月～現在に至る （毎年更新）	社会薬学の分野については、制度改正が定期的に行われており、教科書の内容が古くなっていたり制度が複雑なため分かりにくい箇所がある。この点を踏まえて、学生が理解しやすいように、公開されている資料などをまとめ直し副教材を作成した（現在A4で147ページ）。これによって教科書では理解しにくい制度をわかりやすく解説することが可能となった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
市民講座にて「薬の防災対策」を講演	平成24年9月9日	交野市松塚地区市民講座にて講演を担当した。
市民講座にて「薬の正しい飲み方」を講演	平成25年2月17日	交野市郡津地区市民講座にて講演を担当した。
病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会委員	平成24年4月～現在に至る	左記委員会に参加し、実務実習にかかわる問題の協議・調整などを行った。
薬学と社会担当教員会議	平成25年11月9日	社会薬学教科担当者として左記の会議に出席した。

摂南大学公開講座を運営	平成24年4月～現在に至る	生涯学習支援委員（平成25年4月より委員長）として公開講座の企画立案から運営まで全てを担当した。
第１回薬学部FDフォーラム	平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム	平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
薬学部第２回FDワークショップ	平成25年7月13日	「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」というテーマでワークショップに参加した。
第３回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について」というテーマの講演を聴講した。
第５回薬学部FDフォーラム	平成25年11月8日	「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」というテーマの講演を聴講した。
薬学部FDフォーラム	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」というテーマの講演を聴講した。
第７回薬学部FDフォーラム	平成25年12月6日	「レギュラトリーサイエンスについて」というテーマの講演を聴講した。
第１回薬学部FDフォーラム	平成26年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「CBT対策」、5年生対象の「実務実習」と、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
平成26年度薬学共用試験OSCE実施説明会	平成26年4月13日	OSCE委員会委員長として左記の会議に出席し、平成26年度OSCEスケジュールとともに、薬学教育モデルコアカリキュラム改訂に対する対応の方針、OSCE課題の変更点、OSCE運用上の諸問題等に関する説明を受けた。
第２回薬学部FDフォーラム	平成26年9月2日	「今年度後期の重点業務」「国家試験について」などのテーマが取り上げられた。
薬学と社会担当教員会議	平成26年9月20日	社会薬学教科担当者として左記の会議に出席した。
第３回薬学部FDフォーラム	平成26年10月29日	「新カリキュラムについて」などのテーマが取り上げられた。
全学ＦＤフォーラム	平成26年11月14日	「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」というテーマの講演を聴講した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）A High-Speed Drug Interaction Search System for Ease of Use in the Clinical Environment.（査読付き・博士号取得論文）	単著	2012	Journal of Medical Systems: Volume 36, Issue 6
（論文）薬物の乳汁移行性を検討するためのHPLCを用いた一手法　泌乳マウスを用いた一般用医薬品(ロキソニン-S錠、バファリンA錠)の検討（査読付き）	共著	2013	薬学雑誌 133巻8号
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性（査読付き）	共著	2014	医療薬学 Vol. 40, No. 3,
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
京都府におけるHIVに対する長期療養、在宅支援に関する研究（その1）－HIV陽性者の在宅医療、介護に関する意識調査からの検討－		2014年6月	医療薬学フォーラム2014
京都府におけるHIV陽性者に対する長期療養・在宅支援に関する研究(その2)－HIV陽性者が利用できる社会制度に関する資料作成の試み－		2014年6月	医療薬学フォーラム2014
京都府におけるHIV陽性者に対する長期療養・在宅支援に関する研究（その３）－ホームヘルパーに向けた感染予防および服薬支援に関するパンフレット作成の試み－		2014年6月	医療薬学フォーラム2014
新人薬剤師・薬学生学習支援ツール開発　医薬品名学習ツールのアプリケーション化とその評価		2014年7月	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会
保険薬局薬剤師として大学薬学部における外部講師への取り組み		2014年11月	第29回日本エイズ学会学術集会・総会

III　学会および社会における主な活動	
平成13年4月～平成22年3月	京都府病院薬剤師会　教育研修委員会委員
平成19年3月から現在	日本医療情報学会　評議員
平成22年3月から現在	日本医療情報学会関西支部　幹事
平成23年3月から現在	AIDS文化フォーラムin京都　運営委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　講師	氏名　菊田　真穂
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①プレファーマシー実習		平成21年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を使った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。 また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
②クリニカルパス演習		平成22年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識を身に着けるため、また5年次に実施される病院実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実際に医療機関で利用されているクリニカルパスを用いて演習を行っている。 医療用クリニカルパスを参考に患者用クリニカルパスを作成する過程で、患者の立場になって医療を考えられるよう工夫してきた。 また、同時に各疾患に対する病態、治療法および治療薬について調べることを課題とすることで、疾患に対する知識を習得するよう工夫してきた。 本学が看護学部を併設していることを活かし、看護学部と合同で演習することで、チーム医療における他職種との意見交換の重要性を実感できる演習に改善していく予定である。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①プレファーマシー実習書		平成21年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。 ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 第１回薬学部FDフォーラム		平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。
薬学部FDワークショップ		平成25年7月13日	「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」というテーマでワークショップに参加した。
第３回薬学部FDフォーラム		平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。

第４回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
第５回薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」というテーマの講演を聴講した。
第６回薬学部FDフォーラム	平成25年11月8日	「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」というテーマの講演を聴講した。
第７回薬学部FDフォーラム	平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」というテーマの講演を聴講した。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）In Vivo and In Vitro Treatment With Edaravone Promotes Proliferation of Neural Progenitor Cells Generated Following Neuronal Loss in the Mouse Dentate Gyrus	共著	2013年	Journal of Pharmacological Sciences. 121 (1) : 74-83.
（論文）HPLC-method for deliberation of drug mammary transfer-evaluation of over-the-counter drugs (Loxonin(®)-S, Bufferin(®) A) in mother mice.	共著	2013年	Yakugaku Zasshi. 133 (8) :905-11.
（論文）Beneficial In Vivo Effect of Aripiprazole on Neuronal Regeneration Following Neuronal Loss in the Dentate Gyrus: Evaluation Using a Mouse Model of Trimethyltin-Induced Neuronal Loss/Self-Repair in the Dentate Gyrus	共著	2014年	J Pharmacol Sci. 124 : 99-111
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	2014年	医療薬学. 40（3）：186-192

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
オピオイド製剤の使用実態調査による緩和ケアチームの介入意義の検討	2014・6	医療薬学会フォーラム2014 第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
当院で検出されたESBLに対する問題点の抽出とICTの介入の必要性	2014・9	第24回日本医療薬学会年会

III　学会および社会における主な活動

平成23年～	星ヶ丘医療センター（旧：星ヶ丘厚生年金病院）医の倫理委員会外部委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名 講師	氏名　小森　浩二
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①プレファーマシー実習		平成23年9月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。 また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
②対面販売を想定した能動的学修を取り入れた一般用医薬品概論		平成24年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識を身に着けるため、また5年次に実施される薬局実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実際の一般用医薬品（OTC）を使った授業を行ってきた。通常の座学だけでの講義でなく、講義後半にその日に学んだ知識を生かして対面販売を想定した質疑応答を行う。そうすることで、学生はただ聞くだけの知識ではなく使える・伝えることの出来る知識として修学している。アンケートにおいても質疑応答に対して、「実際に何を考え何を聞くかが難しい」というような内容の感想を持っているようである。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①プレファーマシー実習書		平成23年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	

4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
第１回薬学部FDフォーラム	平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム	平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
第３回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
第４回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
第５回薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」というテーマの講演を聴講した。
アドバンストOSCEワーキンググループ	平成26年4月から現在に至る	グループ長として、10 月4 日までに計5回の議論を行い、実務実習を終えた学生が具備すべき能力について取りまとめた。さらに、本アドバンストOSCEの妥当性を検証するため、学生１０３名を対象に、2014年11月17日にトライアルを実施した。

II　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
ロキソプロフェンの母乳への移行性（筆頭論文・査読付）	共著	2014年　3月	医療薬学、Vol. 40 No. 3
薬物の乳汁移行性を検討するためのHPLCを用いた一手法（筆頭論文・査読付）	共著	2013年　8月	YAKUGAKU ZASSHI、Vol. 133 No. 8

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
乳汁移行簡易試験法の確立と応用－OTC薬（ロキソニン®-S錠）に関する解析－	2014年3月	日本薬学会134年会
泌乳マウスを用いた薬物の乳汁移行性を予測する一手法	2014年3月	日本薬学会134年会
アンチドーピングにおける禁止薬物のマウスを用いた運動評価	2014年3月	日本薬学会134年会
一般用解熱鎮痛薬の溶出試験による評価・比較	2014年3月	日本薬学会134年会

III　学会および社会における主な活動

平成24年4月から現在に至る	常翔啓光学園中学校・高等学校　学校薬剤師

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　助教	氏名　宮﨑　珠美
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） プレファーマシー実習		平成22年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用いた実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。 また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
2　作成した教科書、教材、参考書 プレファーマシー実習書		平成22年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。 ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
第１回薬学部FDフォーラム		平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム		平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
第３回薬学部FDフォーラム		平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
第４回薬学部FDフォーラム		平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）薬物の乳汁移行性を検討するためのHPLCを用いた一手法 ―泌乳マウスを用いた一般用医薬品（ロキソニン-S錠、バファリンA錠）の検討	共著	平成25年5月	薬学雑誌（133(8)）
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	平成26年2月	医療薬学（Vol. 40, No. 3）
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
介護施設における薬剤師の役割の検討　～薬剤の適正使用に貢献できた事例から～		2014・6	医療薬学フォーラム2014/ 第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
施設介護者を対象とした勉強会による教育効果の検証 ～糖尿病・認知症に関する勉強会を実施して～		2014・6	医療薬学フォーラム2014/ 第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ　学会および社会における主な活動			

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　助教	氏名　中野　祥子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①プレファーマシー実習	平成22年9月～現在に至る	薬剤師職務に必要な基本的知識・技能・態度を修得するため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、客観的評価票を用いた実習を行い、また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①プレファーマシー実習書	平成22年9月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、なっている。必要な事項を網羅したものと毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 第１回薬学部FDフォーラム	平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り上げられた。
第２回薬学部FDフォーラム	平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
第３回薬学部FDフォーラム	平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
第４回薬学部FDフォーラム	平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
第５回薬学部FDフォーラム	平成25年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」というテーマの講演を聴講した。
第６回薬学部FDフォーラム	平成25年11月8日	「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」というテーマの講演を聴講した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	2014年	医療薬学、Vol. 40 No. 3

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
新人薬剤師学習支援ツールの電子化の試み（第二報）～新人薬剤師学習支援電子化ツールのアンケート調査による評価～	2014・6	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム／ 医療薬学フォーラム2014
新人薬剤師・薬学生学習支援ツール開発～医薬品名学習ツールのアプリケーション化とその評価～	2014・7	第17回日本医薬品情報学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　医療薬学	職名　助教	氏名　三田村　しのぶ
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①プレファーマシー実習		平成24年4月～現在に至る	学生が将来薬剤師になった際に必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、実薬を用った実習、客観的評価票を用いた実習を行い、学生が自身の技能等の習得状況を確認しながら進められるよう工夫を行ってきた。 また、一般の方に模擬患者となっていただき、学生の医療人としてのコミュニケーション能力の養成と向上に向けた工夫も行ってきた。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①プレファーマシー実習書		平成24年4月～現在に至る （毎年更新）	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身に着けるため、また5年次に実務実習を受けるに当り必要な準備を行うため、SBOｓを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。 ただ、医療も日新月歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
2013年度第１回薬学部FDフォーラム		平成25年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り
2013年度第２回薬学部FDフォーラム		平成25年5月13日	「薬剤師国会試験合格率アップに向けた教育体制について」というテーマが取り上げられた。
薬学部FDワークショップ		平成25年7月13日	「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」というテーマでワークショップに参加した。
2013年度第３回薬学部FDフォーラム		平成25年9月5日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。
2013年度第４回薬学部FDフォーラム		平成25年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」というテーマの講演を聴講した。
2013年度第５回薬学部FDフォーラム		平成25年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」というテーマの講演を聴講した。
2013年度第７回薬学部FDフォーラム		平成25年11月18日	パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」というテーマの講演を聴講した。
2014年度第１回薬学部FDフォーラム		平成26年4月4日	1年生対象の「早期体験学習」・「スタートアップゼミ」、4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとしてげられ取り
2014年度第２回薬学部FDフォーラム		平成26年9月2日	「卒業判定試験」、「国家試験対策」、「共用試験対策」、「第三者評価」などがテーマとして取り上げられた。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・ 号数）等の名称
（論文）薬物の乳汁移行性を検討するためのHPLCを用いた一手法　―泌乳マウスを用いた一般用医薬品（ロキソニン-S錠，バファリンA錠）の検討	共著	2013年	YAKUGAKU ZASSHI、Vol. 133 No. 8
（論文）ロキソプロフェンの母乳への移行性	共著	2014年	医療薬学、Vol. 40 No. 3
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
服薬コンプライアンス向上を目的としたゲル被膜カプセルの溶出に関する製剤学的評価		平成26年6月	医療薬学フォーラム2014・第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
アルギン酸ナトリウムを用いたゲルカプセルの溶出性と薬物動態に関する評価		平成27年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病態医科学	職名　教授	氏名　　河野　武幸
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
小グループ討論やロールプレイを用いた効果的なセルフメディケーション演習の立案・実施		2010年4月 ～現在に至る	薬学部6年制5年次生対象にセルフメディケーションに関する新規演習を他大学に先駆けて立ち上げた。演習には小グループ討論やロールプレイを取り入れた。また、実地臨床に従事する薬剤師参加型とすることで現場に近い学習環境を提供した。本演習の有用性を医療薬学会雑誌および学会発表で社会に発信した。
電子カルテシステムを活用したカルテ読解学習の構築・実施		2010年4月 ～現在に至る	薬学部6年制5年次生対象に電子カルテシステムを導入した新規演習を他大学に先駆けて立ち上げた。指定の患者カルテから患者背景、診断の根拠、治療の有用性、副作用対策等を小グループで討論後、適切な薬物治療の考案について発表する形式で実施した。本演習の有用性を日本薬学会等の学会発表で社会に発信した。
デジタル超音波診断装置や携帯心電計などを用いたフィジカルアセスメント実習の立案・実施		2010年4月 ～現在に至る	薬学部6年制4年次生対象にフィジカルアセスメントに関する実習を実施した。デジタル超音波診断装置や携帯心電計などを用いた測定体験や得られた検査結果の解析・考察を実施させた。また、薬物療法に関連した内容を解説した。本演習の有用性を医学教育学会雑誌および学会発表で社会に発信した。
2　作成した教科書、教材、参考書			
臨床実務実習（フィジカルアセスメント実習）の実習書		2010年4月 ～現在に至る	臨床実務実習（フィジカルアセスメント実習）で使用する実習書を作成した。
臨床薬学演習（セルフメディケーション演習）の演習書		2010年4月 ～現在に至る	臨床薬学演習（セルフメディケーション演習）で使用する演習書を作成した。
スタンダード薬学シリーズ4「生物系薬学　Ⅳ. 演習編」、日本薬学会編、東京化学同人		2011年6月28日	スタンダード薬学シリーズ4「生物系薬学　Ⅳ. 演習編」（日本薬学会編、東京化学同人）を分担執筆した。
「薬学用語辞典」、日本薬学会編、東京化学同人		2012年3月30日	「薬学用語辞典」（日本薬学会編、東京化学同人）を分担執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
近畿国立病院機構薬剤師会講演会において招待講演		2010年6月19日	講演演題： 薬学６年制教育で実施された教育プログラムの紹介

病院・薬局実務実習の実施に関する認定実務実習指導薬剤師に対する教育講演	2010年1月11日 2010年2月18日 2010年2月21日 2010年2月28日 2010年4月11日 2010年4月25日 2010年9月2日 2011年4月3日 2011年4月10日 2011年4月17日 2011年8月7日 2012年3月10日 2012年8月5日 2012年12月2日 2014年4月12日 2014年4月13日 2014年4月26日	・京都府病院薬剤師会 ・奈良県病院薬剤師会 ・兵庫県薬剤師会、病院薬剤師会 ・奈良県薬剤師会 ・滋賀県薬剤師会、病院薬剤師会 ・泉州地区薬学生実務実習指導薬剤師連絡会 ・滋賀県薬剤師会、病院薬剤師会 ・大阪府薬剤師会、病院薬剤師会 ・滋賀県薬剤師会、病院薬剤師会 ・奈良県薬剤師会 ・大阪府薬剤師会、病院薬剤師会 ・大阪府薬剤師会、病院薬剤師会 ・大阪府薬剤師会、病院薬剤師会 ・大阪府薬剤師会、病院薬剤師会 ・兵庫県薬剤師会、病院薬剤師会 ・京都府薬剤師会 ・兵庫県薬剤師会、病院薬剤師会
学会発表	2010年3月28日	日本薬学会　第130年会 ・未来型薬剤師の養成を目指した新しい臨床技能教育（スキルラボ実習） ・自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習（薬局）」（第2報）
	2010年11月13日	第20回　日本医療薬学会 ・自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の成果・効果
	2011年3月31日	日本薬学会　第131年会 ・自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」（第3報） ・未来型薬剤師の養成(3):セルフメディケーション演習 ・未来型薬剤師の養成(4):学内に構築した電子カルテシステムを用いたカルテ読解演習 ・未来型薬剤師の養成(5):フィジカルアセスメント実習は薬剤師の職業観を変革する
	2011年10月2日	第21回　日本医療薬学会 ・薬系インターンシップ・ボランティア体験学習の3年間に渡る改善とその効果
	2012年3月31日	日本薬学会　第132年会 ・キャリア形成教育−2年生による1年生ハンディキャップ体験学習の指導補助− ・自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」（第4報）−3年間に渡る改善とその効果−
	2012年7月28日	第44回　日本医学教育学会 ・「学習成果基盤型教育」をテーマとした薬学教育者のためのワークショップ
	2012年10月7日	第45回　日本薬剤師会学術大会 ・World caféを取り入れた実務実習研修会の試み
	2012年10月28日	第22回　日本医療薬学会 ・3年次「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」受講者の3年後の追跡調査

	2013年3月30日	日本薬学会　第133年会 ・未来型薬剤師の養成(6):新しい臨床技能教育(スキルスラボ実習)による薬学生の意識変化 ・実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性 ・薬系キャリア形成「ボランティア活動」の実践とその効果 ・専門職連携教育 (IPE)「薬学生と看護学生の合同グループ討論 (SGD)」の実践とその効果 ・KJ法とWorld Cafeがもたらす情報の質的違いに関するテキストマイニングを用いた考察 第45回　日本医学教育学会 ・KJ法とWorld Caféが学生にもたらす情報の差異について—テキストマイニングを用いた考察 ・学生が得た気づきの解析による正統的周辺参加を取り入れた薬学部キャリア教育の評価 第23回　日本医療薬学会 ・自己研鑽・参加型「薬系インターンシップ・ボランティア体験学習」卒後進路決定における効
	2013年12月6日	第33回　日本看護科学学会 ・看護学生ー薬学生専門職連携教育の取り組み
	2014年3月29、30日	日本薬学会　第133年会 ・学部が支援する教育改革ーパフォーマンス評価を志向したピア評価とルーブリック(シンポジウム発表) ・摂南大学で実施している薬学臨床演習の改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応と評価 ・卒業生によるキャリア形成ガイダンス(講演)の教育効果 ・学生間相互評価からもた薬学部ー看護学部専門連携教育 ・学生の技能習得を支援する動画教材の作成と運用法の開発 ・低学年薬学部学生の「コミュニケーション」に対する認識の抽出
	2014年9月28日	第24回　日本医療薬学会 ・「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の満足度と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性
	2014年11月24日	第8回　日本薬局学会学術大会 ・「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する施設-大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査
	2015年3月26～28日	日本薬学会第135年会 ・フィジカルアセスメント実習を用いた症例検討演習の教育効果 ・カリキュラム立案演習を通した教育能力と学習意欲向上の試み ・キャリア形成教育：「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価
シンポジウムのオーガナイズ	2010年10月30日	・第60回 日本薬学会近畿支部大会 「シンポジウムフィジカルアセスメントなどの新たな臨床技能教育の展開」
	2013年3月30日	・日本薬学会　第133年会 「6年制薬学教育の成果と今後の課題～6年次生、卒業生、就職先からのフィードバック」
論文発表	2012年5月	・実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性、*医療薬学*（日本医療薬学会），**38**(5)，288-298

	2012年12月	・自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム:「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果、*医療薬学*（日本医療薬学会），38(12)，757-766
	2013年6月	・フィジカルアセスメント実習は薬学生の意識を改変する、*医学教育*（日本医学教育学会），44(3)，121-131
	2014年11月	・自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム:「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」-受講3年後の追跡調査から検証した体験実習の効果-、*YAKUGAKU ZASSHI*（日本薬学会），134(11)，1199-1208
	2015年1月	・パフォーマンス評価を志向した修正版グラウンディッド・セオリー・アプローチによる卒業研究の概念抽出とRubric作成、*YAKUGAKU ZASSHI*（日本薬学会），135(1)，99-105
	2015年2月1日	・ディプロマ・ポリシーに基づくパフォーマンス評価とルーブリック、*ファルマシア*（日本薬学会），51(2)，143-148
4　その他教育活動上特記すべき事項		
文部科学省「薬学教育指導者のためのワークショップ」実行委員	2012年8月31日 2013年8月29日	実行委員（タスクフォース） 〃
日本薬学会「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」実行委員	2011年12月26～28日 2012年11月23～25日 2013年10月12～14日 2014年11月22～24日	実行委員（タスクフォース） 実行委員長（チーフタスクフォース） 実行委員（タスクフォース） 〃
日本薬学会「全国学生ワークショップ」実行委員	2011年8月4日 2012年8月7，8日 2013年8月10，11日 2014年8月9，10日	実行委員（タスクフォース） 〃 〃 〃
薬学教育協議会「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」実行委員	2010年3月13，14日 2010年8月21，22日 2010年11月20，21日 2011年3月12，13日 2011年8月27，28日 2011年9月18，19日 2011年11月12，13日 2012年8月25，26日 2013年3月9．10日 2013年8月24，25日 2014年3月8，9日 2014年8月30，31日 2014年11月8，9日	実行委員（タスクフォース） 〃 実行委員長（チーフタスクフォース） 実行委員（タスクフォース） 〃 〃 実行委員長（チーフタスクフォース） 実行委員（タスクフォース） 〃 〃 実行委員長（チーフタスクフォース） 実行委員（タスクフォース） 〃
薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に従事	2012年4月1日 ～2014年3月31日	日本薬学会「薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会」の委員として薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に従事した。
摂南大学教職員研修ワークショップ実行委員	2010年8月5，6日 2011年8月23，24日 2012年9月4，5日 2013年9月3．4日 2014年9月3，4日	実行責任者として運営 〃 〃 〃 〃
日本薬学会薬学教育部会「第3回医薬合同教育ワークショップ」参加	2010年3月21日	薬学教育者のためのワークショップのあり方について、医療系の多職種で合同討議するワークショップに参加者として出席した。

文部科学省「大学における医療人養成推進等委託事業」医療系学部教員による合同ワークショップ参加	2010年12月26～28日	薬学教育者のためのワークショップのあり方について、医療系の多職種で合同討議するワークショップに参加者として出席した。
厚生労働省「薬剤師養成の実質化を実現させるための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」	2011年4月1 ～2012年3月31日	シニアタスクフォースとして調査研究協力
日本医学教育学会「第38回医学教育者のためのワークショップ」参加	2011年12月4～8日	医学の臨床研修の質向上を企図したワークショップに日本薬学会から派遣され参加者として出席した。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Therapeutic approach for type-1 diabetes mellitus using a novel immunomodulator, FTY720 (Fingolimod), in combination with once-daily injection of insulin glargine, examined in non-obese diabetic (NOD) mice.	共著	2012年4月	*J. Diab. Invest.*, **3** (2), 132-137
Therapeutic Approach to Steroid-Resistant Dermatitis Using Novel Immunomodulator FTY720 (Fingolimod) in Combination with Betamethasone Ointment in NC/Nga Mice.	共著	2012年8月	*Biol. Pharm. Bull.*, **35** (8), 1314-1319
Oral therapy for type 1 diabetes mellitus using a novel immunomodulater, FTY720 (Fingolimod), in combination with sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, examined in non-obese diabetic (NOD) mice.	共著	2012年10月	*J. Diab. Invest.*, **3** (5), 441-448
Efficacy of Combination Treatment with Fingolimod (FTY720) Plus Pathogenic Autoantigen in a Glucose-6-phosphate Isomerase Peptide (GPI325-339)-Induced Arthritis Mouse Model.	共著	2013年11月	*Biol. Pharm. Bull.*, **36** (11), 1739-1746
Mechanism of induction of immune tolerance in experimental autoimmune encephalomyelitis by combination treatment with Fingolimod (FTY720) plus pathogenic autoantugen.	共著	2015年2月	*Clinical and Experimental Neuroimmunology*, **6** (1), 49-56

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
高齢者の肺炎（特に御嚥性肺炎）発症リスク因子に関する研究～ICU入院患者での検討～	2014年9月	第24回日本医療薬学会
実験的自己免疫性脳脊髄炎に対するFTY720と自己抗原併用療法の作用メカニズムに関する研究	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会
リナグリプチンの腎保護効果に関する検討(KK-Ay マウスを用いた検討)	2014年10月	第51回日本糖尿病学会 近畿地方会
Induction of immune tolerance by combination treatment with Fingolimod(FTY720) plus pathogenic autoantigen in glucose-6-phosphate isomerase peptide-induced arthritis mouse model: the second report.	2014年12月	第43回日本免疫学会総会
Gluco-se-6-phosphate isomerase peptide (GPI325-339) 誘導性関節炎に対するfingolimod (FTY720) と病因抗原併用療法の有用性とそのメカニズム	2015年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動

2009年4月1日 ～2011年3月31日	薬学教育協議会　病院・薬局実務実習近畿地区調整機構　実務実習ワーキンググループ委員長
2010年2月1日～現在に至る	日本薬学会　代議員
2011年4月1日～2013年3月31日	日本薬学会「薬学教育委員会」委員
2011年9月2日～2012年3月31日	文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業」におけるペーパーレフェリー

2012年4月1日～2014年3月31日	日本薬学会「薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会」委員
2012年6月1日～2013年3月31日	文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業」におけるペーパーレフェリー
2013年1月1日～2013年12月31日	日本私立薬科大学協会　薬剤師国家試験問題検討委員会　病態・薬物治療部会　委員長
2013年8月14日～2014年6月30日	日本薬剤師会「薬局実務実習におけるLS作成ワーキング」委員
2014年4月1日～2015年3月31日	薬学教育評価機構　薬学教育評価における評価実施員
2014年8月1日～現在に至る	薬学教育協議会　病院・薬局実務実習近畿地区調整機構　実務実習ワーキンググループ委員
2014年8月1日～現在に至る	文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム　薬学教育者ワークショップ検討小委員会委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病態医科学	職名　講師	氏名　　辻　琢己
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①新たな臨床教育の導入（1） 4年次生対象の臨床実務実習の計画立案，実施，評価，改善.		平成21年9月 ～ 現在に至る	本実習では，フィジカルアセスメントに基づいて患者状態を把握し，治療方法を提案できることを目指している．そこで，治療によって副作用（心室性期外収縮等）を生じた設定で，複数のペーパーペーシェントを作成し，問題点と治療方針を提案させた．本演習の成果は医学教育学会誌および日本薬学会133年会で発表した.
②インターンシップボランティアの引率		平成21年4月 ～ 現在に至る	3年次対象の「薬系インターンシップ・ボランティア」で実施されたインターンシップ・ボランティアの実習施設へ学生を引率した.
③新たな臨床教育の導入（2） 5年次対象のセルフメディケーション演習の計画立案，実施，評価，改善.		平成22年4月 ～ 現在に至る	本演習では，連携施設と綿密な打ち合わせを実施し，臨場感溢れるロールプレイングを実現した．これにより，薬局・ドラッグストアでの患者・顧客に対する多くの知識を修得させた．また，アンケート結果等に基づいて，ロールプレイングに用いる症例等に随時改善を加えている．本演習の成果は医療薬学雑誌および日本薬学会133年会で発表した.
④新たな臨床教育の導入（3） 5年次対象のカルテ読解演習の計画立案，実施，評価，改善.		平成22年4月 ～ 現在に至る	本演習では，連携施設から提供を受けたカルテ情報を学内に新たに構築した電子カルテシステムに演習用症例として導入した．そして，患者の病態把握を実施させ，治療方法や治療薬の選択を提案させた．本演習の締めくくりとして，複数の症例提供施設から講師として医師を招聘し，発表会を実施した．これにより，疾患および薬物治療についての深い知識を集積させた．なお，現在も症例を増やしつつ教育効果を向上させている．本演習の成果は日本薬学会134年会で発表した.
⑤学習モチベーション向上のための最新の臨床情報の提供		平成25年4月 ～ 現在に至る	平成25年から担当している病態生化学（3年次），臨床医学概論（2年次），先端医療Ⅰ，Ⅱ（6年次）で，講義内容が臨床の薬剤師としてどのように活かすことができるかを自らの臨床経験を基に説明した．これにより，学生の授業に対するモチベーションは格段に向上した.
⑥専門職連携教育（IPE）の計画立案，実施，評価，改善.		平成26年4月 ～ 現在に至る	上記の新たな臨床教育の導入（3）で記載したカルテ読解演習を看護学部と合同で実施し，実地臨床で求められているチーム医療の必要性・重要性を認識させた．これにより，学生の臨床マインドは格段に向上した.
⑦アドバンストOSCEトライアルの計画立案，実施，評価．（平成27年度に改善して実施予定）		平成26年4月 ～ 現在に至る	実務実習を終了した5年次生（219名中103名）を対象に，本学独自に作成した模擬診療サマリーを用いて治療上の問題点と治療方針を提案させた．これにより，実務実習で修得した臨床推論能力を評価した．また，本トライアルにより，学生のモチベーションは格段に向上した.
2　作成した教科書、教材、参考書 ①臨床実務実習　実習書		平成21年9月 ～ 現在に至る	上記の「教育内容・方法の工夫」で記載した臨床実務実習の実習書を作製した(総ページ数:62ページ)．この実習は，学生にとって，これまでにない実臨床に直結する内容であるため，画像(カラー)も含め理解しやすいように工夫した.

②電子カルテシステムの構築	平成22年4月 ～ 現在に至る	上記の「教育内容・方法の工夫」で記載したカルテ読解演習で用いる電子カルテシステムを学内に構築した．これにより，実地臨床に限りなく近いカルテ閲覧が可能となり，活発なディスカッションが可能となった．構築以来，症例の修正・追加を継続している．
③アドバンストOSCEトライアルの模擬診療サマリー	平成26年4月 ～ 現在に至る	上記の「教育内容・方法の工夫」で記載したアドバンストOSCEトライアルで用いる模擬診療録サマリーを作成した（2症例）．本トライアルでは，臨場感を持たせるため，サマリーにはCT画像等も組み込んだ．平成27年度は，症例の追加・修正を加え，より充実した演習を実施する．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
①日本薬学会第130年会で『未来型薬剤師の養成を目指した新しい臨床技能教育（スキルスラボ実習）』について発表．	平成22年3月	薬物治療の効果判定，副作用の発現防止に積極的にかかわり，適切な薬物治療計画を立案・提案・評価できる薬剤師（未来型薬剤師）の養成を目指したスキルスラボ実習を行い，その成果を報告した．
②日本薬学会第130年会で『自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習（薬局）」（第２報）』について発表．	平成22年3月	6年制3年次を対象に「薬系インターンシップ・ボランティア」が開講されている．ここで実施されている就労体験やボランティア活動行う自己研鑽・参加型実習の概要とその効果について報告した．
③日本薬学会第131年会で『未来型薬剤師の養成（３）：セルフメディケーション演習』について発表．	平成23年3月	地域完結型医療・未病・予防・健康維持に貢献できる未来型薬剤師を養成するために実施したセルフメディケーションに関する新規演習を行った成果を報告した．
④日本薬学会第131年会で『未来型薬剤師の養成（４）：学内に構築した電子カルテシステムを用いたカルテ読解演習』について発表．	平成23年3月	①効果的な薬物治療の計画立案と提案，②副作用発現の早期発見と対処計画の立案と提案，これらを遂行できる薬剤師を養成するために実施した「カルテ読解演習」について報告した．
⑤日本薬学会第131年会で『未来型薬剤師の養成（５）：フィジカルアセスメント実習は薬剤師の職業観を変革する』について発表．	平成23年3月	フィジカルアセスメントに関する技能教育が，6年制薬学教育を受けた薬剤師に課せられた責務（薬物治療の効果判定や副作用の発現状況をベッドサイド，薬局，患家で確認すること）を全うするだけでなく，薬剤師の職業観の変革にも大きく寄与することを報告した．
⑥日本薬学会第131年会で『自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」（第3報）』について発表．	平成23年3月	摂南大学薬学部では平成20年度より，キャリア形成コースに，「医師，看護師などの医療スタッフとの協働」や「地域完結型医療の推進」を円滑に行える薬剤師の養成を目的とした「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」を正課とし開講している．本発表では，病棟やドラッグストア，保険薬局で実施した体験実習の効果について報告した．
⑦第21回日本医療薬学会年会で『「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の3年間に渡る改善とその効果』について発表．	平成23年10月	本学で平成20年度から実施している「キャリア形成」コースを設けている．ここで実施している「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の開始以来3年間の改善とその効果について報告した．
⑧日本薬学会第132年会で『自己研鑽・参加型学習「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」（第4報）-3年間に渡る改善とその効果-』について発表．	平成24年3月	自己研鑽・参加型「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の改善とその効果について報告した．即ち，学生に目的意識を持たせ，実習先の情報等を自ら調べさせるという改善策により，学生の本実習への参画意欲が高まり，結果として本実習への満足度，役立ち度が高まったことを報告した．
⑨日本薬学会第133年会で『未来型薬剤師の養成(6)：新しい臨床技能教育(スキルスラボ実習)による薬学生の意識変化』について発表．	平成25年3月	フィジカルアセスメントに関する実習が，6年制薬学教育に与える意義，即ち，学生の将来の薬剤師像に対する意識を変化させるか否かについて，研究成果を発表した．
⑩日本薬学会第133年会で『実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性』について発表．	平成25年3月	実地臨床に従事する薬剤師の協力のもと開講しているセルフメディケーション演習の有用性について研究成果を発表した．

⑪日本薬学会第133年会で『薬系キャリア形成「ボランティア活動」の実践とその効果』について発表.	平成25年3月	摂南大学薬学部では，キャリア教育の一環として 2年次生を対象に「薬系キャリア形成」を開講している．本科目では，自己研鎖・参加型の「ボランティア活動」を4つ設けており，学生は1つを選択する．それぞれの活動が学生に与えた気付きについて，研究成果を発表した.
⑫日本薬学会第133年会で『専門職連携教育（IPE）「薬学生と看護学生の合同グループ討論（SGD）」の実践とその効果』について発表.	平成25年3月	2007-2012年度に摂南大学薬学部で実施した専門職連携教育（IPE）「看護学生との合同SGD」の概要とその効果について研究成果を発表した.
⑬日本薬学会第134年会で『学内に構築した電子カルテシステムを用いた「カルテ読解演習」の有用性』について発表.	平成26年3月	本学独自のカルテ読解演習を実施し，学生のアンケートの基づいてテキストマイニング解析した．その結果，「カルテから患者状態を考える事の重要性を感じた．」等のポジティブな記述が数多く存在し，大学内でも，臨場感溢れる演習が実施できることを報告した.
⑭日本薬学会第135年会で『フィジカルアセスメント実習を用いた症例検討演習の教育効果』について発表.	平成27年3月	フィジカルアセスメント実習と同時に症例検討演習を実施しすることで，多角的な視点からの患者状態の把握や薬物療法に活かす能力を養うことが可能であり，学生の学習意欲向上にもつながることを報告した.
⑮日本薬学会第135年会で『キャリア形成教育:「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価』について発表.	平成27年3月	本学独自のキャリア形成教育:「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価について報告した．即ち，7種類のプログラム（体験型学習）を通して，学生にもたらした気付きを解析し，各プログラムの評価を報告した.
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
①薬学部FD研修会への参加および実施補助（複数）	平成19年4月 ～ 現在に至る	多くの薬学部教員が参加した本研修会に参加した．また，平成25年度は，本研修会の実施補助を行った.
②第27回薬剤師のためのワークショップ in 近畿に参加	平成21年2月	臨床の薬剤師および大学教員が参加し，薬学教育について議論した.
③認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿にタスクフォースとして参加（第69回および70回）	平成25年 8月，10月	本ワークショップのタスクフォースとして現役薬剤師の指導を担当した.
④特別研究ワーキンググループ委員	平成25年12月 ～ 現在に至る	学生の薬剤師としての問題解決能力を養うための，特別研究の在り方について討議した．その中で，特別研究実施上の問題点の解決策を提案し，卒業研究ガイドラインおよび評価方法等を構築した.
⑤カリキュラム改訂ワーキンググループ委員	平成25年1月 ～ 現在に至る	平成27年度入学生から導入される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（新コアカリ）に準拠したカリキュラム改訂を行うため，ディプロマポリシーの内，「情報の収集と評価」および「薬物療法における実践力」に対応するスタンダード，エレメントを定義した．さらに，定義したエレメントに対応する新コアカリのSBOsを当てはめ，ルーブリクを作成した.
⑥医療人養成としての薬学教育に関するワークショップへの参加	平成26年2月	平成27年度から実施予定の薬学教育モデル・コアカリキュラムに含まれる「A基本事項」および「B薬学と社会」に関する学習内容の具体化と学習方法の工夫について討議し，効果的に実施するための学習方法を提案した.
⑦専門職連携教育（IPE）ワーキンググループ委員長	平成26年4月 ～ 現在に至る	上記の「教育内容・方法の工夫」で記載した専門職連携教育(IPE)実施に向け，看護学部の委員と立案・計画し，カルテ読解演習を用いたIPEを実施した．来年度の実施に向け評価・改善を実施している.
⑧アドバンストOSCEワーキンググループ委員	平成26年4月 ～ 現在に至る	上記の「教育内容・方法の工夫」で記載したアドバンストOSCEトライアル実施に向け，立案・計画し，模擬診療録サマリーを作成した．本トライアルにより，本格実施に向け明るい見通しが得られた.
⑨医療人養成としての薬学教育に関するワークショップへの参加	平成26年11月	医療人養成のための薬学教育に必要なコミュニケーション教育および心理学・行動科学教育について討議し，効果的に実施するための学習方法を提案した.

⑩認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿にタスクフォースとして参加（第76回）	平成27年2月	本ワークショップのタスクフォースとして現役薬剤師の指導を担当した.

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文)Oral therapy for type 1 diabetes mellitus using a novel immunomodulater, FTY720 (Fingolimod), in combination with sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, examined in non-obese diabetic(NOD) mice.「筆頭論文」(査読付)	共著	平成24年	J. Diab. Invest., 3(5).
(論文)Therapeutic Approach to Steroid-Resistant Dermatitis Using Novel Immunomodulator FTY720(Fingolimod) in Combination with Betamethasone Ointment in NC/Nga Mice.「筆頭論文」(査読付)	共著	平成24年	Biol. Pharm. Bull., 35(8)
(論文)フィジカルアセスメント実習は薬学生の意識を改変する「筆頭論文」(査読付)	共著	平成25年	医学教育, 44(3).
(論文)Efficacy of Combination Treatment with Fingolimod (FTY720) plus Pathogenic Autoantigen in a Glucose-6-phosphate Isomerase Peptide (GPI325-339)-induced Arthritis Mouse Model.(査読付)	共著	平成25年	Biol. Pharm. Bull., 36(11).
(論文)ダカルバジン投与時に生じる血管痛の抑制を目的とした投与方法「筆頭論文」(査読付)	共著	平成26年	YAKUGAKU ZASSHI, 134(9)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
糖尿病患者に対するDPP-4阻害薬（リナグリプチン）の腎保護作用に関する研究	平成26年9月	第24回日本薬医療薬学会年会
フィンゴリモド（FTY720）軟膏がアトピー性皮膚炎モデルマウスの皮膚バリア機能に与える影響	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会
リナグリプチンの腎保護効果に関する検討(KK-Ay マウスを用いた検討)	平成26年10月	第51回日本糖尿病学会近畿地方会
Induction of immune tolerance by combination treatment with Fingolimod(FTY720) plus pathogenic autoantigen in glucose-6-phosphate isomerase peptide-induced arthritis mouse model: the second report.	平成26年12月	第43回日本免疫学会総会・学術集会
Glucose-6-phosphate isomerase peptide (GPI325-339) 誘導性関節炎に対する fingolimod (FTY720)と病因抗原併用療法の有用性とそのメカニズム	平成27年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動

平成15年～現在に至る	日本医療薬学会会員
平成19年～現在に至る	日本薬学会会員
平成19年～現在に至る	日本免疫学会会員
平成19年5月～平成20年3月	北大阪警察病院薬剤部　非常勤薬剤師　兼務
平成23年～現在に至る	日本アレルギー学会会員
平成24年～現在に至る	医学教育学会会員
平成25年4月～現在に至る	国立病院機構京都医療センター薬剤科　非常勤薬剤師　兼務
平成25年～現在に至る	日本薬剤師会会員
平成25年～現在に至る	日本病院薬剤師会会員
平成25年～現在に至る	京都府薬剤師会会員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病態医科学	職名　助教	氏名　　吉田　侑矢
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
①小グループ討論やロールプレイを用いた効果的なセルフメディケーション演習の立案・実施		平成22年4月 ～ 現在に至る	薬学部6年制5年次生対象にセルフメディケーションに関する新規演習を他大学に先駆けて立ち上げた。演習には小グループ討論やロールプレイを取り入れた。実地臨床に従事する薬剤師参加型とすることで現場に近い学習環境を提供した。本演習の有用性を医療薬学雑誌および学会発表で社会に発信した。また、アンケート調査を基に学習方略に随時改善を加えている。
②電子カルテシステムを活用したカルテ読解学習の構築・実施		平成22年4月 ～ 現在に至る	薬学部6年制5年次生対象に電子カルテシステムを導入した新規演習を他大学に先駆けて立ち上げた。指定の患者カルテから患者背景、診断の根拠、治療の有用性や副作用対策などを小グループで討論後、適切な薬物治療の考案について発表する形式で実施した。本演習の有用性を学会発表で社会に発信した。また、アンケート調査を基に学習方略に随時改善を加えている。
③デジタル超音波診断装置や携帯心電計などを用いたフィジカルアセスメント実習の立案・実施		平成22年4月 ～ 現在に至る	薬学部6年制4年次生対象にフィジカルアセスメントに関する実習を実施した。デジタル超音波診断装置や携帯心電計などを用いた測定体験や得られた検査結果の解析・考察を実施させ、薬物療法に関連した内容を解説した。本演習の有用性を医学教育雑誌および学会発表で社会に発信した。また、随時、検査項目の増加等の改善を加えている。
2　作成した教科書、教材、参考書			
①臨床実務実習（フィジカルアセスメント実習）の実習書		平成22年4月 ～ 現在に至る	臨床実務実習（フィジカルアセスメント実習）で使用する実習書を作成した。本実習は、学生にとって、これまでにない実臨床に直結する内容であるため、画像（カラー）も含め理解しやすいように工夫した。
②臨床薬学演習（セルフメディケーション演習）の演習書、教材		平成22年4月 ～ 現在に至る	臨床薬学演習（セルフメディケーション演習）で使用する演習書を作成した。また、小グループ討論やロールプレイで、活用しやすいように工夫した教材(クラスタリングシート等）を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
①日本薬学会第131年会（静岡）で、セルフメディケーション演習について発表。		平成23年3月31日	日本薬学会主催の年会で、地域完結型医療・未病・予防・健康維持に貢献できる未来型薬剤師を養成するために実施したセルフメディケーションに関する新規演習を行った成果を報告した。
②日本薬学会第131年会（静岡）で、学内に構築した電子カルテシステムを用いたカルテ読解演習について発表。		平成23年3月31日	日本薬学会主催の年会で、1）効果的な薬物治療の計画立案と提案、2）副作用発現の早期発見と対処計画の立案と提案、これらを遂行できる薬剤師を養成するために実施した「カルテ読解演習」について報告した。

③日本薬学会第131年会（静岡）で、フィジカルアセスメント実習は薬剤師の職業観を変革するについて発表。	平成23年3月31日	日本薬学会主催の年会で、フィジカルアセスメントに関する技能教育が、6年制薬学教育を受けた薬剤師に課せられた責務（薬物治療の効果判定や副作用の発現状況をベッドサイド、薬局、患家で確認すること）を全うするだけでなく、薬剤師の職業観の変革にも大きく寄与することを報告した。
④日本薬学会第133年会（横浜）で、新しい臨床技能教育（スキルスラボ実習）による薬学生の意識変化について発表（続報）。	平成25年3月28日	日本薬学会主催の年会で、フィジカルアセスメントに関する実習が、6年制薬学教育に与える意義、即ち、学生の将来の薬剤師像に対する意識を変化させるか否かについて報告した。
⑤日本薬学会第133年会（横浜）で、実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性について発表（続報）。	平成25年3月28日	日本薬学会主催の年会で、実地臨床に従事する薬剤師の協力のもと開講しているセルフメディケーション演習の有用性について報告した。
⑥日本薬学会第133年会（横浜）で、薬系キャリア形成「ボランティア活動」の実践とその効果について発表。	平成25年3月29日	キャリア教育の一環として、薬学部6年制2年次生を対象に「薬系キャリア形成」を開講している。本科目では、自己研鎖・参加型の「ボランティア活動」を4つ設けており、学生は1つを選択する。日本薬学会主催の年会で、それぞれの活動が学生に与えた気付きについて報告した。
⑦日本薬学会第133年会（横浜）で、専門職連携教育（IPE）「薬学生と看護学生の合同グループ討論（SGD）」の実践とその効果について発表。	平成25年3月29日	日本薬学会主催の年会で、2007-2012年度に摂南大学薬学部で実施した専門職連携教育（IPE）「看護学生との合同SGD」の概要とその効果について報告した。
⑧日本薬学会第134年会（熊本）で、学内に構築した電子カルテシステムを用いた「カルテ読解演習」の有用性について発表（続報）。	平成26年3月30日	本学独自のカルテ読解演習を実施し、学生のアンケートの基づいてテキストマインニング解析した。「カルテから患者状態を考える事の重要性を感じた。」等のポジティブな記述が数多く存在し、大学内でも、臨場感溢れる演習が実施できることを日本薬学会主催の年会で報告した。
⑨日本薬学会第135年会（神戸）で、フィジカルアセスメント実習を用いた症例検討演習の教育効果について発表（続報）。	平成27年3月26日	フィシガルアセスメント実習と同時に症例検討演習を実施しすることは、多角的な視点からの患者状態の把握や薬物療法に活かす能力を養うことを可能とし、学生の学習意欲向上にもつながることを日本薬学会主催の年会で報告した。
⑩論文発表	平成24年5月1日 平成24年12月1日 平成25年6月1日	実地臨床に従事する薬剤師参加型のセルフメディケーション演習の有用性，*医療薬学*（日本医療薬学会），**38**(5)，288-298 自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果，*医療薬学*（日本医療薬学会），**38**(12)，757-766 フィジカルアセスメント実習は薬学生の意識を改変する，*医学教育*（日本医学教育学会），**44**(3)，121-131
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①第46回薬剤師のためのワークショップ in 近畿	平成22年5月2日 平成22年5月3日	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加した。
②第51回薬剤師のためのワークショップ in 近畿、第59回薬剤師のためのワークショップ in 近畿、第71回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿	平成22年11月20、21日 平成23年11月11、13日 平成26年3月9日	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに事務局スタッフとして参加し、運営に協力した。

③フィジカルアセスメント研修会	平成22年12月4日	実地臨床に従事する薬剤師を対象としたフィジカルアセスメントの手技に関する実地講習会を立案・実施した。
④高等学校フィジカルアセスメント体験実習	平成23年7月12日 平成24年7月13日 平成24年9月12日	大阪信愛女学院高等学校生および京都府立京都八幡高等学校生を対象にフィジカルアセスメントについて体験実習を実施した。
⑤救急救命士薬剤投与講習	平成24年5月15日	大阪府立消防学校の救急救命士薬剤投与講習で「アナフィラキシーショック」および「アドレナリン投与」に関する内容を解説した。
⑥2013年度薬学部FDワークショップ	平成25年7月13日	2013年度薬学部FDワークショップに参加し、「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員かずへぎこと」について討議した
⑦カリキュラム改訂ワーキンググループ	平成26年1月 ～ 現在に至る	カリキュラム改訂ワーキンググループに参加し、スタンダードの定義、ドメインの定義、SBOsの当てはめおよびパフォーマンス評価基準(ルーブリック)の作成を行った。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Relapse of Experimental Autoimmune Encephalomyelitis (EAE) After Discontinuation of FTY720 (Fingolimod) Treatment, but not After Combination of FTY720 and Pathogenic Autoantigen.「筆頭論文」(査読付)	共著	平成23年6月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 34, No. 6
(論文) Therapeutic Approach to Steroid-Resistant Dermatitis Using Novel Immunomodulator FTY720 (Fingolimod) in Combination with Betamethasone Ointment in NC/Nga Mice. (査読付)	共著	平成24年8月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 35, No. 8
(論文) Oral therapy for type 1 diabetes mellitus using a novel immunomodulater, FTY720 (Fingolimod), in combination with sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, examined in non-obese diabetic (NOD) mice. (査読付)	共著	平成24年10月	J. Diab. Invest., Vol. 3, No. 5
(論文) Efficacy of Combination Treatment with Fingolimod (FTY720) Plus Pathogenic Autoantigen in a Glucose-6-phosphate Isomerase Peptide ($GPI_{325-339}$)-Induced Arthritis Mouse Model.「筆頭論文」(査読付)	共著	平成25年11月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 36, No. 11
(論文) Mechanism of induction of immune tolerance in experimental autoimmune encephalomyelitis by combination treatment with fingolimod plus pathogenic autoantigen.「筆頭論文」(査読付)	共著	平成27年2月	Clinical and Experimental Neuroimmunology, Vol. 6, No. 1

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
実験的自己免疫性脳脊髄炎に対するFTY720と自己抗原併用療法の作用メカニズムに関する研究	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会
卵白アルブミン誘発気道炎症モデルに対するFTY720の有用性に関する検討	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会
リナグリプチンの腎保護効果に関する検討(KK-Ay マウスを用いた検討)	平成26年10月	第51回日本糖尿病学会近畿地方会
Induction of immune tolerance by combination treatment with Fingolimod(FTY720) plus pathogenic autoantigen in glucose-6-phosphate isomerase peptide-induced arthritis mouse model: the second report.	平成26年12月	第43回日本免疫学会学術集会

Glucose-6-phosphate isomerase peptide (GPI325-339) 誘導性関節炎に対する fingolimod (FTY720) と病因抗原併用療法の有用性とそのメカニズム	平成27年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
2010年4月～現在に至る	日本免疫学会会員
2010年4月～現在に至る	日本薬学会会員
2013年11月～現在に至る	神経免疫学会会員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病態医科学	職名　助教	氏名　坂野　理絵

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
①薬学部実務実習生の指導	2013年5月 ～ 2014年3月	6年制薬学部5年次生の実務実習指導を指導薬剤師とともに担当した。他の医療職や患者とコミュニケーションがとれる実習が行えるよう工夫し、薬剤師としての基本的な技能、態度を修得させた。
②セルフメディケーション演習（5年次対象）	2014年4月 ～ 現在に至る	5年次生を対象にロールプレイング形式でセルフメディケーション実習を実施した。実地臨床の薬剤師とともに指導することで、臨床を想定しやすいよう工夫し、薬局・ドラッグストアでの患者・顧客対応に関する様々な知識・技能を修得させた。
③カルテ読解演習（5年次対象）	2014年4月 ～ 現在に至る	5年次生を対象に電子カルテシステムを用い、患者背景や治療経過等の把握を実施させた。加えて、治療方法や薬剤の選択等、患者個々に対する適切な医療について小グループ討議後、発表会を実施した。また、新たな症例を追加し、教育効果を向上させている。
④生体情報モニタなどを用いた臨床実務実習（フィジカルアセスメント実習）（4年次対象）	2014年4月 ～ 現在に至る	4年次生を対象にフィジカルアセスメント実習を実施した。生体情報モニタやパルスオキシメータなどを用いた測定を体験させ、得られた結果を解析し、考察させた。また、新たな工夫として複数のペーパーペーシェントを作成し、収集すべき患者情報と治療方法を提案させることで学生の学習意欲が向上した。本演習の成果は日本薬学会135年会で発表した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本薬学会第135年会で『フィジカルアセスメント実習を用いた症例検討演習の教育効果』について発表	2015年3月	フィジカルアセスメント実習と同時にペーパーペーシェントを用いた症例検討演習を実施した。本実習でのペーパーペーシェントの導入は、多角的な視点から患者の状態を把握し、薬物療法に活かす能力を養うとともに、学生の学習意欲向上にもつながることを報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
①第73認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿に参加	2014年8月	臨床の薬剤師および大学教員が参加し、実務実習などの薬学教育について討議した。
②第75回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿にタスクフォースとして参加	2014年11月	本ワークショップのタスクフォースとして、薬剤師および大学教員の討議をサポートした。
③指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修に参加	2014年12月	認定実務実習指導薬剤師のためのワークショップのタスクフォースが参加し、薬学教育について討議した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Efficacy of Combination Treatment with Fingolimod (FTY720) plus Pathogenic Autoantigen in a Glucose-6-phosphate Isomerase Peptide (GPI325-339)-induced Arthritis Mouse Model.（査読有）	共著	2013年	*Biol. Pharm. Bull.*, 36(11).
(論文)リフィル処方箋に関する患者の意識調査（査読有）	共著	2014年	薬局薬学 第6号 No. 1
(論文)ダカルバジン投与時に生じる血管痛の抑制を目的とした投与方法（査読有）	共著	2014年	*YAKUGAKU ZASSHI*, 134 (9)
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	
Induction of immune tolerance by combination treatment with Fingolimod (FTY720) plus pathogenic autoantigen in glucose-6-phosphate isomerase peptide-induced arthritis mouse model: the second report.		2014年12月	第43回日本免疫学会総会
フィジカルアセスメント実習を用いた症例検討演習の教育効果		2014年3月	日本薬学会第135年会
高血圧合併 2 型糖尿病に対するリナグリプチンの腎保護効果―KK-Ay マウスを用 いた検討―		2014年3月	日本薬学会第135年会
キャリア形成教育:「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価		2014年3月	日本薬学会第135年会
Glucose-6-phosphate isomerase peptide (GPI325-339) 誘導性関節炎に対する fingolimod (FTY720) と病因抗原併用療法の有用性とそのメカニズム		2014年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
2009年3月～現在	日本薬学会会員		
2013年6月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2013年6月～現在	大阪府病院薬剤師会会員		
2014年7月～現在	日本免疫学会会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病理学	職名　准教授	氏名　松浦　哲郎

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
小テストの導入	平成17年４月 ～現在に至る	授業の開始時に前回の授業内容の復習テストをおこなった。これにより、学生は必然的に復習をすることになり、学習効果が向上した。
ビデオ教材の導入	平成17年４月 ～現在に至る	授業の一部に授業内容にそったビデオ教材による講義と要点の書き取りをおこなった。これにより、学生は必然的に学習し、要点を整理をすることになり、学習効果が向上した。
2　作成した教科書、教材、参考書 基盤実習書	平成17年４月 ～現在に至る （毎年更新）	解剖学の内容について、学生が理解しやすいように視覚に重点を置いてこの教材を作成した。これにより、学生が文字情報だけでは理解しにくい内容を簡単に理解できるようになった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
博士論文の指導	平成19年４月 ～平成24月3月	博士論文作成の指導を行った。
薬学部FD研修会に参加	平成19年４月 ～現在に至る	学部全教員が参加し教育改善に関する議論をした。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Insulin-induced hypoglycemic peripheral motor neuropathy in spontaneously diabetic WBN/Kob rats.	共著	2010	Comp Med 60, 282-287
Inferior Ectopic Pupil and Typical Ocular Coloboma in RCS Rats	共著	2011	Comp Med 61, 378-384
Organogenesis of mild ocular coloboma in FLS mice: failure of basement membrane disintegration at optic fissure margins	共著	2012	Exp Eye Res 94, 174-8,
Glycemic Control with Insulin Prevents Progression of Dental Caries and Caries-related Periodontitis in Diabetic WBN/KobSlc Rats.	共著	2013	Toxicol Pathol 41 761-9
Are Dyslipidemia Following Obesity and Hyperglycemia as an Indicator of Diabetes Involved in Dental Caries Development in Zucker Rats?	共著	2014	J Diabetes Metab 5:340. doi: 10.4172/2155-6156.1000340

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
マウス尿管における炎症の進行と水腎症発症と関連性	2014.7	第54回日本先天異常学術集会
Pathogenesis of failed closure of optic fissure in FLS mice with ocular coloboma	2014.9	42rd European Teratology Society

Ⅲ　学会および社会における主な活動	

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　病理学	職名　講師	氏名　尾崎清和

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
小テストの導入	平成17年４月 ～現在に至る	授業の開始時に前回の授業内容の復習テストをおこなった。これにより、学生は必然的に復習をすることになり、学習効果が向上した。
ビデオ教材の導入	平成17年４月 ～現在に至る	授業の一部に授業内容にそったビデオ教材による講義と要点の書き取りをおこなった。これにより、学生は必然的に学習し、要点を整理をすることになり、学習効果が向上した。
2　作成した教科書、教材、参考書 基盤実習書	平成17年４月 ～現在に至る （毎年更新）	解剖学の内容について、学生が理解しやすいように視覚に重点を置いてこの教材を作成した。これにより、学生が文字情報だけでは理解しにくい内容を簡単に理解できるようになった。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
博士論文の指導	平成19年４月 ～平成24月3月	博士論文作成の指導を行った。
獣医師国家試験問題の作成	平成24年４月 ～平成26年4月	獣医師国家試験問題を作成した。
薬学部FD研修会に参加	平成19年４月 ～現在に至る	学部全教員が参加し教育改善に関する議論をした。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Insulin-induced hypoglycemic peripheral motor neuropathy in spontaneously diabetic WBN/Kob rats.	共著	2010	Comp Med 60, 282-287
Carnitine is necessary to maintain the phenotype and function of brown adipose tissue.	共著	2011	Lab Invest 91, 704-10
Antimicrobial agent, tetracycline, enhanced upper alimentary tract Candida albicans infection and its related mucosal proliferation in alloxan-induced diabetic rats..	共著	2012	Toxicol Pathol 40, 1014-9,
Insulin-ameliorated peripheral motor neuropathy in spontaneously diabetic WBN/Kob rats..	共著	2013	J Vet Med Sci 75, 1323-8
A Novel Diabetic Murine Model of Candida albicans-Induced Mucosal Inflammation and Proliferation	共著	2014	J Diabetes Research http://dx.doi.org/10.1155/2014/509325

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
アロキサン誘発糖尿病ラットの末梢神経症に対する高血圧の影響	2014. 4	第103回日本病理学会
MULTIPLE TRAUMATIC NEUROMA WITH SWOLLEN NERVE FASCICLES AND PERINEURIAL HYPERPLASIA	2014. 8	CUTTING EDGE PATHOLOGY

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成24年１月から現在に至る	日本毒性病理学会　監事、評議員
平成13年４月から現在に至る	日本獣医学会　評議員
平成24年４月から平成26年4月	農林水産省獣医事審議会専門委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬学教育	職名　教授	氏名　曽根　知道
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
ICT技術を活用した主体的学修の導入		平成18年4月 ～ 現在	ICT技術（Moodle 等の利用）を活用し、学習課題の提示、レポート提出、e-ラーニングによる遠隔学習支援を行い、自主的な学びを促進した。
初年次SGDでの上級生チューターの導入		平成23年4月 ～ 現在	初年次学生がSGDに容易になじむことと、学生の教育能力、SGD指導力を涵養するために、初年次に実施するSGDに5年生をチューターとして導入する体制を整えた。5年生へのレクチャー及び教員チューターへの説明会を実施した。
能動型学習への学生間相互評価（ピア評価）の導入		平成23年4月 ～ 現在	初年次の能動型学習であるSGDや演習に対してピア評価を導入した。学生の学習姿勢を教員のみならず学生相互に評価し、フィードバックすることで前向きな学習姿勢を示し、またその成果が評価につながるシステムを構築した。
能動的参加型学習方略を導入した生物学教育		平成24年4月 ～ 現在	能動的参加型学習であるグループワークを1年次の前期に導入した。講義科目と連携した演習を予習前提の参加型グループワークで実施することにより、主体的な学習態度の養成と学生間相互教育を達成した。結果、教える側、教えらえる側の様々な立場に立つことで、あらゆる学力の学生が成長できる学習方略となった。
分野横断的統合型教育を志向した薬学概論		平成24年4月 ～ 現在	初年次に薬学とは何かを問う講義において、各科目が独立した説明を行うのではなく、薬学の全体像の中で各科目が司る学問がどのような役割を果たしているのかを解説する。解説に当たり、各領域の教員が学生の前でディスカッションを行う形式をとることで学生に興味を持たせた。
学生実習に対する屋根瓦式教育体制の導入		平成25年4月 ～ 現在	初年次の学生実習でのきめ細やかな指導を行うことと、学生に対して教育能力を涵養するために、2年生を上級生指導者として学生実習の指導補助に導入した。2年生への指導は5年生が行い、学年に応じた後輩指導の実施体制を構築した。
双方向型学習展開の為のレスポンスアナライザー導入		平成25年4月 ～ 現在	双方向型学習を行うに当たり、レスポンスアナライザー（クリッカー）を導入した。小テスト解答に用いるだけではなく、学生プレゼンテーションに対する相互評価時にも用い、学生を単なる徴収ではなく評価者とすることで積極的な聞く姿勢を持たせることに成功した。
2　作成した教科書、教材、参考書			
私たちのからだを英語で学ぼう！　基盤演習学習ノート		平成23年4月～ 現在に至る （毎年更新）	高校で生物を履修していなかった学生も、大学の生物学・生理解剖学を学習できるような問題演習形式の教材を作成した。また、英語に触れる機会を増やし、接頭、接尾語の理解により語彙を増やせるように工夫した。毎週、確認試験実施することで、学習習慣の醸成にも繋がっている。

3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
摂南大学全学FDフォーラムで「摂南大学の初年次教育の整備にむけて-薬学部の取組」を講演	平成21年3月	摂南大学第14回FDフォーラムにて講演
摂南大学全学FDフォーラムで「学生参加型FD活動への第一歩-学生によるワークショップ実施報告」を講演	平成24年3月	摂南大学第17回FDフォーラムにて講演
シンポジウム「チーム基盤型学習（TBL）がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果」で「チーム基盤型学習（TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育」の講演	平成25年3月	第133回日本薬学会大会のシンポジウムの共同研究者
シンポジウム「学部主導型薬学教育改革を目指して－第三者評価視点からみた教育改革」で「学部が支援する教育改革－パフォーマンス評価を志向したピア評価とルーブリック」の講演	平成26年3月	第134回日本薬学会大会のシンポジウムで共同研究者
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
薬学部教育センターにおいて、「学びステーション」を企画・運営	平成21年4月～現在	講義内容を補習する学習環境を構築した。結果、科目担当者と学生のコミュニケーションが促進し、教育意欲と学習意欲の向上につながった。
摂南大学教職員研修ワークショップ（第1回～第4回）のファシリテーターに従事	平成21年8月～平成24年9月	薬学部だけでなく他学部の教員ならびに職員による教育効果向上を目的とした教職協働ワークショップ。 理事長表彰（業務改革）：教職協働賞「摂南大学教職員研修ワークショップ」を授与
薬学部カリキュラム改訂ワーキンググループに参加	平成22年4月～平成24年3月	教育効果向上を目的とした学習方略、評価の見直しを含めた、平成24年度入学生を対象にしたカリキュラム改訂に携わった。
摂南大学　「学生参加型FD活動の試み-学生によるワークショップ」を企画・運営	平成23年8月	摂南大学のFD活動の推進のために、学生によるFD活動を初めて実施した。
薬学部3ポリシー策定ワーキンググループに参加	平成24年4月～平成25年3月	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定に携わった。
第1回薬学教育ピアレビューに参加	平成24年11月	摂南大学で開催された第1回薬学教育における大学間ピアレビューに参加した。
薬学教育懇話会に参加	平成25年3月～現在	日本での薬学教育の在り方を討議、相互研鑽する有志団体に所属した。
第2回日本薬学会　薬学教育者のためのアドバンストワークショップに参加	平成24年11月	学習成果基盤型教育について実践教育を受けた。
薬学部カリキュラム改訂ワーキンググループに参加	平成25年4月～平成27年3月	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴い、学習成果基盤型教育の導入、ルーブリックの作成等を行った。
薬学部学力向上検討ワーキンググループに参加	平成26年4月～平成27年3月	1年次から6年次に進級する過程において、学力を向上させる方略・評価方法について検討した。

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
Small group disccusion（SGD）へのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性（査読付）	共著	平成24年10月	薬学雑誌（132巻10号）
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果（査読付）	共著	平成24年12月	医療薬学（38巻12号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
リフィル処方箋に関する患者の意識調査（査読付）	共著	平成26年4月	薬局薬学（6巻1号）
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」―受講 3 年後の追跡調査から検証した体験実習の効果―（査読付）	共著	平成26年11月	薬学雑誌（134巻11号）

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与え	平成26年7月	第46回医学教育学会大会
能動的学習チーム基盤型演習(TBL)の実践とその効果	平成26年8月	第10回リメディアル教育学会全国大会
「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の 満足度 と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性	平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
「新コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する施設－大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査	平成26年11月	第8回日本薬局学会学術総会
カリキュラム立案演習を通した教育能力と学習意欲向上の試み	平成２７年3月	第135回日本薬学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成19年7月～平成22年	近畿地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ　タスクフォース
平成24年3月～現在	薬学教育協議会：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議の一員
平成25年～現在	薬学共用試験センター、モニター員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬学教育	職名　准教授	氏名　安原　智久
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
卒業研究における施設連携型臨床研究の実践		平成23年4月 ～ 現在	臨床と密接に連携した卒業研究実施のため、緩和ケア体制をもった病院と連携し、学生の卒業研究を施設・大学共同体制の下で実施した。学生は、連携病院の緩和ケア病棟で薬剤師・医師・看護師の指導を仰ぎながら、電子カルテから抽出したデータを解析し臨床研究を実施し
初年次SGDでの上級生チューターの導入		平成23年4月 ～ 現在	初年次学生がSGDに容易になじむことと、学生の教育能力、SGD指導力を涵養するために、初年時に実施するSGDに5年生をチューターとして導入する体制を整えた。5年生へのレクチャー及び教員チューターへの説明会を実施した。
能動型学習への学生間相互評価（ピア評価）の導入		平成23年4月 ～ 現在	初年次の能動型学習であるSGDやTBLに対してピア評価を導入した。学生の学習姿勢を教員のもならず学生相互に評価し、フィードバックすることで前向きな学習姿勢を示し、またその成果が評価につながるシステムを構築した。
チーム基盤型学習（TBL）を導入した化学教育		平成24年4月 ～ 現在	能動的参加型学習であるTBLを1年次の前・後期に導入した。講義科目と連携した演習を予習前提の参加型グループワークで実施することにより、主体的な学習態度の養成と学生間相互教育を達成した。結果、教える側、教えらえる側の様々な立場に立つことで、あらゆる学力の学生が成長できる学習方略となった。
分野横断的統合型教育を志向した薬学概論		平成24年4月 ～ 現在	初年時に薬学とは何かを問う講義において、各科目が独立した説明を行うのではなく、薬学の全体像の中で各科目が司る学問がｄのような役割を果たしているのかを解説する。解説に当たり、各領域の教員が学生の前でできすかっションを行う形式をとることで学生に興味を持たせ
学生実習に対する屋根瓦式教育体制の導入		平成25年4月 ～ 現在	初年次の学生実習でのきめ細やかな指導を行うことと、学生に対して教育能力を涵養するために、2年生を上級生指導者として学生実習の指導補助に導入した。2年生への指導は5年生が行い、学年に応じた後輩指導の実施体制を構築した
双方向型学習展開の為のレスポンスアナライザー導入		平成25年4月 ～ 現在	双方向型学習を行うに当たり、レスポンスアナライザー（クリッカー）を導入した。小テスト解答に用いるだけではなく、学生プレゼンテーションに対する相互評価時にも用い、学生を単なる徴収ではなく評価者とすることで積極的な聞く姿勢を持たせることに成功した。
ARCS理論に基づくTBL－PBLハイブリッド型統計演習の導入		平成26年4月 ～ 現在	臨床における問題解決の実践を志向した、実践的統計学演習の実施に当たり、ARCS理論に基づいた学習方略および評価体系を設計した。本統計学演習は学生からの肯定的な意見が多く、能動的かつ実践的な演習として学習効果の高いプログラムとなった。

2　作成した教科書、教材、参考書 くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考えた薬学概論	2011年4月	出版社：京都廣川書店 概要：高校から初めて薬学に触れた学生が薬学を身近な現象の科学的理解と共に学んでいく薬学概論 ページ数：151 共著者名：城　正宏、安原　智久、伊藤　栄治他4名
リアリスティック薬学複合問題	2011年4月	出版社：京都廣川書店 概要：薬学で学んだ知識を、患者と薬物治療に結びつける訓練を提供する複合問題 ページ数：196 共著者名：岩城　正宏、齋藤　浩司、安原　智久　他16名 担当部分：全般にわたり化学が関連する部分
SCIENTIFIC 疾患分解解析	2012年4月	出版社：京都廣川書店 概要：科学に基づいた病態と薬物治療の解析を分子メカニズムから解析し、医薬品の作用、副作用とそれに伴う生体内での化合物の変化と影響の解説を行う ページ数：182 共著者名：松山賢治、松野純男、安原智久　他1名
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 シンポジウム「新しい薬学教育へ－若手教員の取り組みと現状」のオーガナイザーを務める	平成22年3月	第130回日本薬学会大会でシンポジウムを企画
シンポジウム「新しい薬学教育へ－若手教員の取り組みと現状」で「分野横断的統合型薬学教育の試み」を講演	平成22年3月	第130回日本薬学会大会のシンポジウムで講演
近畿大学全学ＦＤ講演で「チーム基盤型学習－責任と競争の中で、自ら学び、教え、教わる授業を」を講演	平成23年3月	近畿大学第２回全学FD研究集会にて講演
シンポジウム「臨床に活かす基礎教育　－他職種との対話を通じた考察－」で「薬学部の基礎教育はどこへ向かうのか」を講演	平成23年11月	第21回日本医療薬学会のシンポジウムで講演
摂南大学全学FDフォーラムで「チーム基盤型学習（TBL）がもたらす能動的相補型学習」を講演	平成25年3月	摂南大学第18回FDフォーラムにて講演
シンポジウム「チーム基盤型学習（TBL）がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果」のオーガナイザーを務める	平成25年3月	第133回日本薬学会大会でシンポジウムを企画
シンポジウム「チーム基盤型学習（TBL）がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果」で「チーム基盤型学習（TBL）とピア評価が	平成25年3月	第133回日本薬学会大会のシンポジウムで講演
北海道薬科大学FD「ＴＢＬワークショップ」にて「ＴＢＬの考え方、進め方～摂南大学薬学部の実践例を踏まえて」を講演、ワークショップを指導	平成25年9月	北海道薬科大学FDワークショップで講演・指導
シンポジウム「看護学生－薬学生専門職連携教育の取り組み」にて「相互評価から見たIPE」を講演	平成25年12月	第33回日本看護科学学術集会の交流会にて講演
フォーラム「TBLフォーラム in 福岡　－医療系教育におけるTBLの現状－」にて「「TBLにピア評価は必要か」を講演	平成26年2月	九州大学歯学部主催フォーラムにて講演
シンポジウム「学部主導型薬学教育改革を目指して－第三者評価視点からみた教育改革」のオーガナイザーを務める	平成26年3月	第134回日本薬学会大会でシンポジウムを企画
シンポジウム「学部主導型薬学教育改革を目指して－第三者評価視点からみた教育改革」で「学部が支援する教育改革－パフォーマンス評価を志向したピア評価とルーブリック」を講演	平成26年3月	第134回日本薬学会大会のシンポジウムで講演
FD講演「TBLを授業に組み込む-方略と評価-」を講演	平成26年5月	日本歯科大学新潟生命歯学部のFD講演会にて講演
3rd Pharmacy Deans Forumにて「Greater opportunities for practical subjects and understanding patients Training advanced pharmacists with medical minds」を発表	平成26年6月	ASIAN ASSOCIATION OF SCHOOLS OF PHARMACYにて本学の取り組みを発表
FD研修会「ＴＢＬの実践をワークショップで学ぶ」にて「薬学教育における実践例～ピア評価への取り組みを中心に～」を講演、およびワークショップを指導	平成26年6月	九州保健福祉大学のFD研修会にて講演及び指導

ワークショップ「TBLをTBLで学ぶ」を指導した後、「パフォーマンス評価とRubric」を講演	平成26年8月	新潟薬科大学FD研修会にて講演及び指導
「成果基盤型教育とルーブリック評価」を講演ののち、学修成果基盤型教育に基づくパフォーマンスの設定とルーブリックの作成ワークショップを指導	平成26年8月	明治薬科大学FD研修会にて講演及び指導
「学習成果基盤型教育を行うための、適正な評価計画の構築と、評価の活用方法」を講演	平成26年8月	就実大学薬学部FD研修会で講演
シンポジウム「統合型プログラムの限界を打ち破る新たな展開－ジグソー法による教授と学習の一体的改革」を企画、オーガナイザーを務める	平成27年3月	第135回日本薬学会大会でシンポジウムを企画
シンポジウムにて「薬学教育学」の確立に向けた取り組みの現状とビジョン－薬学教育懇話会の活動を通して」を講演	平成27年3月	第135回日本薬学会大会でシンポジウムにて講演
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
摂南大学教職員研修ワークショップ　ファシリテーター	平成22年8月～現在	摂南大学全学の教職員合同研修ワークショップでファシリテーターを務める
ティーチングポートフォーリオワークショップ参加	平成23年1月	大阪府立高等専門学校主催ティーチングポートフォーリオワークショップに参加し、作成した
チーム基盤型学習（TBL）の授業公開	平成24年5月～現在	本学の先進的な能動的参加型教育であるTBLを広く他大学に公開し見学を受け入れている
第1回薬学教育ピアレビューの企画・運営	平成24年11月	薬学教育における大学間ピアレビューを企画、摂南大学で第1回を開催
「京滋副作用研究会 第2回 特別講演会」で「新薬の副作用を想像する－薬剤師のための構造式の読み	平成24年12月	京滋副作用研究会主催講演会にて講演
摂南大学看護学部ティーチングポートフォーリオ作成ワークショップにてメンターを務める	平成25年3月	摂南大学看護学部のFDでティーチングポートフォーリオの作成を指導した
薬学教育懇話会設立	平成25年3月	日本での薬学教育の在り方を討議、相互研鑽する有志団体を設立、代表世話人を務める
第2回薬学教育ピアレビューの企画・運営	平成25年11月	薬学教育における大学間ピアレビューを企画、帝京大学で第2回を開催
近畿入退院薬局・病院連携ワークショップを主催	平成26年2月	薬局・病院薬剤師参加型ワークショップを企画・主催
第3回薬学教育ピアレビューの企画・運営	平成26年11月	薬学教育における大学間ピアレビューを企画、神戸薬科大学で第3回を開催
指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修を企画運営	平成26年12月	指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修を企画運営
摂南大学看護学部ティーチングポートフォーリオ作成ワークショップに参加	平成26年3月	摂南大学看護学部のFDでティーチングポートフォーリオ作成ワークショップにてアカデミッ

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Small group disccusion（SGD）へのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性（筆頭論文、査読付）	共著	平成24年10月	薬学雑誌（132巻10号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果－（筆頭論文、査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（筆頭論文、査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
リフィル処方箋に関する患者の意識調査（筆頭論文、査読付）	共著	平成26年4月	薬局薬学（6巻）
パフォーマンス評価を志向した修正版グラウンディッド・セオリー・アプローチによる卒業研究の概念抽出とRubric作成（筆頭論文、査読付）	共著	平成27年1月	薬学雑誌（135巻1号）
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
初年次SGDへのピア評価の導入と学生が捉えるピア評価		平成26年7月	第46回日本医学教育学会大会
ARCS理論に基づくTBL－PBLハイブリッド型統計演習の成果		平成27年3月	日本薬学会135回年会

III　学会および社会における主な活動	
平成19年7月～現在	近畿地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ　タスクフォース
平成22年6月～平成25年3月	薬学共用試験センター試験統括委員会　問題解析ワーキンググループ　委員
平成23年10月～現在	薬学共用試験センター運営副事務局　委員
平成24年10月～現在	日本薬学会　薬学教育者のためのアドバンストワークショップ　タスクフォース
平成25年4月～現在	近畿地区薬局実習地区調整機構　実務実習指導薬剤師養成小委員会　副委員長
平成25年8月～現在	日本薬学会　全国学生ワークショップ　タスクフォース
平成25年3月～現在	薬学教育懇話会　代表世話人
平成26年5月～現在	薬学教育評価機構　国際対応委員会　委員
平成26年4月～現在	薬学教育評価機構　評価実施員
平成27年1月～現在	薬学教育協議会　薬学教育者ワークショップ検討小委員会　委員
平成26年11月～現在	私立薬科大学協会　薬学教育学会設立準備委員会　委員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬学教育	職名　講師	氏名　柳田　一夫
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 「摂南大学薬学部における物理の補習教育効果」の検討		平成18年4月～現在に至る	入試制度の多様化に伴い、様々な学習履歴を持つ学生が存在する。本学薬学部では新入生の61%が物理学に苦手意識を持ち、講義についてこられない学生のために補習を行っている。そこでは、学生の質問を小グループ討論で理解を深めるという方法を用いた。この効果は、論文（柳田ら、リメディアル教育研究、4(2), 180-186 (2009)）で報告した。その後、学生気質の変化に伴い、集団での補習だけでなく、以前から行っていた個人対応による補習の充実を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会年会での一般口頭発表（薬学系教育）			タイトル：
第127年会（富山）		平成19年3月	「摂南大薬における基礎科目への学習支援の効果」
第128年会（横浜）		平成20年3月	「摂南大薬の教育センターにおける補習教育」
第129年会（京都）		平成21年3月	「摂南大学薬学部における物理の補習教育効果」
第130年会（岡山）		平成22年3月	「摂南大学薬学部における初年次物理教育でのプレ・ポストテスト」
第131年会（静岡）		平成23年3月	「摂南大学薬学部における基礎薬学演習の試み（１）化学計算と化学結合
第132年会（札幌）		平成24年3月	「学生による後輩学生への学習支援の試み」
第133年会（横浜）		平成25年3月	「物理学の試験および実習レポートから読み取れる、物理量の単位に対する薬学部新入生の意識」
第134年会（熊本）		平成26年3月	「摂南大学薬学部初年次生を対象とした力学の物理教材作成－その評価から見えたイラストの効果及び学生の誤解」
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
第4回 全国薬学教育者ワークショップに参加		平成14年8月	新しい薬学教育の考え方を学び、より良いカリキュラムを作る方法を体験した。
平成15年度授業情報技術講習会（私立大学情報教育協会他主催）に参加		平成15年8月	IT活用事例について学習
日本リメディアル教育学会会員		平成20年～現在に至る	
日本リメディアル教育学会第1回関西研究大会参加		平成21年3月	最近の学習支援の流れと方向について情報収集
日本リメディアル教育学会第6回全国大会参加		平成22年8月	同上
日本リメディアル教育学会第7回全国大会参加		平成23年9月	同上

日本リメディアル教育学会第8回全国大会参加	平成24年8月	同上
日本リメディアル教育学会第9回全国大会参加	平成25年8月	同上
日本化学会 化学教育ディビジョン加入	平成22年～現在に至る	
日本物理教育学会会員	平成23年～現在に至る	
本学の第1回「FDフォーラム」参加（第1回以降、都合がつく限り参加）	平成14年7月～現在に至る	「授業を変えれば大学は変わる－東海大学の試み」を聴講
2012年度薬学部第1回FDフォーラム参加	平成24年4月4日	1年生の早期体験実習、スタートアップゼミなどがテーマとして取り上げられた。
2012年度薬学部第2回FDフォーラム（薬学部FDワークショップ）参加	同年7月7日	「留年生を減らすことへの対応」、「講義への出席率が低いことへの対応」などがワールド・カフェ方式で話し合われた。
2013年度第1回薬学部FDフォーラムに参加	平成25年4月4日	1回目、2回目では1年生対象の早期体験実習、
2013年度第2回薬学部FDフォーラムに参加	同年5月13日	スタートアップゼミ、6年生対象の薬剤師国家試験合格率アップに向けた教育体制などがテーマとして取り上げられた。
2013年度薬学部FDワークショップに参加	同年7月13日	テーマ「学生に興味を持たせ、自ら学習する習慣を身につけさせるために教職員がすべきこと」についてワールド・カフェ方式で話し合われた。
2013年度第3回薬学部FDフォーラムに参加	同年9月5日	4年生対象の共用試験と6年生対象の国家試験の合格率向上について話し合われた。また、2014年度の「薬学教育（６年制）第三者評価」および「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂について説明があった。以下の5回のFDフォーラムがその準備として行われる。
2013年度第4回薬学部FDフォーラムに参加	同年10月18日	「薬学教育評価の目的と活用」を聴講
2013年度第5回薬学部FDフォーラムに参加	同年10月28日	「改訂・薬学教育モデル・コアカリキュラムについて」を聴講
2013年度第6回薬学部FDフォーラムに参加	同年11月8日	「学習成果基盤型教育（outcome-based education）の考え方」を聴講
2013年度第7回薬学部FDフォーラムに参加	同年11月18日	「パフォーマンス評価（ルーブリックを含む）について」を聴講
2013年度第8回薬学部FDフォーラムに参加	同年12月6日	「レギュラトリーサイエンスについて」を聴講

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）摂南大学薬学部における物理の補習教育効果　（再掲）（筆頭論文、査読付き）	共著	2009年9月	*リメディアル教育研究*、 4 (2)，180-186 (2009)
（論文）SGDへのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性　（査読付き）	共著	2012年10月	*YAKUGAKU ZASSHI*, 132 (10)，1179-1188
（論文）自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果　（査読付き）	共著	2012年12月	*医療薬学* **38**，757-766
（論文）チーム基盤型学習（Team-based Learning: TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育　（査読付き）	共著	2014年2月	*YAKUGAKU ZASSHI*, 134 (2)，185-194
（論文）自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：　「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」　-受講3年後の追跡調査から検証した体験実習の効果-　（査読付き）	共著	2014年11月	*YAKUGAKU ZASSHI*, 134 (11)，1199-1208
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
初年次SGDへのピア評価の導入と学生が捉えるピア評価		2014年7月	第46回日本医学教育学会
摂南大学薬学部初年次生を対象とした力学の物理教材（評価、イラストの効果）		2014年8月	日本リメディアル教育学会 第10回全国大会
能動的学習チーム基盤型演習（TBL）の実践とその効果		2014年8月	日本リメディアル教育学会 第10回全国大会
キャリア形成教育：「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
教育能力を養う支援活動における学生が得た気付きとルーブリック評価の比較		2015年3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
1978年1月～現在	日本薬学会　会員		
1984年1月～現在	日本化学会　会員		
2007年1月～現在	日本科学史学会　会員		
2008年1月～現在	日本リメディアル教育学会　会員		
2013年1月～現在	日本物理教育学会　会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬学教育	職名　助教	氏名　串畑　太郎
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
1年次SGD演習にSGDを効果的に実施する記録方法（模造紙）の導入		平成24年4月～現在	SGDの経験が浅い学生がより円滑にかつ積極的に取り組めるようホワイトボードを廃止し、討議の記録媒体として各グループに模造紙を導入した。平成24年度SGD1演習後の学生アンケートでは、70％の学生が討議を進めていく上で、模造紙が役に立ったと回答し、チューターからは「発言した内容が明確化され討議の活発化につながった」「ホワイトボードと違い書いた内容が残る」などの意見がでた。
1年次「薬剤師になるために」の外部講師講演に講演内容の共有及び振り返りを目的としたグループワークの導入		平成26年5月～現在	講演後に、学生が受けた印象や気付きをグループで共有させるために、付箋とA2用紙を用いたグループワークを行った。グループ内では少数の意見が個人レポートに反映されており、より講演の趣旨に沿った学習効果を多くの学生にもたらす結果となった。
1年次早期体験学習施設見学の報告会にレスポンスアナライザー（クリッカー）の導入		平成26年5月～現在	施設見学の報告会でクリッカーを用いた学生プレゼンテーションに対する相互評価を導入した。これにより発表者は評価を意識したプレゼンテーション上の工夫を行い、また学生を単なる聴衆ではなく評価者とすることで積極的に聞く姿勢を持たせることに成功した。
1年次早期体験学習施設見学の報告会にポスター発表（示説）形式及び学生評価（ポスター優秀賞）の導入		平成26年5月～現在	施設見学の報告会でグループ毎の口頭発表の後に、ポスター発表（示説）形式の時間を設け、時間を区切り発表と聴講を入れ替え、学生は自由に聴講しポスターの評価を行った。より距離の近いところでの質疑応答は非常に盛り上がった。
1年次基盤演習（有機化学）へのチーム基盤型学習（TBL）及び学生間相互評価（ピア評価）の導入		平成26年9月～現在	能動的参加型学習であるTBLを1年次後期基盤演習（有機化学）に導入した。講義科目と連携した演習を予習前提の参加型グループワークで実施することにより、主体的な学習態度の養成と学生間相互教育を達成した。また、TBLにピア評価を導入し、学生の学習姿勢を教員のみならず学生相互に評価し、フィードバックすることで前向きな学習姿勢が養成された。
1年次基盤演習（生化学・生理解剖学）へのチーム基盤型学習（TBL）、学生間相互評価（ピア評価）及びレスポンスアナライザー（クリッカー）の導入		平成26年9月～現在	能動的参加型学習であるTBLを1年次後期基盤演習（生化学・生理解剖学）に導入した。演習の初めにクリッカーを用いた予習範囲の確認テストとフィードバックをすることで、講義未履修の範囲でも予習前提の参加型グループワークを実施することができた。また、TBLにピア評価を導入し、学生の学習姿勢を教員のみならず学生相互に評価し、フィードバックすることで前向きな学習姿勢が養成された。
4年次プレファーマシー実習のグループ討議に上級生チューターによるワールドカフェ方式及び学生間相互評価（ピア評価）の導入		平成26年10月～現在	4年次プレファーマシー実習のグループ討議に、すでに薬局・病院どちらかの実務実習を経験した5年次生をチューターとしたワールドカフェ方式のSGDを導入した。実務実習を経験した先輩チューターによって、4年次生はより現場に即した薬剤師の職能への理解や医療人としての態度の涵養が行われた。

キャリア形成Ⅰ・Ⅱでのカリキュラムプランニングの実施	平成26年11月～現在	薬剤師として求められる基本的は資質の1つである教育能力の養成と教育の仕組みを理解することでカリキュラムが意図した学習効果の向上を目的としたワークショップ形式のカリキュラム立案演習をキャリア形成Ⅰ・Ⅱで実施した。プログラムは「指導薬剤師養成のためのワークショップ」における目標・方略・評価と基本的に同じとし、SGDの時間を30分ずつ短縮した。
2　作成した教科書、教材、参考書		該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第45回日本薬剤師会学術大会（静岡）で、「SGDの円滑化を目的としたホワイトボードの廃止」について発表した。	平成24年10月	SGD実施経験の浅い学生に対して効果的かつ有効なSGD実施方法として、記録デバイスの改善に関する研究
日本薬学会第133年会（横浜）で、「模造紙使用面積と学生アンケート及び教員評価によるSGDのテーマの評価」について発表した。	平成25年3月	記録デバイスとしての模造紙の定量的解析によるSGDのテーマの評価に関する研究
第45回日本医学教育学会大会（千葉）で、「学生が得た気づきの解析による正統的周辺参加を取り入れた薬学部キャリア教育の評価」について発表した。	平成25年7月	薬学部で実施しているキャリア教育のプロセス評価を、学生のレポートの内容分析から行った研究
第46回日本薬剤師会学術大会（大阪）で、「SGD の模造紙記述量と学生の評価・アンケート結果によるSGD テーマの評価とフィードバック」について発表した。	平成25年9月	記録デバイスとしての模造紙の定量的解析と学生へのアンケートからSGDのテーマを改善と再評価に関する研究
日本薬学会第134年会（熊本）で、「プロダクトの定量的解析による早期体験学習から学生が受けた印象の分析」について発表した。	平成26年3月	1年次早期体験学習薬局施設見学後に学生が作成したプロダクトの定量的解析と学生が受けた印象に関する研究
第46回日本医学教育学会大会（和歌山）で、「教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与える効果」について発表した。	平成26年7月	教育能力の修得を目的としたキャリア形成プログラムが学生に与えた気付きを学生のレポート及びアンケート結果から検証した研究
第8回日本薬局学会学術総会（広島）で、「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する 施設－大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査」について発表した。	平成26年11月	平成26年3月に「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する 施設－大学連絡会」を実施し、それを踏まえた見学内容が実施されているかを施設見学後の学生から調査し報告した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
薬学教育懇話会に参加	平成26年3月～現在	日本での薬学教育の在り方を討議、相互研鑽する有志団体に所属した。
14年度薬学部FDワークショップに参加	平成26年7月	理想とする医療従事者の育て方についてワールドカフェ方式のワークショップに参加した。
第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿に参	平成26年8月	薬学教育におけるカリキュラムプランニングについてのSGD方式のワークショップに参加した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
リフィル処方箋に関する患者の意識調査（査読付）	共著	平成26年4月	薬局薬学（6巻）

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与える効果（ポスター発表・筆頭）	平成26年・7月	第46回日本医学教育学会大会（和歌山）
初年次SGDへのピア評価の導入と学生が捉えるピア評価（ポスター発表・共著）	平成26年・7月	第46回日本医学教育学会大会（和歌山）
能動的学習チーム基盤型演習（TBL）の実践とその効果(ポスター発表・共著）	平成26年・8月	日本リメディアル教育学会第10回全国大会（東京）
改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する 施設 - 大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査（ポスター発表・筆頭）	平成26年・11月	第8回日本薬局学会学術総会（広島）
早期体験学習の学修成果を決める薬局での臨床現場に依存した見聞・体験（ポスター発表・筆頭）	平成27年・3月	日本薬学会第135年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成24年12月～現在	日本薬学会　会員
平成25年3月～現在	日本医学教育学会　会員
平成26年7月～現在	日本薬局学会　会員
平成26年11月～現在	近畿地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ　タスクフォース

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬学教育	職名　助手	氏名　栗尾　和佐子
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
わかりやすい授業への取り組み（1年生基盤実習a講義）		平成18年9, 10月 ～ 平成24年9, 10月	1年生基盤実習aにおいて、学生の実習に対する意欲を高めるために到達目標を予め開示する講義を行い、学生の到達度確認のためのレポート作成を実施した。
目的を意識した体験学習への取り組み（3年生薬系インターンシップ・ボランティア）		平成20年4月 ～ 平成25年12月	薬系インターンシップ・ボランティア体験学習の始めに目的や評価項目を予め開示し、学生の実習に対する意欲を高めた。また、学生の到達度確認のためのレポート作成や発表会を実施し
目的を意識した体験学習への取り組み（2年生薬系キャリア形成）		平成21年4月 ～ 平成24年12月	体験学習（看護学生との合同小討論会）において、学生の体験学習に対する意欲を高めるために、事前に目的や評価項目の開示をし、学生には事前学習をさせた。また、到達度確認のためのレポート作成や発表会を実施した。
学生実習に対する屋根瓦式教育体制の導入と構築（2年生キャリア形成Ⅰ）		平成25年4月 ～ 現在	初年次の学生実習でのきめ細やかな指導を行うことと、学生に対して教育能力を涵養するために、2年生を上級生指導者として学生実習の指導補助に導入した。2年生への指導は5年生が行い、学年に応じた後輩指導の実施体制を構築し
自己研鑽・参加型体験学習の導入と実施（3年生キャリア形成Ⅱ）		平成26年4月 ～ 現在	自己研鑽と教育能力を涵養するために、体験学習（薬物乱用防止講義の実施支援、地域住民に対する薬草園見学実施支援、健康フォーラム実施支援、アロマテラピーや健康体操の講習や体験等）を3年生に導入と実施をした。
2　作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
学生支援面談能力向上のための取組み		平成19年10月 ～ 現在	日本キャリア開発協会（JCDA）向上研修、日本メンタル　ヘルス協会・講座に参加 グループディスカション、エントリーシー
アカデミックサポートセンターに訪れる学生のなやみ相談		平成20年4月 ～ 現在	アカデミックサポートセンターに訪れる学生のなやみ（学習、生活など）の相談

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Small group disccusion（SGD）へのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性（査読付）	共著	平成24年10月	薬学雑誌（132巻10号）
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果（筆頭論文、査読付）	共著	平成24年12月	医療薬学薬学雑誌 （38巻12号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果－（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」 -受講3年後の追跡調査から検証した体験実習の効果- （筆頭論文、査読付）	共著	平成26年11月	薬学雑誌（134巻11号）
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与える効果（ポスター発表・共著）		平成26年・7月	第46回日本医学教育学会大会
能動的学習チーム基盤型演習（TBL）の実践とその効果 （ポスター発表・共著）		平成26年・8月	日本リメディアル教育学会 第10回全国大会
「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の満足度と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性（ポスター発表・筆頭）		平成26年・9月	第24回日本医療薬学会年会
「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する施設－大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査（ポスター・共著）		平成26年・11月	第8回日本薬局学会学術総会
キャリア形成教育：「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践とその評価　（ポスター発表・筆頭）		平成27年・3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動	
平成7年4月～現在	日本薬学会　会員
平成22年4月～現在	日本医療薬学会　会員
平成22年4月～現在	日本医学教育学会　会員
平成22年4月～現在	日本リメディアル教育学会　会員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　ASC	職名 准教授	氏名 片川 純一

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ・高等学校で化学を未修得の学生や学校格差のある学生をある一定水準まで引き上げるために	平成22年4月～ 平成26年3月	・摂南大学薬学部　　なし ・摂南大学理工学部生命科学科 「生物無機化学」（平成22年4月1日～現在に至る） ・大阪工業大学情報科学部 「化学基礎」（平成19年4月1日～現在に至る） テキストは選定しているが、授業項目ごとに高校の内容から大学の内容へステップアップするようにまず理論や定義された用語を取り上げ、化学として必要な事項や覚えてもらいたい事項をプリントし配布した。また、予習復習のための練習問題を作成し、回答させることにより、形成段階の理解度を把握しながら講義を進め
2　作成した教科書、教材、参考書 ・講義用補助教材の作成と予習・復習のための練習問題の作成	平成22年4月～ 現在に至る	・摂南大学薬学部　　なし ・摂南大学理工学部生命科学科 「生物無機化学」（平成22年4月1日～現在に至る） ・大阪工業大学情報科学部 「化学基礎」（平成19年4月1日～現在に至る） テキストは選定しているが、大学の化学として必要な事項や覚えてもらいたい事項をプリントし配布した。また、理論や解説プリントの他、予習復習のための練習問題を作成し、回答させることにより、形成段階の理解度を把握しながら講義を進めた
・6年制薬学部の実習書の作成	平成18年4月～ 現在に至る	「基盤実習（A）」の実習書を作成に参加した。
・摂南大学理工学部学生のための化学実験書の作成	平成23年4月～ 現在に至る	特に物理化学、無機化学、有機化学、分析化学を中心に化学を専門としない学科の学生にも興味がもてるように内容を吟味し、独自の実験書を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「化学物質の構造と機能」をテーマに講演	平成21年10月	第5回大阪工業大学工学部応用化学科技術講演会で講演をした。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） 日本生物高分子学会の評議員および学会誌編集委員	平成19年10月 ～現在に至る	日本生物高分子学会の評議員および学会誌編集委員
日本化学会近畿支部代議員	平成23年４月 ～平成24年3月	日本化学会近畿支部代議員

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）UV-B irradiation-induced electron transfer between 3-hydroxykynurenine and tryptophan	共著	平成21年3月	日本生物高分子学会 Japan Science Society of Biological Macromolecules 9, 1, p. 13～p. 22
（論文）Differences in excluded volume, diffusion coefficient, and surface charge of alginates with different mannuronate to guluronate ratio	共著	平成22年3月	日本生物高分子学会 Japan Science Society of Biological Macromolecules 10, 1, p. 3～p. 11

（論文）Concentric Nano-sized Vesicle Formation by Immunosuppressant FTY720 Revealed with Small-angle X-ray Scattering using Synchrotron Radiation Source	共著	平成23年3月	日本生物高分子学会 Japan Science Society of Biological Macromolecules 11, 1, p. 15～p. 22
（論文）溶出試験によるPravastatin先発医薬品と後発医薬品の同等性に関する検討	共著	平成24年8月	日本薬学会 YAKUGAKU ZASSHI 132, 8, p. 939～p. 944
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
alpha-クリスタリン鎖中のトリプトファンオリゴペプチドの紫外線照射によるラジカル生成の検討		平成21年3月	日本薬学会
アルギン酸中のマンヌロン酸及びグルロン酸ユニットの決定と界面電位に及ぼす影響		平成23年9月	日本生物高分子学会
プラバスタチンナトリウム錠の先発医薬品と後発医薬品の溶出試験による比較検討		平成23年11月	日本薬学会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会
エチゾラムの溶出試験による先発医薬品と後発医薬品の同等性に関する検討		平成24年5月	日本薬剤学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成19年10月～現在に至る	日本生物高分子学会の評議員および学会誌編集委員
平成23年４月～平成24年3月	日本化学会近畿支部代議員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名	職名　特任助手	氏名　西川　智絵
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
基盤実習（ハンディキャップ体験実習）		平成23年9月～現在	不自由体験を通じて相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できるように指導している
2　作成した教科書、教材、参考書			
基盤実習ｂテキスト		平成23年8月～平成24年8月	基盤実習におけるハンディキャップ体験実習の実習スケジュール、実習内容、レポート内容を作成
基盤実習テキスト		平成26年8月～現在	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4　その他教育活動上特記すべき事項			
Academic support centerにおける学生相談、学習指導		平成22年4月～現在	学生へ学生生活や学習におけるメンタルサポートや学習指導
PBL型学生プロジェクト報告会		平成22年	摂南大学におけるＰＢＬ型学生のプロジェクトの取り組みについての報告を聴講した
第16回摂南大学FDフォーラム		平成23年3月16日	摂南大学におけるキャリア教育の取り組み内容、今後の目標について情報を共有した
介護ヘルパー研修への参加		平成23年8月	ハンディキャップ体験実習で指導するための事前研修を受講
薬学部教育センターにおいて、「学びステーション」を企画・運営		平成22年4月～現在	講義内容を補習する学習環境を構築した。結果、科目担当者と学生のコミュニケーションが促進し、教育意欲と学習意欲の向上につながった。
摂南大学メンタルヘルス研修会第2回		平成23年7月27日	心の病気と精神障がいの基礎知識と対応について学んだ
摂南大学メンタルヘルス研修会第3回		平成23年7月29日	発達障がいや精神障がいを抱える学生に対する組織的な対応や連携について学んだ
交流分析士2級講座受講　2級取得		平成24年1月～7月	学生が、より個性を自由に表現しながら、周囲と健康的に関わることがよりできるようにサポートするため、交流分析士2級を取得
交流分析士1級講座受講　1級取得		平成24年10月～平成25年3月	学生が、より個性を自由に表現しながら、周囲と健康的に関わることがよりできるようにサポートするため、交流分析士1級を取得
摂南大学発達障がいへの理解を深める講演会		平成26年3月10日	発達障がいの人の行動様式を学び、周りの配慮が必要であることを学んだ

II　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Small group disccusion（SGD）へのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性（査読付）	共著	平成24年10月	薬学雑誌（132巻10号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果－（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
（論文）自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果	共著	2012年12月	医療薬学 38, 757-766
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」-受講3年後の追跡調査から検証した体験実習の効果- （筆頭論文、査読付）	共著	平成26年11月	薬学雑誌（134巻11号）

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与える効果（ポスター発表・共著）	平成26年7月	第46回日本医学教育学会大会
能動的学習チーム基盤型演習（TBL）の実践とその効果 （ポスター発表・共著）	平成26年8月	日本リメディアル教育学会第10回全国大会
「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の満足度と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性（ポスター発表・筆頭）	平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する施設 - 大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査（ポスター・共著）	平成26年11月	第8回日本薬局学会学術総会
キャリア形成教育：「自己研鑽・参加型学習プログラム」の実践と　その評価　（ポスター発表・筆頭）	平成27年3月	日本薬学会第135年会

III　学会および社会における主な活動

平成22年10月～現在	日本薬学会会員
平成23年4月～平成24年4月	町内会組長
平成26年4月～現在	三条保育所育成会会計
平成24年1月～現在	日本交流分析協会会員

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　Academic Suppor	職名　特任助手	氏名　山本　祐実
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫　（授業評価等を含む）			
学生実習に対する屋根瓦式教育体制の導入		平成25年4月 ～ 現在	初年次の学生実習でのきめ細やかな指導を行うことと、学生に対して教育能力を涵養するために、2年生を上級生指導者として学生実習の指導補助に導入した。2年生への指導は5年生が行い、学年に応じた後輩指導の実施体制を構築した。
双方向型学習展開の為のレスポンスアナライザー導入		平成25年4月 ～ 現在	双方向型学習を行うに当たり、レスポンスアナライザー（クリッカー）を導入した。小テスト解答に用いるだけではなく、学生プレゼンテーションに対する相互評価時にも用い、学生を単なる徴収ではなく評価者とすることで積極的な聞く姿勢を持たせることに成功した。
基盤実習（ハンディキャップ体験学習）への能動的参加型学習の導入		平成26年4月 ～ 現在	能動的参加型学習であるグループワークをヒューマニズム教育のハンディキャップ体験に導入した。様々な立場に立つことで、共感的態度の共有ができる学習方略となった。
キャリア教育の後輩指導におけるＫＪ法の導入		平成26年4月 ～ 現在	意識の認識と情報共有を目的として、ＫＪ法を導入した。学生間の認識を深め、積極的な行動を起こさせる動機づけになった。
2　作成した教科書、教材、参考書			
基盤実習実習書		平成24年4月～現在	基盤実習の担当部分の実習書の編集を行っている。2012年度までは実習項目ごとに実習書が別であったが、2013年度に他の担当教員と協力し、一冊の実習書に取り纏めた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
			なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		平成20年～現在	毎年、複数回実施される薬学部FDフォーラムに参加している
Academic Support Centerでの学生相談、学習支援		平成20年4月～現在	訪れる学生の学習・学生生活における悩み相談、就職相談
薬学部教育センターにおいて、「学びステーション」を企画・運営		平成21年4月～現在	講義内容を補習する学習環境を構築した。結果、科目担当者と学生のコミュニケーションが促進し、教育意欲と学習意欲の向上につながっ
摂南大学メンタルヘルス研修会第2回		平成23年7月27日	心の病気と精神障がいの基礎知識と対応について学んだ
摂南大学メンタルヘルス研修会第3回		平成23年7月29日	発達障がいや精神障がいを抱える学生に対する組織的な対応や連携について学んだ
介護ヘルパー研修への参加		平成23年8月	基盤実習ハンディキャップ体験学習のための事前講習に参加した
就職面談		平成25年4月～現在	5年次生に対する初回就職面談の実施
キャリア・ディベロップ・アドバイザー（CDA）資格		平成25年7月～現在	キャリア教育、就職支援、学生相談に活かすために資格を取得し、研修・勉強会にも参加している。
第72回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）		平成26年5月3～4日	「薬学教育の問題点」、「カリキュラムとは」、「学習方略」、「教育評価」等について行われたワークショップに参加した。

II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Small group disccusion（SGD）へのピア評価の導入と総括的評価としての妥当性（査読付）	共著	平成24年10月	薬学雑誌（132巻10号）
「自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」とその成果」	共著	平成24年12月	医療薬学薬学雑誌 （38巻12号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす能動的相補型学習－薬学教育における実践とその成果－（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
チーム基盤型学習（Team-based Learning; TBL）とピア評価がもたらす実践型化学教育（査読付）	共著	平成26年2月	薬学雑誌（134巻2号）
自己研鑽・参加型キャリア形成教育プログラム：「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」-受講3年後の追跡調査から検証した体験実習の効果-	共著	平成26年11月	薬学雑誌（134巻11号）
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
教育能力の養成を目的とした上級生による実習支援プログラムが与える効果（ポスター発表・共著）		平成26年・7月	第46回日本医学教育学会大会
能動的学習チーム基盤型演習（TBL）の実践とその効果 （ポスター発表・筆頭）		平成26年・8月	日本リメディアル教育学会 第10回全国大会
「薬系インターンシップ・ボランティア体験実習」の満足度と受講後の学習意欲ならびに卒後進路との関連性（ポスター発表・共著）		平成26年・9月	第24回日本医療薬学会年会
「改訂コアカリを踏まえた早期体験学習の実施に関する施設－大学連絡会」の実施とその後の早期体験学習内容の調査（ポスター発表・共著）		平成26年・11月	第8回日本薬局学会学術総会
教育能力を養う支援活動における学生が得た気付きとルーブリック評価の比較（ポスター発表・筆頭）		平成27年・3月	日本薬学会第135年会
III　学会および社会における主な活動			
平成23年4月～現在	日本薬学会　会員		
平成23年4月～現在	日本リメディアル教育学会　会員		

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「I　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「II　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「III　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　附属薬草園	職名　助教	氏名 田中　龍一郎
I　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）			特に無し
2　作成した教科書、教材、参考書			特に無し
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本リメディアル教育学会第5回全国大会（千歳）		2009. 9	摂南大学薬学部における初年次学生に対する小グループ討議（SGD）演習の取り組みについての発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 摂南大学ソフトボール部薬学支部（関西学生連盟 加盟）コーチ		2007-2009	課外活動（引率と技術指導）への協力
認定実務実習指導薬剤師全講習修了		2008	WSおよび５つの講習を修了し、現場薬剤師との意識共有を図った。
摂南大学準硬式野球部枚方支部（関西医歯薬準硬式野球連盟　加盟）　顧問		2014（継続中）	部活動の運営管理、指導全般（2013年度は顧問補佐、2015. 2 現在 連盟一部リーグ所属）
II　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
New Polar Constituents in the Pupae of the Silkworm Bombyx mori L. (II): Developmental Changes of the Constituents. (査読付)「筆頭論文」	共著	201010	Biosci. Biotechnol. Biochem., 74(10)
生薬･天然物化学　(査読付) 「我が国での生薬･漢方EBMに期待！」	単著	2012.9	ファルマシア　薬の科学、Vol. 48, no. 9
"Reduction of Enhanced Rabbit Intraocular Pressure by Instillation of Pyroglutamic acid Eye Drops. (査読付) 「BPB Highlighted paper selected by Editor-in-Chief」	共著	2013.6	Biol. Pharm. Bull., 36 (6)
An Improved, Highly Sensitive HPLC-based Method for Determining Uric Acid Levels in Microliter Plasma Volumes (査読付)　「筆頭論文」	共著	2013. 12	Gout and Nucleic Acid Metabolism, 37(2)
生薬学･天然物化学　資源探索 「半透明カイコで抗痛風薬を探す！？」	単著	2014. 3	日本薬学会第１３４年会講演ハイライト集（報道向け）

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
血中尿酸低下作用物質の探索 麻杏ヨク甘湯の組成別活性について	2014. 7	医療薬学フォーラム東京2014
血中尿酸低下作用物質の探索「白僵蚕」水溶性画分の活性成分について	2014. 9	日本生薬学会福岡 第61年会
新評価システム構築における5齢油蚕006の有用性	2014. 9	日本生薬学会福岡 第61年会
血中尿酸低下作用物質の探索-附属薬用植物園栽培植物の活性評価(I)-	2015. 3	日本薬学会神戸 第135年会

III 学会および社会における主な活動	
2008-2009	近畿経済産業局 地域新生コンソーシアム研究開発事業等研究開発事業最終評価ピアレビューア
2011-2014	ISRN (International Scholarly Research Network) Spectroscopy 編集委員
2013-2014(継続中)	摂南大学薬学部附属薬用植物園運営･地域連携委員としての社会貢献活動

[注] 1 各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　薬用植物園	職名　助手	氏名　邑田裕子
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①基礎薬学実習Ⅰにおける漢方実習と生薬鑑定試験の実施	平成20年4月～現在に至る	2年次学生（約240名）に対し、実務薬局実習でも漢方製剤実習が必須であることから、漢方薬を生薬から煎じて試飲などの体験をしたり、処方解析を行うと共に80種の生薬鑑定試験を行っている。	
②本学部生に対する薬草園見学実習の実施	平成20年4月～現在に至る	2年次学生（約240名）に対し、教室での講義や本やスライドでの説明だけでなく、薬草園見学実習を実施し、薬として用いられる植物に直接触れる機会を学生に提供した。	
③特別研究に関連した学外活動の導入	平成20年4月～現在に至る	講座配属学生を対象に、薬学部附属薬用植物園の一般公開や枚方市健康福祉フェスティバル、交野市文化祭等の行事にサポートスタッフとして参加させた。薬用植物や生薬、漢方の知識の取得、コミュニケーション能力の向上に役立っている。	
2　作成した教科書、教材、参考書 実習書：基礎薬学実習Ⅰb（生薬学） 基礎薬学実習Ⅰ（生薬学・天然物化学）	平成20年4月～現在に至る	生薬学および薬用植物学に関する実習書を作成した。薬剤師国家試験に対応できるよう、局方の確認試験を中心に構成し、漢方薬の作成や処方解析なども取り入れた内容にしている。	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） ⑩2013年度第１回FDフォーラムに参加	平成25年4月4日	早期体験学習、スタートアップゼミや実務実習等	
②2013年度第３回FDフォーラムに参加	平成25年9月5日	卒業判定試験、共用試験や第三者評価等について研修を行った。	
③地域への教育貢献活動（平成26年度活動のみ記載）： a）一般公開「春の見学会」（一般参加者54名、教職員14名、学生25名参加） b）一般公開「夏の見学会」（一般参加者43名、教職員13名、学生10名参加） c）「第３８回交野市文化祭」（一般参加者1000名以上、教職員10名、学生16名参加） d）一般公開「秋の見学会」（一般参加者56名、教職員10名、学生15名参加） e）「美濃山小学校」、「有都小学校」薬草園見学 f）漢方研究部学生見学 g）常翔学園中学（中高大連携教育推進プログラム） h）「染色体験会」アイ、クチナシ、レモングラスなどの薬用植物を用いた染色体験（一般参加者97名、教職員13名、学生12名参加）	平成26年5月10日 平成26年7月26日 平成26年10月31日～11月2日 2014年11月8日 平成26年6月2日 平成26年5月17日 平成26年9月26日	地域への教育貢献活動の一環として、左記に記載したa）～h）において、主に薬草の種類・効能の概説並びに各種体験会を実施した。左記した教育貢献活動は、毎年度実施しており、平成26年度では、薬草園の見学会等は、延べ27回に上る。	
Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬用植物学改訂第７版	共著	２０１３年	南江堂
（論文）Three New Constituents from the Roots of Erythrina variegata and their Antibacterial Activity against Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus	共著	２０１１年	CHEMISTRY & BIODIVERSITY, 8
（論文）江戸期から明治初期に かけての小笠原島産植物について	共著	２０１２年	伊藤圭介日記第18集（名古屋市東山植物園）

(論文) Flavonoids isolated from the leaves of Melicope triphylla and their superoxide dismutase inclucing	共著	２０１３年	Phytochemistry Letters 6
(論文) Morphological variations of Aristolochia kaempferi and A. tanzawana (Aristolochiaceae) in Japan.	共著	２０１４年	J. Jpn. Bot. 89

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
オニグルミの花序とフェノロジー	2014年9月	日本生薬学会第６１回年会
明治時代初期の小笠原諸島産植物資料について	2014年9月	日本生薬学会第６１回年会
クワ科植物カカツガユ地下部の成分とその整理活性に関する研究	2014年9月	日本生薬学会第６１回年会
石垣島産セイタカスズムシソウの繁殖戦略と種子の発芽特性	2015年3月	日本薬学会第１３５年会
ツツジ科アメリカイワナンテンの成分研究（第１報）	2015年3月	日本薬学会第１３５年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
2000年～現在	日本薬剤師研修センターの漢方薬・生薬研修における講師
2013年9月1日～2014年5月31日	司電機株式会社に対する学術指導

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　摂南大学	講座名　学部共同研究室	職名　助手	氏名　相澤秀樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		該当無し
2　作成した教科書、教材、参考書		該当無し
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当無し
4　その他教育活動上特記すべき事項		
2014年度第1回と2回摂南大学薬学部ＦＤフォーラム参加	2014. 4. 4と9. 2	学部全教員が参加し、教育方法の改善について議論した
薬学教育におけるアクティブラーニングの事例研究参加	2015. 2. 28	アクティブラーニングの方法・環境などを学習した

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Morphology of polysorbate 80 (Tween 80) micelles in aqueous dimethyl sulfoxide solutions	単著	2010	Journal of Applied Crystallography、43、630-631、
Effect of Increasing N, N-Dimethylformamide Concentration on the Structure of Polysorbate 80 Micelles	単著	2011	The Open Chemical Physics Journal、3、6-9、2011
Changes in Octaethyleneglycol Mono N-Dodecyl Ether Micelles in Aqueous 1, 4-Dioxane Solutions	単著	2011	The Open Colloid Science Journal、4、7-11、2011
Effect of increasing concentration of each of three polar solvents (1, 4-dioxane, dimethyl sulfoxide, N, N-dimethylformamide) on change in shape of polysorbate 20 micelles	共著	2013	Journal of Solution Chemistry, 42、882-893、2013
Novel pragmatic turbidimetric data analysis method for evaluating the stability of emulsions	単著	2014	International Journal of Food Properties、17、1264-1274、 2014

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
胆汁酸混合ミセルの小角X線散乱による構造解析 - リン脂質組成の影響評価 -	2014. 8	食品工学会
ヒト十二指腸における脂質比率で調製した胆汁酸混合ミセルの構造解析	2015. 3	物構研サイエンスフェスタ

Ⅲ　学会および社会における主な活動

[注]　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。